

筑波大学博士（社会科学）学位請求論文

インターネット掲示板

「2ちゃんねる」と「イルベ」から  
日韓のヘイトスピーチ現象を読み解く

金 善映

2018年度

# 目 次

目 次.....	i
グラフ 目 次.....	v
表 目 次.....	v
図 目 次.....	vi
第Ⅰ章 序論.....	1
1.1 研究の背景.....	1
1.2 研究目的.....	6
1.3 本論文の構成.....	7
第Ⅱ章 先行研究の検討.....	9
2.1 ヘイトスピーチの定義.....	9
2.1.1 欧米におけるヘイトスピーチ.....	11
2.1.1.1 米国におけるヘイトスピーチ.....	11
2.1.1.2 ヨーロッパにおけるヘイトスピーチ.....	13
2.1.2 日韓両国におけるヘイトスピーチ.....	16
2.1.2.1 日本におけるヘイトスピーチ.....	16
2.1.2.2 韓国におけるヘイトスピーチ.....	22
2.2 2ちゃんねるとイルベ掲示板の現状.....	30
2.2.1 2ちゃんねる掲示板の利用状況.....	30
2.2.1.1 2ちゃんねる掲示板の仕組み.....	32
2.2.1.2 先行研究のレビュー.....	33

2.2.2	イルベ掲示板の利用状況	35
2.2.2.1	先行研究のレビュー	37
2.3	ネット右翼	39
2.3.1	ネット右翼の定義	40
2.3.2	ネット右翼に対するイメージ	42
2.4	ヘイトスピーチが生じる要因に関する 3 つの仮説	46
2.4.1	経済不安要因説	47
2.4.2	歴史的な観点からの問題提起説	51
2.4.3	混合型ヘイトスピーチ説	54
2.5	本論文のアプローチ	55
2.5.1	本論文の位置づけ	55
2.5.2	リサーチ・クエスションの設定	57
第 III 章	研究方法	60
3.1	分析対象	60
3.2	分析期間	62
3.3	分析方法	64
第 IV 章	分析結果	66
4.1	リサーチ・クエスション 1 の検証：2 ちゃんねる掲示板における東アジア news+板とハングル板の主な物語	66
4.1.1	上位 100 位内の頻出語の抽出	66
4.1.2	共起ネットワーク分析	70
4.1.2.1	東アジア news+板における共起ネットワーク分析	70
4.1.2.2	ハングル板における共起ネットワーク分析	81
4.2	リサーチ・クエスション 2 の検証：イルベ掲示板の政治日刊ベスト板における主な物語	89
4.2.1	上位 100 位内の頻出語の抽出	89
4.2.2	共起ネットワーク分析	93

4.3	リサーチ・クエスチョン3の検証：ハングル板と政治日刊ベスト板におけるヘイトスピーチの対象	104
4.3.1	ハングル板におけるヘイトスピーチの対象	104
4.3.1.1	在日朝鮮人・朝鮮人	105
4.3.1.2	民主党	110
4.3.1.3	マスメディア	115
4.3.2	政治日刊ベスト板においてヘイトスピーチの対象	119
4.3.2.1	全羅道地域	119
4.3.2.2	金大中大統領	130
4.3.2.3	盧武鉉大統領	134
4.3.2.4	北朝鮮	140
第V章	考察	145
5.1	リサーチ・クエスチョン1の考察	145
5.2	リサーチ・クエスチョン2の考察	148
5.3	リサーチ・クエスチョン3の考察	150
5.3.1	在日朝鮮人と全羅道の人々	151
5.3.2	左翼的なもの	152
5.3.3	反マスメディアの思想と従北思想	157
5.4	リサーチ・クエスチョン4の考察	159
5.4.1	「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)	159
5.4.1.1	タダ乗りへの憎悪と転倒した被害者意識	159
5.4.1.2	表に現れている敵と裏に潜んでいる敵	164
5.4.1.3	権威主義 対 反権威主義	166
5.4.1.4	ソース第一主義とファクト主義	170
5.4.2	ヘイトスピーチ現象とどう向き合うのか	171
5.4.2.1	ヘイトスピーチは繰り返し起こっているか：西欧流の反ユダヤ主義との比較	172

5.4.2.2	ヘイトスピーチを行う人々：権威主義的パーソナリティという観点から	173
5.4.2.3	ヘイトスピーチを生み出すメカニズム：「資本主義がもたらした自由からの逃走」対「グローバル化がもたらした経済的自由からの逃走」	176
5.4.2.4	まとめ：2000年代のヘイトスピーチ言説の位置づけ	177
第 VI 章 結論		180
6.1	結果のまとめ	180
6.2	研究結果の位置づけ	186
6.3	先行研究を踏まえた新しい発見	188
6.4	論文の示唆点と今後の課題	190
参考文献		192

## グラフ 目 次

グラフ 1	2ちゃんねる掲示板の総訪問者数の推移(2016年11月～2017年4月)	31
グラフ 2	2ちゃんねる掲示板の年ごとの平均投稿数の推移(2004～2016年)	31
グラフ 3	イルベ掲示板の総訪問者数の推移(2016年11月～2017年4月)	36

## 表 目 次

表 1	ヘイトスピーチが生じる要因に関する3つの仮説	56
表 2	東アジア NEWS+板とハングル板の頻出語リスト(上位1-50位)	67
表 3	東アジア NEWS+板とハングル板の頻出語リスト(上位51-100位)	68
表 4	東アジア NEWS+板における物語	72
表 5	ユネスコに関する新聞記事の見出し	77
表 6	ハングル板における物語	83
表 7	政治日刊ベスト板における抽出語リスト(上位1-100位)	90
表 8	政治日刊ベスト板における物語	95
表 9	2ちゃんねる掲示板におけるヘイトスピーチの対象	151
表 10	イルベ掲示板におけるヘイトスピーチの対象	151

## 図 目 次

図 1	ネトウヨの実態 1 .....	43
図 2	ネトウヨの実態 2 .....	43
図 3	東アジア NEWS+板における共起ネットワーク .....	71
図 4	ハングル板における共起ネットワーク .....	82
図 5	政治日刊ベスト板における共起ネットワーク .....	94
図 6	韓国地図 .....	99
図 7	在日朝鮮人・朝鮮人に対するハングル板の共起ネットワーク .....	107
図 8	最小スパニング・ツリーによる共起ネットワーク(在日朝鮮人・朝鮮人) .....	108
図 9	民主党に対するハングル板の共起ネットワーク .....	111
図 10	最小スパニング・ツリーによる共起ネットワーク(民主党).....	112
図 11	マスゴミに対するハングル板の共起ネットワーク .....	116
図 12	全羅道地域に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク .....	120
図 13	最小スパニング・ツリーによる共起ネットワーク(全羅道地域) .....	121
図 14	金大中元大統領に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク .....	133
図 15	盧武鉉元大統領に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク .....	135
図 16	北朝鮮に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク.....	143
図 17	最小スパニング・ツリーによる共起ネットワーク(北朝鮮).....	144

# 第I章 序論

## 1.1 研究の背景

2016 年は、グローバリズムの終焉と国家主義の高まりが顕著に見えた年であった。英国では2016年6月23日に欧州連合(European Union: EU)からの離脱の是非を問う国民投票が実施され、離脱派が勝利を収めるなど、欧州各国においては極右政党への支持率が急激に上昇している。このような現象の根底には、2015年に発生した「パリ同時多発テロ」に続き、2016年12月20日にドイツの首都ベルリンで起きた「トラック突入テロ」によって煽られた宗教間や民族間の摩擦があると言えるだろう。この一連の事件を契機に、欧州各国では多様性を根絶する排外主義や大衆に迎合して人気を得ようとするいわゆる「ポピュリズム(=大衆迎合主義)」が勢いを増していったのである。

2016年の米大統領選挙での「トランプ現象」も、昨今、欧州各国で渦巻いている「反グローバリズム」及び「ポピュリズム」の影響が強く反映されたものであり、トランプ氏が見せた過激な発言はそれを象徴している。一例として、トランプ氏が11月13日に放送されたCBSテレビの番組「60 ミニッツ」のインタビューで、選挙の公約通り、「メキシコとの国境に壁を築く」という考えを示したことや、犯罪歴のある200~300万人の不法移民者を「ギャングのメンバーや麻薬密売人など、犯罪歴がある人々」と断言したことなどが挙げられるだろう。

前述した「英国の欧州連合離脱」や「トランプ現象」が体現する保守的ポピュリズムと移民や難民に対する差別的な発言、言わばヘイトスピーチは欧米だけの特殊な現象ではなく、日本と韓国においても同時並行で起きている現象でもある。日本では、2016年7月の東京都知事選挙で、ヘイトスピーチを繰り返してきた「在日特権を許さない市民の会」(以下、在特会)の元会長・桜井誠氏が立候補して21人の候補者のうち5番目の得票数となる11万票を獲得した。都知事選挙告示翌日の7月15日、東京都港区の在日本大韓国民団中央本部前で行われた演説にて桜井氏は「さっさと日本から出て行け」などと発言し



た。その上、選挙戦最終日には「グランドフィナーレ」とする街頭演説を秋葉原で行い、桜井氏は「在住する外国人への生活保護の停止」「韓国人学校の建設の中止」「パチンコ規制」を大々的に公約<sup>1</sup>に掲げるなど、排外主義的な主張を重点的に唱え、集会に集まった多くの支持者からは拍手と歓声が上がった。桜井氏が掲げた7つの公約のうち7番目の項目を別として、6つは在日韓国人を標的にした公約であり、主な内容は在日韓国人が享受する特権を廃止しようというものである。さらに、街頭演説で桜井氏は近現代史の事件をめぐる既存の視点を再解釈しようとする、言わば歴史修正主義(historical revisionism)的な発言をした。

2016年7月27日に行われた葛西駅前での桜井氏の街頭演説の動画をアップロードしたブログ<sup>2</sup>があり、そこに抜粋された演説の一部を紹介したい。

今朝方ですか…、私もニュースで見たんですが、日韓合意に基づき、我が国政府が、韓国でですね、慰安婦の財団ができると…。まあ、これを作るという条件で、10億円を支払うという約束をしていたわけです。そして、そこにですね、10億円を支払うと…このようなニュースが流れました。この件についてですね、改めて皆さんと考えてみたいと思うんです。確かにね、慰安婦問題と東京都知事に、一体どんな関係があるんだと、こういう方もいらっしゃる。しかし、現時点において、例えばですけれども、歴史教育の問題、これで徹底的に日本人は自虐教育に陥っているじゃないですか？ その地方自治体における教育、そのトップは東京都知事じゃないですか！ はっきり申し上げます。戦後70年間に於いて、東京都において、教育問題を放ったらかしにしてきたから、こういう事態になってるんですよ！

桜井氏は、2015年12月、慰安婦問題をめぐる日韓両政府の合意に疑問を提起しながら、

---

<sup>1</sup> 桜井氏が掲げた「日本を取り戻す7つの約束」は次のとおりである。1)都内に在住する外国人の生活保護の支給を停止し、生活保護の受給者は日本国民に限定する。2)都内の不法残留者を4年間で半減させる。3)外国人が虚偽の歴史に基づき反日ヘイトスピーチを行い、日本人を誹り立てることを禁止する。4)税の公平性に反し減免されている総連、民団の中央本部及び関連施設への課税強化を図る。5)違法賭博パチンコに対し規制を実施する。6)韓国学校建設については中止する。7)コンパクト五輪の意義を考え、現行の東京五輪案の改善を図る。

<sup>2</sup> <http://arcanaslayerland.com/2016/07/28/kasai/> (最終閲覧日：2016年1月7日)

今回の合意の根底にある自虐史観に基づいた戦後の歴史教育の見直しを要求していた。自虐史観なる言葉で歴史の見直しを求める歴史修正主義的な視点は、インターネット上で韓国人や在日韓国人に対してヘイトスピーチと呼ばれる差別的な言動を行う、いわゆる「ネット右翼」の思想に欠かせないものである。このことから、桜井氏の演説はネット右翼層と思想的に共鳴していることが分かる。また、東京都知事選挙で桜井氏は在日韓国人を主要な標的として極端なヘイトスピーチを繰り返したということから、排外主義的な差別的発言をしていたトランプ氏やヨーロッパの極右政治家と極めて類似した特性を持っていることが分かる。

次に、韓国の状況を見てみよう。最近ある高校生が「白色テロ<sup>3</sup>」を犯し、韓国のマスメディアに大々的に取り上げられて世間の話題となった。2014年12月10日夜、韓国南部の全羅北道・益山市チョルラブド イクサンで北朝鮮に融和的な言動で論議を呼んでいる韓国系米国人女性のシン・ウンミ氏とファ・ソン元民主労働党副報道官のトーク・コンサートが行われている最中、聴衆の高校生が引火性の物質が入った鍋に火を付け、ステージに向けて投げつけた。事件を起こした生徒が「日刊ベスト貯蔵所」（以下、イルベ）という保守志向のインターネット掲示板で活動してきた会員であったことが知られるにつれて、インターネット上で嫌悪感を示していた内容が現実の過激な行為にまで現れる危険性を示し、人々の警戒心を呼び起こした。また、今回の事件は極端な反北朝鮮理念が爆弾テロにつながったことを象徴的に示す出来事でもあった。十代の少年は、シン氏が自分と異なる信念や思想を持っているという理由だけで「白色テロ」を起こしたが、その根底には、「韓国社会が抱える代表的な問題の一つである従北<sup>4</sup>思想という仕組みから私たちがいかに自由になれるか」という問いがある。

昨今韓国社会においては、自分たちを批判したり、自分たちと異なる意見を持ったり、政府に逆らったりする者に対して、「パルゲンイ」（＝共産主義者、赤）とレッテルを貼る赤狩りが横行している。「太陽政策」あるいは「包容政策」と呼ばれる対北融和政策を推進した左派・革新系大統領の金大中・盧武鉉キム デジュン ノム ヒョンをはじめとする5・18光州民主化運動オ イルパルクマンジュ

---

<sup>3</sup> 白色テロ (White Terror) は、政治的主張や理想達成のために政治的反対勢力に対して行われる暴力行為で、主に権力者や右翼組織によって行われる。左派による赤色テロ (Red Terror) と対極にある。

<sup>4</sup> 従北とは、新北と同様の意味であり、北朝鮮の思想や政治理念などに従うことを言う。

<sup>5</sup>(1980 年)やセウォル号事故<sup>6</sup>(2014 年)の犠牲者と遺族などに「従北<sup>じゅうほく</sup>左派」というレッテルを貼るのが代表的な例である。是非に関係なく、ともすると従北<sup>じゅうほく</sup>へと駆り立てる韓国社会、さらにそれを政争の道具に利用する与野党は、トランプ型のポピュリズムと別段変わった話ではないだろう。

前述した 4 つの事例は 2000 年代という時代の流れの中に位置づけられている。2000 年代後半から、世界は「国境なき世界」から「国境を閉ざすナショナリズム」へ移行しつつある。また、ポピュリズムの勃興やゼノフォビア(= 外国人嫌悪)、民主主義に対する疑念、さらに反知性主義などは国ごとに程度の差はあるものの、多くの国に共通する問題となっている。中でも「ナショナリズム」への回帰現象は、保守的ポピュリズムと称される思想に加え、マスメディアのセンセーショナリズムがその根底にある。これを受け、人々の心の中には見えない心理的な境界線が引かれた。言い換えれば、「我々」に害を与える「彼ら」は我々の仲間なのか、それとも我々の敵なのかという線引きが目立つようになったのである。このような現象はインターネットやソーシャル・メディアを活用して「反日」や「従北<sup>じゅうほく</sup>」という強烈なレッテルを貼るヘイトスピーチの形として現れている。

日本では「2ちゃんねる」掲示板<sup>7</sup>(1999 年開設)を中心に韓国人や在日韓国人に対する差別的な投稿の内容が大量に寄せられており、同掲示板において在日韓国人は日本の福祉恩恵を不正に受給している特権階級であると決めつけられている。韓国の「イルベ」掲示板(2010 年開設)においても、特定地域の人々に対する差別や排除の感情が根を下ろしている。「イルベ」掲示板には、女性に対する蔑視や露骨な反共主義、民主主義思想やリベラルへの嫌悪、特定地域に対する反感、社会の常識を覆すような社会風刺パロディが横行している。この掲示板では上記に列挙した対象を敵として設定することにより、韓国社会がこれまで抑圧シタプーとしてきた特殊なアイデンティティを公然と現している。これはある意味、逆説的に既存の社会秩序への挑戦とも言えるだろう。

---

<sup>5</sup> オイルバルクアンジュ 5・18 光州民主化運動は、1980 年 5 月 18 日より 10 日間、韓国の南西部に位置する全羅南道、光州市で民主化を求める学生・市民を武力で鎮圧し、多数の死傷者を出した事件である。

<sup>6</sup> セウォル号事故は、2014 年 4 月 16 日に大型旅客船「セウォル」が、全羅南道の珍島で沈没し、修学旅行中の高校生ら 295 人が死亡した事故である。

<sup>7</sup> インターネット掲示板「2ちゃんねる」は 2017 年 10 月 1 日に「5ちゃんねる」に改名された。

ここで問わなければならない問題は、以下の3点である。一つ目に、日韓両国において共時的に発生しているヘイトスピーチは何を基底に置いているのかという点である。具体的には、ヘイトスピーチはやり場のない漠然とした社会への不満が形をなしたもののなのか、あるいは排他的な社会の縮図を映し出したもののなのかについて考察する必要があるだろう。

二つ目に、ヘイトスピーチ現象と共に保守志向のナショナリズムが台頭する昨今、「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板のユーザーはなぜ「左」ではなく「右」を選択しているのかという点、また、なぜ彼らはリベラル思想ではなく保守主義的な思想に自分たちの生きる意味を探しているのかという点について検討する必要があるだろう。

三つ目に、このような一連の問いを欧州におけるヘイトスピーチ現象と類似した観点から読み解くことができるという点である。ヘイトスピーチや極右ナショナリズムが発生するメカニズムに関する多くの先行研究においては、長期不況による「経済不安要因説」が主要な論点として取り上げられている。これは、大規模な移民や難民を受け入れてきた欧米の研究動向と関連がある。欧米の研究においては、反移民を唱える極右政党やこれを支持する層を「特殊な」「逸脱した」他者と排除する傾向が見られ、日韓の研究においても欧米の研究が持つ傾向をそのまま踏襲してきている。それゆえ、「経済不安要因説」は、欧米の先行研究だけでなく、日韓における先行研究においてもヘイトスピーチ現象を分析する重要な仮説として幅広く用いられてきているのである。しかしながら、欧米の先行研究から得られた知見だけでは、日韓両国の歴史的・社会的脈絡と軌を一にしている在日韓国人と全<sup>チヨルラド</sup>羅道の人々がなぜヘイトスピーチの対象となっているのかという点を十分に説明できない。というのも、欧州諸国におけるヘイトスピーチの対象は「移民・難民」というニューカマーに向かいがちであるのに対し、日韓の場合、これと全く異なる様相を呈しているからである。

本論文では、このような現状に着目し、保守志向のナショナリズムとヘイトスピーチが横行しつつある日韓の社会現象を「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板から読み解き、このようなヘイトスピーチ現象が生じる要因などについて考察していく。さらに、日韓両掲示板を動かす心理的メカニズムについても解明する。

## 1.2 研究目的

2000年代に入る頃から日本ではインターネット掲示板「2ちゃんねる」などで、在日韓国人・韓国人に対して差別をあおる言説、いわゆる「ヘイトスピーチ」が目立ち始めた。2015年11月には、3年半ぶりの開催となった日韓中首脳会談で最大の懸案であった従軍慰安婦問題をはじめ、歴史認識問題や領土問題に端を発した韓国人や在日韓国人に対するヘイトスピーチが「2ちゃんねる」掲示板で行われた。2013年の新語・流行語大賞にノミネートされた「ヘイトスピーチ」現象は、年を追うごとに重大かつ社会的な問題として注目を集めている。このような状況の中、2016年5月13日、参院本会議において「ヘイトスピーチ(=憎悪表現)解消に向けた推進法」が可決され、24日には衆院本会議で全会一致により可決、成立した。

ネット上の民族主義的な発言および発言者を示すヘイトスピーチ現象は、日本だけに限られた話ではないだろう。近年、韓国の2ちゃんねると言われる「イルベ」というインターネット掲示板が注目を集めている。ニールセン・コリアン・クリック(Nielsen Korean Click)によると、「イルベ」掲示板の2015年4月パソコン(PC)基準純訪問者(Unique Visitor:UV)数は、130万6,365名に達し、モバイル基準純訪問者数は173万2,420名を記録した。さらに、月間総ページ・ビュー数(Page View:ウェブページが閲覧された回数)は、2億6,017万となり、全体のコミュニティ分野の中で2位を記録している(ハンギョレ新聞2015年5月18日)。

「イルベ」掲示板は、第18代大統領選挙とセウォル号遺族たちの前でピザやチキンなどを食べる「暴食闘争」、<sup>カンナム</sup>「江南駅女性嫌悪殺害事件<sup>8</sup>」での「花輪論議」などがマスメディアで報道され、世間の耳目を集め始めた。加えて、当掲示板では今までの韓国社会で見られなかった傾向が観察された。まず、リベラル的なコミュニティが主流を成し遂げてきたインターネット・コミュニティの流れの中で、相対的に多くの利用者数を保有した保守

---

<sup>8</sup> <sup>カンナム</sup>江南駅女性嫌悪殺害事件は、2016年5月17日未明、ソウルの<sup>カンナム</sup>江南駅付近のカラオケ店の建物内の男女共用トイレで、当時23歳の女性が面識のない男性に突然殺害された事件である。加害者の男性は警察に捕まった後、犯行の動機について「女たちが自分を無視して耐えられなかった」などと供述した。事件後、犯行現場近くの<sup>カンナム</sup>江南駅10番出口では追悼集会が行われ、その場に「イルベ」掲示板から送られたと見られる嘲弄の混じった花輪が置かれ論議が起きた。

的な傾向のインターネット・コミュニティが登場したのは、「イルベ」掲示板が初めてである。つまり、「インターネットはリベラル的傾向のユーザーに親和性が高い」というこれまでの通念を打破したという点から、「イルベ」掲示板の登場は「韓国型ネット右翼の誕生」と命名されたりもした(Park, Ga-Bun 2013)。

次に、「イルベ」掲示板が「イルベ現象」とも呼ばれるほどの社会的な反響を巻き起こしたのは、今までの「歴史の常識」を覆すような言動を繰り返しているからだと言える。最も端的な例として、<sup>オ</sup>イルバルクアンジュ 5・18 光州民主化運動に対する法的・歴史的評価がすでに定まっているにもかかわらず、「イルベ」掲示板のユーザーの間では<sup>オ</sup>イルバルクアンジュ 5・18 光州民主化運動を「北朝鮮の特殊部隊が扇動して起こした暴動」として扱うなど、過去の歴史を再評価しようとする動きが繰り返されていたことが挙げられる。

以上の背景を踏まえると、二つの点について新たに考察を加える必要があるだろう。第一に、2000 年代以降、日韓両国のインターネット・コミュニティにおいて「リベラルなもの」が人々の感情を吸収できなくなった背景には何があるのだろうか。また、なぜこの時期に保守志向の思考が彼らを惹きつけたのだろうか。たとえば、2000 年代中盤までリベラルの色彩を帯びてきた韓国のインターネット・コミュニティは、2010 年以降、徐々にリベラルの色彩が薄れてきている。一方日本でも、戦後民主主義の価値がネット右翼層の感情を吸収できなくなっている。その上、多くの先行研究では思春期・青春기에 円の崩壊やアジア通貨危機を経験した若者たちの右傾化が目立つようになった(高原 2006 ; 安田 2012 ; Kang 2013)と報告している。なぜ、このような層が保守主義の思考へと走ったのだろうか。

第二に、インターネット上における右傾化現象と共にマイノリティに向けたヘイトスピーチ現象が日韓両国の社会において問題になっている。従って、これらのサイトの思想と行動をどのような文脈で理解すべきかについても考察する必要があるだろう。

### 1.3 本論文の構成

本論文は全 6 章で構成されており、2 章以降の概要は以下の通りである。第 2 章では、研究に関連する基礎的な定義や概念を述べた後、本論文に関連する先行研究を概観し、問

題点をそれぞれ指摘する。次に、先行研究における本論文の位置づけを明らかにする。第3章では、先行研究から導き出される仮説と分析の概要について概略的に述べた後、具体的な分析の仕組みについて詳しく解説する。第4章では、分析から得られた結果について報告する。第5章では、得られた結果についてさらに考察し、その意味するところを掴む。最後に第6章では、結果と考察で得られた知見を根拠として、目的で述べられたリサーチ・クエスションへ解答し、その結果を総括する。また、本論文の限界と今後の研究課題についても述べる。

## 第II章 先行研究の検討

### 2.1 ヘイトスピーチの定義

ヘイトスピーチという言葉は、1980年代に米国で誕生した。米国では1980年代前半、ニューヨークを中心にアフリカ系の人々や性的マイノリティに対する差別に基づく殺人事件が頻発した。そのため、特定の人種や民族などへの憎悪や偏見に基づく犯罪が社会的な問題として認識されるようになった。その上、同時期には、大学への非白人及び女性の進出に反発する差別事件が頻発したことに対し、多くの大学を中心に、差別や偏見に基づいた言語や表現などの撤廃を求める「ポリティカル・コレクトネス(political correctness)」運動が盛んになった。これを受け、1990年には、連邦および州レベルで「ヘイトクライム統計法」(Hate Crime Statistics Act)が施行された。ヘイトクライム(Hate Crime)とは、人種、宗教、民族、性的指向、性別、障害者等、特定のカテゴリに属する人々に対する憎悪または偏見を動機とする犯罪を指す言葉である。米国ではこのヘイトクライム統計法により、偏見や差別に基づいた暴行事件や殺人事件などの場合には、偏見や差別的動機がない場合よりも罪を加重することになった。このような社会的な動きなどが少しずつ盛り込まれながら、ヘイトスピーチという言葉も広がり始めた。

ヘイトスピーチは様々な定義があり、一般的な定義としては以下のように定義されている。

ヘイトスピーチとは、広義では、人種、民族、国籍、性などの属性を有するマイノリティの集団もしくは個人に対し、その属性を理由とする差別的表現であり、その中核にある本質的な部分は、マイノリティに対する「差別、敵意又は暴力の煽動」(自由権規約二〇条)、「差別のあらゆる煽動」(人種差別撤廃条約四条本文)であり、表現による暴力、攻撃、迫害である。

(師岡 2013 : 48)



上述した内容から、ヘイトスピーチは単純に全ての対象に向けた一般的な敵意を意味するのではなく、人種、民族、国籍、性などの属性を有するマイノリティの集団もしくは個人などに向けた偏見や憎悪の感情を意味することが分かる。

その一方で、堀田(2014)はヘイトスピーチの定義を人種、民族、宗教、性などによって限定するだけでは不十分であると述べながら、次のような注意も加えている。

もし、人種、民族、宗教等でしか限定しないとすると、たとえば、在日朝鮮人に対するヘイトスピーチを非難し、罵倒するカウンター側の表現に対する「日本人差別」とか「日本人に対するヘイトスピーチ」などという表現を批判することはできなくなる。ある表現がある人々に対する敵意や憎悪およびその扇動の表現であるとする際に、単に人種等でその「標的」を限定するだけではなく、さらに、対象となる人々が、当該社会で歴史的にまたは現在において「マイノリティ」であるという文脈(context)が必要だということを示唆している。また、ある種の人々に対する「敵意の扇動」であると言うために、発話者の意図は必要条件ではないということを示唆している。

(堀田 2014 : 2、下線筆者)

堀田(2014)の正義によると、ヘイトスピーチは、一般的な意味のレベルで捉えるのではなく、当該の社会的文脈の中で論じられるとしている。本論文では、堀田(2014)のヘイトスピーチの定義を参考にして研究を進めた。本論文の分析対象である「2ちゃんねる」掲示板では在日韓国人を「チョン<sup>9</sup>」、「イルベ」掲示板では全<sup>チョンラド</sup>羅道の人々を「ガンギエイ<sup>10</sup>」と呼んでいる。日韓両掲示板において彼らは、マイノリティとしてヘイトスピーチの対象となっており、彼らに対するヘイトスピーチを単純に人種、民族、宗教、性などに限定して捉えることだけでは不十分であると考えられる。というのも、ヘイトスピーチ現象が世界各国を席卷しているのは否めない事実であるが、それぞれのヘイトスピーチの対象は、当該社会の歴史的・社会的文脈の中で生まれているからである。そのため、日韓の社会的

<sup>9</sup>「チョン」という言葉は、在日韓国人・韓国人に対する蔑称である。「チョン」は「チョンコ」「チョン公」などと同一視されて使用されている。「在日朝鮮人」という言葉は差別語であるが、本論文では、参考した書籍(論文)を引用する場合、あるいは「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板上の書き込みの場合は、記述されているものをそのまま表記した。

<sup>10</sup>「ガンギエイ(洪魚：ホンオ)」は全<sup>チョルラド</sup>羅道の人々に対する蔑称である。

文脈から見ると、在日韓国人や全<sup>チョンラド</sup>羅道の人々はヘイトスピーチの対象となっているが、欧州の文脈から見るとそれらは大きな意味を持たないのである。

## 2.1.1 欧米におけるヘイトスピーチ

ヘイトスピーチ現象は、序論で述べた通り全世界的に跋扈する現象である。以下では、欧米のヘイトスピーチ事例について見ていきたい。

### 2.1.1.1 米国におけるヘイトスピーチ

米国におけるヘイトスピーチは、反ユダヤ主義者や人種主義者により、ユダヤ人や黒人に向けられてきた。その代表的な事例が、1977 年のスコーキー (Skokie) 事件や 1992 年の R. A. V. 事件である。本節では、これらの 2 つの事例について検討していきたい。

まず、スコーキー事件は、ネオナチ<sup>11</sup>団体である米国家社会主義党 (National Socialist Party of America) の反ユダヤ主義的言論に対する規制の是非が問われた事件として、米国で大きな論争を巻き起こした。第 2 次世界大戦のナチス・ドイツがユダヤ人などに対して組織的に行った大量虐殺から逃げ延びるため、多くのユダヤ系住民はイリノイ州スコーキー村に移住してきた。ユダヤ系移民が数多く居住するイリノイ州のスコーキー村には、1970 年代半ばの時点で約 7 万人の総人口のうち約 4 万人 (推定) がユダヤ系住民であり、なかには 3 千人のナチスの迫害から逃げて移住してきた人々が存在した。しかしながら、フランク・コリン (Frank Collin) を党首とするネオナチ団体である米国家社会主義党が、この村でデモの実施を計画したことが事件の発端となった。この政党の構成員は、第三帝国時代にドイツのナチ党員の軍服を連想させる制服を着用し、卍 (まんじ) とナチスのシンボルの鉤十字を党の象徴として使用した。

このような状況の中でスコーキー村は、1977 年 5 月 2 日米国家社会主義党のデモを抑制

---

<sup>11</sup> ネオナチは、イデオロギー的にナチスと結びついた者の連合であり、その特徴として、人種差別的な攻撃的スローガンや挑発的な行進、メンバーによる暴力行為が挙げられる (井関 2002)。

するため、以下の三つの条例を制定した。

1. スコーキー村内のいずれかの場所における 50 名以上のあらゆるパレードや公開の集会を開く者に対して 30 万ドルの責任保険および 5 万ドルの財産被害保険を購入することを集会の許可要件と規定する(条例 994 号)。
2. 人種的あるいは宗教的憎悪を扇動する文書をそのような憎悪を扇動する意図をもって配布することを禁止する(条例 995 号)。
3. ミリタリー・スタイルの制服を着用する政党の構成員が公開のデモを行うことを禁止する(条例 996 号)。

(小林 2003 : 71)

米国家社会主義党は、スコーキー村内においてデモ行進を行うことを問題とするスコーキー村の上記の条例は「第 1 修正の権利(= 言論の自由の保障規定)」<sup>12</sup>を侵害するとして訴訟を提起した。これに対し、米国イリノイ州のクック郡巡回裁判所(Circuit Court of Cook County)は、「村内で国家社会主義『党』の制服を着用し、鉤十字を表示し、またはユダヤ系もしくは何らかの他の信仰をもつ者に対する憎悪を扇動し、または助長する資格を表示することを禁止する」(小林 2003 : 116)と判決を下した。

次に、R.A.V. 事件を見てみよう。この事件は、R.A.V. (Robert A. Victoria)をはじめとする白人少年らが、壊れた椅子の木々で十字架を組み立て、アフリカ系米国人の自宅に侵入し、敷地内に十字架を立てた上でそれを燃やしたことが発端となった。R.A.V. 側は、ミネソタ州のセントポール市で制定した「偏見を動機とした犯罪に関する条例」違反で起訴された。同条例は以下のように定めていた。

人種、肌の色、信条、宗教又はジェンダーの偏向により、他者に怒り、恐怖、憤りを生じさせることを知り、又は知ることの合理的根拠を有し、公的又は私的な不動産に、燃える十字架やナチスの鍵十字を含む、またはその他の象徴、物、称号、描写、

---

<sup>12</sup> アメリカ合衆国憲法修正第 1 条(First Amendment to the United States Constitution)とは、アメリカ合衆国憲法で定められている条項である。連邦議会は、国教の樹立を禁止し、宗教の自由な行使を妨げる法律を制定することを禁止している。また、表現の自由、報道の自由、平和的に集会する権利、請願権を妨げる法律を制定することを禁止している。

落書きを設置した者は無秩序な行動に関係したとみなし、軽犯罪の罪とする。

(St. Paul, Minn., Legis. Code, Section 292.02(1990))

R. A. V. 側は、同条例が第一修正の保障する言論と表現の自由を侵害することを理由として連邦最高裁判所へ上訴した。これに対し、連邦最高裁判所のスカリア判事は、R. A. V. 側の主張を却下した。スカリア判事は、争点となった「偏見を動機とする犯罪条例」の解釈に当たり、ある者のなした表現行為が人種、肌の色、信条、宗教又はジェンダーに基づく怒りや恐怖等を惹起し、それが「喧嘩言葉」(fighting words)、すなわち、問題となる発言を聞いた者に怒りや不安感を生ぜしめるという理由として、却下した。また、連邦最高裁判所は、公共の安全と秩序の維持に支障が生じる恐れに対して、条例が地域社会を保護するための制限的手段であるという結論を下した。

### 2.1.1.2 ヨーロッパにおけるヘイトスピーチ

ヨーロッパにおいても、第二次大戦前に欧州各地で広がっていた反ユダヤ主義や反黒人主義を敵視する動きが強くなった。1958 年 8 月 23 日、英国のノッティンガム市で黒人青年による白人男性の刺殺事件が発生した。この事件後、ロンドンの街の中でも最も西インド系(= カリブ系移民)の黒人が多く住む西ロンドンのノッティンガム・ヒル地区で、白人の若者数人が黒人達の住む家に向かって火炎瓶などを投げ込み、5 人の黒人が殺害された。この事件が契機となり、外国人労働者に対する感情的反発が広がり始めた。

このような状況の中で、1960 年、英国では非白人移民排斥と英国中心主義を掲げるブリティッシュ国民党(British National Party)が結成された。当時の保守政権は、1958 年 8 月英国中部のノッティンガム市で発生した事件の背景を移民流入によるものだとし、1962 年に、英国連邦から入国する非白人移民を制限する移民政策を制定した。

他方、中道左派の労働党は、1965 年に人種差別の撤廃を明記する「人種関連法」を提案した。この法案により、ヘイトスピーチが人種差別撤廃条約で禁止された。この法案の六条の「公共の秩序」は、「肌の色、人種又は民族的若しくは出身国籍」を理由として「憎悪をかき立てる意図をもって、公共の場所若しくは公的な会合において、脅迫的な、口汚いあるいは侮辱的文書を公開し、若しくは不安にさせ、またはそのような言葉を使用

して、憎悪が掻き立てられる恐れがある場合」を犯罪とし、20 年以下の自由刑若しくは罰金又はその両者が科せられるものとした(師岡 2013 : 88)。この法案の成立以降にも、1981 年のロンドンのブリクストン事件、1985 年のバーミンガムやリバプール、ロンドンのブリクストン、トッテナムなどの大規模な集団暴行事件が立て続けに起こった(富岡 1998 : 663)。

次に、ドイツにおけるヘイトスピーチの事例を見てみよう。ドイツにおいてヘイトスピーチが大きな議論になった時期は 1990 年代であった。1990 年の東西統一以降、外国人労働者の定住化に伴い、ドイツ社会の中では外国人移民労働者に対するヘイトスピーチやヘイトクライムが頻発し、大きな社会問題となった。1987 年から 1990 年までの間に年間平均して 250 件の外国人に対する犯罪があったと報告されており、1991 年にはこの数が 2,427 件と 10 倍に達し、1992 年には 6,336 件に跳ね上がり、1990 年の実に 25 倍にも増大した(星野 1998 : 38)。1992 年に外国人に対する犯罪が急増した背景には、当年のドイツの亡命申請者数が過去最高となる 43 万 8,191 人(木戸 2006 : 67)を記録した経緯がある。そのため、ドイツでは外国人移民労働者に対するヘイトスピーチが高揚したのである。

外国人移民労働者に対するヘイトスピーチの背景として、旧東ドイツと旧西ドイツ間にある極めて大きな経済格差に加え、旧東ドイツ地域の経済の崩壊により大量の失業問題などが一般的に取り上げられている。また、当時ドイツでは、極右勢力がこのような社会の雰囲気に乗じて、外国人に暴力を振るう事件が多発した。1992 年には、旧東ドイツのロストックの亡命申請者の住宅を襲撃し、放火や投石をするなど、極右勢力による暴力事件は、1990 年に比べて 8 倍も増加し、2,285 件にもなった(黒田 2015)。2000 年にもデュッセルドルフの地下鉄構内で極右による爆発事件があり、この事件により、旧ソ連からのユダヤ人移民をはじめ、多くの犠牲者が出た(井関 2002)。

これまでの流れをまとめると、欧米におけるヘイトスピーチの問題は、反ユダヤ主義や反黒人主義をめぐる事案が大きな軸となってきた。しかしながら、2000 年代を境に欧米に蔓延する反イスラム感情が生まれ、従来のヘイトスピーチ問題をめぐる議論はさらに様々な形で噴出されてきている。

2000 年代以降のヘイトスピーチ現象の特徴は、以下のようにまとめることができる。第一に、ヨーロッパにおけるヘイトスピーチの対象は、ユダヤ人からイスラム原理主義者になるようになった。特に、米国における 9.11 同時多発テロ以降、米国やヨーロッパ諸国の政府は、「テロリズムとの戦いに関する宣言」をし、潜在的なテロリストの容疑者

としてイスラム教やイスラム教徒を監視対象としている。これと共に「イスラム＝テロリズム」という偏見のステレオタイプが定着した。そのため、西欧諸国に移民や難民として流入してきたイスラム教徒やアフリカから来た難民、その他の外国人に対する排外的な意識(星野 2016 : 6)が高まっており、これは2000年代以降のヘイトスピーチ現象の特徴となってきた。

第二に、2000年代からは、移民制限と共に「反エリート主義＝ポピュリズム」をも強調されるようになった(Ford & Goodwin 2014 : 195-196)。ただし、長年続いてきた移民問題については、移民の排除というよりは、ポイント制<sup>13</sup>の導入や移民に対する福祉の制限により移民をコントロールすることを求めている(Usherwood 2016 : 251-252)。これは、移民が税金を納めることなく福祉制度へのタダ乗りをするフリーライダーという認識が共通している(Rydgren 2004・2007)からである。つまり、自分たちは高い税金を支払って福祉の恩恵を受けているにもかかわらず、移民は非合法的に入ってきて欧州連合内で子供を生み、その2、3世は欧州市民権を獲得して同じ恵沢を簡単に受けるのは許せないということである(羽場 2016 : 10)。このような現象の背景には、ユーロ危機やリーマン・ショックの長期化により、ヨーロッパ諸国が機能不全に陥ったこととなったと関連がある。そのため、ヨーロッパ連合の国の中でも、社会保障や人権意識の高いと言われているスイスやスウェーデン、さらに英国においても移民の排斥する訴えるヘイトスピーチ現象が広がったのである。このことから「ヨーロッパにおける排外主義の拡大は、国境を越える移民の管理をめぐる闘争というよりもむしろ、国内での社会的セキュリティの管理をめぐる闘争によって引き起こされている」(小林・駒井 2013 : 139)と結論づけることができるだろう。

第三に、このような時代の流れに便乗し、移民及び難民流入や欧州連合の統合に反対する極右ポピュリズム政党が躍進してきた。例えば、フランスの極右政党の国民戦線のマリーヌ・ルペン党首は、2018年大統領選挙の公約として、大幅な移民制限や不法移民の排除を掲げ、支持層を広げた。次に、モロッコ人の移民に対するヘイトスピーチで、2016年有罪になったヘルト・ウィルダースは、2017年オランダ総選挙で、「移民やイスラム化を打ち負かさなければならない」と訴え、多くの支持を得た。また、欧州連合懐疑派としてよく知られている英国の極右政党の独立党は、2014年の欧州議会議員選挙において得票率

---

<sup>13</sup> 「ポイント制」とは、移民の年齢、学歴、公用語能力などを点数化し、点数の高い移民に入国を優先的に認める制度を指す。

27.5%で第1党となった。その他、イタリアやドイツ、デンマークなどでの選挙において、反欧州連合や反移民政策を掲げる政党が躍進している。このような極右ポピュリズム政党の主張する政策は、移民・難民の受け入れ問題をはじめとする多文化主義の在り方、そして欧州連合の将来的な在り方にまで及んでいるため、従来のヨーロッパ諸国の政治の方向性を徐々に変えつつある(星野 2016)。

## 2.1.2 日韓両国におけるヘイトスピーチ

以下の節では、日韓のヘイトスピーチ事例について見ていきたい。

### 2.1.2.1 日本におけるヘイトスピーチ

日本でのヘイトスピーチ状況を見てみよう。第一に、典型的な事例として 1923 年 9 月 1 日に発生した関東大震災の流言が挙げられる。地震当時「朝鮮人が放火した」「井戸に毒を投げた」といった情報が拡散された(姜 2003)。

関東大震災後の 9 月 3 日に、内務省警保局長から各地方長官宛に海軍の船橋送信所から送った以下の電文を見てみよう。

吳鎮守府副官宛打電

九月三日午前八時十五分了解

各地方長官宛

内務省警保局長 出

東京付近の震災を利用し、朝鮮人は各地に放火し、不逞の目的を遂行せんとし、現に東京市内に於て爆弾を所持し、石油を注ぎて放火するものあり。既に東京府下には一部戒厳令を施行したるが故に、各地に於て充分周密なる視察を加え、鮮人の行動に対して厳密なる取締を加えられたし。

(琴 1991 : 158)

上述した内容から「朝鮮人が暴動を企て各地に放火した」という情報が各地に広がったことが読み取れる。このような情報は事実無根であったが、一部の地域では無実の在日朝

鮮人数千人の虐殺事件にまで繋がった(姜 2003 ; 吉村 2004 ; 岡本 2013 ; 加藤 2014)。独立新聞特派調査によると、朝鮮人虐殺者の見込み数は「6,661 人」(姜 2003 : 288)となっている。

このような流言は、1995 年 1 月 17 日の「阪神・淡路大震災」や 2011 年 3 月 11 日の「東日本大震災」においても流布された(荻上 2011)。東日本大震災直後に宮城県内で流れた「被災地で外国人犯罪が頻発している」という流言が拡散された。郭教授<sup>14</sup>によると、仙台市民の 8 割以上がこの流言を信じていたという(毎日新聞 2017 年 3 月 13 日記事)。

第二に、「三国人」「第三国人」という差別語に関する事例を見てみよう。2000 年 4 月、陸上自衛隊練馬駐屯地の創隊記念式典した石原氏は、以下のように述べた。

今日の東京をみますと、不法入国した多くの三国人、外国人が非常に凶悪な犯罪を繰り返している。もはや東京における犯罪の形は過去と違ってきた。こういう状況で、すごく大きな地震が起きた時には、大きな騒擾事件すら想定される、そういう状況があります。こういうことに対処するためには我々警察の力をもっても限りがある。だからこそ、そういう時に皆さんに出動願って、災害の救急だけではなくして、やはり治安の維持も一つ皆さんの大きな目的として遂行していただきたいということを期待しております。

(毎日新聞 2000 年 4 月 2 日 朝刊)

石原氏の発言の中には、「日本の植民地支配下と敗戦後の一時期に使われていた『三国人』という言葉が使われ、台湾・朝鮮・中国の民衆への蔑称」(今西 2000)との感情があり、さらに「外国人=犯罪者」というイメージも依然として残っていることが読み取れる。石原氏は自分の発言と関連し、「三国人は差別用語として用いたのではありません」と強弁したが、国連の人類差別撤廃委員会では石原氏の発言を問題視する声が相次いだ。

第三に、ヘイトスピーチに関わる問題の中で最も議論となっている「在特会」の事例を見てみよう。2012 年 8 月、ユーチューブサイト<sup>15</sup>にアップされた「お散歩」の映像では、

---

<sup>14</sup> この調査は、東北大学院の郭基煥教授により実施された。

<sup>15</sup> YouTube 「8 月 25 日 韓国征伐国民大行進 in 新宿 7(新大久保お散歩編)」  
(<https://www.youtube.com/watch?v=k9JIL8EKmt4>、最終閲覧日：2018 年 1 月 13 日)



在特会団体の桜井誠会場(当時)と会員らが、新大久保の韓流ショップが立ち並ぶ路地で「朝鮮人を皆殺しにしろ」と大声で叫びながら街を歩いている姿が映っていた。彼らはそれを通称「お散歩」とし、録画映像をユーチューブを用いて配信した。映像の中で桜井氏は、以下のように叫んでいる。

良い朝鮮人も悪い朝鮮もいない。朝鮮人を皆殺しにしろ。犯罪朝鮮人を皆殺しにしろ。日本を嫌いな人も許さない。ただ殺そう。これ以上韓国人をやり放題許さない。コリアンタウンを焼き尽くせ。日本でハングル使わないよ。認めない。ここは日本だぞ。朝鮮人は日本から出ていけ。

李明博大統領が 2012 年 8 月 10 日、竹島(韓国名：独島)に上陸したことを契機に、在特会などによるヘイトスピーチ・デモが毎週末、東京・新大久保や大阪・鶴橋などの在日韓国人の集住地域で行われている。そして、デモ解散後には新大久保の路地を「お散歩」しながら、韓流ショップや料理店の立ち並ぶ商店街を練り歩くのである。

在特会は主に韓国人や在日韓国人をヘイトスピーチの対象としている。2013 年 5 月に在特会がホームページ上で実施した投票結果でも、5,272 名のうち 78%が韓国を「一番嫌いな国」と回答し、続けて 12%が中国、4%が北朝鮮であると回答した(小倉・大西・樋口 2016 : 193)。また、従来型の保守論壇<sup>16</sup>では旧ソ連やロシア、中国、北朝鮮、日本教職員組合、民主党などに広く敵対心を表明していたのに対し、ネット右翼はひたすら韓国を激しく敵視する傾向にある(古谷 2013 ; 樋口直人 2014 ; 宮城 2016)。

ネット上で嫌韓の流れが出来上がった契機は 2002 年の日韓ワールドカップと同年 9 月の小泉純一郎当時首相の訪朝であった。2002 年の日韓ワールドカップは、それまでの日本社会における韓国の認識を「記号にすぎないアジアの小国」から「リアリティを備えた隣国」へと変化させる契機となったが、その一方でインターネット上で一気に嫌韓現象が起こる契機となった(金明秀 2011)。2002 年のワールドカップの当時、日本のメディアが韓国側に不都合な報道をほとんど取り上げなかったことに対し、ネットを中心に嫌韓反感

---

<sup>16</sup> 従来型の保守論壇あるいは既成保守論壇は、戦後日本の言論文化の中で長きにわたって固有の言説空間を形成してきた。代表的な右派系の雑誌として「諸君！」(1987～2009 年、文藝春秋)、「正論」(1973～、産業経済新聞社)、「Voice」(1977～、PHP 研究所)、「Will」(2004～、ワック)などがある。

が増幅された。それゆえ、メディアに対して何かしらの抗議をしようとする動き（「湘南ゴミ拾い OFF」と呼ばれる抗議行動）が当時の「2ちゃんねる」掲示板上で発生したのである。金明秀(2011)は、2002年のワールドカップ以降、ヘイトスピーチを背景に捏造されたデマを目にして、ネットで真実を知ったと思い込む人も少なくなかったと指摘している。つまり、この時期にメディアとネットの間で情報の差が生まれ始めたのである。その上、北朝鮮による拉致問題などが浮上し、「この時期、在日コリアンであることを表明していたウェブサイト運営者は、韓国籍、朝鮮籍を問わず、いずれもかなり激しい攻撃にさらされることになった」（金明秀 2011）。

以上のことから、2000年代以降日本におけるヘイトスピーチの対象は韓国のみに限定されていることが分かる。その他、民主党と反発原団体(樋口直人 2014: 201)、部落解放同盟や日本教職員組合(岡本 2016: 239)が対象となっている。それでは、ヘイトスピーチの攻撃対象が韓国人や在日韓国人に限定されてきた背景には何があるのだろうか。多数の先行研究によると、その背景として「在日特権」問題が挙げられる。特別永住資格・朝鮮学校補助金交付・生活保護優遇・通名制度という「在日特権」は、在特会をはじめとする排外主義運動で最も重要な言説となってきた(安田 2012; 樋口 2014; 野間 2015; 小倉他 2016; 宮城 2016)。

在特会が主張する4代特権は、この団体が発行する広報ビラに載せられており、以下ではその内容を紹介したい。

#### 1. 特別永住資格

「平和条約国籍離脱者等入管特例法」によって認められた資格である。もちろん、他の外国人にはこのような資格は与えられておらず在日韓国人・朝鮮人を対象に与えられた特権といえる。紛れもない外国人でありながら、日本人とほぼ変わらぬ生活が保障されている。

#### 2. 朝鮮学校補助金交付

朝鮮学校は教育法一条の定める学校ではないため「各種学校」として扱われるにも関わらず各地方自治体からの支援(助成金や補助金)を受けている。文部省の定める学習指導要領を無視した民族教育という名の反日感情を行いながら一条校と同様の権利を得ようと積極的な活動を行っている。

### 3. 生活保護優遇

生活保護とは困窮する「国民」に対して最低限度の生活を保障する制度である。しかし、日本では在日外国人にも生活保護が適用され「国民の保護」がおざなりにされている。特に、在日韓国人・朝鮮人への給付率が異常なほど高く、平成 16 年度の統計では、外国人生活保護者数の約 70%が在日という結果が厚生労働省から発表されている。

### 4. 通名制度

建前上は在日朝鮮人以外の外国人にも適用されている制度ではあるが、実質的にこの制度を使っているのは在日韓国・朝鮮人が大多数である。犯罪を犯しても「通名報道」によって本名が隠されている場合が多い為、まさに犯罪を助長させている制度に他ならない。

(在特会発行のビラ「あなたは『在日特権』をご存知ですか」より引用)

上述した 4 つの在日特権の中、よく取り上げられているのが「特別永住資格」である。「特別永住権」とは、平成 3 年(1991 年)11 月 1 日に施行された、「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」(平成 3 年法律第 71 号)により定められた在留の資格のことを言う。具体的に同法制定の目的は、以下のように述べられている。

在日韓国・朝鮮人及び台湾人並びにその子孫を対象として、その歴史的経緯及び我が国における定住性を考慮し、これらの人々の法的地位のより一層の安定化を図るため、出入国管理及び難民認定法の特例を定めることを目的とする<sup>17</sup>。

次に左藤恵法務大臣答弁(1991)は、特別永住者の法的地位について、以下のように述べている。

---

<sup>17</sup>「第百二十回国会衆議院法務委員会議録第九号」平成 3 年 3 月 9 日、2 頁、左藤恵法務大臣答弁。

歴史的経緯とか定住性というものを十分考慮して、そして平和条約に基づく国籍離脱者は原則として何ら手続を要することなく、法定の特別永住者ということにするほかに、これらの子孫につきましても裁量の余地なく特別永住を許可する、こういうことにしまして、その法的地位の安定化を図ろう、こういうのが今回の制度の特段配慮をしておるところでございます<sup>18</sup>。

上述した内容から、法務省が、第2次世界大戦終戦前から日本に在留している在日韓国人・韓国人・台湾人の定住性と歴史的経緯を考慮し、その子孫も含めて特別永住権を付与したことが分かる。具体的にこのような「特別永住資格」を付与した背景を見てみると、サンフランシスコ講和条約発効(1952年)により、これまで日本国籍を有していた旧植民地出身国者である韓国人や在日韓国人、台湾人は、自身の意思に関わらず自動的に日本国籍を離脱させられ、事実上無国籍状態に置かれた。それ以降、日本国籍を離脱させられた彼らの法的地位の安定化を図る為、日本政府が彼らとその子孫に対して「特別永住」資格を付与した。

次に、同法がもたらす法的効果は大きく三つに分けられる。第一に、これらの対象者は特別永住者として本邦に在留することができる。第二に、これらの対象者に対する出入国管理及び難民認定法の特例法を認めることである。第三に、退去強制の限定（「内乱、外患もしくは国交に関する罪、外交上の重大な利益を害する罪またはこれに準ずる重大な罪を犯した者に限定する」）の対象とされる。これと共に、再入国許可の有効期間の延長（「一般の永住資格と異なり入国審査時に顔写真の撮影や指紋採取が必要なく、証明書の携帯も求められないことである」）の対象とされる。

以上のことから、特別永住権は歴史的な経緯や時代的文脈から生まれたと言えるだろう。それにもかかわらず、2000年代以降、在特会をはじめとする「2ちゃんねる」掲示板上で在日特権はヘイトスピーチ言説において重要な共鳴構造を持っている。

---

<sup>18</sup>「第百二十回国会参議院法務委員会会議録八号」平成3年4月25日、201頁、左藤恵法務大臣答弁。

### 2.1.2.2 韓国におけるヘイトスピーチ

韓国におけるヘイトスピーチ現象は先行した国々と同様に、2000 年代以降の政治・社会・経済の諸要因の中から生まれてきたものであると言える。韓国社会における共産主義者や全羅道<sup>チョルラド</sup>地域の人々、障害者、女性などは、長い間偏見や差別の対象となっているが、2000 年代以降、彼らに対するヘイトスピーチ現象は従来とは異なる視点を提示している。しかしながら、2000 年代という断片的な時代状況だけでは、本論文の研究対象である「イルベ」現象の正鵠を得ることができないと考えられる。

以下の本節では、市民団体のなかの市民言論運動について概観し、そのなかで「イルベ」掲示板がどのように位置づけられているのかを考える。韓国の市民運動を理解するに当たって、1987 年以前とそれ以降の時代を分けて考える必要がある。まず、軍事独裁政権下では、市民社会に対する国家統制が極めて厳しかったため、市民社会の影響力は微々たるものであり、かつ新聞・放送・出版・雑誌などのメディアを厳しく取り締まった。そのため、1987 年以前における市民社会の性格は、軍事独裁政権に対抗する勢力と同一視されてきた。

次に、1987 年以降に現れた韓国の市民運動の特徴は大きく 3 つに分けられており、以下にはそれぞれの特徴を詳しく記述していく。一つ目は、1987 年に制度的な民主主義がある程度確立されることにより、既存の民主化運動が解体し、その代わりに、市民運動が活性化し始めた。つまり、韓国の市民社会は、1987 年の民主化運動によって、軍事独裁政権に終止符が打たれることにより、「市民社会の自立的な空間が確保でき、価値を共有している市民たちは団体を結成し、国の権力を監視したり、批判したりするなど、社会改革を促進するための積極的な活動を行った」(Park 2008 : 67)。

二つ目は、1987 年以前までの市民運動が「抵抗的市民運動」の性格を持っているとするならば、1987 年以降に現れた市民運動は、市民たちが自発的に意見を表明し、政策を提案したという点で「主体的市民運動」の性格を持っていると言えるだろう。

三つ目は、1987 年以降、憲法において言論出版の自由及び集会結社の自由が政治の民主化と共に拡散し、市民社会団体及び市民による積極的な政治的討論活動が展開された。韓国の市民メディアもこのような脈絡の中で生まれたのである。以下、韓国の市民メディアについて概観する。

まず、一般市民を株主(= 国民募金方式)として設立された「ハンギョレ新聞」の創刊や KBS(= 韓国放送公社)の受信料支払い拒否運動、選挙監視運動など 1990 年代には多くの市民言論運動団体が登場し始めた。代表的な市民運動組織である「民主言論市民連合(以下、民言連)」は、1984 年 12 月 19 日に解職記者たちを中心に発足した。1986 年 9 月には「民言連」が発行する月刊「マル」誌を通じて、政権の言論統制手段であった「報道指針」を暴露した。またこの団体は、「朝鮮日報」「中央日報」「東亜日報」などに代表される既存の大手メディアに対する新聞放送モニター活動をはじめ、市民言論教育、視聴者運動、選挙報道監視活動など、様々な分野における市民の力による言論監視運動を展開している。その他、1989 年 8 月に発足した「言論改革市民連帯」は、言論法改正に向け運動を展開するなど、受け手運動、オルタナティブ・メディア運動を中心課題としている。

次に、1990 年代後半以降に急速に普及したインターネットによって、市民参加型のインターネット新聞が登場し始めた。代表的なインターネット新聞として、「オーマイ・ニュース」(Ohmy-News)が挙げられる。「オーマイ・ニュース」は、月刊誌「マル」記者を経験した<sup>オヨンホ</sup>呉連鎬氏が中心となって 2002 年 2 月 22 日に設立された。当新聞は、創刊翌年の 2002 年には、韓国国内の有数の時事週刊誌が選定を行う「最も影響力があるメディア」ランキングにおいて 8 位に選定され、翌年 2003 年には 6 位に選定されるなど、市民メディアのなかで最も成功したケースとして位置づけられている。

「オーマイ・ニュース」の特徴的な点としては、以下の 3 点が挙げられる。一つ目に、当インターネット新聞は、専門記者ではない一般の市民が投稿できる、いわゆる「市民みんなが記者」をコンセプトとしている。2014 年時点で、「オーマイ・ニュース」は、「市民記者」約 8 万人と編集部で雇用している「常勤記者」約 70 人で構成されている<sup>19</sup>。市民記者は、該当分野において専門家以上の見識を持っている人々で構成される。例えば、医療の記事を扱っている市民記者の中には現役の医療機関に従事する人もいるため、現場に関する強い情報や知識を持っている。二つ目に、当新聞は記事ごとに「意見欄」を設けており、読者同士で討論できるような場を提供している。三つ目に、「オーマイ・ニュース」の理念的傾向を見てみると、当サイトの会社紹介欄に記されたように、この新聞は「開かれたリベラル」を志向している。特に、第 16 代大統領選挙で盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>大統領の当選には

<sup>19</sup> HUFFPOST 「オーマイ・ニュース、生き残り探る『市民記者こそ我々の価値』」 2014 年 3 月 26 日 ([http://www.huffingtonpost.jp/2014/03/24/ohmynews\\_n\\_5020497.html](http://www.huffingtonpost.jp/2014/03/24/ohmynews_n_5020497.html)、最終閲覧日：2018 年 1 月 16 日)

「オーマイ・ニュース」の影響力が大きかったと言われている。以下では、これについて紹介していきたい。

当時主要各紙は保守系政党のハンナラ党の李会昌<sup>イフエチャン</sup>候補を支持しており、世論調査においても、李候補が圧倒的に優勢の状況であった。その後、盧候補は、ハンナラ党の李会昌<sup>イフエチャン</sup>候補に対抗するため、「国民統合 21」の鄭夢準<sup>チョンモンジュン</sup>代表との候補者一本化を実現した。その結果、盧候補は世論調査で李候補の支持を上回ることとなった。しかしながら鄭<sup>チョン</sup>候補が大統領選挙の投票日前夜の 2002 年 12 月 18 日に、突然盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>候補への支持を撤回することにより、盧候補の支持者は一時パニック状態に陥った。そのような状況下で、「オーマイ・ニュース」は盧候補が鄭<sup>チョン</sup>候補の自宅を訪問した状況などをリアルタイムで配信した。その結果、当日「オーマイ・ニュース」の一日訪問者数は 623 万名、ページ・ビュー数(Page View: ウェブページが閲覧された回数)は 1,910 万<sup>20</sup>に達するほどの爆発的な訪問者数を記録した。加えて、盧候補の支持を表明していた改革国民政党の柳時敏<sup>ユシミン</sup>代表が党の掲示板に投稿した内容が「オーマイ・ニュース」や盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>を支持する市民団体の「ノサモ(= 盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>を愛する人々の会<sup>21</sup>)」に急速に広がることで、盧候補の支持層を安心させた。

このように、第 16 代大統領選挙で盧前大統領の当選には、「オーマイ・ニュース」を手本にしてインターネット・コミュニティやブログなどが大きな起爆剤となった。つまり、

---

<sup>20</sup> SISA ULSAN 新聞、「オーマイ・ニュース：日訪問者 623 万名 1,910 万ページ・ビュー記録更新」2008 年 6 月 2 日(<http://www.sisaulsan.com/news/articleView.html?idxno=2536>、最終閲覧日：2018 年 1 月 16 日)

<sup>21</sup> 「ノサモ」は、インターネット上で盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>大統領を自発的にサポーターする団体(= 政治家ファンクラブ)である。「ノサモ」の場合、当時 30 代の会員が大部分を占めていたが、その中で「3 8 6 世代」<sup>サムパルユク</sup>と呼ばれる世代が主な会員であると知られている。「3 8 6」<sup>サムパルユク</sup>の 3 つの数字には、それぞれ意味が込められている。まず、「3」は 1990 年代当時の 30 代であり、「8」は 1980 年代に大学に過ごし、「6」は 1960 年代に生まれた層を意味する。つまり、1960 年代に生まれ、1980 年大学時代に、1980 年 5 月の光州民主化運動<sup>クァンジュ</sup>、1987 年 6 月の民主化宣言などを経験し、1990 年代に 30 代であった世代が、まさに「3 8 6 世代」である。韓国語では「サム・パル・ユク世代」と呼ぶ。2002 年に第 16 代大統領になった盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>の支持基盤は、3 8 6 世代<sup>サムパルユク</sup>が中心となった。この世代は、リベラル的傾向の強い人々が多く、思想的には反米的で新北朝鮮的な傾向があるという特徴から、この世代の政治理念は、金大中<sup>キムデジュン</sup>・盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>政権が推進してきた基本政策路線とほぼ一致するものだと言える。

これらの市民メディアは既存の保守政党・保守メディアに対抗しながら、オンラインとオフラインの空間を繋げる役割を果たした。これに対して有権者も、反共的で守旧的な政権に代わる革新政党の盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>という斬新な人物を選択した。

ここで一つ興味深いのは、盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>大統領が持っている個人的な経歴や人物像が、インターネット掲示板などで話題になったという点であり、以下ではこれと関連し、述べていく。一つ目に、大学という看板が成功するために重要となる韓国社会において、盧元大統領は商業高卒出身で高卒である。それにもかかわらず、彼は高校卒業レベルの学歴であり、さらに人権弁護士の出身でさえも大統領となれることを示した。そのため、自分の限界の壁を乗り越えて大統領となったという盧大統領の話は、掲示板で大きな話題を巻き起こしたのである。二つ目に、2000 年総選挙において当選が有力視されるソウルの選挙区を捨て保守政党の伝統的な支持基盤である釜山<sup>プサン</sup>地域で国会議員や市長に出馬し続けてきた話も、掲示板で話題となった。三つ目に、盧元大統領は、検察と保守系メディア、財閥といった既得権勢力層に立ち向かうほど、既存体制と既得権益層の打破を最優先の課題として掲げた話も、多くのユーザーに反響を巻き起こした。

以上のことから、これらの市民メディアは、盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>という人物を通じて、わが社会に蔓延してきた「学歴主義」「地域主義」「既得権主義」に対しタブーを破ることで、既成体制に対し挑戦・抵抗したと見受けられる。これもある意味では、社会変化を求める当時の時代的潮流の中で捉えるべきであろう。

二つ目の事例を見てみよう。2004 年 3 月盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>大統領の弾劾訴追案が国会で可決されて、ソウル<sup>クアンアアモン</sup>光化門広場で多くの市民たちが手に蝋燭を持って盧大統領の弾劾に反対する大規模な集会が開催されたことに対し、「オーマイ・ニュース」をはじめ「プレシアン<sup>22</sup>」と「サプライズ<sup>23</sup>」などの市民メディアが大きな求心的な役割を果たした<sup>24</sup>。蝋燭集会は、労

---

<sup>22</sup> 「プレシアン」は、市民記者が中心である「オーマイ・ニュース」と異なり、内部の記者による記事よりも外部の筆陣による記事の割合が高い。外部の筆陣はリベラル的な傾向の学者などが中心となっている。特に政治に関する記事は、深層に迫る解説と分析が概ね深いのが特徴である。

<sup>23</sup> 「サプライズ」は、報道機能が中心であるインターネット新聞と異なり、政治批評と解説などが中心となるサイトである。

<sup>24</sup> 伝統的に保守的なスタンスを保持してきた朝鮮日報・中央日報・東亜日報は、弾劾に反対する市民の意見を縮小・偏向報道したのに対し、リベラル系新聞であるハンギョレ新聞・京郷新聞は、蝋燭集会を詳細に報道する傾向が見られた。2004 年に行われた第 17 代総選挙報道写



働者、農民、宗教家、そして学生など多様な社会階層が参加した汎国民的な運動となった。主催側によると、蠟燭集会に参加した人員は、<sup>クァンアアモン</sup>光化門駅周辺だけでも 20 万人(警察側発表 13 万人推定)と発表されている。そして、今回の蠟燭集会はインターネットという仮想の媒体を通してリアルタイムで集会現場の様態を公開するだけではなく、中継画面の隣に掲示板を設置し、市民同士でお互いに意見や考えを共有できる仕組みになったという点も特徴的である。このような点から見てみると、2002 年米軍装甲車に敷かれて死亡した女子中学生のために開かれた米国に反対する蠟燭集会、2004 年<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉大統領弾劾糾弾蠟燭集会、2008 年米国産牛肉の輸入に反対するいわゆる狂牛病蠟燭集会、2009 年<sup>ムンヒョン</sup>盧前大統領の逝去に対する追慕集会、2016 年<sup>パククネ</sup>朴槿恵政権の退陣及び弾劾を求める蠟燭集会など、2000 年代以降の蠟燭集会は、デモというよりは市民運動の象徴的な一例となってきたと言えるだろう。

そして、この時期のもう一つの特徴は、既存のマスメディアに対して拭いきれない不信感と抵抗感を持っていた市民たちが、インターネット・ポータルサイトやブログ経由で、自分の意見及び声を自発的に出し始めたという点であろう。2008 年の狂牛病蠟燭集会は、「オーマイ・ニュース」や「サプライズ」などインターネット新聞が中心となったこれまでの蠟燭集会とは異なり、インターネット・ポータルサイト「ダウム」(Daum)の「アゴラ」(Agora)討論掲示板が主軸となった。以下、これと関連して述べていく。

「アゴラ」サイトは、「ダウム」が 2004 年 12 月より提供し始めたサイトとして、社会で話題になっているものを誰でも議論できる空間である。2008 年 4 月に「アンダンテ」というハンドル・ネームを使用するユーザーが、(米国産牛肉輸入再開を巡って当時)<sup>イ</sup>李明博<sup>ミョンバク</sup>大統領弾劾署名運動を提案する内容を投稿し、それが結果的に 1 ヶ月という短期間に 130 万名にのぼるユーザーの署名を得た。このような動きはユーザーの署名を得たことにとどまらず、数ヶ月後、大規模の蠟燭集会を導く原動力となった。また、翌年 2009 年の「ミネルバ事件<sup>25</sup>」もインターネット掲示板が社会的な世論一般を主導することがで

---

真を比較・分析した Kim(2005)の研究においても、総選挙日が迫るにつれて、朝鮮日報・東亜日報では、保守政党のハンナラ党や当時朴槿恵候補寄りの報道写真を露骨に掲載していたと報告されている。

<sup>25</sup> 2008 年、インターネット・ポータルサイト「ダウム」の討論掲示板「アゴラ」に「ミネルバ」というハンドル・ネームを持っているユーザーが、米国の有名投資銀行であるリーマン・ブラザーズの破綻を予見し、さらには、サブプライムローンに端を発した金融問題は韓

きる可能性を示唆した。

そしてこの時期に「DC インサイド」などの掲示板においてもユーザーは自分たちの政治意識を表明していた。2004 年の盧武 鉉<sup>ノム ヒョン</sup> 大統領に対する国会弾劾訴追案が可決されてから、「DC インサイド」の「政治・時事ギャラリー板」を中心とし、ユーザーたちは弾劾反対蠟燭集会に参加した。また、「DC インサイド」の「政治・時事ギャラリー板」では弾劾を推進した野党を風刺するため、合成写真を使った政治パロディが掲載された。政治パロディが爆発的に増加するようになった背景には、野党が圧倒的に多数を占めていた国会で、野党自らも複数の大手財閥から不正な資金を集める<sup>26</sup>など、これまで政治汚職の度合いが高かったにもかかわらず、盧武 鉉<sup>ノム ヒョン</sup> 大統領だけを弾劾しようとする野党の理不尽な仕打ちに対する問題意識があったと見受けられる。

これまでの議論をまとめてみよう。第一に、韓国は 1987 年の民主化以降、開発独裁政治体制から民主主義へと体制移行をし、市民メディアもその制度的変化の中で位置づけられていると見受けられる。

第二に、1990 年代インターネットという仮想媒体の登場により、市民たちが自発的にニュースや意見を発信し、これは従来とは異なる新たな政治参加や世論形成の可能性を提示したと言えるだろう。

第三に、インターネット空間の理念は 2008 年の蠟燭集会まで、リベラルの立場に近いものであった(Choi 2012)。Park(2013)によると、「2002 年の盧武 鉉<sup>ノム ヒョン</sup> ブームや 2004 年の弾劾政局、そして 2008 年の狂牛病蠟燭集会の当時、インターネット・チャルバン(= コメント入り画像)は、既成政治権を戯画化すると同時に、リベラルな傾向をもった若いネットユーザーの政治的意見を表現するに当たって有効な媒体であった」(Park, Ga-Bun 2013 : 59)という。つまり、韓国のインターネット・コミュニティは 2000 年代中盤までリベラルの色彩が強かったと言えるだろう。

しかしながら、2008 年の蠟燭集会を契機とし、インターネット空間の理念は亀裂が生

---

国にまで飛び火することも予見した。このような予見が驚くほど正確に当たったため、多くのユーザーの支持を得て、「経済大統領」というニックネームまで付けられていた。しかしながら、「虚偽事実をインターネット上で流布した罪」に問われ、「ミネルバ」というハンドル・ネームを持っているユーザーは警察に拘束された。

<sup>26</sup> 当時国会では、2002 年の大統領選挙に絡む不正政治資金疑惑が提起され、これは与野党の国会議員の 8 人が逮捕される事件にまで至った。

まれ始めた。一例として、2008 年蠟燭集会以降結成したインターネット・コミュニティの「ノノデモ」は蠟燭集会に反対する集会を開催した。また、この団体は米国産牛肉の危険性を報道した MBC の報道番組「PD 手帳」を相手に巨額の損害賠償請求訴訟を提起した。

そして当時の時代状況を見てみると、2008 年 9 月の米国投資銀行であるリーマン・ブラザーズの破綻に端を発した世界的な金融危機は、リベラル政権が掲げた新自由主義体制<sup>27</sup>に対する懐疑を生む契機となった。また、2010 年北朝鮮による「韓国軍艦の天安号爆沈事件」と「延坪島砲撃事件」<sup>ヨンピョンド</sup>に対し、市民団体及びインターネット・コミュニティはリベラル政権の対北朝鮮の融和政策が北朝鮮の挑発行為を引き起こしたと非難した。

インターネット空間の理念的問題について論ずる前に、まず韓国における保守とリベラルの政策的対立軸はどのような観点から構築されてきたか、そのような構築がインターネット空間にいかなる影響を及ぼしてきたかについて説明しておきたい。

韓国社会で保守とリベラルを克明に分ける争点として経済問題や地域問題、対北朝鮮問題が挙げられる。韓国ではヨーロッパ国家<sup>28</sup>で用いられる経済政策の方向性により、保守とリベラルを分ける枠組に加え、対北朝鮮政策の方向性も重要な争点となっている。もう一つの対立軸として、地域主義が挙げられる。ここでの地域主義は、朝鮮半島の南東部に位置する慶尚道地域(=嶺南)<sup>キョンサン ド ヨンナン</sup>と西南部に位置している全羅道地域(=湖南)<sup>チョルラ ド ホナン</sup>の間の対立を

---

<sup>27</sup> 1997 年末のアジア通貨危機発生直後に出帆した金大中<sup>キム デ ジュン</sup> (在任期間：1998-2003 年)政権は、IMF(International Monetary Fund)や世界銀行の指導により広範な新自由主義的経済改革を推進し、国内金融市場の完全化、公営企業の民営化を行った(申 2009)。金大中<sup>キム デ ジュン</sup> 政権の経済政策は、公式的には「民主的市場経済」という経済政策を掲げ、尹(2000)ではこの政策は「新 DJ(=金大中)派の学者を中心に『第三の道』だと主張される路線であるが、そうした考え方の基底には、イギリスのブレア首相やドイツのシュレーダー首相に見られる新中道主義路線 = 『第三の道』路線、つまり多国籍金融資本中心の新自由主義を基本的に受け入れながらも、社会民主主義の観点から新自由主義がもつ問題点を一定程度修正しようとする試みに対する共鳴があった」(尹 2000 : 208) と述べられている。換言すると、金大中<sup>キム デ ジュン</sup> 政権が行った新自由主義政策は、民主的市場経済論に基づいた大々的な構造調整とともに一見して新自由主義改革とは相反するよう見える社会福祉政策である(鄭 2003)。これはある意味、混合型新自由主義路線に近いと言える。

<sup>28</sup> ヨーロッパと北米先進民主国家で、左と右または進歩と保守のようなイデオロギー的立場の分化は、社会分裂の構造理論が説明力を持った時期に、主に経済争点、すなわち生産手段の国有化、市場に対する政府介入、富と所得の再分配、政府の福祉支出拡大等に対する態度に照らし、成立した(朴 2006 : 162)。

指す。このような地域主義は、1987 年民主化以降、各種の選挙において候補者の出身地域や地域を代表する政党に投票するいわゆる「地域主義投票」(regional voting)に繋がっていた<sup>29</sup>(Kim 2012)。つまり、韓国社会の理念的亀裂の支配的な範疇として「経済問題」「対北朝鮮政策と統一問題」「地域主義」があり、ここで「対北朝鮮政策と統一問題」「地域主義」は韓国社会が持っている特殊な要因によるものである。具体的に見てみると、自由・成長優先=保守、分配・福祉優先=リベラルという「経済政策観」、<sup>キョンサンド</sup>慶尚道地域=保守、<sup>チョルラド</sup>全羅道地域=リベラルという極めて明確な「地域政党構造」、対北強硬政策=保守、親北政策=リベラルという「対北政策観」がある。

このような対立軸は市民団体からインターネット・コミュニティにまで影響を及ぼしている。2010 年に発生した「韓国軍艦の<sup>チョナン</sup>天安号爆沈事件」を中心に、市民団体の対立関係が如実に示されたと報告した朴(2011)によると、「韓国の市民社会の領域を肯定的で意味のある変化があるという評価があるにもかかわらず、現在の市民団体は進歩と保守、左と右に分けられ、それぞれが極端な敵対感を表出する激しい集会がよく見られる」(朴 2011 : 238)という。

このように、2000 年代後半の時代的諸要因と韓国社会が持っているイデオロギーの矛盾の中で、2010 年「イルベ」掲示板が登場し注目を集め始めた。「イルベ」掲示板の誕生は、これまで目立たなかった保守傾向のコミュニティが世に出たという含意もあるが、それより、「イルベ」掲示板がこれまでリベラル的なインターネット・コミュニティの流れに逆行しており、反市民的な傾向を帯びている点に注目する必要がある。それゆえ、韓国の市民メディア史の中で「イルベ」掲示板の登場は極めて重要な意味を帯びていると言えるだろう。

---

<sup>29</sup> 大西(2008)は、特定地域を基盤として民主化後再編された韓国の主要政党は、地域の有権者としてその動員に成功していったと指摘している(大西 2008 : 197)。また朴(2006)は、2002 年の第 16 代大統領の選挙においても、第 15 代大統領選挙と同様に<sup>ヨナン</sup>嶺南と<sup>ホナン</sup>湖南の亀裂を核心とする東西地域の理念亀裂は、有権者の候補者選択に影響を与えた(朴 2006 : 139-179)と指摘している。

## 2.2 2ちゃんねるとイルベ掲示板の現状

日韓の両掲示板についての議論を検討していく前に、まずは「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板の現状について述べていく。

### 2.2.1 2ちゃんねる掲示板の利用状況

「2ちゃんねる」とは、日本最大の電子掲示板サイトであり、略して「2ch」「2ちゃん」「にちゃん」などとも表記されており、2017年10月1日に「5ちゃんねる」に改名された。当掲示板は、1999年5月30日に西村博之と名乗るネットユーザーによって開設された。

シミラーウェブ株式会社の報告によると、「2ちゃんねる」掲示板の月間訪問者数は、2016年11月から2017年4月まで8,000万人から1億人程度(PCとモバイルの合計)(グラフ1参照<sup>30</sup>)である。つまり、1日あたりの「2ちゃんねる」掲示板の訪問者数は260～330万人程になっていることが分かる。2017年2月以降月間訪問者数が大幅に減少する傾向が見られたが、投稿数はほとんど変わっていない状況が観察された。

次に、グラフ2<sup>31</sup>を見ると、投稿数は2006年までは増えて、その後は横ばいということが分かる。横ばい期間の終わる2010年から投稿数が激減したが、翌年投稿数にはその前の横ばい期間と同程度まで回復した。そして2013年には一時落ち込むものの、それ以降の投稿数は横ばい期間までは回復傾向が見られなかった。

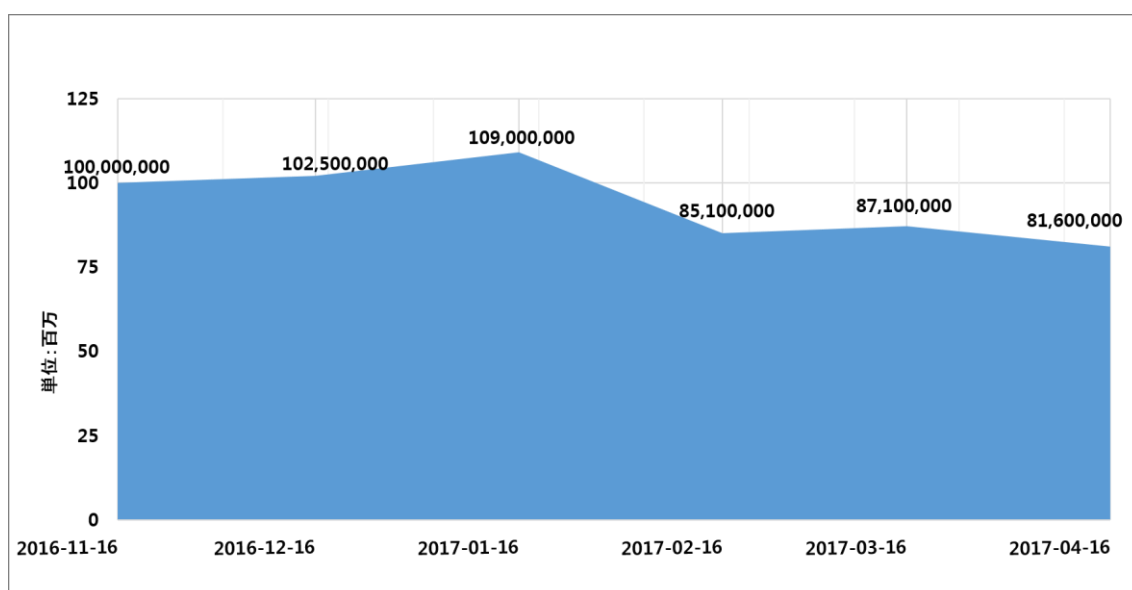
最近「2ちゃんねる」掲示板の利用者数は多少鈍化しているという指摘も出ているが、シミラーウェブ社の2017年5月時点の世界ウェブサイトのアクセス・ランキングで427位、日本ウェブサイトのアクセス・ランキングでは26位を占めており、「2ちゃんねる」掲示板の影響力は未だに無視できないことが読み取れる。

---

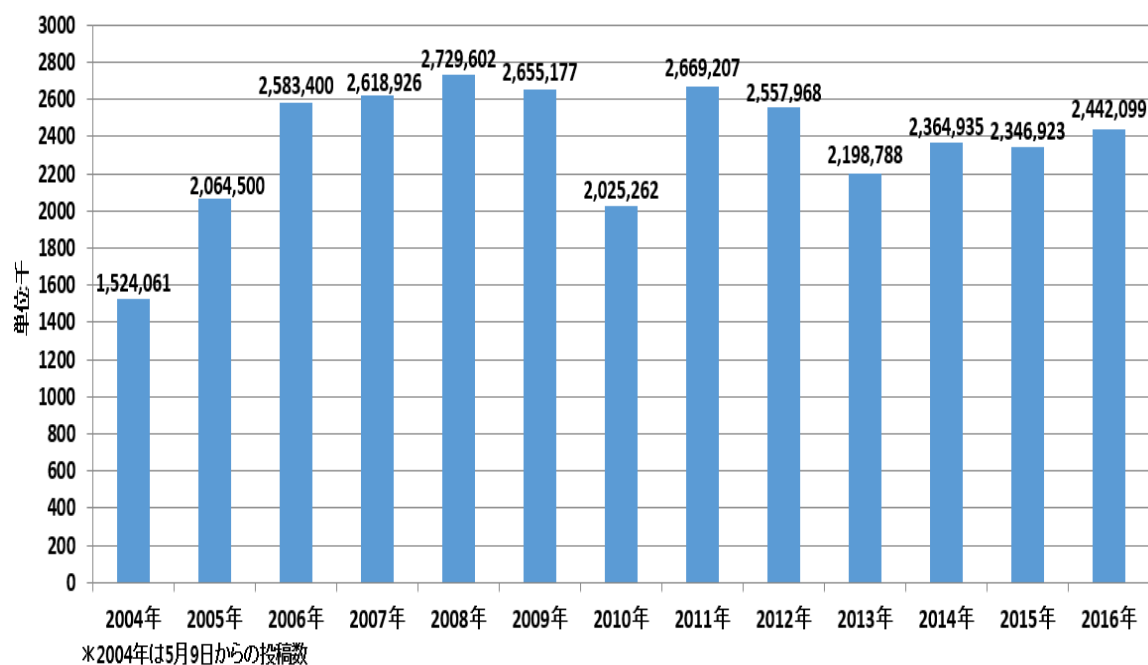
<sup>30</sup> <https://www.similarweb.com/website/2ch.net#overview>(最終閲覧日：2017年5月8日)。

<sup>31</sup> 「2016年の2ちゃんねる(2ch.net)の投稿数」(<http://d.hatena.ne.jp/longlow/20170101/p1>)を参照(最終閲覧日：2016年7月23日)。

グラフ1 2ちゃんねる掲示板の総訪問者数の推移(2016年11月～2017年4月)



グラフ2 2ちゃんねる掲示板の年ごとの平均投稿数の推移(2004～2016年)



### 2.2.1.1 2ちゃんねる掲示板の仕組み

「2ちゃんねる」掲示板の仕組みは極めて複雑な構造を持っている。その複雑な構造の中には「2ちゃんねる」掲示板のユーザーの間でのみ通用する特殊な用語が存在する。例えば、「板」「スレ(=スレッドの略語)」「レス(=レスポンスの略語)」などの用語が挙げられる。以下では、これらの用語を解説するとともに、「2ちゃんねる」掲示板の基本的な仕組みについて述べていく。

「2ちゃんねる」掲示板は五十数個の複雑な「カテゴリ<sup>32</sup>」に分類されている。各々の「カテゴリ」は数個から数十個の下位カテゴリの「板」を含んでいる。「2ちゃんねる」掲示板の左側に青色で示されたリンクがあり、これが「板」である。例えば、「東アジア news+板」「ハングル板」「テレビサロン」「アニメ漫画速報」など 1,054 個の「板」が存在する(2017年9月16日現在)。

そして各板には「スレッド」、つまり、ある一つ的话题を語るための小さい掲示板が存在する。例えば、「東アジア news+板」にある「ムン大統領、安倍首相に韓日電力網の統合を提案」という項目があり、2ちゃんねるユーザーはこのような小さい項目を「スレッド」と呼んでいる。実際に閲覧したり、コメントを付けられたりするはこのスレッド内になる。スレッドは誰でも作成する(「スレッドを立てる」「スレ立て」とも呼ばれている)ことができるが、「東アジア news+板」のように「2ちゃんねる」掲示板の中で「+板(=ぷらすいた)」で表示されている掲示板の場合には、キャップを持つ記者のみがスレッドが作成できる。「2ちゃんねる」掲示板におけるスレッドの閲覧は、最新の書き込み時間が現在に近いスレッド順に整列する仕組みになっている。

また、「2ちゃんねる」掲示板上でスレッド中の書き込みのことを「レスポンス」と言う。「2ちゃんねる」掲示板では一つのスレッドに投稿できるレスポンス数が最大で 1,000

---

<sup>32</sup> 2017年9月16日現在、「地震」「おすすめ」「特別企画」「be」「ニュース」「世界情勢」「案内」「運営」「馴れ合い」「AA」「社会」「会社・職業」「裏社会」「地域」「文化」「食文化」「生活」「学問・理系」「学問・文系」「家電製品」「政治経済」「ネタ雑談」「カテゴリ雑談」「実況 ch」「受験・学校」「趣味」「スポーツ一般」「球技」「格闘技」「旅行・外出」「テレビ等」「芸能」「アイドル」「ギャンブル」「ゲーム」「携帯型ゲーム」「ネットゲーム」「音楽」「心と身体」「ネット関係」「雑談系 2」「大使館」「荒野」「隔離」「運営案内」「BBSPINK」「漫画・小説等」「PC等」など 48 個のカテゴリがある。

件または、一つのスレッドのデータ容量の上限は 500KB とされている。レスポンス数が 1,000 件に達したり、データ容量が 500KB を超過したり、一定時間レスポンスが無かったり、板にふさわしい話題でなかったりしたスレッドは、最終レスポンス時間の古いスレッドから順に過去ログ倉庫という場所に格納される。

「2 ちゃんねる」掲示板では名前欄に空白にして書き込むと投稿者が「名無しさん」と表示される。つまり、無記名のまま投稿されたレスポンスの場合、「匿名のユーザー」と言えるだろう。特定のレスポンスに対する返答をする際には、どのレスポンスに対する返答なのかを明示するために、半角の「>」を 2 回の後に半角で数字を入力するのがルールになっている。また「引用符+レスポンス番」を記入すると、青くリンク表示になる。例えば、書き込み中に「>>123」と青いリンクで表示となっている場合、それは「レスポンス番 123 の書き込みに対するレスポンス」を意味する。

### 2.2.1.2 先行研究のレビュー

「2 ちゃんねる」掲示板については、多くの研究が行われてきた。「2 ちゃんねる」掲示板についての従来の研究動向は、大きく分けると以下の 2 点にまとめられる。

第一に、これまでの研究は「2 ちゃんねる」掲示板に書き込まれる情報や利用者層に焦点を当てて行われてきた。それらの研究においては「2 ちゃんねる」掲示板に書き込まれる内容を「便所の落書き」(鈴木 2003)、または人間の「負の感情のるつぼ」(荷宮 2005)といったように評価する傾向が示されている。

加えて、多くの研究においては、2 ちゃんねるユーザーをはじめネット右翼層を「負け組」「負けかけ組」またはそのような意識を持った人々(近藤・谷崎・桜井 2007)と報告されている。近藤他(2007)は、小泉と竹中路線の構造改革は「負け組」「負けかけ組」を大量発生させ、彼らの大半がネット右翼を形成している(近藤・谷崎・桜井 2007: 172)と指摘している。村上(2014)も「世間で息苦しいと思っていた多くの人たち」(村上 2014: 52)が「2 ちゃんねる」掲示板に書き込みを行っている」と述べている。しかしながら、それらの研究は「格差社会」に伴う「不安」が弱者の排斥に向かうという従来の学説の域を出さないものであり、さらに、2 ちゃんねるユーザーを社会的底辺層であると概ね一貫して報告していることにも不適切な部分があると考えられる。



第二に、「2ちゃんねる」掲示板で生起する集合行為に焦点を当てた研究が多く行われてきた。換言すると、「2ちゃんねる」掲示板上で発生する「祭り<sup>33</sup>」と呼ばれる集合的現象に着目して研究が進められてきた。松村他(2004)は、「2ちゃんねる参加者は定型的固有表現<sup>34</sup>と名無しをうまく使い分けることで、2ちゃんねるというコミュニティを維持し、多様なコミュニケーションを楽しんでいることが明らかになった」(松村・三浦・柴内・大沢・石塚 2004: 1059)と報告している。つまり、定型的固有表現という「2ちゃんねる」独自の文化は一見すると意味のない言葉や記号にしか見えないかもしれないが、これを共有している2ちゃんねるユーザーにとっては、内集団の関係性を生産・再生産することになるのである。

次に北田(2005)は、「繋がり社会性」(=他者の行為との接続可能性の重視)という概念に注目し、「2ちゃんねる」掲示板で生起する集合行為を説明している。「2ちゃんねる」とは、内容を付随化する形式主義、『繋がり』を求める同時代リアルな象徴=徴候」(北田 2005: 208)であり、このような「繋がり」が2ちゃんねるユーザーの集合行為に深く関係しているということである。平井(2007)は、北田(2005)の「繋がり社会性」に加え、「社会的に共有されている日常生活の常識やマスメディアの言説といった支配的なコードに対する一種の批判的な意味<sup>35</sup>」(平井 2007: 170)も「2ちゃんねる」掲示板で生起する集合行為と関係があると指摘している。

上述した松村他(2004)や北田(2005)の研究は、コンピュータを媒介とした非対面型コミュニケーション(Computer-Mediated Communication: CMC)の特性やユーザーの間の関係性に主眼を置き、「祭り」と呼ばれる集合現象を解き明かした研究である。しかしながら、これらの研究は、幾つかの点においては再考すべき問題がある。

第一に指摘すべきは、各々の「祭り」と呼ばれる集合現象を発生させることができる多様な状況的要因を看過していることである。北田(2005)の研究では「2ちゃんねる」掲示

---

<sup>33</sup> 「祭り」とは、ネットの内外で起きているリアルタイムの出来事などと連動してアクセスや書き込みが集中する事態を指す(鈴木 2002: 30)。

<sup>34</sup> 定型的固有表現とは、2ちゃんねる語やアスキーアート(=文字や記号だけで描いたもの)のことを言う。

<sup>35</sup> 北田も「内輪での接続志向」と「メディアへのアイロニカルな視線」が結合することで、マスメディアを標的にした「祭り」が過剰なまでの盛り上がりを見せた(北田 2005: 204)と指摘している。

板で行われるコミュニケーションの特徴をメディア論の視座・観点から解明したため、メディアの外にある多様な領域における問題は十分に取り扱っていないという限界がある。一つの例を挙げよう。慰安婦問題をめぐる 2015 年 12 月 28 日の日韓合意に対し、「2 ちゃんねる」掲示板上で「祭り」現象が発生した。このような集合現象を解明するためには、多様な状況的要因を視野に入れる必要があるのである。

第二に指摘すべきは、北田の研究がマスメディア的アプローチをしたとしても、その内容や効果はマスコミュニケーション理論に基づいたものではない。例えば、「2 ちゃんねる」掲示板の中で「+板 (= ぶらすいた)」で表示されている掲示板の場合、キャップを持つ人々のみがスレッドが立てられ、彼らはマスメディアと同様の受け手に何らかの影響をもたらし、さらに、彼らはマスメディアのアジェンダ設定者と同様な役割を果たすのかといった発想に依拠した実証研究は、今まで行われてこなかった。そこで、「2 ちゃんねる」掲示板上的スレッドを一つのメディア・コンテンツとして捉え、その内容や効果をマスコミュニケーション理論に基づいてアプローチしようという試みが不可欠である。

## 2.2.2 イルベ掲示板の利用状況

「日刊ベスト貯蔵所」は韓国の電子掲示板サイトであり、略称は「イルベ」などとも表記される。「イルベ」掲示板は「DC インサイド<sup>36</sup>」と言う巨大掲示板の人気記事や書き込みを集めて掲載するサイトから出発した。「DC インサイド」での人気記事や画像は社会常識に照らして問題のあるものが多く、運営陣が削除した過激な書き込みや掲示物を選別して保存する空間が作られた。このような空間が現在の「イルベ」掲示板となった。つまり、「イルベ」掲示板は「DC インサイド」のまとめサイトから出発したが、現在はそれとは独立した別の新しいコンテンツとなってきた。

2010 年に開設された「イルベ」掲示板が世間の大きな注目を集めるようになったのは、2012 年の大統領選挙戦キャンペーン期間あたりからである。「イルベ」掲示板のユーザーたちは保守政党であるセヌリ党の候補の朴槿恵<sup>パク・クネ</sup>を支持し、野党の民主党の候補である文<sup>ムン</sup>

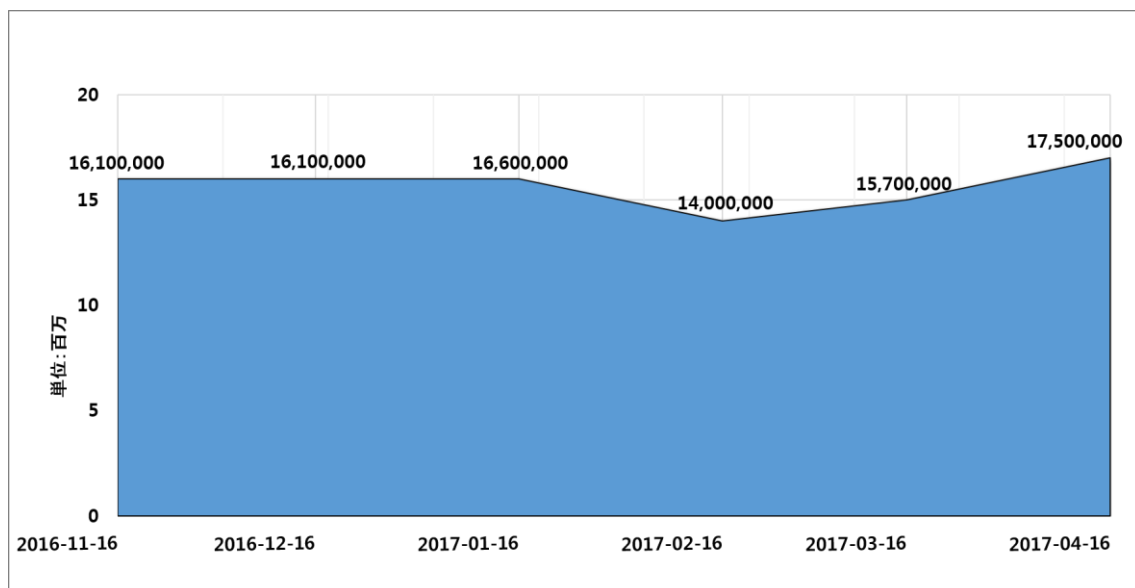
---

<sup>36</sup> DC インサイドは現在は保守的な傾向に分類されているが、元々はリベラル的傾向のコミュニティであった。

在寅<sup>ジェイン</sup>を激しい言葉で批判、あるいは誹謗中傷した。当時、文候補<sup>ムン</sup>は SNS 上で熱狂的な支持を得ており、その上、庶民派というイメージを強く打ち出していた。普段着を着て椅子に座って演説文を検討している文候補<sup>ムン</sup>の姿が盛り込まれた TV 広告がインターネットや SNS 上で人々に膾炙し始めた。放送直後、「イルベ」掲示板では文候補<sup>ムン</sup>の座っていた椅子が 700 万ウォンを超える米国産製のイームズ・ラウンジ(Eames Lounge)椅子という疑惑が提起されてきた。これと共に、文候補<sup>ムン</sup>が普段かけている眼鏡や遊説の際に着たペディング・ジャンパーも名品だという話も「イルベ」掲示板を通じて急速に広がっていた。

次に、「イルベ」掲示板の利用状況を見てみよう。シミラーウェブ社によると、「イルベ」掲示板の月間訪問者数は 2016 年 11 月から 2017 年 1 月まで 3 ヶ月連続で横ばい状態が続く傾向が見られている(グラフ 3 参照<sup>37)</sup>。

グラフ 3 イルベ掲示板の総訪問者数の推移(2016 年 11 月～2017 年 4 月)



グラフ 3 をみると、翌月(1,440 万)には一時落ち込んだが、3 月から回復に転じ、4 月(1,750 万)に入ってから回復色が強まり、横ばい期間の水準を上回っていることが分か

<sup>37</sup> <https://www.similarweb.com/website/ilbe.com>(最終閲覧日：2017 年 5 月 8 日)。

る。要するに、11月から翌年4月までの6ヶ月間の月間訪問者数は1600~1700万の間にあることが確認できた。これを一日あたりに換算すると、一日の訪問者数は約50万名程度となるということが分かる。このような数値は、「イルベ」掲示板が決して衰退しているわけではないということを示している。また「イルベ」掲示板は、シミラーウェブ社の2017年5月時点の世界ウェブサイトのアクセス・ランキングにおいて、1,439位、韓国ウェブサイトのアクセス・ランキングにおいては24位を占めていた。

### 2.2.2.1 先行研究のレビュー

「イルベ」掲示板についての研究は、「2ちゃんねる」掲示板に比べ、萌芽期の段階にとどまっている。まず、Cho(2014)はイルベ掲示板の「政治日刊ベスト板」で利用頻度が多い上位20人のヘビーユーザーの主要活動時期と掲示物が最も多く作成された時点、ユーザーからお勧め数を受けた時期をそれぞれ抽出した。そしてそれをもとに、「政治日刊ベスト板」でユーザーから最も盛り上がった争点及び物語を抽出し分析を行った。Choは、結論としてイルベユーザーは保守政権と軌を一にしており、これは極右的色彩をまとったファシズム的傾向と類似すると述べている。

しかしながら、Choの論文で得られた知見は幾つかの点について、再考する余地があるだろう。一つ目に、「イルベ」掲示板と「ファシズム」をあたかも双子のように同一視する見解は、「イルベ」現象を多少過大評価する傾向があると考えられる。二つ目に、Choは分析結果について「イルベユーザーは朴<sup>パク</sup>槿<sup>ク</sup>恵<sup>ネ</sup>大統領の風刺を目にするだけでも怒りを露わにするほど、当時の主権権力である朴<sup>パク</sup>槿<sup>ク</sup>恵<sup>ネ</sup>大統領と一体化しようとする傾向が見られた」(Cho 2014: 57)と指摘している。しかしながら、朴<sup>パク</sup>大<sup>ク</sup>統<sup>ネ</sup>領が福祉政策を拡大するなど伝統的な保守路線というよりリベラルに近い政策を実施すると同時に、外交面においても新中政策を実施することによって、朴<sup>パク</sup>大<sup>ク</sup>統<sup>ネ</sup>領に対しての不満が掲示板に書き込まれているという事実は看過している。三つ目に、Choは「イルベ掲示板はリベラル的な色彩を持っているDCインサイドから出発し、これに対する反作用として反リベラル的な傾向を持つようになった」(Cho 2014: 64)と指摘しており、このような図式は「イルベ」掲示板をきわめて一方向かつ単線的で捉えるものであると言えるだろう。

次に、Park, Young-Kyun(2013)の研究を見てみよう。Parkは「イルベ」掲示板で『暴力』

を中心に再現される『政治的美学』は『ファシズムの美学』でもある」(Park, Young-Kyun 2013 : 82)と述べるなど、「イルベ」掲示板はファシズムと類似した特性を有していると指摘している。しかしながら、Park の研究も幾つかの点については、議論する余地があると思われる。一つ目に、Lee, Taek-Gwang(2014)が指摘したとおり、ファシズムは新自由主義の権威主義と区分する必要があるという点で、Park(2013)の見解は再考する余地があるのである。

二つ目に、「イルベ」掲示板で全体主義的な文化が生まれた背景は『盧武鉉<sup>ノム ヒョン</sup> 政権の失敗』に対する反動」(Park, Young-Kyun 2013 : 76)によるものであり、さらに「盧武鉉<sup>ノム ヒョン</sup> 支持者を中心に展開されてきた『政治の娯楽化』と『感性の政治』は『反知性主義の文化』の連続」(Park, Young-Kyun 2013 : 76)であったと評価している。つまり、Park は盧武鉉<sup>ノム ヒョン</sup> 政権の負の側面が「イルベ」掲示板を生み出した元凶だと捉えているが、これは思想の偏った見解であり、その一方でイルベ現象を発生させる多様な側面と可能性を度外視したとも言えるだろう。

三つ目に、「イルベ」を利用する主たる層に関するものである。Park, Young-Kyun(2013)と Kang(2013)は「イルベ」を利用する主たる層は「88 万円世代<sup>38</sup>」であり、金大中<sup>キム デジュン</sup>・盧武鉉<sup>ノム ヒョン</sup> 政権(1998-2008 年)時期に青年期を過ごした教育改革<sup>39</sup>の犠牲者たちであるという。IMF 金融危機(= アジア通貨危機)と共に「過剰人口」や「過剰なもの」が量産されることにより、若者たちは、自分たちが「余剰なもの<sup>40</sup>」となっている現実と直面することになった。これは結局、極右主義とファシズムといった過激思想に染まっていく一つの要因になっていたと Park, Young-Kyun(2013)は説明している。Park, Kwon-Il(2013・2014)もこれと類似

---

<sup>38</sup> 非正規労働者の平均賃金は 119 万ウォン(≒9 万円)であり、全体賃金の中でも 20 代が平均的に受け取る金額を鑑みると、88 万ウォン(= 税金を差し引いた金額)となる。つまり、20 代非正規職の手取りが平均 88 万ウォンとなるのである。そこで、禹・朴(2009)は、大学を卒業した後も正規職ではなく非正規職として働く 20 代を「88 万ウォン世代」と称している。また、「88 万ウォン世代」は「IMF 経済危機以前の韓国が持っていた生活方式や経済的ルールを直接経験していない状態で IMF 経済危機にぶつかり、その数年間の激変期を経てようやく社会生活を始めるようになった最初の世代」(禹・朴 2009 : 84)という点で、禹・朴(2009)は「IMF 第 1 世代」とも称している。

<sup>39</sup> この時期は新自由時代に対応して教育政策が改編された。その要旨は教育労働の柔軟化と 7 次教育課程となっている。

<sup>40</sup> Park, Young-Kyun(2013)は彼らを社会から排除された「余剰(= サープラス)人間」と説明している。

した見解を示している。Park, Kwon-Il (2013・2014)は、自分たちより資格(membership)と能力(merit)がないにもかかわらず、分け前をより多く受け取っている対象に向けた攻撃は、能力主義(meritocracy)イデオロギーを媒介として働いていると説明する。つまり、彼らの議論に共通する点は、新自由主義が採用した勝者総取り方式(winner take all)によって社会の周縁に追いやられた個人が「イルベ」を利用する主たる層であるという点である。

しかしながら、このような議論は、「ネット右翼層=格差社会の敗者=若年層」といったやや古い学説に偏る傾向にあるのである。Kim(2013)は、イルベユーザーを少数の特殊な集団に追い立てるのは、イルベユーザーと同様に差別を行っていることになるため、このような皮相的な批判は本質的に無意味なものと指摘する。Han(2013)も、これまで「我々がイルベ掲示板に腹を立て、ヒステリーを起こしているのは、イルベそのものがリベラル談論の自己催眠を妨害する」(Han 2013 : 30)やかましい存在となっているためであると指摘する。これは結局、リベラル勢力が自己批判や反省を出発点としなければならないという見解と噛み合っているのである。このように、イルベユーザーを格差社会の敗者であるとする立場が多いが、最近の研究においてはヘイトスピーチを行う主体が社会的底辺層ではなく、中間層であることが明らかになった(古谷 2013 ; Kim 2014 ; 樋口直人 2014 ; 香山 2015)。

## 2.3 ネット右翼

「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板のユーザーは、インターネット上で右派・保守的な言説を繰り返している人々、いわゆる「ネット右翼」である。今節では、日本の主要な新聞では「ネット右翼<sup>41</sup>」という用語がどのような意味で使われてきたかを整理していく。

まず、2.3.1 節では日本の主要な新聞に表れてきた「ネット右翼」言説について検討する。次に、2.3.2 節では世間では「ネット右翼」と呼ばれている人々をどのように評価しているのかについても述べていく。

---

<sup>41</sup> 韓国における「ネット右翼」という言葉は、主にインターネット上で活動している日本の右翼団体のことをいう。

### 2.3.1 ネット右翼の定義

「ネット右翼」という言葉がマスメディアに初めて登場したのは、産経新聞記事からである。2005年5月8日の産経新聞では、「ネット右翼」を以下のように書いている。

「ネット右翼」という言葉がある。インターネットの掲示板やブログなどで、左翼的・反日的な発言をする者がいると、猛然と批判のコメントの嵐が降り注ぐ。こうした状況に閉口する左翼系の人たちが、「組織化されたネット右翼が集団で妨害行動を行っている」と抗議するようになったのが、この言葉の始まりである。

（『ネット右翼』は新保守世論 産経新聞のコラム「断」2005年5月8日）

上述した記事内容から「ネット右翼」とは、1)インターネット上で右翼的な言動を展開している人々であり、2)自分自身の思想や意見に反するような考え方をする人や団体に対し、攻撃的批判にあたる投稿を掲載する人々を指すということが読み取れる。

次に朝日新聞においては、ネット右翼的な志向性を持つ人たちの攻撃的な発言について以下のように述べている。

東京弁護士会に所属する小倉秀夫さん(37)のブログに寄せられるコメントの数は多い時でも日に20前後だった。それが昨年2月初め、10倍近くに急増した。普段はIT関連について考えを掲載している。そこに他人のブログに攻撃コメントをしつこく投稿する行為をいさめる意見を載せた。その直後のことだった。コメントの大半は批判だ。差出人の名前の欄は「Unknown」。匿名だった。「あなたは勘違いしている」「なぜ非を認めないのか」… 回答しないと「このまま逃げたらあなたの信頼性はゼロになりますよ」。反論すれば、再反論が殺到した。議論の場から離れることを一時も許さない「ネット右翼」だ。数年前からネット上で使われ出した言葉だ。自分と相いれない考えに、投稿や書き込みを繰り返す人々を指す。右翼的な考えに基づく意見がほとんどなので、そう呼ばれるようになった。

（「萎縮の構図：炎上」朝日新聞 2006年5月5日）

上述した記事内容から、「ネット右翼」という言葉は、「攻撃コメントをしつこく投稿」し、「自分と相いれない考えに、投稿や書き込みを繰り返す人々」と定義されているため、朝日新聞の記事見出しの「炎上」と同じ意味として使っていることが分かる。

「炎上」または「フレーミング(Flaming)」現象は、ブログやインターネット掲示板上で特定の対象に非難や批判、誹謗中傷などのコメントが殺到することをいう。インターネット上では同じ意見を持っているユーザーが結びつきやすいという特徴から、集団分極化(group polarization)の現象が生じやすい。言い換えれば、同じ信念の人同士で群がると元々持っていた信念は強化され、より極端な方向へ向かってしまうのである。当時「ネット右翼」と呼ばれる人々のうち、「炎上」を煽るような内容を投稿するユーザーの数が多かったため、朝日新聞では「ネット右翼」という言葉を「炎上」と同じ意味で用いたのではないだろうかと考えられる。

2006年5月19日付の朝日新聞では、「ネット右翼」という言葉を以下の通り定義している。

「若者の右傾化」を象徴する存在として近年、「ネット右翼」が注目されている。ネット上で、中国・韓国をけなしたり「左翼メディア」をちゃかしたりする人々だ。彼らは、北朝鮮や韓国、中国が日本の戦争責任を指摘するたびに猛反発し、朝日新聞などの「弱腰」で「進歩的な言説」を馬鹿にし合う。確かに彼らは、愛国心に燃える右翼集団に見えなくもない。だが本質は、右翼というよりは「左翼嫌い」だ。より正確に言えば、「マスコミに流通する言葉が優等生的な言説ばかりであることにいらだっている」集団である。

(「ピーク過ぎたネット右翼」朝日新聞 2006年5月19日)

朝日新聞における「ネット右翼」とは、1)インターネット上で韓国や中国、北朝鮮を対象とした排外主義的言説を煽り立て、2)戦争責任や歴史認識の問題をめぐる論争の主要な論点として取り上げており、3)左翼メディアに対して強い不満を抱いている人々を総称する。

これまでの内容をまとめると、2005年5月8日の産経新聞で「ネット右翼」という言葉が登場して以降、朝日新聞をはじめとする様々な新聞でこれを記事として掲載していた。つまり、この時期に「ネット右翼」という存在が世間の関心を集めるようになり、新聞上



でこれが記事として扱われていたことが分かる。これらの新聞上における「ネット右翼」の特性をまとめると、1)インターネット上で右翼的・保守的な発言をしている者であり、2)標的となっている対象は左翼、左翼マスメディア、韓国人と中国人であり、3)ネット上で攻撃的な態度を取っている。そこで、本論文においてもこのような3点の特性に注目しながら、「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板の特性を把握した。

### 2.3.2 ネット右翼に対するイメージ

2009年8月「ニュー速VIPブログ(・ω・´)」に「ネトウヨの実態」という題のイラストが載せられた。麻生太郎政権時代(2008年9月～2009年9月)に「2ちゃんねる」掲示板に公開された作者不詳の風刺作品であり、図1と2の左側の下端に表記されているように、作者が無断転載と掲載を許可しているため、本論文にも掲載する。以下の本節では、このイラストにもとに「ネット右翼」の特徴を3つの観点から整理していく。

第一に、ネット右翼は、経済的・社会的に恵まれてない人々(=社会の底辺層)である。〈図1〉を見ると「ネトウヨ(♀、32歳、高卒、無職、ニート<sup>42)</sup>、独身(女性と付き合った経験なし)、趣味(2ちゃんねる、ニコ動、匿名で暴れること全般)、性格(根暗、気弱、対人恐怖、女性恐怖症)」と詳しい注解が施されている。このような特性は、漫画家の小林が述べたネット右翼のイメージ(年収200万円以下の下層、30～40代、結婚も出来ない)ともほとんど合致している。つまり、「ネット右翼=社会的底辺層」という図式が推定的に成立していることが分かる。その一方で、民主党支持者は「イケメン、リベラル、ハト派、大卒、結婚し子育て中、正社員、女性擁護、情報強者、明るい性格」などと描写され(〈図2〉参照)、ネット右翼のイメージと対照的であることが分かる。

---

<sup>42</sup> 「ニート」(Not in Education、Employment or Training、NEET)とは就業・就学・職業訓練のいずれにも参加していない者を指す。



図1 ネットウヨの実態1



図2 ネットウヨの実態2

第二に、ネット右翼は、自民党の熱烈な支持者であると同時に、在日韓国人への反感を示している層である。〈図1〉を見ると「麻生閣下の悪口は許さん」「麻生閣下を悪く言う奴は売国奴だ」「ミンスになったら中国に主権を売り渡されるぞ」「在日に乗っ取られるぞ」と書かれている。〈図1〉から、ネット右翼は、民主党や在日韓国人を敵視している反面、自民党の麻生氏を神様のように崇めていることが読み取れる。

第三に、ネット右翼は、既存のマスメディアへの強烈な不信感が滲み出ている。〈図1〉

を見ると、「マスゴミの情報は捏造」「2ちゃんねるとニコニコ動画が真実」「ミンスを支持してる奴はマスゴミに洗脳されてる情報弱者だ」と書かれている。マスメディア、メディア、マスコミを揶揄する言葉の「マスゴミ」と書くほど、既存のメディアへの信頼度が低迷していることが分かる。

また、〈図1と2〉の「麻生」と書かれた日の丸の鉢巻をしている男性のTシャツの中には「NHK解体」「ネットは真実」と書かれている。ネット右翼にとってはNHKへの信頼度は顕著に低い反面、2ちゃんねるとニコニコ動画の情報への信頼度は顕著に高いことが読み取れる。これは、「ネット右翼層は2ちゃんねる掲示板の利用頻度が高い反面、マスコミの情報は偏っていて信用できない」と報告した辻(2008)の結果とも一致するものであると言えるだろう。

最近の研究においては、マスメディアの報道によって在特会及びネット右翼に関するイメージが形成されると報告されている。平井(2007)は、マスメディアが「2ちゃんねる」掲示板を「犯罪の温床」及び「社会問題の発生源」のように報道したため、この掲示板はまるで「無法地帯」のように社会的に認識されてきたと指摘している。

次に、マスメディアは2013年に在特会による嫌韓デモも、以下のように伝えた。

2013年、在特会と呼ばれるグループによる在日朝鮮人・韓国人の人々に向けての差別的表現が、日本国内におけるヘイトスピーチとしてマスメディアによって報道された。マスメディアは、この問題を、新自由主義社会の中で脱落していった『下層』によるナショナリスティックなアイデンティティの噴出と捉え、差別を行う主体を日本社会の中で取りこぼされ周縁化された『マイノリティ』として位置つけた。

(新嶋 2015: 2)

前述した内容から、マスメディアは在日韓国人や韓国人に向けての差別的発言を行っている在特会会員を「社会の底辺に転落して周縁化された人々」と位置づけていることが読み取れる。

マスメディアを通じて伝えられるネット右翼のイメージは、韓国の場合においても大きく異ならない。まず、韓国のインターネット新聞のチャム・セサンでは「誰が、なぜ、イルベに接続するのか？」という題の記事を掲載した。

チャム・セサン新聞は「イルベ」掲示板のユーザーを、以下のように述べている。

イルベの主な利用者といえる 10～20 代は、1997 年の IMF 救済金融以後、競争という社会的イデオロギーを成長の過程で全身で内面化した新自由主義世代と見られる。基本的な政治制度は一定部分安定したものの、社会・経済的には生き残るために自分のすべてを賭けなければならない教育と、社会システムを受け入れなければならない世代と見られる。しかし多くは競争から押し出されるほかない絶望的な人生を強要される。

（「誰が、なぜ、イルベに接続するのか？」 ソ・チャンホ 2013 年 6 月 17 日<sup>43)</sup>

この新聞は、格差社会の中、絶望とともに生きる若者たちこそが「イルベ」掲示板の主体であると評している。

次に、2014 年 9 月 23 日付の京郷新聞<sup>キョンヒョン</sup>では「陳重權<sup>チンジュングォン</sup>『イルベ、無政府主義的遊び、極右攻撃性に変質』<sup>44)</sup>」と題された記事を載せていた。インターネット企業協会が主催した「グッド・インターネット・クラブ」セミナーにて東洋大学の陳重權<sup>ドンヤン チンジュングォン</sup>教授が発表し、この新聞はその発表内容を記事として取り上げていた。記事には、陳教授<sup>チン</sup>が、イルベユーザーを「社会的ルーザー」と規定し、加えて現在社会問題となっている「イルベ現象」を「社会的に排除された人々が集まって（集団内の異質な者を）排除する遊び」と指摘した内容が盛り込まれている。このことから、マスメディアを通じて伝えられる「イルベ」掲示板のユーザーは一貫してネガティブに描かれていることが読み取れる。

既存のマスメディアの報道以外には、「共に民主党」の表蒼園議員<sup>ビョチャンウォン</sup>が自らのブログ上で「社会悪になった『イルベ』、彼らは誰か？ どのようにするべきか？」と題したエントリーを公開し、イルベユーザーに対して次のように評論している。本論文ではその内容の一部を抜粋して紹介したい。

1. イルベ掲示板のユーザーは自らを名乗れない卑怯者で、ほとんどが男性として女性に対する劣等感を持ち、近寄ることができない無力感を女性卑下と攻撃で代替している。彼らは強くて能力のある男になりたいが、競争で脱落し、認められ

<sup>43)</sup> <http://www.newscham.net/news/view.php?board=news&nid=70704>(最終閲覧日：2016 年 5 月 8 日)

<sup>44)</sup> [http://news.khan.co.kr/kh\\_news/khan\\_art\\_view.html?artid=201409231538061&code=940100](http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?artid=201409231538061&code=940100)(最終閲覧日：2016 年 5 月 8 日)

ない現実挫折し、鬱憤を弱者で晴らしている。

5. 彼らは現実社会で静かな店員、自営業、配達員、学生あるいは無職である。
6. サイバー空間上では強くて攻撃的な他の人格へと転移する。
8. 表向きには進歩や民主化勢力に対する批判や反対を標榜しているが、心の中には彼らが受けている支持と羨望に、極端な嫉妬心を持っている。
9. ほとんどのユーザーが成長過程で愛情不足や親の暴力や虐待を受けた経験がある。
10. 校内暴力の加害者及び被害者が多数を占めている。
11. 彼らが共有している逸脱の根本的な動機は「怒り」と「認められたい欲求」「所属感および 親しみに対する強い渴望」である。このような「逸脱的サブカルチャー」に追従し盲信する背景には、主流社会から排除された不満がある。

（「社会悪になった『イルベ』、彼らは誰か？どのようにするべきか？」

表蒼園<sup>ビョチンウォン</sup>のブログ<sup>45</sup> 2013年5月27日、筆者による日本語訳）

上述した内容から、「共に民主党」の表議員<sup>ビョ</sup>は「イルベ」掲示板のユーザーを社会の片隅に追いやり周縁化された人々として位置づけたことが読み取れる。このような視座は、前述した日本のネット右翼イメージとほとんど一致している。

以上のことから、日韓両国いずれも「ネット右翼」という概念には全般的に否定的なイメージが浸透していることが分かった。つまり、日韓両国において共通して「ネット右翼=社会的底辺=若者」という定型化したイメージが構築されており、このようなイメージはマスメディアによって形成されることが多いということが示唆された。

## 2.4 ヘイトスピーチが生じる要因に関する3つの仮説

ヘイトスピーチが生み出される背景について、多くの先行研究が行われている。これらの研究は、「経済不安要因説」「歴史的な観点からの問題提起説」「混合型ヘイトスピーチ説」など様々な要因を取り上げ、ヘイトスピーチ現象への影響を検証し、一定の成果を挙

<sup>45</sup> <http://linkis.com/blog.daum.net/drpyo/gxK9>(最終閲覧日：2015年10月8日)

げてきた。本節では、これらの研究の成果を概観し、本論文の位置づけを明らかにする。

#### 2.4.1 経済不安要因説

ヘイトスピーチ研究の中で最も関心を集めてきた仮説は「経済不安要因説」であろう。代表的な論者として、高原(2006)や安田(2012・2013)が挙げられる。「経済不安要因説」は、不安定労働が増加し、生活や雇用などに不安を抱えた人々が、その鬱憤をはらす対象として「嫌韓」や「反中」をキーワードとするヘイトスピーチ言説へと向かうという仮説である。この仮説は社会経済的背景と関連があり、高原(2006)や安田(2012・2013)は日本の1990年代の時代状況に注目している。これらの論者はヘイトスピーチ現象を解明するに当たって「社会流動化」という用語を用いて説明している。「社会流動化」とは、「堅固な組織によりかかる形での将来の予測可能性や生活の安定性から、人々が放り出される」(高原 2006 : 39-40)ことである。日本の社会は1990年代半ば以降から、平成不況や構造改革により「社会流動化」へと移行した。これは、戦後日本を支配してきたパラダイム、すなわち、雇用や生活の安定、個人のライフコースが保障される超安定社会が崩れてしまったことを意味する。

高原(2006)は、今日の若者たちのヘイトスピーチを非正規の増加や雇用の流動化により生まれた不安を源泉とした「個別不安型ナショナリズム」とであると述べている。今日の若者たちは自分たちが経済成長の恩恵を受けられていないことに不満を持っており、その不満をインターネット上の「嫌韓」「反中」をキーワードとするヘイトスピーチ言説へと向かわせるということである。

安田(2012・2013)も、1990年代頃から保守という立ち位置に自覚的な若者たちの発言が目立つようになったと指摘している。若者たちの右寄りの言説は、「生きづらい世の中」を創った戦後体制への非難の声であり、その非難は「敵探し」の形として現れてくるのである。安田が渋谷哲也氏とのインタビューの内容を『ネットと愛国』(2012)に載せているが、その内容をみても、外国人憎悪の背景にあるのは雇用不安や将来不安であることが読み取れる。安田と渋谷哲也氏とのインタビューの内容は、以下の通りである。

今世紀に入ってから非正規労働者の割合が急増した。正社員の座をめぐる過酷な椅子取りゲームが始まったわけです。椅子が余っている時代であれば外国人のことなど気にはならないし、寛容でいることもできました。しかし椅子の数が少なくなれば、まず、椅子に座るべきは日本人からだろうといった声が出てくる。それがいつしか外国人は出て行けという罵声にも変わる。

(安田 2012 : 349)

上述した内容から、グローバル化の進行や競争の激化、経済格差の拡大などにより、社会の周縁に追いやられてきた人々の自己不全感と鬱積する不満のはけ口が外国人に向かっていることが読み取れる。このような思考には、経済生活の不安さ、政治体制に対する不安によって何かを「奪われた」という被害者意識が根底にあると安田は指摘している。

韓国の先行研究においても、日本の先行研究と同様に「経済不安要因説」に基づいてヘイトスピーチ現象を解明する研究が主流となってきた（Kang 2013 ; Park, Kwon-Il 2013 ; Park, Young-Kyun 2013）。これらの研究から、日本の場合、1990 年代半ばから戦後日本を支配してきたパラダイムが崩壊し始め、若者たちの怒りが「右」に回収されていったならば、韓国の場合、1997 年末の金融危機を機に、不安定な雇用形態などにより将来的な見通しや人生設計が立たない層の不安感が「右」に回収されてしまっているということが示唆される。

Na(2016)の研究においては、以下に述べた通り、ヘイトスピーチ言説の背景を 2000 年代以降、韓国社会が露出している構造の問題を中心に考察している。

金大<sup>キムデジョン</sup>中<sup>ノムヒョン</sup>・盧武<sup>イミョンバク</sup>鉉<sup>バククネ</sup>政権(1998-2008 年)から李明<sup>イミョンバク</sup>博<sup>バククネ</sup>・朴<sup>パク</sup>槿<sup>クネ</sup>恵<sup>ネ</sup>政権(2008 年-現在)と続いてきたこの時期は、経済的、社会的には新自由主義的な変化が、政治的には政権交代が行われ、これまで既得権を奪われた保守派のイデオロギー攻勢が影響を及ぼしている時期と見受けられる。(中略) 新自由主義的な経済、社会、教育政策は、多くの若年者層が労働の流動化と失業問題の深刻化により、未来の計画を立てることも、安定した年収を期待することもできない環境に追い込まれ、すべての状況は個人の自己啓発努力にかかっていると内面化させた。これにより、20-30 代の男性の普遍的な情緒の中には、もう就職も、恋愛もできず、さらに、家庭を築いたり、家長としての責任を果たすことはできないだろうという不安が常につきまとっている。(中略) この

ような状況の中で、同時期になって施行されたばかりの法や政策の領域での人権議論と社会的マイノリティの活発な闘争などにより、「マイノリティ」や「弱者」の主張は特権化された。激しい競争の中に生きてきた自分たちに比べて、「マイノリティ」や「弱者」は努力もせずに義務も果たさず社会政治システムの恩恵だけを受け取ろうとしている。これに対して、彼らは権利のタダ乗りといった嫌悪論理を打ち出し、差別の論理を正当化し、ひいては自分たちこそむしろ逆差別されていると主張している。 (中略) 2000 年代以降に生まれた多文化反対団体や男性連帯、「イルベ」掲示板などでは、このような不安や嫌悪を積極的に表現していた。

(Na 2016 : 16-17、筆者による日本語訳、下線筆者)

上述した内容から、1997 年のアジア通貨危機以降の韓国の状況は、高原(2006)と安田(2012)の議論において重要な時期であった 1990 年代の日本の状況と極めて類似したパターンを示していることが分かる。そして、このような時代状況がネット右翼の登場に決定的な影響を及ぼしたことも読み取れる。

以上のことから、経済不安要因説は、経済的に剥奪された人々がヘイトスピーチとナショナリズムに走ることが分かる。その根底には、自らの権利が奪われたことに対する怒り、すなわち「被害者意識」がある(高原 2006 ; 安田 2012 ; Park, Kwon-Il 2013 ; Na 2016)。Park, Kwon-Il は、このような被害者意識を「想像された搾取」(imagined exploitation)という用語で説明している。

当然もらわなければならない分け前を「内部の他者」に奪われたという剥奪感。それにより、自分より「資格」と「能力」がないのに分け前をさらに受けとっている対象を見つけ、執拗に攻撃するようになる。それが「想像された搾取」と呼ばれる理由は、実際に搾取して排除する主体は内部の他者ではなく、資本と国家であるからだ。それにもかかわらず、資本国家に抗わない。自分の「資格有り/無し」と「有能/無能」を承認する主体がまさに資本と国家であるからだ。

(Park, Kwon-Il ハンギョレ新聞 2013 年 5 月 20 日記事、筆者による日本語訳)

上述した内容から、格差社会と社会的搾取を作り出したのは国家と資本であるにもかかわらず、彼らはそれに対抗することさえできないことが読み取れる。むしろ、彼らは「自



分たちに与えられた当然の権利は奪われている」「自分たちは被害者である」という意識をヘイトスピーチの形で補おうとしているのである。

これまで「経済不安要因説」について概観してきたが、この仮説は、日韓の先行研究だけでなく、欧米における先行研究においても幅広く用いられている。序論で言及した「英国の欧州連合離脱」や「トランプ大統領の移民政策」を支持した人々の根底にも、「移民や難民が自分たちの仕事を奪う」という被害者意識が共有されていたと言えるであろう。また、格差社会で没落しつつある中間層や低所得層の社会に対する怒りの矛先が、外国人労働者や移民などに向けられたことが、昨今の「英国の欧州連合離脱」や「トランプ現象」の成立に多大な影響を与えたことは、もはや周知の事実であろう。

しかしながら「経済不安要因説」は幾つかの点において、再考すべき問題点がある。第一に、「経済不安要因説」だけでは、日韓のインターネット掲示板でなぜ「在日韓国人」と「<sup>チョルラド</sup>全羅道の人々」が標的となってきたかを十分に説明することはできない。というのも、欧米におけるヘイトスピーチの対象は移民や難民というニューカマーに向かいがちであるのに対し、日韓のヘイトスピーチの対象の「在日韓国人」や「<sup>チョルラド</sup>全羅道の人々」は、ニューカマーというよりも、その国の歴史や社会的文脈の中で生まれたからである。言い換えれば、日韓のヘイトスピーチの対象が欧米とは本質的に異なる特性を持っているといえるだろう。

第二に、「経済不安要因説」は「社会流動化」というどの国にも共通する要因を適用し、ヘイトスピーチ現象を解明する仮説であるが、その一方でそれぞれの国が個別に持っている特殊な文脈は捨象されてしまうという限界がある。

第三に、「経済不安要因説」という観点からみると、「ヘイトスピーチの主体=若者=社会的弱者」という図式が成立される。しかしながら、最近の研究においては、ネット上で韓国人や在日韓国人に対して誹謗中傷をする「ネット右翼」は国勢調査で明らかになった平均的な国民の最終学歴よりも相当程度高く、年収を見ても一般の母集団とほぼ同程度かやや高いと報告されている(古谷 2013 : 124-125)。樋口直人(2014)が排外主義運動参加者34名にインタビューをした結果を見てみても、大卒が24名、ホワイトカラー層が23名を占めていた。「イルベ」掲示板のユーザー10名とデプスインタビューを実施したKim(2014)の研究においても、すべての参加者の学歴が大卒(在学を含む)以上の教育水準を持っていた。それと共に、最近の研究では、インターネット上のヘイトスピーチと排外主義運動の主体は30代の男性であるというのが明らかになった(古谷 2013 ; 東亜日報

2013 年 5 月 10 日)ため、ヘイトスピーチの主体を一概に若者たちとも断定できないだろう。

## 2.4.2 歴史的な観点からの問題提起説

最近の研究では、ヘイトスピーチ現象をその国の個別の要因や歴史的文脈の中で解明しようとする試みがなされている。代表的な論者として、樋口直人が挙げられる。樋口直人は排外主義運動を生み出す要因について、右派論壇で取り上げられた話題を利用して検討している。右派論壇においてソ連が最大の敵手とされてきたが、1990 年代の歴史認識論争を経て、2000 年代には韓国や中国という近隣国家を敵手とした言説へと変化した。そのような背景には、1990 年代半ば頃から右派の関心が軍事・防衛に関する問題から歴史修正主義に関連する問題へと転換したことと関連がある(樋口直人 2014)。

当時の社会状況を照らし合わせて見ると、樋口の知見は十分に説得力を持つと見受けられる。この時期、日本は、従軍慰安婦問題や南京大虐殺など韓国や中国との間で歴史観をめぐる対立が噴出する中で、日本の政府は従軍慰安婦の強制性を認める河野官房長官談話(1993 年)や帝国主義時代の日本の行いを謝罪した村山総理大臣談話(1995 年)を発表した。これにより、左派リベラル勢力は侵略戦争や植民地支配への反省を公式に口に出すようになり、日本社会では「自虐史観」のムードが急速に盛り上がりを見せた。そのような流れへの反動として、右派では自虐史観批判といった動きが出てきた。

右派の論点は大きく分けて 2 つある。1 つ目は、韓国や中国は歴史問題を外交での交渉に利用しているという論点である。2 つ目は、慰安婦や南京大虐殺の存在自体に対して疑義を呈し、左翼の自虐史観を脱する必要があるとする論点である。つまり、韓国や中国への敵意や左翼の自虐史観批判といったのが右派の論点であり、これが右派論壇誌においても影響を与えたということが樋口直人の説明である。

当時の右派論壇誌の記事データによると、韓国の場合、1991 年 8 月に元「慰安婦」であった<sup>キムハクスン</sup>金学順氏が初めて実名で自ら名乗り出たことにより、日韓両国の間で慰安婦問題に代表される歴史認識問題が大きな政治・外交問題として浮上した。対中感情が悪化の一途を辿っている背景にも、尖閣諸島といった領土問題や南京大虐殺事件、歴史教科書などがあった。当時右派論壇誌で、北朝鮮も右派論壇誌の標的となった。北朝鮮の場合、日本

との国交がないため、歴史問題が本格的に取り上げられることはなかったが、この時期に北朝鮮による日本人拉致事件が一因となり右派論壇誌に登場したのだ。2002 年 9 月に小泉純一郎首相(当時)が北朝鮮の平壤<sup>ピョンヤン</sup>を訪問した際、金正日<sup>キムジョンイル</sup>総書記(当時)が日本人拉致の事実を公式に認め、謝罪した。それ以来、日本では一気に反北朝鮮感情が強まった。

樋口(2014)は、1990 年代から広がりを見せた近隣諸国への敵意や左翼の自虐史観批判といった従来の右派論壇の言説とつながって、嫌韓・反中といった感情が排外主義運動へと収斂していくことになっていたと指摘している。従来の右派論壇の言説の変化が韓国や中国などを対象とする排外主義運動に及ぼした影響について、樋口は「言説の機会構造」(discursive opportunity structure)という概念を用いて説明している。「言説の機会構造」とは、「制度的に固定した思考様式であり、それにより特定のまとまった考えが政治的に相対的に受容される傾向が生まれる」(Ferree 2003 : 309)ことをいう。言い換えれば、言説の機会構造は、人々が社会運動といった集合行為を行う際、自分のメッセージを公的な領域で拡散させる機会を提供したり、またはこれを制限したりするに当たって、重要な指標となる。樋口によると、右派論壇で歴史に関する記事が増加したが、これは個別実情や一過性の事件によるものではなく、1997 年から民主党政権という新たな敵手が現れる 2009 年まで、増加率は常に 10%を超えていた(樋口 2014)という。つまり、この時期に歴史問題が政治化される傾向が目立つようになり、排外主義運動の言説も、右派論壇の影響を受けつつも、そこからの流用という性格が強いというのが樋口の説明である。

さらに、2000 年代半ばからの右派の言説は、「2ちゃんねる」掲示板をはじめマンガやムックなどサブカルチャーを通じて広がるようになった。まず、1999 年に開設した「2ちゃんねる」掲示板は、2005 年頃に日本で最大のアクセス数を有する電子掲示板となった。次に、山野車輪の「マンガ嫌韓流(1~4)」(2005~2009 年、晋遊舎)は、嫌韓をテーマとしており、戦後補償問題をはじめ従軍慰安婦や歴史教科書問題、日韓併合、領土問題など、日韓の間に横たわる諸問題についての韓国側の主張を強烈に批判する観点から描かれている。シリーズ累計で 100 万部近く売り上げ、特に「マンガ嫌韓流 2」で取り上げられた「在日特権」という「物語」は今日の排外主義運動において最も重要な言説となってきていると樋口は述べている。ムックには「日本人と韓国人・反日嫌韓 50 年の果て」(1995 年、小学館『SAPIO』別冊)、「別冊宝島 Real 北朝鮮利権の真相(1~2)」(2003~2004 年、宝島社)、「別冊宝島・マンガ嫌韓流の真実！」(2005 年、宝島社)、「別冊宝島・嫌韓流の真実！ザ・在日特権」(2006 年、宝島社)、「嫌韓流実践ハンドブック(1~2)」(2006 年、晋遊

舎)などがある。これと共に、隔月で刊行されているムックとして「ジャパニズム」(2011年、晋遊舎)などがある。

ここで注目すべき点は、2000年代半ばからのインターネット上における排外主義運動の標的は従来とは異なる様相を帯びてくるということである。つまり、従来は韓国や中国を標的としたのに対し、2000年代以降からは韓国人や在日韓国人だけを標的としている。2000年代入って日本社会で韓国人や在日韓国人を対象としたヘイトスピーチや嫌韓デモが行われている理由について、樋口は歴史修正主義が韓国に特化したことから、近隣諸国の中で韓国を対象とした排外主義運動が台頭することになったと述べている。樋口によれば、「中国との間では戦後補償問題が今のところ新たに噴出しているわけではないが、韓国との間で「慰安婦」問題は最大の外交的懸案の一つであり続けている」(樋口 2014 : 157)という。もう一つは、「右派論壇にとっての中国は、軍事も含めて全面対決する最大の敵であるのに対して、韓国は主に歴史認識をめぐる敵となることを示す」(樋口 2014 : 157)と述べている。

このように日本における排外主義運動の起源は歴史修正主義ゆえに生まれたことから、樋口はこれを「日本型排外主義」と称している。樋口直人(2014)は日本型排外主義を以下のように論じる。

日本型排外主義とは近隣諸国との関係により規定される外国人排斥の動きを指し、植民地清算と冷戦に立脚するものである。直接の標的となるのは在日外国人だが、排斥感情の根底にあるのは外国人に対するネガティブなステレオタイプよりもむしろ、近隣諸国との歴史的関係となる。その意味で外国人の増加や職をめぐる競合といった外国で排外主義を生み出す要因は、日本型排外主義の説明に際してさしたる重要性をもたない。

(樋口直人 2014 : 204)

上述した内容から「日本型排外主義」は歴史修正主義の変種、つまり、植民地下の歴史を否定することをベースとしているため、植民地主義の歴史と密接不可分の関係にある在日韓国人が排外主義運動において標的となっていることが読み取れる。

要するに、樋口直人の「日本型排外主義」はなぜ在日韓国人が直接の標的になっているのかを解明する上で有用な手がかりを提供する。しかしながら、樋口の分析は調査対象者

が 34 名に過ぎず、しかも調査対象者の排外主義運動の活動家は無意識の内に作用しがちなバイアス(bias)を意識的にコントロールする、言わば、自覚的な言説を取る主体者という点では多少限界があるのである。

### 2.4.3 混合型ヘイトスピーチ説

韓国的社会の特殊性と世界的潮流である新自由主義の流れの中で、インターネット掲示板で起こるヘイトスピーチ現象を検討した研究もある。本論文では、このような手法を「混合型ヘイトスピーチ説」に分類した。代表的な論者として「イルベ」掲示板を分析した Kim(2013・2014)が挙げられる。

まず Kim は、新自由主義的グローバリゼーションとそれが作り出した支配的な感情の変化は、「イルベ」掲示板を理解するための重要な枠組みであると述べている。以下の引用文を見てみよう。

過去の葛藤がマイノリティに恩恵をどこまで与えるべきかを巡ることであったとすれば、今の葛藤は福祉国家が社会的弱者に施した恩恵を回収することを要求する。(中略) 民主主義が深化し、マイノリティや社会的弱者に向けた様々な政策が行われており、これは結局、着実に税金を納める「普通の人々」が広範囲に形成されているため、可能なものであった。しかしながら、新自由主義体制は社会の構成員全員の不安を材料として暴走し、この不安は人々をさらに窮地に追い込んだ。この過程で市民たちは既存の福祉国家体制が体制内に取り込まれていない人々に施した様々な恩恵を逆差別という理由で回収することを要求する。

(Kim 2013 : 6-7、筆者による日本語訳)

新自由主義的グローバリゼーション、人々の不安、被害者意識、ヘイトスピーチをセットで考えるこのような視座は、「経済不安要因説」の典型的な例であるとも言える。しかしながら「経済不安要因説」だけでは、なぜ「イルベ」掲示板のユーザーが民主主義を否

定し、かつ過去の「<sup>ハンガン</sup>漢江の奇跡<sup>46</sup>」と称された高度経済成長を率いた朴<sup>パク</sup>正<sup>チョン</sup>熙<sup>ヒ</sup>大統領を高く評価するかを説明する上で限界がある。このような点に着目し、Kim は分断国家と地域主義という韓国社会の持つ特殊性を結びつけて「イルベ」掲示板を分析した。Kim の分析の仕組みは、2000 年代以降、新自由主義体制がもたらした社会変容の中で、「イルベ」掲示板のユーザーがなぜ独裁政権時代への思想へと回収されていったのかを解明する上で、有効な手がかりを提供していると考えられる。

しかしながら、Kim の研究では研究対象の被験者の人数や選抜条件において限界がある。Kim は、量的研究法と質的研究法の両者を含む混合研究法を用いて「イルベ」掲示板を分析したが、デプスインタビューを実施した対象者が 10 名に過ぎず、しかも 20-30 代の男性だけを対象とした。また、彼らはネット上でヘイトスピーチをする直接的な主体者であるため、「自分たちが、今、インタビューを受けている」という意識を持っている。これは、すでに樋口研究で指摘した限界と同様に、逆のバイアス(bias)が生じる可能性があるのである。

## 2.5 本論文のアプローチ

以下の節では、ヘイトスピーチが生じる要因に関する 3 つの仮説についてまとめながら、本論文の問題意識と視点を示し、本論文で取り扱う問題の設定について述べていく。

### 2.5.1 本論文の位置づけ

ヘイトスピーチが生じる要因に関して、これまでの研究の動向を表 1 に示す。

---

<sup>46</sup> <sup>ハンガン</sup>「漢江の奇跡」とは、1960 年代から 1970 年代にかけて朴<sup>パク</sup>正<sup>チョン</sup>熙<sup>ヒ</sup>政権下で実現された韓国の高度経済成長を象徴する言葉である。<sup>ハンガン</sup>漢江はソウルの中心部を流れる川である。

表1 ヘイトスピーチが生じる要因に関する3つの仮説

	経済不安要因説	歴史的な観点からの 問題提起説	混合型ヘイトスピーチ説
論者	・高原・安田・Kang・Park, Kwon-Il	・樋口直人	・Kim
概念	・グローバル化と長期不況 → 経済的に剥奪された層の不安や不満 → ヘイトスピーチ言説	・近隣諸国との国際的な関係性 → ヘイトスピーチ言説	・世界的潮流である新自由主義の流れと韓国的社会が持っている特殊性 → ヘイトスピーチ言説
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘイトスピーチ言説の要因 = 長期不況による経済的不安定・閉塞感の横溢といった社会背景</li> <li>・ヘイトスピーチ言説の行為者 = 社会的弱者・若者</li> <li>・グローバル化や新自由主義といったどの国にも共通して適用できる仮説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘイトスピーチ言説の要因 = 近隣諸国との歴史的関係</li> <li>・ヘイトスピーチ言説の行為者 = 大卒が24名、ホワイトカラー層が23名</li> <li>・日本の個別性・特殊性に基づいてヘイトスピーチ現象を考察 → 「日本型排外主義」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘイトスピーチ言説の要因 = 新自由主義的グローバル化と韓国社会の個別性</li> <li>・ヘイトスピーチ言説の行為者 = すべての参加者の学歴が大卒(在学を含む)</li> <li>・量的研究法と質的研究法の両者を含む混合研究法を採用</li> </ul>
批判	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘイトスピーチ言説の行為者 ≠ 社会的弱者・若者</li> <li>・それぞれの国が個別に持っている特殊な文脈は捨象されてしまうという限界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被験者の人数(34名)、選抜条件(排外主義運動の活動家)において限界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被験者の人数(10名)や選抜条件(20-30代の男性、ネット上でヘイトスピーチをする直接的な主体者)において限界</li> </ul>

まず、高原(2006)が指摘したように、社会流動化は今や避けられないグローバルな潮流という点で「経済不安要因説」は、どの国にも共通して適用できる仮説であるが、その一方でそれぞれの国が持つ特殊性を捨象して一般化してしまっているという問題点がある。

次に、樋口(2014)や Kim(2014)の研究はその国が持つ個別の要因を視野に入れながら、ヘイトスピーチ言説を解明しているという点で、有効な分析の視座を提案していると考えられるものの、研究対象の被験者数が少ないため結果の一般化に限界がある。加えてインタビューにおいても研究者は調査目的を隠しているわけではなく、さらに被験者も特定の

人々への偏見と差別を堂々と主張する、排外主義の活動家と「イルベ」掲示板のユーザーたちである。つまり、分析方法において妥当性の欠如といった問題があり、また研究結果の一般化にも限界があると言えるだろう。

本論文では、先行研究のこのような問題点を踏まえた上で、「経済不安要因説」と「日韓両国の社会が持つ個別的要因」に基づき、日韓両国の社会で社会的問題となっているヘイトスピーチ現象について考察していく。

具体的に、このような分析視座を採用した理由は、以下の通りである。第一に、2000年代は世界中でグローバル化とともに新自由主義イデオロギーの影響が急速に広がった時代であった。「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板は2000年に入り、急速に姿を現し始めたという点で、ヘイトスピーチ現象が生まれる時代背景には社会的要因があると考えられる。このような観点から、2000年代という時代状況が、日韓両国の社会をどのように変容させ、それがヘイトスピーチ現象にどのような影響を及ぼすかを検討する必要があるだろう。

第二に、グローバル化と新自由主義が全世界で同時期に起こっているとしても、与える影響は国ごとに異なり、ヘイトスピーチの生じ方も同一とは言えない。一例として、先述した在日韓国人と全<sup>チヨルラド</sup>羅道の人々と欧米のヘイトスピーチの対象とは特質や性格が異なっていることなどが挙げられるだろう。そこで、ヘイトスピーチを生み出す要因を解明するため、各国独自の要因や背景が必要である。

第三に、ヘイトスピーチ言説は当事者の意識の深窓にあると判断し、当事者の意識が最も端的に現れる、日韓両掲示板の書き込みを分析対象とした。このような書き込みの分析を行うことで、ユーザーの心理的メカニズムを捉えるだけではなく、インタビューの調査方法の限界も補うことができると考えられる。

## 2.5.2 リサーチ・クエスチョンの設定

リサーチ・クエスチョンは、大きく三つの領域に区分されている。第一に、「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板の中でよく登場する「物語」(=コミュニケーションの素材)は何かを確認し、これがヘイトスピーチ現象とどのような関連性を持っているかを明らかに



する。本論文では「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板の「物語」をリサーチ・クエスチョン1と2に分けて検討した。

リサーチ・クエスチョン1と2に分けて設定した理由は、以下の通りである。「2ちゃんねる」掲示板の中で、「東アジア news+板」と「ハングル板」の「物語」は本質的に異なるものであると考えれる。まず「2ちゃんねる」掲示板における「東アジア news+板」は、「キャップ」を持つ記者のみがスレッドを立てることができるため、彼らにより争点化されたアジェンダのみが、「2ちゃんねる」ユーザーに重要なものとして認知されることになる。この時、キャップを持つ記者(= ☆が投稿者名の尾に付いている記者)が一種のアジェンダ設定を担う者となり得るため、マスメディアと同じように、ユーザーの注意を特定の争点や問題へと焦点化する可能性がある。

その一方で、「2ちゃんねる」掲示板の「ハングル板」では、誰でもスレッドが立てられるため、ユーザーによるアジェンダ設定(collective agenda setting)が行われており、このシステムはキャップを持つ記者が一義的にアジェンダ設定していた「東アジア news+板」のシステムとは異なる新しい仕組みだと言える。そこで、キャップを持つ記者のみがスレッドを立てられる「東アジア news+板」と誰もがスレッドを立てられる「ハングル板」の間で「物語」には何らかの相違があることが予測される。また、それがヘイトスピーチ言説にどのような影響を及ぼすのかについても検討する必要がある。「イルベ」掲示板の場合、誰でもスレッドが立てられるため、掲示板を区分せず分析を行う。

第二に、日韓両掲示板において不満のはけ口は誰に向かっているのかを検討した上で、その不満を生み出している要因には何があるのか明らかにする。ヘイトスピーチをめぐるこれまでの言説を検討してみると、不満を生み出す要因は多岐にわたって現れていることが示唆された。本論文ではこのような要因を解明のための理論的仕組みとして、「経済不安要因説」と「日韓両国の社会の持つ特殊性」といった観点から考察していく。そして、日韓両国のヘイトスピーチ言説を解明する上で、混合型ヘイトスピーチ仮説を適用することが可能かどうかを検討し、その妥当性について論じる。

第三に、リサーチ・クエスチョン4では、これまでの結果に基づいて「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板を動かす「コード」(code)を解明する。本研究において「コード」という概念が重要な意味を帯びる。「コード」という言葉は日常生活で手軽に使われており、本論文では、記号論で用いられる「コード」という概念を援用した。

エーコによると「コードは、コミュニケーションの営みにおいて具体的な形で現れるも

のとしての記号を生成する規則を決めている」(Eco 1996 : 85)と定義している。次に、Park, Jung-Sun(2009)によると、「コードとは、一定の規則により支配される記号体系または意味作用の体系として、その規則は、それに従っている文化の構成員の間で暗黙的または明示的な同意を基づいて共有されること」(Park, Jung-Sun 2009 : 228)と定義している。

上述した定義から、「コード」とは人々の間で無意識のうちに共有されている暗黙の規則体系ということがわかり、本論文ではこのような「コード」という用語を援用しつつ、議論を展開する。日韓両国の掲示板上で現れているマイノリティに対しての言説は、差別的行為を扇動するような侮辱的表現のように見えるが、その言説の中にはユーザーの間で正しいと思われる価値体系や思考様式、いわゆる「支配的なコード」(dominant code)が隠されている。この「支配的なコード」はユーザーの思考体系を動かすメカニズムのため、ヘイトスピーチ言説を拡大再生産する要因と、保守志向の考え方の根底にある問題を解き明かする上で重要なキーとなり得る。そこで、本論文では日韓両掲示板で現れている「支配的なコード」を通じて「2ちゃんねる」と「イルベ」の現象を解説する。

以上のことを踏まえ、本論文では次の4つのリサーチ・クエスチョンを設定し、検討を進めていく。

- ・リサーチ・クエスチョン 1: キャップを持つ記者のみがスレッドが立てられる「東アジア news+板」と誰でもスレッドが立てられる「ハングル板」の間での「物語」にはどのような違いがあるのか。
- ・リサーチ・クエスチョン 2: 「イルベ」掲示板において顕著に現れている「物語」は何か。
- ・リサーチ・クエスチョン 3: 日韓両掲示板において不満のはけ口は誰に向かっているのか。
- ・リサーチ・クエスチョン 4: 「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)は何であるか、またこれを通じて「2ちゃんねる」と「イルベ」の現象をどのように捉え、解明できるのか。

## 第III章 研究方法

### 3.1 分析対象

本論文では「2ちゃんねる」掲示板と「イルベ」掲示板を対象とする。まず、日本の研究分析の資料として、「2ちゃんねる」掲示板の中でも、「東アジア news+板」と「ハングル板」を分析対象として選定した。「2ちゃんねる」掲示板の中でも、「東アジア news+板」と「ハングル板」はヘイトスピーチや嫌韓厨の論調が蔓延している掲示板としてよく知られている(Kim, Hyo-Jin 2011 ; Park, Su-Ok 2009)。

まず、「東アジア news+板」は2003年4月25日に開設され、正式名称は「東アジアニュース速報+版」である。この掲示板は基本的に韓国・北朝鮮・台湾・中国・東南アジア・北方領土関係のニュースを取り扱っており、当該国人が絡んだ国内ニュースも含まれている。東アジア各国のニュースについて主に論じる掲示板であるが、ほとんどは韓国・中国・北朝鮮についての批判や誹謗中傷など、ネガティブな書き込みが溢れている。ジャンルは最近の事件に限らず、政治・経済・歴史・文化・芸能・国際と多岐にわたる。そして、この掲示板におけるスレッドはキャップを持つ記者のみが立てることができるという点で、この掲示板は「ソース第一主義」という仕組みから生まれたと言えるだろう。「ソース第一主義」とは、信頼できると思われる情報ソースから入手した情報やデータが最も正しいとする主義を指し、「東アジア news+板」ではキャップを持つ記者が話題を提供している。

次に、「ハングル板」は2000年1月18日に開設し、開設当時の名前は「韓国・朝鮮板」であった。「ハングル板」の特徴は大きく分けて三つある。第一に、カテゴリは「学問・文系」に含まれており、板名からは、韓国語に関する学問的な見地を議論する掲示板であると考えられる。しかし、語学的なテーマのスレッドはわずかで、全体的に韓国や北朝鮮やその国の人々(在日韓国人含む)を非難する書き込みが溢れている。また、この掲示板は、日本のマスメディアでタブーとされてきており、ほとんど取り上げ論じられたことがなかった、韓国起源説問題、領土問題、反日を国是とする韓国とそれに呼応する国内の反日政

治家・マスメディアを主に扱っている。

第二に、「ハングル板」は大きな分野単位で区切られており、その分野に属する話題ごとに細かく分けられた固定スレッドが大部分を占めている。つまり、開設当初から 10 年以上継続している固定スレッドが多く、前スレッドのやりとりを継続的にユーザー同士で共有している。「ハングル板」における「韓国経済動向」スレッドを例に挙げよう。最初のスレッドは「マンセー名無しさん」と呼ばれている人が、「このスレッドは韓国本国の経済についての情報スレッドです」といったスレッドに関する簡単な説明した上で、書き込みをする時に注意すべき事項を明示している。その後、ユーザー同士で自由に意見を交わしている。言い換えれば、スレッドは、話題を提起する投稿とそれに返答を付ける書き込みで構成されており、この掲示板は特定的话题を提示する人が存在していないため、話題を提起する投稿はなく、ユーザーの書き込みのみで運営されている。これは、「東アジア news+板」と異なる仕組みだと言えるだろう。

第三に、「ハングル板」はユーザーが書き込みを行う際、自分たちの主張の中に納得できる情報を提示しなければならない。同様に風聞や怪文書的情報が溢れている「2ちゃんねる」掲示板でも、その主張の正しさを確認するために、「ソースは?」「ソース出せよ」という書き込みが定型句となっており(村上 2014)、この掲示板においても「ソース第一主義」という仕組みがモットーとなっている。

韓国側の資料としては、「イルベ」掲示板の中でも、「政治日刊ベスト板」を分析対象として選定した。「政治日刊ベスト板」が開設される頃が「イルベ」掲示板のコミュニティのアイデンティティが確立される時期であったため、本論文の目的である「イルベ」現象を理解し解明するに当たって「政治日刊ベスト板」が適合していると判断した。また、多くのユーザーから支持やお勧めを受けたスレッドは「政治日刊ベスト板」へ移動するようになるため、世間で話題となっている事件をはじめ、「イルベ」掲示板の全体的な傾向が誰でも一目で把握することが可能である。そして、この掲示板は、ユーザーがスレッドを自由に作成できるが、話題を提示したり書き込みをしたりする際には、自分の主張を裏付ける客観的なデータやファクトを証拠として提示しなければならない。「イルベ」掲示板においては「ファクト」を重視する傾向があり、これはユーザーたちが自分たちの意見を述べる際にはその内容の真意を確認したファクトや客観的なデータを基にするという傾向である。本論文ではこれを「ファクト主義」と呼ぶことにする。これは、前述した「2ちゃんねる」掲示板における「ソース第一主義」という枠組みとほぼ同様であると考えられる。

## 3.2 分析期間

「2ちゃんねる」掲示板の分析期間は2015年10月25日から11月14日の期間のスレッドを「過去ログ倉庫」から収集した。この期間は韓国のソウルで日韓中首脳会談が開催されており、日韓間での最大の懸案の一つである慰安婦問題をはじめとする領土問題や歴史問題などが取り上げられた。この時期に「2ちゃんねる」掲示板で特定の対象(個人、団体)を話題とする膨大な「書き込み」が殺到する、いわゆるネット上の「祭り」現象が起こった。これは日韓中首脳会談の談論が政治家やメディアだけではなく、ネット右翼層にも重要な懸案であることを如実に示している指標であると言えるだろう。

書き込み数のランキングによると、2010年1月から2016年6月までの期間で「東アジア news+板」のレスポンス数が最も多かったのは、2015年11月1日から11月7日まで(平均値 30,912 件)であり、スレッド数(平均値 68 件)も他の週間より多いことが判明した<sup>47</sup>。そこで、この週を基軸にして、その先週と翌週を含め、「韓国」「日韓」「中韓」「朝鮮」「韓流」「慰安婦」「朝鮮日報」「中央日報」等をキーワードとして検索し、データを収集した。そして、韓国に関連する記事が抽出され、最終的に 674 件のスレッドが選定された。その中で、キャップを持つ記者が提供する内容のみを抽出して分析した。本論文はキャップを持つ記者が提供する内容は何であるか、それがヘイトスピーチ現象にどのような影響を及ぼすかを調べるのが目的である。従って「東アジア news+板」におけるユーザーの書き込みは排除した。

次に「ハングル板」における分析時期は、以下の事項を念頭に置いて設定した。「東アジア news+板」における「祭り」現象は、キャップを持つ記者によるゲートキーピング(gatekeeping)が影響を及ぼすのではないかと考えられる。すなわち、キャップを持つ記者はアジェンダ・セッティングを担う者として、争点の重要性に関するユーザーの認識に影響を与える可能性がある。その一方で「ハングル板」の場合、ユーザー同士がコミュニケーションを図る仕組みを持つという点から、ある程度「集団的アジェンダ設定」が起こっているとも考えられる。それでは、「東アジア news+板」においては日韓中首脳会談の期間と相まって「祭り」現象が起こり、「ハングル板」においてもこのような談論が重要な争点として浮き彫りになるのだろうか。本論文ではこのような問いに答えるために、「ハ

<sup>47</sup> <http://merge.geo.jp/history/count7r/?date=2015-11-01&mode=r>(最終閲覧日：2016年1月9日)

ングル板」の分析期間を「東アジア news+板」と同様の期間として設定して分析を行った。

そして、この板では多様なトピックを扱っているため、ここではスポーツ、芸能等のスレッドは除外した上で、22 件のスレッドと 12,153 件の書き込みを分析対象とした。「ハングル板」は開設当初から 10 年以上継続している固定スレッドが多く、前スレッドのやり取りを継続的にユーザー同士で共有できる板である。さらに、最初の書き込みは特定の話題が提示されるのではなく、運営規則に関する基本方針が明示されているため、「ハングル板」ではスレッドに書いてあった書き込みも分析対象に入れた。

韓国のネット資料としては、「イルベ」掲示板における「政治日刊ベスト板」を分析対象とした。分析時期を設定するにあたって、前述した「2ちゃんねる」掲示板とは異なるアプローチを用いて分析を行った。「イルベ」掲示板は「2ちゃんねる」掲示板に比べて開設時期や歴史が浅く、特定の対象(個人、団体)の話題で膨大な「書き込み」がある週間の中でいつ頃最も書き込みが殺到したかを示す、いわゆる週間「祭り」ランキング調査が現在までのところ、行われていない状況である。そこで、本論文では、「2ちゃんねる」掲示板から収集したデータとできるだけ類似している条件を探り、ユーザーから「お勧め数」が多いスレッド<sup>48</sup>に着目し、分析を行った。以下、「お勧め数」という仕組みについて、説明していく。

「イルベ」掲示板で「お勧め」ボタンをクリックすると、お勧め数が高い順位で自動的に並べ替えられる。「お勧め」ボタンは、フェイスブックの「いいね！」ボタン(like button)と同様の意味として、相手の話題への共感を示す際に使われている。その反面、「お勧めしない」ボタンは、フェイスブックの「いいね！」の反対である「よくないね！」ボタン(dislike button)と同様の意味として、特定の投稿に対する不満を表現する際に使われている。掲示板の最上位にあるスレッドは、ユーザーから「お勧め」ボタンを最も多く押されたことを意味する。言い換えると、右横のお勧め数値が多ければ多いほど「他のユーザーもそのスレッドについて共感している」ことを意味する。

ここにおいて、スレッドの「お勧め数」は、ユーザーの間でどのような物語が最も多く消費され、共感されているかを把握することができるという点で、ある意味では「2ちゃんねる」掲示板の週間「祭り」ランキングと類似した仕組みだと言えるだろう。また、ユ

---

<sup>48</sup> スレッドという用語は、第 2 章で述べた通り、「2ちゃんねる」掲示板のみで通用する特殊な用語であるが、本論文では用語の混乱を避けるために、「イルベ」掲示板の中で各話題を語るための小さい掲示板も「スレッド」という用語で統一した。

ユーザーからお勧めまたは支持を受けていたスレッドは、最上位に自動的に並べ替えが行われているという点で、「ハングル板」と同様に「集団的アジェンダ設定」が起こっているとも言えるだろう。従って、「政治日刊ベスト板」ではより多くのユーザーにお勧め数を受けた上位 22 件のスレッドと 16,480 件の書き込みを分析対象とした。

### 3.3 分析方法

本論文では研究方法として、KH Coder というテキスト・マイニング・ソフトを用いて解析を行った。KH Coder<sup>49</sup>とは、樋口耕一により開発されたテキスト・マイニング・ソフトであり、テキスト型データを統計的に分析するためのソフトウェアである。このソフトに、分析対象のデータをテキストファイルとして入力するとデータの中から語句を自動抽出することができる。つまり、分析対象である全ての語句を「形態素」という単位で分節化し、使用された用語の数や、それぞれの用語の連関を分析することができる。

本論文では、集めたデータに対して量的分析と質的分析の 2 つの方法を用い、量から質の順で分析するミックス法を採用した。量的分析と質的分析をミックスする手法は、両者の利点を活かし、分析の妥当性と信頼性においても非常に有効である。

まず、量的分析として用いたのは「出現頻度が高かった上位 100 位内の頻出語分析」と「共起ネットワーク分析」である。「頻出語分析」と「共起ネットワーク分析」から得られた結果は、最終的な結果ではなく、あくまでも質的分析に入る手がかりとして使用するということを強調しておく。分析を進めるにあたって、半角文字のチェック、複合語のチェック、辞書未登録用語のチェックをし、「タグ」として登録した。強制抽出する語の指定では「タグ」という特殊な品詞名が与えられる。KH Coder は語を確認するための辞書を内部に持っているが、強制的に抽出した語として指定した「慰安婦」「少女像」「南シナ海」「人工島」「安倍晋三首相」「朴槿恵大統領」のような用語は、そこに含まれていない場合がある。したがって、一度形態素に分けた結果を参照しながら、正しく抽出されていない用語を集めて、強制的に抽出すべき語として登録した。

---

<sup>49</sup> ウェブ・ページについては、「参照したインターネット・サイト及び新聞記事」を参照されたい。

次に、質的分析として「ハングル板」と「政治日刊ベスト板」における大量の書き込みを分析した。書き込みを分析する理由として、「頻出語分析」と「共起ネットワーク分析」の結果から得られたデータだけでは、テキストデータの文脈、つまり、本論文のリサーチ・クエスチョン4で想定した「コード」を解き明かすことができないことが挙げられる。第2章で述べたように、「コード」とは人々の無意識の中に潜む規則体系であり、共起ネットワーク分析の結果から得られたデータだけではテキストデータの文脈、あるいはユーザーの思考体系や心理的なメカニズムを明らかにすることができないため、本論文では共起ネットワーク分析から現れた特徴語をもとに、質的分析を行った。最後に、量的分析と質点分析を行った結果として、今回対象とした期間で繰り返し見られた表象について、当時の時代背景や先行研究の知見から考察した。



## 第IV章 分析結果

### 4.1 リサーチ・クエスチョン1の検証：2ちゃんねる掲示板における東アジア news+板とハングル板の主な物語

リサーチ・クエスチョン1は、キャップを持つ記者のみがスレッドが立てられる「東アジア news+板」と誰でもスレッドが立てられる「ハングル板」の間での「物語」(= コミュニケーションの素材)にはどのような違いがあるのかを検証することである。

#### 4.1.1 上位100位内の頻出語の抽出

リサーチ・クエスチョン1を検証するため、本論文は「東アジアnews+板」と「ハングル板」についてそれぞれに抽出語分析を行い、出現頻度が高かった上位100位内の頻出語を抽出した。

表2と3で示されたように、抽出した上位100位内の頻出語中、上位10位内の頻出語からみると、「慰安婦（両掲示板 1位）」、首脳会談（東アジアnews+板 3位、ハングル板 6位）」「朴大統領（東アジアnews+板 5位、ハングル板 2位）」「安倍首相（東アジアnews+板 6位、ハングル板 3位）」をはじめとする語句が登場していた。

このようなことから、両掲示板とも当時最も重要な社会的アジェンダの中の一つであった首脳会談に関するものが最も重要なアジェンダとして認識されていることが分かった。なお、抽出した上位10位内の頻出語から首脳会談の様々な懸案の中で、慰安婦に関する懸案が最も重要とされていることが読み取れた。

表2 東アジア news+板とハングル板の頻出語リスト(上位 1-50 位)<sup>50</sup>

順位	東アジア news+板	ハングル板	順位	東アジア news+板	ハングル板
1	慰安婦(898)	慰安婦(833)	26	立場(181)	韓国政府(139)
2	政府(741)	朴大統領(558)	27	開催(179)	国際(138)
3	首脳会談(652)	安倍首相(551)	28	首脳(175)	事件(131)
4	<b>関係(574)</b>	日韓・韓日(507)	29	メディア(167)	首相(131)
5	朴大統領(560)	<b>朝鮮人(383)</b>	30	謝罪(163)	謝罪(131)
6	安倍首相(500)	首脳会談(381)	31	国家(153)	国内(130)
7	歴史(478)	解決(305)	32	<b>社会(150)</b>	<b>チョン(123)</b>
8	経済(418)	国民(303)	33	首相(147)	韓国側(121)
9	解決(379)	日本人(265)	34	批判(145)	被害者(117)
10	世界(343)	<b>バカ(243)</b>	35	竹島・独島(144)	<b>団体(114)</b>
11	大統領(326)	政府(233)	36	被害者(143)	責任(112)
12	<b>会談(320)</b>	世界(230)	37	市場(143)	日本側(111)
13	日韓・韓日(300)	歴史(220)	38	被害者(143)	立場(110)
14	外交(298)	外交(218)	39	教科書(139)	日中韓(107)
15	国民(272)	大統領(201)	40	TPP(138)	<b>外国人(106)</b>
16	<b>輸出(258)</b>	政治(196)	41	要求(135)	両国(105)
17	両国(252)	経済(191)	42	技術(132)	理由(102)
18	企業(240)	<b>政権(185)</b>	43	地域(130)	<b>民主党(101)</b>
19	<b>国際(232)</b>	反日(176)	44	日本人(130)	<b>犯罪(98)</b>
20	<b>アジア(231)</b>	女性(166)	45	交渉(127)	<b>差別(97)</b>
21	女性(213)	日本政府(159)	46	政治(125)	開催(96)
22	協力(210)	国家(153)	47	観光(121)	<b>難民(94)</b>
23	<b>参加(198)</b>	協力(151)	48	合意(121)	<b>情報(94)</b>
24	南シナ海(192)	首脳(141)	49	産業(121)	<b>民族(91)</b>
25	<b>韓国人(191)</b>	<b>強制(141)</b>	50	状況(119)	<b>テロ(89)</b>

<sup>50</sup> 括弧内に頻出語の出現回数であり、上位 1-50 位内で東アジア news+板とハングル板の異なる単語を太字で表示した。

表3 東アジア news+板とハングル板の頻出語リスト(上位 51-100 位)<sup>51</sup>

順位	東アジア news+板	ハングル板	順位	東アジア news+板	ハングル板
51	国内(119)	賠償(89)	76	通貨(76)	竹島・独島(55)
52	責任(117)	日本軍(85)	77	状態(74)	歴史認識(55)
53	委員(113)	企業(85)	78	反日(74)	南シナ海(54)
54	政策(111)	合意(83)	79	FTA(74)	海外(54)
55	理由(110)	在日朝鮮人(83)	80	自分(73)	警察(53)
56	時代(104)	デモ(79)	81	対象(73)	特別永住(52)
57	文化(103)	李首相(75)	82	中心(73)	考え(50)
58	早期(103)	国籍(74)	83	当局(73)	戦略(50)
59	現代(102)	親日(72)	84	大会(70)	大学(50)
60	李首相(98)	政策(71)	85	未来(70)	市場(49)
61	会社(98)	人権(69)	86	懸念(70)	事業(49)
62	妥結(94)	国会(68)	87	主義(68)	TPP(49)
63	最大(90)	支那(68)	88	警察(67)	マスコミ(48)
64	事業(89)	朝鮮半島(67)	89	人権(67)	鳩山(48)
65	専門(89)	市民(67)	90	局長(66)	基金(48)
66	国定(89)	共産党(64)	91	銀行(66)	野党(48)
67	共産党(88)	人間(63)	92	事件(66)	妥結(47)
68	人間(85)	自民党(60)	93	成果(66)	通貨(46)
69	自民党(83)	昼食(59)	94	相手(66)	早期(45)
70	昼食(83)	撤去(58)	95	賠償(66)	当局(43)
71	撤去(82)	外相(56)	96	朴槿恵政権(66)	人種(42)
72	外相(80)	憲法(56)	97	考え(65)	被害(42)
73	憲法(79)	裁判(56)	98	外相(64)	法案(42)
74	裁判(79)	姿勢(56)	99	登録(64)	民間(42)
75	姿勢(77)	制度(55)	100	電子(63)	売春婦(41)

次に、各掲示板において上位20位内の抽出語を検討してみると、「関係 (4位)」「会談 (10位)」「輸出 (16位)」「国際 (19位)」「アジア (20位)」という語句が「東アジア news+板」においてのみ出現し、他の15つの語は「ハングル板」と一致しており、一致率は75%であった。「ハングル板」においては「朝鮮人 (5位)」「バカ (10位)」「政権 (18位)」と

<sup>51</sup> 括弧内に頻出語の出現回数であり、上位 51-100 位内で東アジア news+板とハングル板の異なる単語を太字で表示した。

いう語句がそれぞれ出現していた。その他、「日本人（ハングル板 9位、東アジアnews+板 44位）」「政治（ハングル板 16位、東アジアnews+板 46位）」「反日（ハングル板 19位、東アジアnews+板 78位）」「女性（ハングル板 20位、東アジアnews+板 21位）」という語句は順位において差異を示していたが、その他の13語は「東アジアnews+板」と一致し、一致率は65%であることがわかった。

ここでいくつかの目立った特徴をまとめると、第一に、「東アジアnews+板」においては、韓国人を言及する際に「韓国人（25位）」と書かれていたことに対して、「ハングル板」においては、「朝鮮人（5位）」「バカ（10位）」「チョン（32位）」と書かれていたが目立っている。韓国人をどう呼ぶかという呼称の問題は、韓国人に対するユーザーの視座を伺うことができる点で注目に値する。井沢(2014)は、大都市圏の大学生を対象として、「在日韓国人への社会的距離度について『在日コリアン』『在日韓国人』『在日朝鮮人<sup>52)</sup>』と3つの呼称表記に分けて尋ねたところ、『在日コリアン』や『在日韓国人』は、ほぼ同程度の社会的距離度を示したのに対して、『在日朝鮮人』は前二者に比べて顕著に拒否度が高い」（井沢 2014：103）と報告している。金(2010)の研究においても「植民地時期のみならず戦後の日本において朝鮮や朝鮮人という言葉は一種の差別語や蔑視語として使われることが多かった」と(金 2010：10-11)報告されている。つまり、日本社会において「朝鮮」「朝鮮人」という呼称はネガティブな意味合いを込めて使われることが分かる。このことから、「ハングル板」は「東アジアnews+板」に比べ、韓国人や在日韓国人に対して否定的態度を取ることが読み取れた。その反面、「東アジアnews+板」では「韓国人」という比較的中立的な表現が使われていた。

第二に、「ハングル板」では「犯罪」「テロ」「難民」「デモ」「差別」「売春婦」のような否定的な語句などが使われていた反面、「東アジアnews+板」では「事件」などのような比較的中立的な語句が使われていた。

第三に、「ハングル板」のみで「特別永住」「法案」「野党」「民主党」「鳩山」などの頻出語が抽出された。

---

<sup>52)</sup> 「在日朝鮮人」という言葉は差別語であるが、本論文では、参考した書籍(論文)を引用する場合、あるいは「2ちゃんねる」掲示板上の書き込みの場合は、記述されているものをそのまま表記した。

#### 4.1.2 共起ネットワーク分析

掲示板に含まれる語句の抽出語からもある程度中心的な物語をうかがい知ることができるが、それぞれの語句の関係性を明らかにするために、本論文では「共起ネットワーク分析」を行った。「共起ネットワーク」とは、語句間の共起性をリンクとして図示したものである。言い換えれば、ある語句が同じ文書や文中でどの語句と共に使用されているかをネットワーク図にしたものである。この手法を用いると、「出現パターンの似通っている語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワーク」で結ぶことができる(樋口 耕一 2014 : 155)。つまり、出現パターンの近しい語句同士が線で結ばれているため、抽出した語句と語句がどのようにつながっているのかを知ることができる。

詳細な説明に入る前に、共起ネットワーク図中に示す基本的意味について簡単に説明する。共起ネットワーク図の円の大きさは語句の出現頻度が高いことを示し、円と円を結ぶ線の太さは関連性の強さを示す。また、媒介中心性が高い語ほど濃い色で描画される。

分析に当たっては、出現数による語句の取捨選択に関しては最小出現数を30に設定し、描画する共起関係の絞込みにおいてはすべて描画数を225に設定した。また、共起関係の強さ(Jaccard係数<sup>53</sup>)が0.1以上を示す語を共起ネットワーク分析の対象とし、語の最小出現回数を3回に設定し、分析を行った。

##### 4.1.2.1 東アジア news+板における共起ネットワーク分析

「東アジア news+板」における共起ネットワーク分析の結果は、図3の通りである。本論文では「東アジア news+板」における主な物語を把握するため、共起ネットワークの分析結果をもとに、関連する語句を同じグループに分類した。

---

<sup>53</sup> 共起ネットワークの機能では、語句間の共起関係の強弱を測る尺度として、Jaccard 係数を使用している。Jaccard 係数は0から1までの数値をとり、より1に近いほど2つの語句が同じ文章の中に同時に出現した回数が多いことを意味し、この場合、共起性が強いと判断する。

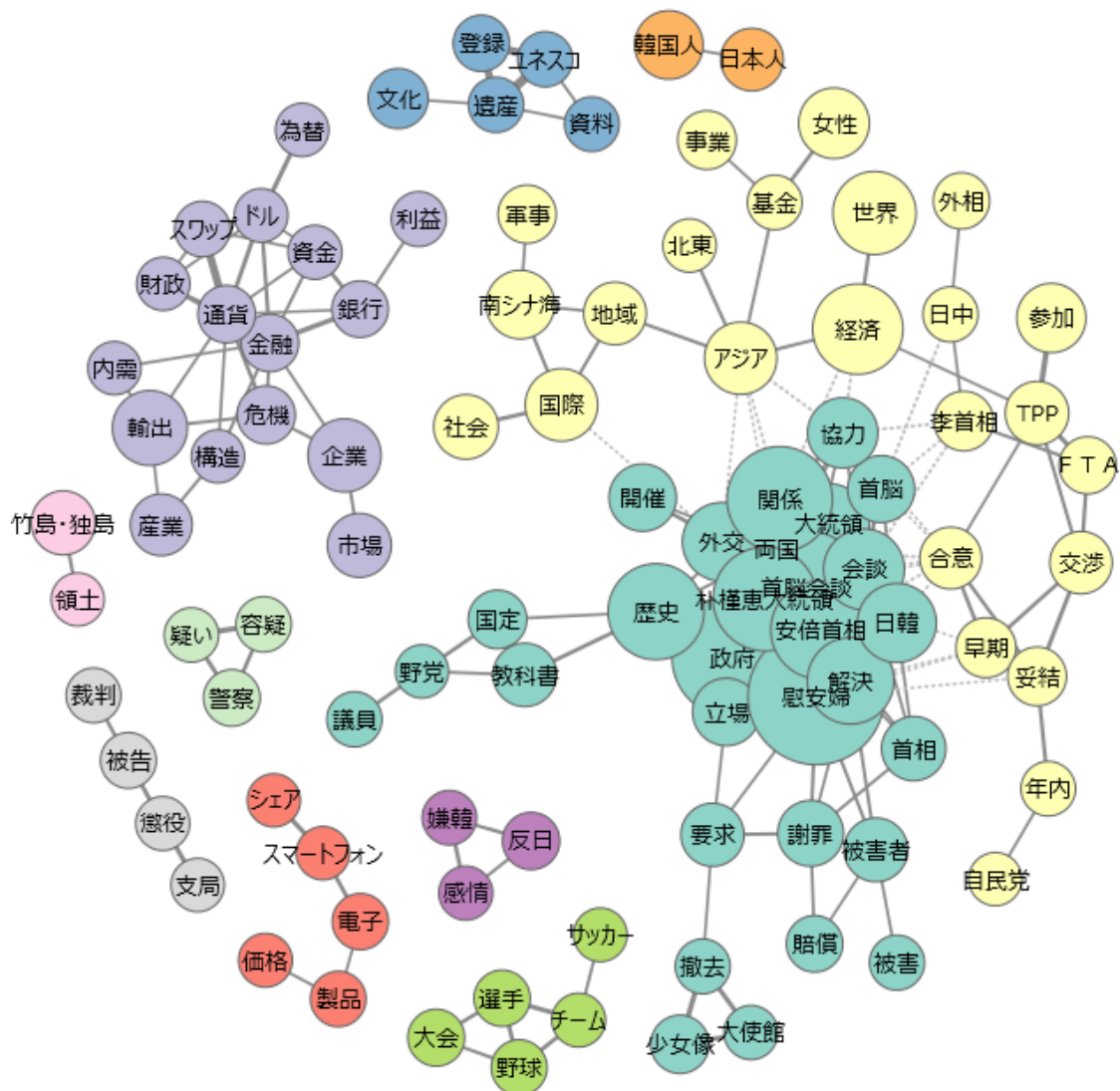


図3 東アジア news+板における共起ネットワーク

分類結果、表4のように、第1グループから第5グループに細分化された。各グループについて、表中のいずれかの語句を含んでおり、語句間の共起ネットワークが強い場合はそのグループに分類した。その後、主な使用語を中心に物語の名前を付けた。

表4 東アジア news+板における物語

グループ	物語	主な使用語	特徴
1	首脳会談	(1) 【慰安婦】：安倍首相-朴 槿恵-慰安婦-被害者-謝罪 -賠償-解決 ①慰安婦：アジア-女性- 基金-事業 ②慰安婦：少女像-大使館 -撤去-要求 (2) 【南シナ海】：国際-社会- 軍事-地域 (3) 【TPP】：アジア-地域-FTA- 交渉-早期-妥結	・慰安婦問題をめぐって相 対国との軋轢を助長し、 刺激するような記事を投 稿
2	歴史教科書	【歴史教科書】：歴史-国定- 教科書-野党	・歴史教科書の国定化問題 をめぐり、日韓両国の左 翼勢力の歴史観を猛烈に 批判
3	ユネスコ	【ユネスコ】：登録-文化- 遺産-資料	・日本のユネスコ登録に反 対する韓国を批判
4	通貨 スワップ	【スワップ】：ドル-通貨- 金融-危機	・日韓通貨スワップの再開 問題と関連し、韓国を批 判
5	その他	(1)スポーツ (2)事件・事故 (3)嫌韓 (4)電子製品	

グループ1は、「首脳会談」に関する物語である。首脳会談という語句を中心にして慰安婦、南シナ海、TPP、少女像という語句が共起関係を示した。第一に、「慰安婦」に関する物語を見てみよう。図3に示したように、慰安婦という語句が最も大きな円で描画されていた。これは、首脳会談の様々な諸懸案の中で、慰安婦問題が最優先事項として取り上げられていることを意味する。それでは、この慰安婦という語句はどのような語句と結びついているかを見てみよう。

まず、慰安婦問題の対策及び解決方法を示す「首脳会談-安倍首相-朴<sup>パク</sup>槿<sup>クネ</sup>恵-慰安婦-被害者-謝罪-賠償-解決」という共起語などが表れていた。共起ネットワークの手がかりから得られた特徴語をもとに、関連スレッドを確認してみた。関連スレッドは新聞記事をそのままコピーアンドペーストしたものであった。具体的にみると、「安倍首相の来韓反対」「日韓首脳会談反対!」「安倍首相は解決策を持たないなら来るな」「『屈辱的な首脳会談を開催しようとしている』…韓国・釜山<sup>プサン</sup>の大学生ら、『首脳会談』反対を主張」という題のスレッドがそれぞれに載せられていたことが確認された。これらの新聞記事は共通して、

日韓中首脳会談を控え、首脳会談の開催や安倍首相の来韓に反対するという内容が盛り込まれていた。

次に、2015年10月26日付のZakzak(産経新聞が発行する夕刊フジ)には、「朴大統領が慰安婦問題で謝罪要求…日本、謝罪要求『拒否』の構え…日韓首脳会談直前に韓国また『難クセ外交』」といった記事が載せられていた。日韓首脳会談をめぐり、日本政府は前提条件のない首脳会談を主張している反面、韓国政府は対日外交カードとして常に慰安婦問題を持ち出し、アプローチしているという内容であった。また、慰安婦問題に関して安倍首相に反省や謝罪を求めている韓国政府の対日姿勢を「言語道断だ」と強く批判しながら、日本政府はこの問題について冷静な対応に努めてほしいと訴えていた。10月31日付では、「朴大統領は慰安婦問題を棚上げすべきです」と題された寄稿文を掲載しており、その要旨は、両国の共同繁栄を実現するためには、韓国政府の「慰安婦問題への固執」と「中国重視・日本軽視」政策を見直しすべきだという内容であった。

一方、2015年10月28日付の韓国の朝鮮日報には「米国の威を借りて韓国に礼遇を求める日本の傲慢」という題で社説が載せられていた。同紙は、首脳同士による昼食会などの礼遇を求めている安倍首相と日本政府の姿勢を厳しく論評していた。10月31日付の記事においても、「会見なしに不満の安倍首相→会見行わない方針」と題された記事が載せていた。

以上のことから、保守系新聞としてよく知られている両国の新聞は、慰安婦問題めぐって相対国との軋轢を助長し、刺激するような記事を掲載しているということが分かった。このような傾向は保守系新聞のみにとどまらず、他の新聞社の新聞記事においてもセンセーショナルで刺激的な見出しを付けて記事を掲載していることが確認できた。

一例として、2015年10月29日付のレコードチャイナ<sup>54</sup>では「3年半ぶりの日韓首脳会談、昼食会も共同会見も省略=韓国ネット『日本はもっと感謝すべき』『状況を悪化させるだけでは?』」と題された記事が掲載されていた。また、2015年10月30日付においても「日韓首脳会談、慰安婦問題解決のカギは安倍首相?=韓国ネット『過去に縛られれば韓国だけが損をする』『日本は心配いらないよ…』」と題する記事が載せられていた。この

---

<sup>54</sup> レコードチャイナ(2005 年設立)は日本最大の中国情報サイトである。一見中華圏ニュースを伝えるように見えるが、実際は嫌韓を煽る記事が多数を占めている。



記事は慰安婦問題に関連し、韓国のネットユーザーのコメントも載せていた。以下に、コメントの一部を抜粋して紹介する。

- ・日本は心配いらないよ。韓国政府は今、教科書を国定化し、親日を美化することに一生懸命だから
  - ・過去は過去。過去が未来へ踏み出す者を邪魔するようなことがあってはいけない
  - ・安倍首相が謝罪しないからって戦争が起きるわけじゃない。過去に縛られていたら、韓国だけが損をし続けることになる
- (「日韓首脳会談、慰安婦問題解決のカギは安倍首相?」=韓国ネット『過去に縛られれば韓国だけが損をする』『日本は心配いらないよ…』 レコードチャイナ 2015年10月30日)

上述した書き込みでは、韓国の対日外交について自国のユーザーさえも「非現実的だ」と強く批判しているという内容が盛り込まれていた。そして、31日付の記事においても、レコードチャイナは「首脳会談開催も安倍首相とは食事をしない韓国大統領に『朴大統領よ、よくやった!』『安倍さんがかわいそうに思えてきた』-中国ネット」と題する記事を配信していた。首脳会談後の昼食問題と関連し、中国のネットユーザーは、以下のようにコメントを載せていた。

- ・朴大統領よ、よくやった!
- ・朴大統領もかわいいところがあるなあ
- ・安倍首相とは一緒に食事なんてしたくないという事か
- ・戦争を起こすような人と食事をしたいとは思わないよな
- ・会談の前に自分で食事を済ませてくださいという通知ですね
- ・独身女性は日本人から距離を置くべきだよな。食事を一緒にするなんてもってのほかだ
- ・世界第3の経済体が来ても食事を準備しないのか
- ・安倍さんにインスタントラーメンでもあげれば?
- ・なんだか安倍さんがかわいそうに思えてきた。どこに行っても歓待されないのだから。台湾なら歓待してくれるだろう

- ・これはちょっとおかしいと思う。安倍首相を招待したならちゃんと接待すべきだろ。そうでなければ招待すべきではない  
(「首脳会談開催も安倍首相とは食事をしない韓国大統領に『朴大統領よ、よくやった!』『安倍さんがかわいそうに思えてきた』-中国ネット」レコードチャイナ 2015年10月31日)

中国のユーザーは、首脳会談後の昼食会のおもてなしすら受けられなかった安倍首相を嘲弄するようなコメントを数多く寄せていた。このようなコメントは、安倍首相が韓国側から異例の冷遇を受けたことを強調し、日本のネットユーザーの嫌韓感情をさらに増幅させている内容だと言える。

次に、慰安婦に関する他の物語として、慰安婦問題の補償及び賠償への可能性を示唆する「アジア-女性-基金-事業」という共起語が表れていた。共起ネットワークから現れた共起語から関連スレッドを確認した結果、元慰安婦に償い金を支給したアジア女性基金が平成19年に解散した後にも、外務省が年間1,500万円の予算をつけ、韓国や台湾などの元慰安婦に支給するという内容であった。このような議論を受け、「女性」「基金」「事業」という語句の間に共起関係がみられたのだ。それと共に、慰安婦合意の前提条件として取り上げられている「少女像-大使館-撤去-要求」という共起語も目立っている。この時期にソウルの日本大使館前に従軍慰安婦問題を連想させる少女像の撤去問題が議論されていたことが読み取れた。

第二に、「南シナ海-国際-社会-軍事-地域」の間に共起関係が見られており、最近アジア太平洋地域の安全保障問題として浮上した南シナ海問題が、この時期に取り上げられていたことが読み取れた。

第三に、「アジア-地域-TPP-FTA-交渉-早期-妥結」の間に共起関係を形成しており、今回の首脳会談において一つの節目のアジア太平洋地域における地域経済統合問題が議論されたということが読み取れた。

グループ2は「韓国の歴史教科書」に関する物語を形成していた。韓国の歴史教科書の国定化問題を表す「歴史-国定-教科書-野党」という共起語が見られた。これらの語句で示したように、この時期、韓国では歴史教科書の国定化をめぐる激しい議論が起こっており、この掲示板ではこの懸案を主に取り上げているということが分かった。特に、歴史教科書の国定化問題と関連し、扇情的かつ偏向的な見出しを立てた記事が散見された。これ

に関連し、いくつかの新聞記事を見てみよう。

まず10月31日付の産経新聞では、「韓国左派の矛盾…自由な歴史観求めながら『親日教科書』は反対」という見出しの記事を載せていた。「東アジアnews+板」では、この記事で「日本で起きたことは韓国でも必ず起きる…生き残るためには裏でいつも日本を参考にする韓国」と見出しだけを変更して配信していた。その要旨は次の通りである。現在韓国で議論となっている歴史教科書の国定化復活問題をめぐり、韓国の左派リベラル陣営が多様な歴史観を認めろと言いながらも、実際は右派の教科書に対しては弾圧、追放運動をしており、このような姿勢は日本の左派リベラル陣営と類似していると指摘した。加えて「事実を記述しても『親日』になるからケシカランといって非難する」のが韓国を支配する左翼史観であると韓国の左翼リベラル陣営を強く批判していた。また「歴史教科書の国定化復活問題で大騒ぎの韓国…『親日』はケシカラン」という見出しで記事を載せていた11月2日付のZakzakにおいても、日韓両国の左翼勢力の歴史観を猛烈に批判していた。

次に、11月3日付の韓国の朝鮮日報の社説を見てみよう。保守・右派系新聞の朝鮮日報では、「国内外で戦争状態にある朴槿恵<sup>パク・クネ</sup>政権～変化した米国、見掛けほど友好的でない中国、相変わらず裏切り続ける日本」と題する社説を載せていた。この社説では、左派や野党陣営が「まだ姿を見せてもいない『新教科書』を親日とののしっているが、そのどこにも、論理的・学術的対応は見られない」と評論した。加えて、「日本は、韓国にとって、常に裏切り役だ」と日本の安保保障政策を厳しく批判していた。

グループ3は「ユネスコ」に関する物語を形成していた。世界文化遺産への登録をめぐる問題を表す「ユネスコ-文化-遺産-資料-登録」という共起語が見られた。共起ネットワークから出た共起語から関連スレッドを確認した結果、日本のユネスコ登録をめぐる、韓国側が「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録に否定的であるという内容が多数を占めていた。

関連記事の見出しをまとめたものが下記の表5である。まず、10月23日付のレコードチャイナでは、韓国政府が韓食をユネスコ無形文化遺産へ登録するためのプロジェクトの取り組みを開始したが、韓国人の反発を買っていたという記事を載せていた。次に10月26日付の産経新聞とZakzakでは、日本政府は、ユネスコの世界文化遺産への「明治日本の産業革命遺産」登録をめぐり、日韓外相会談での合意を無視し「強制労働」を声明に盛り込もうとした韓国政府の対応に強い不信感を抱いている記事を配信していた。10月28日付の民団新聞を除くとほとんどの記事では、ユーザーのヘイトスピーチ現象を煽る記事を載せて

おり、スレッドの大半はこのような記事の内容をそのままコピーして転載されていた。

**表5 ユネスコに関する新聞記事の見出し**

日付	記事出所	見出し
2015年 10月23日	レコード チャイナ	韓国料理をユネスコ無形文化遺産に！韓国政府がプロジェクト始動=韓国ネットは意外な反応？
2015年 10月26日	産経新聞	韓国が日韓首脳会談の条件に「安倍首相が慰安婦問題に謝罪」を要求、日本は応じず日程が決まらず！
2015年 10月26日	Zakzak	朴大統領が慰安婦問題で謝罪要求 日本、謝罪要求「拒否」の構え 日韓首脳会談直前に韓国また「難クセ外交」
2015年 10月27日	韓国・京 郷新聞	国際社会に寄与してきたという日本の「本心」～国際舞台の主役になる資格があるのか
2015年 10月28日	民団新聞	ユネスコ記憶遺産推進へ…通信使サミット
2015年 10月30日	ヤフー・ ニュース	日韓首脳会談は前提なしで…萩生田官房副長官、解決済みとの認識
2015年 10月31日	レコード チャイナ	韓国メディア「日本のユネスコへの文科相派遣は『慰安婦』の登録阻止が狙い」=韓国ネット「日本は世界の歴史も変えるのか」「外交手法としては見事」
2015年 11月2日	レコード チャイナ	ユネスコ記憶遺産、当事国間の調整義務を検討=韓国ネット「日本も軍艦島を登録したではないか」「日本の知的な戦術」
2015年 11月5日	産経新聞	ユネスコ記憶遺産、審査部門に日本人派遣検討 政府、中韓牽制狙いか
2015年 11月9日	レコード チャイナ	ユネスコが世界記憶遺産の制度変更に着手、日本の反発を意識?=韓国ネットは批判的「お金があれば何でも解決?」「韓国政府は何をしてるんだ」
2015年 11月11日	Zakzak	朴大統領ついに「側近」外相切り？日韓首脳会談「失敗」で責任転嫁か

記事の出所を確認してみると、レコードチャイナをはじめ、産経新聞とヤフー・ニュースなどが大半を占めていた。表5で分かるように、これらの新聞は日本のユネスコ問題と関連し、極めて扇情的な見出しを付けてヘイトスピーチを煽る記事を配信していることが読み取れた。特に、レコードチャイナの場合、日本のユネスコ問題と関連して韓国のネッ

トユーザーへの批判的なコメントを載せており、あたかもユーザーのコメントが韓国民の世論を代弁しているかのように報じていた。

以下、2015年11月9日付に載せられた韓国のネットユーザーのコメントの一部を抜粋したものである。

- ・結局、金があれば何でも解決できるということ
- ・日本の圧迫で制度が変わったら、ユネスコの価値が下がってしまう。文化的価値が重要なだけでなく、経済的な脅迫で左右されてしまうということだから
- ・日本の行為を黙って見ている米国や韓国、欧州の国々も同罪
- ・ユネスコも日本のカネで動いたのか
- ・日本は現在、ユネスコの予算の中で最も多くの部分を負担しており、発言力も相当あるだろう。お金で地球の歴史まで変えてしまえる態勢だ
- ・日本に対してどうこう言うべきではない。私たちも自身の歴史を操作しようとしていることを警戒せねばならない。恥ずかしいことだ

(「ユネスコが世界記憶遺産の制度変更に着手、日本の反発を意識? =韓国ネット

トは批判的『お金があれば何でも解決?』『韓国政府は何をしてるんだ』

レコードチャイナ 2015年11月9日)

上述した内容から分かるように、この新聞は確認されていないネットユーザーの書き込みをあたかも事実のように報道し、さらに嫌韓感情を煽っていた。

グループ4は「通貨スワップ」に関する物語を形成していた。日韓通貨スワップの問題を示唆する「ドル-通貨-スワップ-金融-危機」という共起語が見られており、特徴語から関連のスレッドを確認した結果、今回の首脳会談で日韓通貨スワップ協定に関する議論があることが確認できた。また同時期に開かれた「第25回日韓財界会議」においても、2015年2月に終了した日韓通貨スワップの再開問題が議論されたということがわかった。

特に、ここで注目すべき点は、日韓通貨スワップの再開問題と関連し、否定的な意見を示した新聞記事をそのままコピーしてスレッド化しているということである。端的な例として、10月23・26・27・31日の新聞記事では、韓国側から日本との通貨スワップを再開したいとの趣旨の発言が出され、その背景には韓国経済の低迷が一因となっていたという内容が載せられていた。

以下の引用は、関連記事の一部を抜粋したものである。まず、10月23日付のZakzakの記事を見てみよう。

韓国の資金枯渇懸念は深刻なのか。通貨危機の際に外貨を融通し合う「通貨交換（スワップ）協定」が新たに必要だと言い出したのだ。中国経済の失速や米国の利上げ観測のなか、<sup>パククネ</sup>朴槿恵政権の失策で日本との通貨スワップを終了させてしまい、焦りの色を隠せない。

（「G20やIMF・世銀の年次総会が開かれたペルーの首都リマで、韓国の窮状が明らかになった」 Zakzak 2015年10月23日（下線筆者））

次に、10月26日付の産経新聞においても韓国側が日韓の通貨スワップ協定を提案した背景について、以下のように掲載していた。

韓国側がスワップ再開を要求した背景には、成長率の低迷にあえぐ危機感がある。ウォン高に伴う輸出競争力の低下に加え、中国経済の失速で中国向け輸出に依存する韓国経済は大きな打撃を受けている。（中略）その後、韓国経済は悪化の一途をたどり、韓国の経済副首相兼企画財政相は10月上旬の国際通貨基金（IMF）と世界銀行の年次総会で「多国間通貨スワップなどのセーフティーネットで金融危機を予防する必要がある」との声明を出した。

（「韓国財界『通貨スワップの再開を』日韓経済団体会合で要求」産経新聞 2015年10月26日（下線筆者））

続いて、10月26日付のZakzakの記事を見てみよう。

韓国財界がとうとう日本に泣きついた。今年2月に終了した日韓の「通貨交換（スワップ）協定」再開を求めたのだ。米国の利上げなどによるドル流出を懸念しているようだが、そもそも協定の延長が不要だと言い出したのは韓国の方だ。韓国側が11月2日に開催を打診している日韓首脳会談でも<sup>パククネ</sup>朴槿恵大統領が身勝手な要求を重ねるのか。

（「韓国財界、日本に通貨スワップ再開を『懇願』 打ち切ったのは朴政権だが?」

Zakzak 2015年10月27日(下線筆者))

最後に、10月31日付のZakzakでは、「厚かましくも通貨スワップ再開を要求した韓国：ウォン暴落でも輸出は増えない」という見出しで記事を載せていた。

韓国経済界は有事に備え、日本と再びドル・スワップを結びたいと言い出したのである(=厚かましくも)。(中略) 現在の世界経済は「スロートレード」と呼ばれる問題を抱えているのだ。(中略) 日本の実質輸出が円安にも関わらず伸びていないのも、スロートレードが一因だ。韓国ウォンが暴落しても、韓国の輸出は増加しない可能性が濃厚なのである。(中略) またもや、韓国が通貨危機におびえる日々が始まった。

(「厚かましくも通貨スワップ再開を要求した韓国：ウォン暴落でも輸出は増えない」 Zakzak 2015年10月31日(下線筆者))

上述した内容から、保守系の新聞は、中国経済失速や米国の利上げ方針などの要因でウォン暴落や外貨流出により、韓国経済が厳しい状況を迎えているため、韓国側が日本との通貨であるスワップ再開を要求していたと一貫して報道していたことが分かった。また、10月27・31日付のZakzakでは、センセーショナルな見出し(「韓国財界、日本に通貨スワップ再開を『懇願』打ち切ったのは朴政権だが?」、「厚かましくも通貨スワップ再開を要求した韓国：ウォン暴落でも輸出は増えない」)を付けて日韓通貨スワップ懸案を取り上げていた。

グループ5は調査時期と相まって浮き彫りになった物語というより、定番物語であったり、もしくは報道内容自体がに真新しさがなくなり、形骸化されたものが取り上げられていた。共起ネットワーク上で「竹島・独島」と「領土」の語句が非常に強く関係し合い、日本の排外主義が歴史修正主義の変種としての性格を持つ(樋口 2015)とすれば、近隣諸国との領土問題は右傾化を煽るような定番物語であると言える。次に、「サッカー-野球-選手-チーム」などの語句が共起ネットワークが見られた一方、「警察-容認-疑い」という語句も共起ネットワークを形成していた。その他に、韓国の電子製品に関する共起語である「スマートフォン-シェア-電子-製品-価格」も目立っていた。

#### 4.1.2.2 ハングル板における共起ネットワーク分析

「ハングル板」における共起ネットワーク分析の結果は、図4の通りである。分析の結果、「首脳会談-在日朝鮮人<sup>55</sup>-ユネスコ-経済-その他」の5つのグループに分類された。特に、この掲示板で「在日朝鮮人」というグループが表れていることから、「東アジアnews+板」とは異なる対立の構図が示唆されている。共起ネットワーク分析からも、ある程度中心的な物語をうかがい知ることができるのだが、より詳細な分析のために、グループに細分化した。分類結果、表6で示されたように、第1グループから第5グループに細分化された。

第一に、「慰安婦」に関する物語である。図4に示したように、日韓最大の懸案である「慰安婦」は出現頻度の高い語句として大きい円で描画されており、この語句を介して多くの語句につながりがあると分かった。それでは、この慰安婦という語句はどのような語句と結びついているかを見てみよう。

まず、「慰安婦-日本政府-謝罪-賠償-責任」という語句が特徴的に表れていた。共起ネットワークの手がかりから得られた特徴語をもとに、関連スレッドを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

そもそも、慰安婦に関しては、日本政府の責任はないよ。犯罪者の朝鮮人女衞の責任があるだけ。その朝鮮人女衞も実際に犯罪してたかどうか証明されてない。すなわち、日本政府の責任など考える余地はない。慰安婦強制連行捏造に関与した疑いがある。福島瑞穂や、朝日新聞、そして、元記者植村や、上野千鶴子らを国会に証人喚問して情報を残すべき。

マンセイ名無しさん：2015/11/07(土) 19:40 ID:21W\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」)(下線筆者))

今回の首脳会談において、両国の首脳は慰安婦問題に関し、「早期の妥結を目指して交渉を加速化させる方針」で合意したが、上記の内容を見てみると、旧日本軍による慰安婦

---

<sup>55</sup>「在日朝鮮人」という言葉は差別語であるが、本論文では2ちゃんねるユーザーの韓国人認識を問題にするという意味で、第2グループの名前を「在日朝鮮人」と付けた。



図4 ハングル板における共起ネットワーク

表6 ハングル板における物語

グループ	物語	主な使用語	特徴
1	首脳会談	(1) 【慰安婦】：日本政府-謝罪-賠償-責任 ①少女象：撤去-大使館-団体-市民 ②慰安婦：政府-謝罪-女性-基金-予算-事業 (2) 【南シナ海】：李首相-歴史問題-歴史認識-懸案-日韓中 (3) 【昼食】：日本側-韓国側-立場、当局	・慰安婦合意に否定的な立場を示し、昼食会を催さない韓国を非難
2	在日朝鮮人	【在日朝鮮人】：特別永住-不法-差別-憲法-法案-安保-国会-警察-事件-デモ-外国人-難民-テロ-人種 (1)チョン-バカ (2)嫌韓-感情	・特別永住権を取り上げ、在日韓国人を攻撃
3	ユネスコ	【ユネスコ】：産業-世界	・ユネスコの世界文化遺産の登録をめぐり、「強制労働」を声明に盛り込もうとした韓国側に不信感
4	通貨スワップ	【スワップ】：通貨-金融-危機-市場	・通貨スワップの再開を求めた韓国側を非難
5	その他	(1)障害-世代 (2)民主党-政権	

第二に、慰安婦を象徴する「少女像」は「撤去-大使館-市民-団体」という語句とつながっていた。今回首脳会談で、安倍首相は慰安婦問題を早期に妥結するための最低限の条件として、少女像などの設置中断や撤去を要求したため、このような共起関係が見られた。他に注目すべき点として、少女像という語句は慰安婦という語句と切り離され、独立して配置されていることである。これは、首脳会談が終了した後でも、少女像をめぐる問題がユーザーの間でしばしば取り上げられていたからである。

第三に、「慰安婦-政府-謝罪-女性-基金-予算-事業」という語句が目立っていたことから、元慰安婦に対する補償事業などを行っているアジア女性基金問題がこの時期議論されていたことがわかった。

第四に、「南シナ海-李首相-日中-外相」などが特徴的な語句として表れていた。最近アジア太平洋地域の安全保障問題として浮上した「南シナ海」問題は、今回の首脳会談において「慰安婦」問題と共に最大の懸案の一つでもあった。これを受け、「ハングル板」に

おいては、南シナ海に対する中国の領有権主張や人工島の建設をめぐる問題が取り上げられていた。

第五に、「昼食」という語句が目立っていた。首脳会談の昼食会を巡る問題を表す「日本側-韓国側-当国-昼食」という共起語が見られた。これと関連してより詳しく内容を検討するため、共起ネットワークの分析から表れた特徴語をもとに、関連書き込みを確認した。韓国側が、日本政府が求めた会談後の昼食会開催を拒否したことと関連して、ネットユーザーから興奮の声が漏れていたことがわかった。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

今朝の朝日によると今回の会談は韓国に振り回された上に、日本から希望した昼食も拒否されたことになってるそう。日本を翻弄するだなんて、朴大統領は凄い外交巧者だったんだね。予想するに今回の冷遇っぷりは、日本外交の歴史に残る1ページとなるでしょうね。

マンセイ名無しさん：2015/11/01(日) 00:09 ID:MiH\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」)

上述した書き込みから、首脳会談後の昼食会を行わないとしたことと、安倍首相が中国の李首相に比べて冷遇されているということについて、ネットユーザーが憤慨していたことが読み取れた。

グループ2は「在日朝鮮人」に関する物語である。これは「東アジアnews+板」では扱っていないことから、「ハングル板」独自の物語であると言える。図4を見ると、「在日朝鮮人」という語句を中心として、「特別永住-人種-差別-国籍-制度-犯罪-不法-難民」など多くの語句とのネットワークを有していた。ここで、注目したいことは、「特別永住者」という語句を使い、「在日朝鮮人」のイメージが表象されていたという点である。

共起ネットワークから得られた語句を参照しながら、関連書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

日本に入国する外国人に指紋採取と顔写真の撮影に応じることを義務付ける改正出入国管理・難民認定法が施行されたが、在日韓国・朝鮮人ら特別永住者は対象外である。いかなる理由があってこのように、在日韓国人だけを特別優遇するのか。(中略)

国際環境がテロゲリラとの闘いに協調する中、犯罪の温床ともいうべき指紋押捺制度の特例は犯罪テロ国家と名指しされかねない悪法である。即刻、特例廃止を要望する。

マンセー一名無しさん：2015/11/02(月) 01:56 ID:Goh\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」)

上述した書き込みから分かるように、在日韓国人だけは一般の外国人にはない「特別永住者資格」という特権を持っているという論点と共に、この資格こそ犯罪の温床となっているため、「特別永住者資格」の廃止を政府に強く求めているという論点が読み取れた。

ここで特に強調しておきたいのは、「在日特権」という物語である。ヘイトスピーチを研究した複数の先行研究においても、「在日特権」という物語は「在特会」をはじめとする排外主義運動で最も重要な言説となってきた(安田 2012；樋口直人 2014；野間 2015；小倉他 2016；宮城 2016)と報告されている。「在特会」が主張する四つの在日特権の中で、本論文では「特別永住資格」に関する物語が目立っていた。この「特別永住権」は、戦前に日本人であったという「歴史的経緯」と引き続き日本に住んでいるという「定住性」で認められた権利を言う(樋口直人 2014；高 2015)。それにもかかわらず、在特会が在日朝鮮人に対してヘイトスピーチをする際、しばしば俎上に載せられるのが「特別永住者資格」の問題である。「2ちゃんねる」掲示板においても、在日韓国人が一般的な外国人の永住資格とは異なり優遇措置を受けていると主張していた。このようなことを考慮すると、「特別永住」という物語はヘイトスピーチを煽る物語として根深く位置づけられていたということが読み取れた。ここで注目すべき点は、同じ「2ちゃんねる」掲示板でも、「東アジア news+板」では「特別永住」という物語が登場しておらず、この点については後述する。その他、在日朝鮮人を卑下する際、よく使われる「チョン」という語句が「バカ」という語句と共起ネットワークが見られた。

グループ3は「ユネスコ」に関する物語であり、共起ネットワーク上で「ユネスコ遺産-世界」などの語句が目立っていた。関連特徴語を参照しながら書き込みを確認してみた。ユネスコの問題に関連し、次のような書き込みが寄せられた。

菅氏はユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界記憶遺産に、中国が申請した「南京大虐殺の記録」が登録されたことについて、「一方的に中国の言い分だけで指定した」と指摘した。そのうえで、記者団が「ユネスコへの拠出金の停止や削減を検討す

るのか」と聞いたのに対し、「そういうことだ」と述べ、拠出金の停止や削減を検討する考えを示した。私たちは政府のこの方針を全面的に支持する。かつユネスコに対し、断固たる対応を要望するものである。

マンセー名無しさん：2015/11/06(金) 00:34 ID:iUB\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」)

上述した書き込みから、中国の「南京大虐殺文書」がユネスコに登録されたことに対し強い不信感を示すと共に、ユネスコへの拠出金の停止や削減を求めているということが読み取れた。これと関連とし、次の書き込みを参照してみよう。

南京事件・従軍慰安婦についての中国と韓国の攻勢が、ユネスコ世界記憶遺産への登録やアメリカにおける慰安婦像の増設など増長の一途をたどっています。その対抗策として該当歴史関連書を英語のみならず主要言語に翻訳して、世界中に日本の立場や正しい歴史を発信することが必要です。日本政府は約8000万円で日本文化に関する書籍100冊程度を英訳し、海外の研究機関や図書館などに提供すると昨年発表しました。その事業の延長として、南京事件・従軍慰安婦に関する事実や背景にある中国の反日活动や意図（日米韓の分断や日本の孤立化）、そして中国の覇権主義による究極の目標について著した日本の書籍を主要な外国語に翻訳して配布することが急務です。サンフランシスコ市議会とユネスコでの敗北への反省という意味からも、日本国民の税金を有効に活用した日本国民のための翻訳事業の拡大を緊急課題とされることを強く要望します。

マンセー名無しさん：2015/11/04(水) 00:17 ID:S88\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みから、ユネスコの世界記憶遺産に中国が申請した「南京事件」と韓国が提出した「慰安婦」の資料が登録されたことについて疑問を抱いていたことがわかった。つまり、韓中が提出した資料は歪曲された史実に基づいたものであるため、反日感情を助長する懸念があるというのである。また、その対抗策として、日本書籍の翻訳事業の振興を図る必要があると提案していた。その他の書き込みでは、ユネスコによる「明治日本の産業革命遺産」を世界文化遺産に登録する過程で韓国や中国から反発を受

けて以来、2ちゃんねるユーザーが韓国や中国を袋叩きにしていたということが確認された。なお、朝鮮人強制労働問題をめぐる日韓間の確執が浮き彫りになったのが2015年7月であったにもかかわらず、ネットユーザーの憤りは収まらず、嫌韓ムードが一層広がったということも読み取れた。

グループ4は「通貨スワップ」に関する物語である。「通貨-スワップ-金融-危機」という一連の語句がつながっていた。関連特徴語を参照しながら書き込みを確認した結果、この時期に全国経済人連合会(以下、全経連)と日本経団連が、日韓通貨スワップの再開問題を含めた両国の経済協力案を議論していたことがわかった。全経連が日本側に求めた「日本通貨スワップ再開」に対し、「ハングル板」では、次のような書き込みが寄せられていた。

韓国が日本との通貨スワップ再開を懇願…今さら虫がよすぎるのではないかな？ 何を今さらムシのいい話を断固拒否すべきだ。韓国が慰安婦問題や竹島・独島問題などで対日強硬姿勢を続けているのに、困ったときにだけ日本に泣きついてくる姿勢に正直、あきれかえった。

マンセイ名無しさん：2015/10/31(土) 08:44 ID:Zuw\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」)

上述した書き込みから、日韓通貨スワップ協定に断固反対の立場であると共に、通貨スワップは日本から韓国に対する実質的支援であるという論点も読み取れた。その他、「日韓通貨スワップ協定は、日本にとってまったくメリットがない」「恩を仇で返すような国とは協力なんて一切しなくても良い」「日韓通貨スワップは事実上は韓国救済になる」などの書き込みが見られた。

グループ5は「世代」という語句が「障害」という語句と共通するグループを形成していた。関連特徴語を参照しながら書き込みを確認してみた。首脳会談が開かれた時期に日本の安倍首相と鳩山元首相が相次いで訪韓した。民主党の鳩山元首相は、韓国・ソウル大学で「日韓国交正常化50周年に日韓関係を再び見つめ直す」というテーマで特別講演を行った。講演会での鳩山元首相の発言が2ちゃんねるの「ハングル板」で話題を呼んでいた。2015年11月5日の講演会で鳩山元首相は、安倍首相が8月に発表した戦後70年談話に触れ、「安倍首相は反省と謝罪について繰り返し言及しながらも、自ら反省と謝罪の気持ちを伝

えていない」と批判する一方、「敗戦国は、戦争の被害に対し事実上『無限責任』を負う」とした内田樹氏の言葉を引用し、「安倍政権は慰安婦問題などについて、この言葉を心に留め、応じることができる方法を講じなければならない」と力説した。

鳩山元首相の発言と関連し、2ちゃんねるの「ハングル板」では首脳会談の当時安倍首相の発言を引用しながら、鳩山元首相に対する強い不信感を抱いた書き込みで溢れかえった。

土下座外交は屈辱的…鳩山個人に関しては誰も思っていないどころか何故お前はベストを尽くさない、自分の資産すべてを慰安婦の方たちへの補償にあてないのかと憤っているだけだと思います。私は遠慮しておきます。理由のない土下座をする意味が分かりませんので。

マンセー名無しさん：2015/11/05(木) 21:19 ID:Mwo\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」)

今回の首脳会談の際、安倍首相は慰安婦の問題について、「未来志向の日韓関係を構築する上で、将来世代に障害を残すことがあってはならない」と表明した。二人の首相の発言について、産経新聞では「相次ぎ訪韓した安倍首相と鳩山元首相―将来に禍根残すのはどっちだ?」という見出しの記事を載せた。新聞の見出しから分かるように、安倍首相と鳩山元首相の対決を強調するような構図が浮き彫りになっている。これと関連し「ハングル板」では、産経新聞の記事を引用した書き込みが目立っていた。11月19日の記事は該当書き込みの収集には対象外であるが、このような新聞の報道内容が実質的にはヘイトスピーチ言説を煽る論拠として用いられているため、注目に値すると判断した。以下の書き込みは、11月19日の産経新聞の記事の一部を抜粋したものである。

リップサービスのようにも聞こえるが、本人は心から反省の意を込めて語っているのだろう。韓国の聴衆は安倍首相の主張を塗り替え、修正するような言葉に「やはりそうか。安倍は間違っているのだ」と安心、納得したような表情を見せていた。鳩山氏が韓国で何を話そうが、それは基本的に鳩山氏の自由だ。しかし、韓国側が主張する歴史認識に一方的に同調する鳩山氏の発言は、日本に反省を求め続ける韓国世論を勇気づけ、火に油を注いでいるかのように映る。安倍首相が言ったとおり、「将来世

代の障害にならないように」しなければならない。現首相と元首相がソウルで発した言葉。どちらが将来の世代に禍根を残すことになるのだろうか。

(「相次ぎ訪韓した安倍首相と鳩山元首相―将来に禍根残すのはどちらだ?」産経・2015年11月19日(下線筆者))

現在の日韓関係をめぐって鳩山元首相の一連の発言が、2ちゃんねるの「ハングル板」で批判的に議論されていることが読み取れた。また、「ハングル板」では「民主党」の出現頻度が他の政党より相対的に高く表れており、2ちゃんねるの「ハングル板」において民主党がどのように表象化されているのかについては後述する。

## 4.2 リサーチ・クエスチョン2の検証：イルベ掲示板の政治日刊ベスト板における主な物語

本論文のリサーチ・クエスチョン2は、「イルベ」掲示板において顕著に現れている「物語」は何かを検討することである。

### 4.2.1 上位100位内の頻出語の抽出

リサーチ・クエスチョン2を検証するため、本論文は「政治日刊ベスト板<sup>56</sup>」のそれぞれのスレッドについて抽出語分析を行った。出現頻度が高かった上位100位内の頻出語を抽出した結果が表7である。

---

<sup>56</sup> 「政治日刊ベスト板」の最終閲覧日は2016年8月18日である。



表7 政治日刊ベスト板における抽出語リスト(上位 1-100 位)

順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度	順位	抽出語	頻度
1	李明博	953	34	発展	92	67	暴動	47
2	イルベ	726	35	リベラル	90	68	告発	46
3	朴正熙	642	36	時節	88	69	自転車	45
4	国家	594	37	金正日	86	70	地獄	45
5	左派	515	38	時代	81	71	独裁者	44
6	大統領	401	39	選挙	80	72	現実	44
7	病身	326	40	政権	78	73	狂牛病	44
8	人	324	41	全元策	72	74	文在寅	43
9	金大中	321	42	可能	71	75	共産主義	43
10	盧武鉉	297	43	成功	70	76	革命	43
11	ガンギエイ	227	44	業績	67	77	中小企業	41
12	国民	222	45	必要	67	78	告訴	40
13	4 大河川	196	46	事件	66	79	記念館	40
14	民主化	194	47	事業	65	80	努力	40
15	朴槿恵	184	48	起訴	62	81	デモ	39
16	北朝鮮	179	49	社会	60	82	雲芝	39
17	大韓民国	172	50	従北	60	83	民主党	38
18	独裁	168	51	その時	59	84	狙撃	38
19	右派	149	52	庶民	57	85	貧乏	38
20	民主主義	145	53	話	56	86	評価	38
21	保守	135	54	金日成	55	87	大企業	37
22	朴元淳	130	55	大型スーパー	54	88	もし	37
23	政治	128	56	放送	54	89	反駁	37
24	政府	118	57	真実	54	90	証拠	37
25	イイダコ	115	58	仕業	53	91	金正恩	37
26	政策	110	59	市民	49	92	選管委	37
27	当時	108	60	面白さ	49	93	BBK 株價造作事件	36
28	チュン(虫)	108	61	指導者	49	94	産業化	36
29	扇動	106	62	虚偽	49	95	高速	36
30	反対	103	63	3 人兄弟	49	96	規制	36
31	伝統市場	102	64	邊熙宰	49	97	産業	36
32	ファクト	99	65	勢力	48	98	英雄	36
33	全羅道	96	66	涙	47	99	クーデター	36
						100	世代	35

まず、上位 20 位内の抽出語を検討してみると、「李明博<sup>57</sup>(1 位)」「朴正熙<sup>58</sup>(3 位)」「大統領(6 位)」「金大中<sup>59</sup>(9 位)」「盧武鉉<sup>60</sup>(10 位)」「朴槿惠<sup>61</sup>(15 位)」などの新旧大統領<sup>62</sup>が「政治日刊ベスト板」に数多く取り上げられていることがわかった。次に、国と国民を表す「国家(4 位)」「人(8 位)」「国民(12 位)」「北朝鮮(16 位)」「大韓民国(17 位)」の

---

<sup>57</sup> 李明博(1941 年-)は、第 17 代大統領(在任期間：2008-2013 年)で、保守政党の所属である。日本の大阪府出身で、現代建設の社長やソウル特別市長などを歴任した。

<sup>58</sup> 朴正熙(1917-1979 年 10 月 26 日)は、第 5-9 代大統領(在任期間：1963-1979 年)で、保守政党の所属である。慶尚北道出身で、1961 年軍事クーデターで権力を掌握し、1963 年大統領に就任した。民主化運動を弾圧しながら、開発独裁による経済発展を推し進め、「漢江の奇跡」と呼ばれる高度経済成長を遂げた。

<sup>59</sup> 金大中(1925-2009 年 8 月 18 日)は、第 15 代大統領(在任期間：1998-2003 年)で、革新政党の所属である。韓国史上初めての全羅南道出身の大統領かつ左派・革新政権の大統領である。金大中大統領は、1970~80 年代に軍事独裁下で民主化運動に貢献した。1997 年 12 月、アジア通貨危機の直撃を受け、韓国が国際通貨基金(IMF)の管理下に入った中で大統領に就任した。金大中大統領は、新自由主義的な構造調節政策を行った。また、北朝鮮に対して「太陽政策」と称される融和政策を推進し、2000 年には北朝鮮の金正日国防委員長との南北首脳会談が実現し、「6.15 南北共同宣言」を締結した。これが評価され、金大中大統領はこの年にノーベル平和賞を受賞した。

<sup>60</sup> 盧武鉉(1946 年-2009 年 5 月 23 日)は、第 16 代大統領(在任期間：2003-2008 年)で、革新政党の所属である。慶尚南道出身の盧武鉉大統領は、金大中大統領の思想と政策(新自由主義政策や北朝鮮への融和政策)を継承した。

<sup>61</sup> 朴槿惠(1952 年-)は、第 17 代大統領(在任期間：2013-2017 年)で、保守政党の所属であり、慶尚北道出身である。親友の国政介入問題をめぐって国会で弾劾訴追され職務停止中の朴大統領について、憲法裁判所は 2017 年 3 月 10 日、弾劾を正当と認めて罷免を決定した。

<sup>62</sup> 「イルベ」掲示板では、特定の人物や地域などを卑下する際に使う言葉などが飛び交っており、本論文では用語の混乱を避けるために、使用する用語を統一して分析を行った。例えば、盧武鉉元大統領を呼ぶ際、「ノアラ」(= 노알라)、「ノムヒョン」(= 놈현)、「ノムノム」(= 노무노무)、「ノウンジ」(= 盧雲芝：노운지)、「ゴムトン」(= 고무통)などの言葉が多用されており、本論文では、これらの用語を「盧武鉉」に統一した。というのも、KH Coder を分析する上で、使用される用語が統一されていない場合には、正確な結果を得ることが難しいからである。ただし、多少ニュアンスや意味が異なる用語の場合は、記述されているものをそのまま表記した。

5つの語句が抽出された。これと共に、政治的立場、政治思想や政党などを表す「独裁(18位)」「民主主義(20位)」やイデオロギーの対立を表す「左派(5位)」「右派(19位)」という語句も目立っていた。その一方、特定地域を誹謗中傷する際に使われる「ガンギエイ(11位)」や李明博<sup>イ・ミョンバク</sup>政権が意欲的に推進した「4大河川(13位)」という語句も上位20位内に抽出された。

その他、「イルベ(2位)」「病身(7位)」「民主化(14位)」などの語句が登場しており、このような語句は「イルベ」掲示板だけで通用する用語である。ここで強調したいのは、これらの用語は本来と異なる意味で使用されているという点である。

まず、「イルベ」という語句は、SNSやニュース・サイト、ブログなどで、ある特定のコンテンツに対する支持及び同意の意思を示す「いいね!」ボタンと同じ意味で使われている。それゆえ、「イルベ」掲示板において「いいね!」ボタンと同じ意味の「お勧め」ボタン<sup>63</sup>の名前は「イルベロ」と呼ばれているわけである。その一方で、「イルベ」という語句と対比される「民主化」という語句は、「イルベ」掲示板で「反対」「NO」「押さえ込む」という意味で使われている。つまり、「イルベ」掲示板において「お勧め」ボタンは「イルベロ」、「お勧めしない」ボタンは「民主化」としてその名前が使われている。そして「イルベロ」の以前の名称が「産業化」であったことを考慮すると、イルベユーザーは「産業化」と「民主化」という語句を肯定と否定の意味としてそれぞれ使っていることも分かった。

次に、韓国において「病身」という言葉は、身体機能の一部または身体システムのレベルで異常が発生した人や心身の障害にある人を卑下する蔑称語として使われている。「イルベ」掲示板において「病身」という言葉は、二つの意味として使用されている。一つは、「良くない」「マイナス」的な人や駄目な物事全般を指す言葉として使われている。一例として、全羅道<sup>チョルラド</sup>地域の人々、リベラル左派を嘲弄する際に「病身」という言葉がよく使用されている。もう一つは、ユーザー同士がお互いに呼び合う際にも「病身」という言葉が習慣的に使用されている。

比較の範囲を拡大し、上位100位内のすべての頻出語を分析してみると、左・右派政治家や政治論客、北朝鮮の政治家の名前が多数登場している一方で、「政府(24位)」「政策(26位)」「民主党(83位)」という語句と共に「保守(21位)」「リベラル(35位)」「共産主義

---

<sup>63</sup> 「お勧め」ボタンについての詳細は3.2節を参照すること。

(75 位)」という語句も目立っていた。また、北朝鮮を擁護するような人々や団体を非難する際に使用される「従北(50 位)」、韓国の南西部地域に位置する「全羅道(33 位)」という語句も登場していた。

他に注目すべき点は、上位 20 位内の抽出語と同様に、「イルベ」掲示板で独自に使われている言葉である「チュン(28 位)」が表れていることである。ここで「チュン(虫)」というのは、「イルベ」掲示板で活動している人を見下す際に使われている言葉である。このように、上位 100 位内の頻出語からイルベユーザーは自らを「病身」「チュン(虫)」と称していることが分かった。次に、「イイダコ」「雲芝」のような言葉が登場しており、これは、金大中・盧武鉉元大統領を卑下する際に使用される表現であり、詳細については後述したい。

上位 100 位内の頻出語から、以下のような特徴が見て取れる。第一に、上位 10 位内では新旧大統領の名前が 40%を占めており、その中でも、左派系である金大中・盧武鉉両大統領を誹謗中傷する言葉が目立っていた。第二に、「ガンギエイ」や「全羅道」という語句が目立っていることから、「政治日刊ベスト板」では特定の地域への反感が存在していることが読み取れた。第三に、韓国以外の国として北朝鮮に関する語句などが登場していることから、北朝鮮や国内の従北勢力への嫌悪感が読み取れた。

#### 4.2.2 共起ネットワーク分析

「政治日刊ベスト板」における全体的な傾向を把握するため、共起ネットワーク分析を行った。「政治日刊ベスト板」における共起ネットワーク分析の結果は、図 5<sup>64</sup>の通りである。

<sup>64</sup> 図 5 の Jaccard 係数は 0.0697 であった。

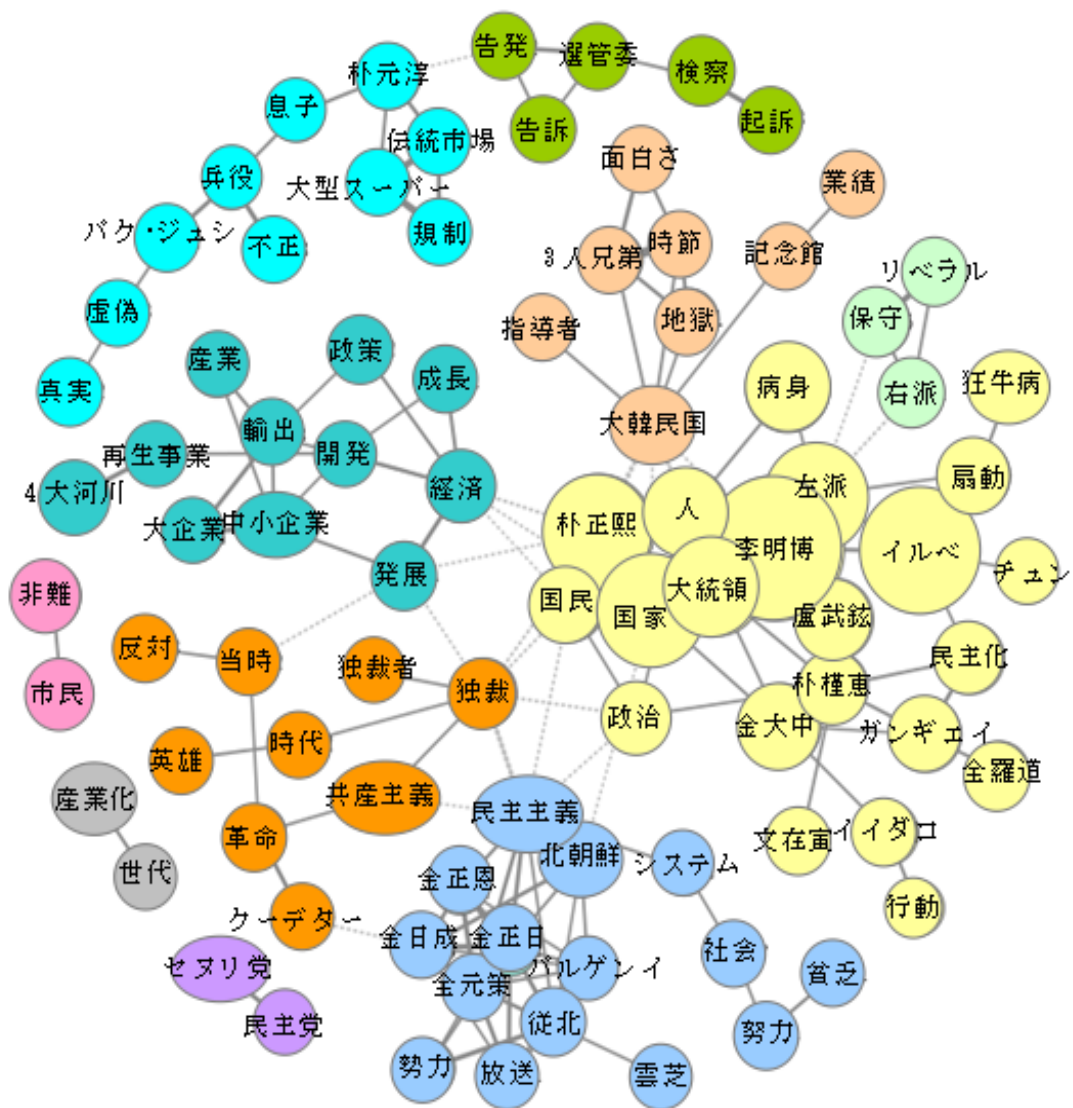


図5 政治日刊ベスト板における共起ネットワーク

上位 100 位内の頻出語の抽出や共起ネットワークからもある程度主な物語をうかがい知ることができるのだが、より詳細な分析のために、本論文では、共起ネットワークの分析結果のもとに、「2 ちゃんねる」掲示板と同様にグループに分類した。分類の結果、表 8 で示すように区分された。

表8 政治日刊ベスト板における物語

グループ	物語	主な使用語	特徴
1	左派 バッシング	(1) 【左派】：狂牛病-扇動-李明博 (2) 【3 人兄弟】：地獄-面白さ (3) 【金大中】：民主化-イイダコ (4) 【朴元淳】：伝統市場-大型スーパー-規制-息子-兵役-不正-真実-虚偽	・左派や民主党への不満
2	地域感情	【全羅道】：金大中-ガンギエイ-民主化	・全羅道地域を卑下
3	北朝鮮と従北	【北朝鮮】：全元策-金日成-金正日-金正恩-放送-パルゲンイ-従北-雲芝	・従北(= 新北)思想への嫌悪
4	高度経済成長期の華やかで浮ついていた時代への憧れ	(1) 【経済】：中小企業-大企業-輸出-開発-政策-発展 (2) 【独裁】：独裁者-時代-英雄-革命-クーデター-民主主義-共産主義	・経済成長に関する神話
5	その他	産業化-世代	

グループ1では「左派バッシング」に関する物語を形成していた。第一に、「左派-狂牛病-扇動-李明博<sup>イ・ミョンバク</sup>」などの共起語が見られた。共起ネットワークの手がかりから得られた特徴語をもとに、関連ある書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

狂牛病関連蠟燭デモは左翼ゾンビが扇動したことで起こったよ。左翼ゾンビは自分たちの見たいことだけ見て、聞きたいことだけしか聞かない。いくら政府が反論の情報資料を出しても受け入れられなかったのだから…

韓国馬事会：2014. 01. 06 15:03

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みから、米国産牛肉を食べたら狂牛病(牛海綿状脳症=Bovine Spongiform Encephalopathy、略語：BSE)にかかるという話は、当時李明博<sup>イ・ミョンバク</sup>政権を追い詰めるための左

派勢力の扇動によるものという見解が読み取れた。そして、左翼や北朝鮮に友好的な人や団体を卑下する「左翼ゾンビ(= 좌좀)」という語句が目立っていることから、「政治日刊ベスト板」のユーザーの間では、左派的政治傾向を持つ人や団体は攻撃の対象になっていることがわかった。以下の関連書き込みの引用からも、このような内容が読み取れよう。

左翼ゾンビへのおねだり、クァンウボン蝋燭デモのせいで、能力を十分に発揮できなかった閣下(意訳：李明博大統領)。

True bird : 2014. 06. 10 09:28

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

当時李明博政権は、米国産牛肉の輸入解禁で危機に陥り、その背景には左派リベラル勢力による偽ニュース(fake news)や陰謀論があるという見解が読み取れた。上述した書き込みの中で、「クァンウボン」という言葉が使用されていた。「狂牛病」は韓国語で「クァンウビョン」(= 광우병)と表記するのが原則であるが、「政治日刊ベスト板」では「クァンウビョン」(= 광우병)を「クァンウボン」(= 광우뽕)に置き換えられていた。ここで、「ボン」(= 뽕)は日本語で「嘘」と同様な意味を持つ。つまり、「イルベ」掲示板における「クァンウボン」という言葉は、リベラル左派勢力の作った嘘情報(デマ)や怪談という意味で使用されていることが分かった。

第二に、「3 人兄弟-地獄-面白さ-時節」という語句間に強い共起関係が見られた。共起ネットワークの分析から表れた特徴語をもとに、関連書き込みを参照しながら見ていく。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

李明博政権の時代に大韓民国で最も仲の良い 3 人兄弟を地獄に送って太平の世の中を築くことができた。

ザンジペギ : 2014. 01. 06 20:39

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容で「3 人兄弟」という言葉が登場するが、ここでの「3 人兄弟」とは、左派大統領の「金大中・盧武鉉」元大統領や北朝鮮の「金正日」国防委員長を指す。この掲示板では、3 人の政治家の死去を比喩的に「太平の世」と表現することで、

これらの政治家の死去を嘲弄していることがわかった。また、当掲示板ではこれらの3人の政治家への侮辱や嘲弄の言葉が飛び交っていることが確認された。上位100位内の頻出語と照らし合わせてみても「金大<sup>キムデ ジュン</sup>中」(9位:321回)、「盧武<sup>ノム ヒョン</sup>鉉」(10位:297回)、「金<sup>キム</sup>正<sup>ジョンイル</sup>日」(37位:86回)の出現頻度が高かった。以上のような結果から、「政治日刊ベスト板」では左派政治家や北朝鮮に対する不満の声が上がっていることが読み取れた。

第三に、金大<sup>キムデ ジュン</sup>中元大統領の歩く姿を風刺した「金大<sup>キムデ ジュン</sup>中-イイダコ-行動」間に共起関係が見られた。関連書き込みを確認した結果、金大<sup>キムデ ジュン</sup>中元大統領が普段足を引きずって歩く姿を嘲弄する内容であった。当掲示板では、金大<sup>キムデ ジュン</sup>中元大統領の歩く姿を比喩的に「イイダコ」と表現しながら金<sup>キム</sup>元大統領を嘲弄していた。

第四に、「朴<sup>パク ウォン スン</sup>元淳-伝統市場-大型スーパー-規制」や「朴<sup>パク ウォン スン</sup>元淳-息子-兵役-不正-告発」の間に共起関係が見られた。共起ネットワークの手がかりから得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。朴<sup>パク ウォン スン</sup>元淳ソウル市長(共に民主党所属)は、伝統市場<sup>6</sup>と零細商圈を生かすため、大型スーパーに関わる規制を行い、大型スーパーの営業時間の短縮と義務休業日数を増やす政策を施行した。これに対し、多数の反対意見が「イルベ」掲示板に載せられていた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

路地商圈の活性化、でたらめ極まりない。自由市場体制においてサービスの質が大切なのに、市場向けサービスではただの自然淘汰だよ。規制したとしてよくやっただけと言えるかよ！

モーションシックスネス：2013.12.29 16:05

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容をみると、いくら大型スーパーと企業型スーパーマーケットを規制するとしても、伝統市場がサービスの質的向上を図らない以上、伝統市場はよみがえるものではないという見解が読み取れた。つまり、伝統市場を再生させる意図であれば、とりわけ伝統市場の競争力強化が急務の課題というのである。

次のユーザーの書き込みにおいても、大型スーパーの規制に対して反論を述べていた。

---

<sup>6</sup> 伝統市場とは、行商たちが集まり、伝統的な形式で物品を販売する市場のことである。在来市場とも呼ばれている。伝統市場には、主に地方で5日ごとに開かれる五日場や、都市で開かれている常設市場など種類がある。日本の商店街や小売市場と類似している。



<sup>パクウォンスン</sup>朴元淳ソウル市長の公約と民主党が余計なことをしたせいで、ソウル・<sup>キョンギ</sup>京畿・<sup>インチョン</sup>仁川などの首都圏地域で営業ができなくなって、休みの日も増えるようになってきた。

通り過ぎるカッソク：2013. 12. 30 16:44

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みでは、大型スーパーに納品する中小業者の被害が加重されるという見解が反映されていた。

次に、「<sup>パクウォンスン</sup>朴元淳-息子-兵役-不正-告発」の間に共起関係が見られた。関連書き込みを確認した結果、あるユーザーが、<sup>パクウォンスン</sup>朴元淳ソウル市長の息子(パク・ジュシン氏)の兵役逃れ疑惑を取り上げ、<sup>パクウォンスン</sup>朴元淳側から告発を受けたという内容であった。当掲示板では、これに対し、告発を受けたユーザーに同情し応援する内容の書き込みが寄せられていた。

グループ 2 は「地域感情」に関する物語を形成していた。<sup>キムデジュン</sup>金大中元大統領の出身地域への嘲弄が盛り込まれた「<sup>キムデジュン</sup>金大中-ガンギエイ-<sup>チョルラド</sup>全羅道」の間に共起関係が見られた。「地域感情」に関する物語について語る前に、まずは、韓国における<sup>チョルラド</sup>全羅道地域の差別がどのように構築されてきたかを説明しなければならないだろう。

図 6 を見ると、朝鮮半島の西南部に位置している<sup>チョルラド</sup>全羅道地域は「<sup>ホナン</sup>湖南」とも呼ばれている。現在の行政区分では、<sup>チョルラブクド</sup>全羅北道と<sup>チョルラナンド</sup>全羅南道、<sup>クァンジュ</sup>光州広域市<sup>66</sup>に区分される。<sup>チョルラド</sup>全羅道地域は朝鮮半島の南東部に位置する<sup>キョンサン</sup>慶尚道地域と地域対立が先鋭化している。

<sup>キョンサン</sup>慶尚道地域は「<sup>ヨナム</sup>嶺南」とも呼ばれており、現在の行政区分では<sup>キョンサンブクド</sup>慶尚北道と<sup>キョンサンナンド</sup>慶尚南道、<sup>プサン</sup>釜山広域市、<sup>テグ</sup>大邱広域市、<sup>ウルサン</sup>蔚山広域市に区分される。<sup>キョンサン</sup>慶尚道地域はこれまで、韓国の権力を握り続けてきた地域として、保守派・与党の支持基盤地域となってきた。朴正熙大統領以降の歴代大統領のうち、<sup>キョンサン</sup>慶尚道出身ではない大統領は、<sup>キムデジュン</sup>金大中元大統領のみである<sup>67</sup>。つまり<sup>キムデジュン</sup>金大中元大統領を除けば、<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙元大統領以降の全ての大統領の出身地

<sup>66</sup> 広域市(日本の政令指定都市に該当)は、韓国における地方行政地区の一つである。広域市は日本の政令指定都市のように道府県から行政的に独立している。また、広域市の場合、市の人口が 100 万人以上が基準になっており、現在韓国内に 6 都市(釜山・大邱・仁川・光州・大田・蔚山)が広域市となっている。

<sup>67</sup> <sup>イミョンバク</sup>李明博元大統領は日本の大阪府で生まれたが、3 歳の時に韓国へ渡り、それ以降<sup>キョンサンブク</sup>慶尚北道の浦項で育った。それゆえ、<sup>イ</sup>李元大統領は<sup>キョンサン</sup>慶尚道出身に分類されている。

は慶尚道地域であるため、全羅道地域は長らく慶尚道出身大統領に冷遇されてきた。



図6 韓国地図<sup>68</sup>

全羅道地域と慶尚道地域間の地域対立は、1970年代の朴正熙大統領が権力を掌握して以来、韓国政治の現場で争点化し始めた。以下、その経緯について説明する。1971年大統領選挙で朴正熙大統領は当時新民党の金大中候補に僅差にまで追い上げられた。1969年に大統領の三選を可能にする、いわゆる三選改憲を強行し、国民の反発が強まり、朴正熙大統領の当選が危ぶまれていた状況であった。これに朴正熙大統領は有力な大統領候補である全羅道出身の金大中氏を意識し、地域感情を利用した選挙キャンペーン

<sup>68</sup> キム(2012)「政党支持における中央と地方の関係——韓国の地方選挙における政党推薦制を中心に」『広島法学』36巻2号79ページ

ンを展開した。大苦戦の末、朴大統領は当選したが、朴大統領は自らの権力において金大中候補の存在を最大の脅威だと認識するようになった。そのため、朴大統領は任期中に慶尚道地域を優遇する経済政策やインフラ整備を行い、人材面においても同郷の慶尚道出身者を優遇した(木村 2007)。その一方で、全羅道地域は徹底的に冷遇されたため、全羅道地域の人々には慶尚道地域に対する反発が生まれ始めた。

その上、1980 年 5 月 18 日、慶尚道出身の新軍部勢力は民主化を求める学生や光州市民を武力で鎮圧及び無差別に暴行を加え、多くの死傷者を出すことになり、全羅道地域の人々は被差別民共同体となった。また、5・18 光州民主化運動の犠牲者を含め全羅道地域の人々を「暴徒」とみなすような社会的雰囲気により、全羅道地域の人々は当時民主化運動の象徴的人物であった金大中に希望をかけるしかなくなっていた。

この二つの地域間の対立は、1987 年民主化以降本格化し始めた。1987 年の民主化以降の第 13 代大統領選挙は、16 年ぶりの直接選挙による大統領選挙が行われた。第 13 代大統領選挙では、与党・民主正義党の盧泰愚候補が当選した。当時野党であった金泳三や金大中の知名度は高く、自分たちの出身地からの支持(金泳三に対する慶尚道、金大中に対する全羅道)も際立っていた。しかし、「両金(=金泳三、金大中)」の候補一本化に失敗したことから、漁夫の利を得た盧泰愚候補が当選することになった。つまり、第 13 代大統領選挙を基点として、極めて明確な「地域政党構造」へと移行されたことが分かる。

また本論に戻って、「イルベ」掲示板で全羅道地域に対して露骨な反感を示している背景には、慶尚道出身の政治家がこれまで政権を担い、それに対し政治的に疎外されてきた全羅道地域の人々が慶尚道出身者が運営する政権に対抗するという図式が成立していることにある。その意味で「イルベ」掲示板でよく登場(出現回数 227 回)している「ガンギエイ」という言葉は、全羅道地域の人々を蔑む言葉として使われていることがわかる。

「ガンギエイ(= 洪魚：ホンオ)」は全羅南道の名物料理であり、全羅道出身の金大中元大統領の大好物である。共起ネットワークで「金大中-ガンギエイ-全羅道」の間に共起関係が見られたという点から、「イルベ」掲示板で金大中元大統領や全羅道地域は「ガンギエイ」と呼ばれていることが分かった。その他、左派や民主化勢力、386 世代<sup>69</sup>、5・18 光州民主化運動の犠牲者や遺族、従北勢力など自分たちの理念と反対す

<sup>69</sup> 386 世代についての詳細は、2.1.2.2 節の 24 ページを参照すること

る人や団体も「ガンギエイ」と呼ばれていた。

ここで、「民主化勢力」<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>「5・18 光州民主化運動」という用語が出てくる。これらの用語は、「イルベ」掲示板の本質を理解する上で極めて重要であるため、以下に整理していく。

第一に、「民主化勢力」について述べていく。韓国の政治圏は、経済発展や産業化を主導してきた朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>政権下の保守勢力と人権伸張や民主化を主導してきた金大中・盧武鉉<sup>キムデジュン ノムヒョン</sup>政権下の中道進歩勢力に分けられる。政界やマスメディアでは、前者のように経済的産業化を主導した勢力を「産業化勢力」、後者のように政治的民主化を主導した勢力を「民主化勢力」と分ける見解が主流となってきた。韓国の現代史を率いてきたこの二つの軸は、共存しながら反目関係にあるといっても過言ではない。「産業化勢力」と「民主化勢力」は両者とも国家のために寄与し、献身してきたことは周知の事実であるが、「産業化勢力」は金大中・盧武鉉<sup>キムデジュン ノムヒョン</sup>を、「民主化勢力」は朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>元大統領をそれぞれ批判しているのだ。

第二に、「5・18 光州民主化運動」<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>について述べていく。「5・18 光州民主化運動」<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>は、1980 年 5 月 18 日から 28 日にかけて、韓国の南西部に位置する全羅南道<sup>チョルラナンド</sup>、光州市<sup>クァンジュ</sup>で民主化を求める学生・市民を政府が武力で鎮圧し、多数の死傷者を出した事件である。韓国社会で「5・18 光州民主化運動」<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>に関するテーマは崇拜の対象のように取り上げられてきた。以下、「5・18 光州民主化運動」<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>が起こることになった経緯について述べていく。

1979 年 10 月 26 日、朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>大統領の暗殺後、12 月にクーデターを指揮して軍の実権を握っていた全斗煥<sup>チョンドゥファン</sup>らの新軍部勢力は、翌年の 1980 年 5 月 17 日、非常戒厳令を全国に拡大し、民主化運動を主導してきた全羅道出身の金大中<sup>キムデジュン</sup>と野党指導者を逮捕した。これに対して、金大中<sup>キムデジュン</sup>の支持基盤である光州市<sup>クァンジュ</sup>では、民主化運動と称する大規模な反政府デモが起きたが、政府側による武力鎮圧で一段落した。5・18 光州民主化運動<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>で権力を掌握した全斗煥<sup>チョンドゥファン</sup>は、同年 10 月 27 日憲法改定(任期 7 年単任制の大統領制への改定)をして第 12 代大統領に就任した。しかしながら、任期が切れる 1987 年 4 月 13 日、全大統領<sup>チョン</sup>は軍事政権の体制を延長するという護憲措置を発表した。これに対して、1987 年 6 月、大統領の直接選挙制改憲を中心とした民主化を要求する大々的な街頭デモが全国各地で展開された。このような一連の動きを「1987 年 6 月民主化抗争」と呼ぶ。1987 年 6 月民主化抗争の結果、韓国はそれまでの開発独裁的政治体制から民主主義体制に転換した。つま

り、「1987 年の憲法改正で具体化した代議民主主義秩序を意味する」(Kim 2009) いわゆる「87 年体制」が誕生した。

グループ 3 は「従北」に関する物語を形成していた。「全元策-放送-金日成-金正日-金正恩-従北-パルゲンイ<sup>70</sup>」の間に共起関係が見られており、共起ネットワークの手がかりから得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。2012 年 5 月 26 日 KBS の「深夜討論」という番組で「従北勢力の国会進出をどのように見るか?」というテーマについて討論が行われ、パネリストとして出演した全元策弁護士(保守論客)の従北主義の検証法に関する発言が話題となっていた。イルベユーザーは当日、放送の一部の動画をシェアしている。以下に、司会者とパネリストとのやり取りの一部を紹介したい。

全元策弁護士：「大韓民国の国会議員なら、私は少なくとも、金日成と金正日体制は追従しません。この一言がなぜこんなに難しいのでしょうか? 簡単に言って、金日成と金正日が畜生なんですか? (金日成や金正日勢力を) 畜生だと言う人は従北勢力ではありません」

司会者：「放送用語としては、ちょっと…」

全元策弁護士：「これがなぜ、放送用語として不適切なんですか?」

女性パネリスト(趙己淑・梨花女子大学校教授)：「自由民主主義を本当によくご存知でないですね」

全元策弁護士の発言に対し、ユーザーは以下のような書き込みを寄せていた。

全元策の発言が、明らかに放送用語としては不適切ではあっても、正常な考え方を持った人なら、全く疑問を持たない用語ではないか? リベラルを装った従北勢

---

<sup>70</sup> 「パルゲンイ」(= 共産主義者)とは、北朝鮮に対して友好的な態度を取る人を指す。そこには嘲弄や敵対の意味が込められている。

力たちよ… さて、ラスト部分で話した狂った女性！自由民主主義を云々いう前に、  
国家の根幹を揺るがす敵にさえ礼儀を弁えてそう言えば、いっその国を離れ、北朝鮮  
に行って生きてればいい。

センセンドングルイ 2012. 05. 27 03:32

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上のユーザーだけではなく、他の多数のユーザーも放送禁止用語を問題視するよりも、  
全元策<sup>チョンウォンチェク</sup>弁護士が発言した従北<sup>じゅうほく</sup>論理に大きく意味づけをしていたことが確認できた。

グループ 4 は、「高度経済成長期の華やかで浮ついていた時代への憧れ」に関する物語  
である。イルベユーザーは「朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>」という人物を通じて過去高度経済成長期の華やか  
で浮ついていた時代への憧れを投影していた。図 5 をみると、「朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>」という語句は  
「経済」「独裁」という語句と破線で結ばれていることが分かった。韓国社会において、朴  
正熙<sup>パク</sup>元大統領の功績に対する評価は、現在の政治的立場によってはっきりと二分されて  
おり、グループ 4 においてはこの二つの語句が特徴語として表れていた。

第一に、「経済成長の神話」に関する物語である。「経済-中小企業-大企業-輸出-産業-  
発展-開発-成長」の間に共起関係が見られた。共起ネットワークの分析から表れた特徴語  
をもとに、関連書き込みを参照しながら確認してみた。当時、朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>元大統領は周囲の  
強烈な反対にもかかわらず、「経済開発 5 カ年計画」や「京釜<sup>キョンブ</sup>高速道路」など経済成長  
を推し進めたという書き込みが多数を占めていた。また、朴泰俊<sup>パクテジョン</sup>会長に関する書き込み  
も目立っていた。朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>政権の最重点政策は重化学工業であり、中でも浦項製鉄建設  
(現在、ポスコ)は、朴元大統領が国運を掛けて推進してきた重化学工業のシンボルである  
と言える。朴泰俊<sup>パクテジョン</sup>氏は浦項製鉄建設の創立者であり、朴正熙<sup>パク</sup>元大統領の経済神話の功  
績及び業績を言及する際欠かせない人物であるため、当掲示板で取り上げられたと考えら  
れる。

第二に、「独裁」に関する物語である。「独裁-時代-英雄-革命-クーデター」の間に共起  
関係が見られた。関連のある書き込みを確認してみた結果、朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>元大統領を貧困と混  
乱の中の英雄として表象していた。

以上の共起ネットワーク分析結果から、ユーザーは、朴元大統領が当時強大な権力を  
持って「民主主義を弾圧した独裁者」という負の側面にはあまり重点を置かない傾向を示  
ることが分かった。その一方で、ユーザーは朴元大統領<sup>パク</sup>については、6.25 戦争(= 韓国

戦争、朝鮮戦争)の後の貧しい韓国を「漢江の奇跡」と称される高度経済成長へと導き、現在の韓国経済力の礎を築いた側面により重点を置く傾向が見られた。

グループ5は、「産業化」と「世代」が独立したクラスタを形成していた。「イルベ」掲示板において「産業化」という用語も上述した「民主化」という語句と同様に、本来と異なる意味で使用されていた。「イルベ」掲示板において「産業化」という語句は、朴正熙<sup>パクチョン</sup>元大統領が成し遂げた経済業績として、彼らが求めるべき価値ということから、産業化という言葉は「成功」「賛成」などの肯定的なニュアンスとして使われていた。また、リベラル傾向の意見などをネットで論破して保守傾向に転向させたという意味でも使用されていた。関連ある書き込みを確認した結果、ここでは後者の意味で使用されていることが分かった。

#### 4.3 リサーチ・クエスチョン3の検証：ハングル板と政治日刊ベスト板におけるヘイトスピーチの対象

本論文のリサーチ・クエスチョン3では、日韓両掲示板において不満のはけ口は誰に向かっているのかを明らかにする。リサーチ・クエスチョン3を検証するため、本論文では2ちゃんねる掲示板の「ハングル版」とイルベ掲示板の「政治日刊ベスト板」を分析対象とした。比較研究は比較の妥当性が確保されていることが重要である。前述したこの二つの掲示板は、誰でも書き込みをしたり、スレッドを立てることができるという特徴があるため、本論文では両掲示板を選定し、分析した。

##### 4.3.1 ハングル板におけるヘイトスピーチの対象

リサーチ・クエスチョン1から得られた知見の中で「ハングル板」での特徴的な点は、以下の3点にまとめることができる。第一に「ハングル版」では、韓国人や在日韓国人を差別したり、蔑視したりする意味合い呼称である「朝鮮人」「在日朝鮮人」「バカ」「チ

ョン」が用いられていた。これと共に「在日朝鮮人=特別永住者」という物語が表れていたという点も強調しておきたい。第二に「ハングル版」のみで「民主党」「野党」「鳩山」などの語句が表れているという点で注目に値する。第三に、「ハングル版」ではマスメディアが設定する主流アジェンダとは異なるアジェンダを設定することで、反マスメディア的色彩がより濃く現れていることも特徴的である。このことから、リサーチ・クエスチョン<sup>71</sup>では「在日朝鮮人や朝鮮人」「民主党」「メディア」という物語が、「ハングル版」でどのような形で構成されているかをより明確に把握するため、KH Coderの「関連語検索<sup>72</sup>」機能を用いて分析を行った。

#### 4.3.1.1 在日朝鮮人・朝鮮人

図 7<sup>72</sup>は「在日朝鮮人」と「朝鮮人」に対する共起ネットワークを示したものであり、「在日朝鮮人-特別永住-差別-犯罪-反日-バカ-チョン-歴史-政治」の間に共起関係が見られた。これらの共起語で示されたように、在日朝鮮人に対する否定的かつ刺激的な語句を象徴する「差別」「反日」「犯罪」「バカ」などの語句が並んでいるということがわかった。加えて、「特別永住」という語句が登場しており、多くの先行研究において明らかにされているように、「特別永住」という語句は在日朝鮮人とヘイトスピーチ現象を議論する上で欠かせない重要な語句であることがわかった。

これと共に、「歴史」や「政治」という共起語で示されたように、在日朝鮮人の諸問題は歴史や政治なども密接に絡み合っていることがわかった。具体的に、「在日外国人-出入国-指紋-特例-法規-内乱-見直し」という語句間に共起語が見られた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

2007年11月20日、日本に入国する外国人に指紋採取と顔写真の撮影に応じることを義務付ける改正出入国管理・難民認定法が施行されたが、在日韓国・朝鮮人ら特別永

<sup>71</sup> 「関連語検索」とは、特定の語句を指定し、その語句と共起している語句(= 関連が強い語句)を抽出することを言う。

<sup>72</sup> Jaccard 係数 0.1 以上のリンクを共起関係として分析した。



住者は対象外である。いかなる理由があつてこのように、在日韓国人だけを特別優遇するのか。韓国では殺人やレイプや窃盗などが非常に多いため、満17歳以上の全国民は住民登録する際、両手のすべての指の10指紋を登録することが義務付けられている。しかし、在日韓国人は韓国籍であるにもかかわらず、韓国に10指紋の登録をしていない。また、在日は外国人であるにもかかわらず日本は指紋を登録しないことを容認している。国際環境がテロゲリラとの闘いに協調する中、犯罪の温床ともいべき指紋押捺制度の特例は犯罪テロ国家と名指しされかねない悪法である。即刻、特例廃止を要望する。

マンセー名無しさん：2015/11/02(月) 01:56 ID:Goh\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容から、「特別永住者」という言説の根底には、この語句と緊密に照応する一連の暗黙の表現が含意されていることが分かった。つまり、「特別永住者」という語句の中には、他の外国人には与えられない「特別優遇」という意味とともに、「犯罪」という意味も混在していることが読み取れた。

次の書き込みにおいても、在日朝鮮人は「特別永住者」としての優遇を有することを問題視する内容が盛り込まれた。

特別永住者 (= 在日朝鮮人) には、他の一般在日外国人にはない様々な優遇措置がある。とくに特別永住者に対する退去強制は非常に特殊な場合しか認められておらず、一般の在日外国人に比べ非常に差別的の特異な扱いだ。一般の在日外国人は重犯罪を犯した場合には受刑後に祖国に強制送還されるが、特別永住者の場合には、「内乱に関する罪、外患に関する罪、国交に関する罪、外国の元首、外交使節又はその公館に対する犯罪により禁錮以上の刑に処せられた者」など一部の特殊ケースを除いてそのままという世界でも例のない超法規的特権である。すでに国際的には犯罪の異常プール国家とまでいわれている現状は看過できるものではない。戦後70年、また、7月に在日の国籍が確定している。10月 F A T F での指摘がある前に特例法の廃止を要望する。

マンセー名無しさん：2015/11/14(土) 00:53 ID:fhU\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容をみると、「優遇措置」「差別的特異」という語句が使われる一方、犯罪に関する語句も多用されていることがわかった。上の二つの書き込みから、特別永住制度は在日朝鮮人差別の一因になっていると同時に、ヘイトスピーチ言説の最も重要な言説であるということが読み取れた。

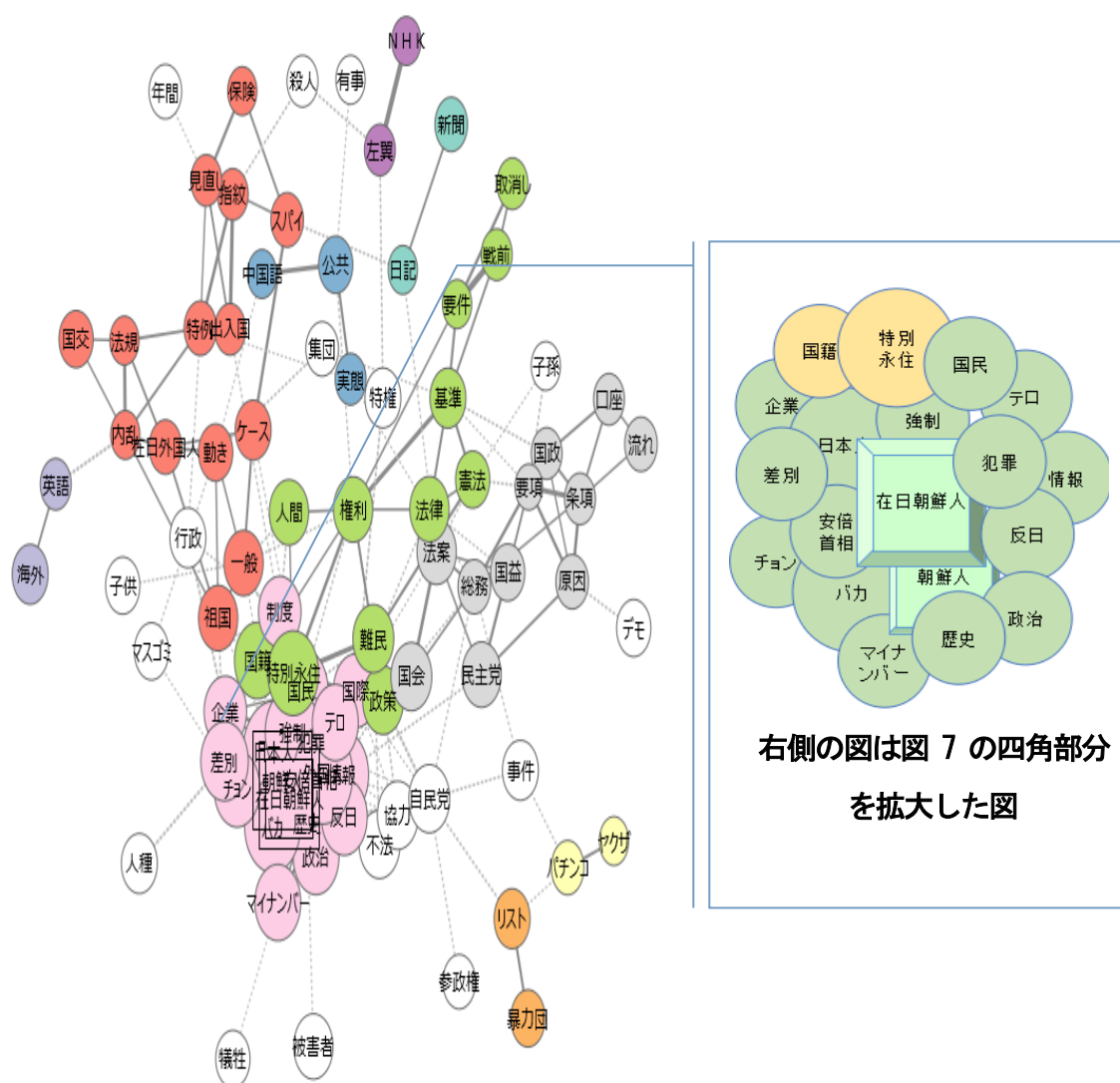


図 7 在日朝鮮人・朝鮮人に対するハングル板の共起ネットワーク

次に、「自民党-協力-不法-反日」という共起語が見られたが、語句と語句を結ぶ線が複雑に絡み合い、読み取りにくくなるので、本論文では最小スパニング・ツリー(minimum spanning tree)手法を用いた。図 8 が、最小スパニング・ツリーを利用し「在日朝鮮人・朝鮮人」に対する共起ネットワークを示したものである。本論文では図 7 と 8 を参照しながら、「在日朝鮮人・朝鮮人」の分析を行った。

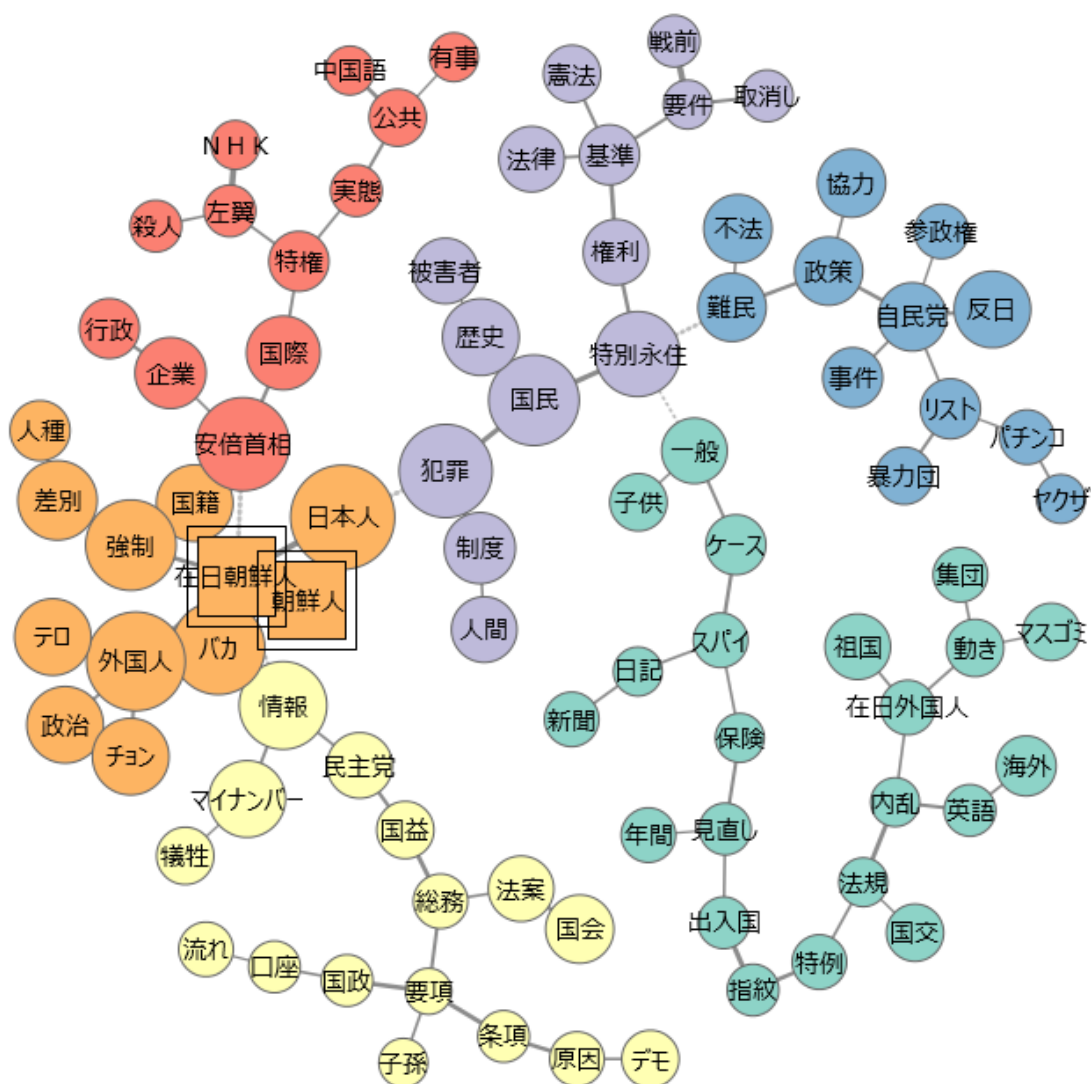


図8 最小スパニング・ツリーによる共起ネットワーク(在日朝鮮人・朝鮮人)

まず、図 7 をみると「自民党-反日-政策-難民-不法-特別永住」という共起語が目立っていた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

自民党はなんだかんだいいつつ移民は入れるでしょ。安い労働力の為にマスゴミも官僚も大手企業もそっちだしもうすでに日本は朝鮮不法移民問題で滅茶苦茶だけどな。

マンセー名無しさん：2015/11/12(木) 13:36 ID:1tu\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容をみると、自民党が移民を含めた労働力としての外国人の受け入れを容認する方向で進んでいることについて、否定的な意見を示していることがわかった。これまで安倍首相は衆院本会議で、政府が検討している外国人労働者の受け入れ拡大に関し、「移民政策を取ることは考えていない」という姿勢を保ってきた<sup>73</sup>。しかしながら、少子高齢化による人手不足が表面化し、労働力としての移民の受け入れを求める声が自民党を中心に急速に拡大している。「ハングル板」のユーザーは、この懸案について不満の声を挙げていた。加えて、今の自民党の移民政策を庇うようなメディアや大企業に対しても激しい批判を向けていた。ここで指摘すべき点は、大半のユーザーが移民受け入れ問題を在日朝鮮人に関連付けて意見を述べているということである。上述した書き込みからも分かるように、日本国内の移民受け入れに警戒する背景には、日本における在日朝鮮人問題と同じ轍を踏みかねないという懸念があったのである。

次に「左派-NHK-特権」という語句間に共起関係が見られており、共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語を参照しながら、関連書き込みを確認してみた。以下は、関連書き込みの一部の抜粋したものである。

現状のNHKの有り様は日本の政治経済軍事すべてにおいて、日本という国の立場が全く見えてこない。特に政治における論説、解説は異様というレベルである。すでに特権的企業に成り下がり、公共放送という偽看板を掲げた営利企業になっている実態

---

<sup>73</sup> 産経新聞「『移民政策はとらない』安倍首相、衆院本会議で明言」2014年10月1日 (<http://www.sankei.com/politics/news/141001/pl1410010030-n1.html>、最終閲覧日：2016年3月31日)。

では、NHKに受信料支払強制の大義名分はない。受信料の支払いは任意とするか、廃止が妥当だろう。これは100%民意である。

マンセー名無しさん：2015/11/12(木) 00:44 ID:kZM\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」)

上述した書き込みから、NHKの公共放送としてのあり方に不信感を持ち、同時に、NHKと権力との癒着関係について懸念と批判の声が高いことが読み取れた。このような反マスメディアの流れは、リサーチ・クエスチョン1においても同様の結果が示された。それでは、なぜ、「2ちゃんねる」掲示板でマスメディアが絶え間ないヘイトスピーチの対象となっているのであろうか。このような問いを解明する必要があるが、この点についての詳細は後述する。その他に注目すべき点として、「自民党」「民主党」などの政党に関する語句が表れていたことであるが、この点についても、次の節で後述する。

#### 4.3.1.2 民主党

図 9<sup>74</sup>は「民主党」に対する共起ネットワークを示したものであるが、語句と語句を結ぶ線が多く、解釈が難しい。したがって、ここでは最小スパニング・ツリーの描画を用いて、比較分析を行っていく。図 10 が最小スパニング・ツリーを利用し「民主党」に対する共起ネットワークを示したものである。

---

<sup>74</sup> Jaccard 係数 0.1 以上のリンクを共起関係として分析した。

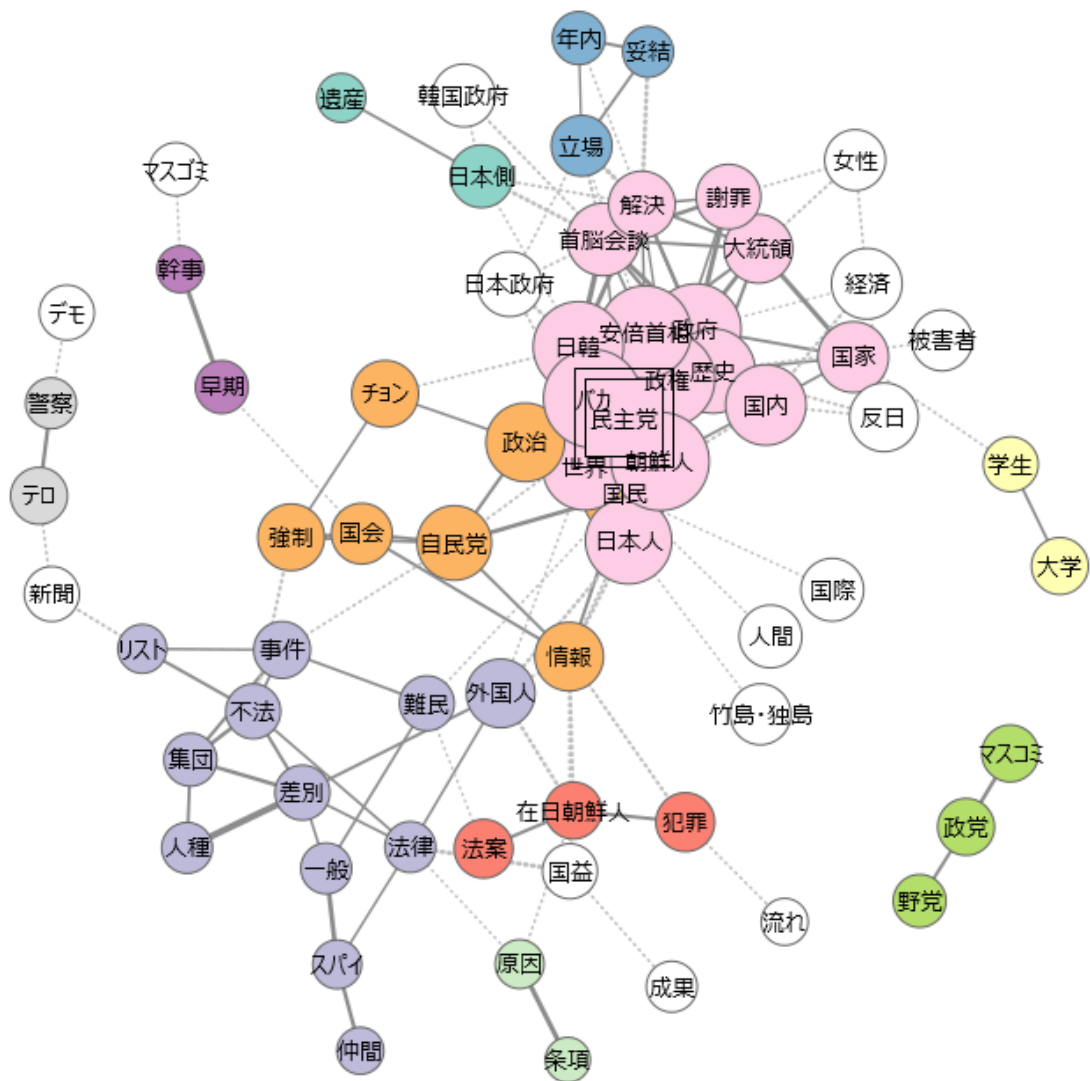


図9 民主党に対するハングル板の共起ネットワーク



るそうです。根本的な原因は、主に民主党政権時に国籍条項を撤廃し、在日朝鮮人が生活保護受給の担当に就けるようになったこと。「日本国籍を取得したら、すぐに議員になれること」在日の資格取得者が公的書類を書けるさまざまな役職に日本人と同じように就けることなどが考えられます。すみやかに国籍条項を復活し、議員と弁護士や会計士、医師など公的役職に就く人物の国籍条項を制定しかつ出自の公表を義務化するように要望します。通名在日は、日本人と区別が付きません。帰化人は、「韓国系日本人」か「朝鮮系日本人」などと呼ぶべきです。

マンセイ名無しさん：2015/11/08(日) 16:32 ID:cNT\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容をみると、民主党政権下で国籍条項を撤廃したため、生活保護受給や不正受給など、在日朝鮮人に対する融和的な政策が展開されたという論点が読み取れる。また、在日朝鮮人が日本国籍を取得した場合、日本人の仕事が奪われるという懸念や警戒心も読み取れる。

ここで取り上げられている「生活保護制度」や「通名制度」は、在特会が主張している四つの特権に含まれる事項であり、大半のユーザーは「生活保護制度=在日朝鮮人を対象に与えられた特権」「生活保護制度=在日朝鮮人優待政策」と見なしていた。ここで特に注目すべき点は、ユーザーは在日特権を与えられている在日朝鮮人のみを批判するだけではなく、その特権を与えている民主党にも非難の矢を向けているということである。このことから、2ちゃんねるの「ハングル板」でヘイトスピーチを支えている構図は、ある意味で、在日朝鮮人への直接的な憎悪だけではなく、民主党に対する敵意も混ざり合って形成されているのであると言えるであろう。以下の関連書き込みの引用からも、このような内容が読み取れよう。

国内政策で自民党より真つ当な政策を出し、特亜に迎合しないような外交政策を実行すれば、次の参議院選挙で自民党に圧勝し、次回総選挙で政権奪還は可能だと思うんだけどな。まあ、今の日本にはそんな政党が自分も投票したいんだが、私の知る限り存在しないんだよな。

マンセイ名無しさん：2015/11/05(木) 18:10 29.56 ID:uMM\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))



上述した書き込みでは「特亜」という用語が使われていた。ここで「特亜」とは、特定アジアの略称であり、具体的には韓国・中国・北朝鮮の三カ国を総称する。「特亜」は「第三国人」「三国人」という言葉と共に、韓国・中国・北朝鮮の人々に対する蔑称と差別の意味が込められており、「ハングル板」のユーザーは、韓国などを指す際、この言葉を使用していることが確認できた。これと共に、これまで民主党が韓国人や在日韓国人を利する政策を展開していたため、「ハングル板」のユーザーから集中砲火を浴びているという論点も読み取れた。

次に、「民主党-政権-国内-経済」という語句間に共起語が見られており、共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

雇用も改善されてる。非正規が増えてると言われてはが、大企業が大幅に学生の採用を増やしてるおかげで中小に学生が回ってこないという問題も。民主党政権では就職氷河期だった上、公務員の採用2割削減するとし、学生の就職機会を奪うと批判された。若者から職を奪ったのが民主党政権。ただ、アベノミクスが手放しで評価できるわけでもなく、内需を拡大させないと話にならない。その点で消費税増税は論外！

マンセー名無しさん：2015/11/05(木) 18:32 ID:czQ\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、自民と民主両党が揚げた経済政策を対比していることがわかった。具体的にみると、民主党政権下で雇用が一気に失われ、若者たちの「就職氷河期」と呼ばれる就職難の時代を迎えたことなど、民主党政権の経済政策と雇用創出効果について概ね否定的な意見を提起していた。その一方で、自民党が実施している経済政策に対する評価をみると、消費税増税をアベノミクスに関連付けて批判する意見も述べられていたが、総じて肯定的に捉える傾向が読み取れた。以下の関連書き込みの引用からも、このような内容が読み取れよう。

雇用が改善されただけでも庶民にとって実感できることだと思うよ！特に学生なんかはアベノミクスの恩恵をもらってると思う。野党やマスコミの批判は批判のための批判！円安による物価高で庶民の生活は苦しいってよく聞くが、民主政権時代

#### の超円高の時は生活楽だったのか？

マンセー名無しさん：2015/11/05(木) 19:08 ID:Mf\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、日本の雇用状況がアベノミクスの実行を契機として大幅に改善したと述べていた。各野党やマスメディアはアベノミクスを批判しているものの、民主党政権時代の経済政策もあまり説得力がないのではないかと問い直していることがわかった。

上の二つの書き込みが示唆している点は、主に二点ある。第一に、両党を比較する上で、経済政策を優先する傾向が読み取れた。第二に、両党の間の経済政策を明確に対比することで、民主党の掲げる経済政策をさらに徹底的に批判していることが読み取れた。

#### **4.3.1.3 マスメディア**

「ハングル板」では、マスコミュニケーションの略語である「マスコミ」やマスコミとゴミを掛け合わせた造語である「マスゴミ」が混用されていた。本論文ではマスコミュニケーションを批判する際に使用される「マスゴミ」に注目し、関連語検索を行ってみた。図 11<sup>75</sup>は、「マスゴミ」に対する共起ネットワークを示したものである。

---

<sup>75</sup> Jaccard 係数 0.1 以上のリンクを共起関係として分析した。



マンセイ名無しさん：2015/10/25(日) 02:33 ID:e9+\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、慰安婦報道と関連し朝日新聞を相手に集団訴訟が執り行われたが、産経新聞を除く新聞各社がこの事案を一切報道しないことについて、ネットユーザーが露骨な嫌悪感を滲ませていることが読み取れた。加えて、マスメディアがこれまで情報の寡占によって自分たちにとって都合が悪い内容を隠していることについて、ユーザーから反感を買っていたこともわかった。次の書き込みにおいても、マスメディアに対する批判的な意見が寄せられていた。

「最近の韓日関係の報道する日本マスコミの捏造・妄想が著しい」 うん、本邦マスゴミは事実より願望で記事を書きますからね。それはそれとして韓国政府・韓国国民もまた似たようなものだというのが…。

マンセイ名無しさん：2015/11/05(木) 08:15 ID:mn5\*\*\*\*\*

在日キムチの息がかかってる日本の大マスゴミは握り潰して報道しないつもりだぞ。

マンセイ名無しさん：2015/11/06(金) 12:43 ID:3iR\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、在日韓国人とマスメディアに対し、蔑視や拒否感の感情を抱いた際に使用する「在日キムチ」「マスゴミ」という語句が用いられた。上のユーザーだけではなく、大半のユーザーは、韓国に関する日本のマスメディアの報道のあり方についての問題を指摘していた。具体的には、過度な韓国びいき偏向報道を批判の対象として取り上げていた。加えて、日韓関連の諸問題に関する各メディアの報道態度は、真実を伝えようとするということよりも、自分たちの信じている正義を伝えようとする、いわゆる惰性や慣行に流される傾向があると指摘した。以下の関連書き込みの引用からも、このような内容が読み取れよう。

つうか、そのマスゴミを信じて対日政策を悉く間違えた韓国が悪いんじゃない。なんでバカヒどもなんぞを信用するのか。

スマホ神主：2015/11/05(木) 08:25 ID:Rnm\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、既成のマスメディアはネットユーザーからの信頼を失いつつあることが読み取れた。これは、上述した幾つかの書き込みからわかるように、自分たちの都合の悪い問題を矮小化したり、事実さえ報道しなかったりすることから、マスメディアに対するネットユーザーの不信感を募らせたと言えるであろう。

そして、ユーザーのマスメディアに対する不信感をさらに増幅させたことと関連し、在日韓国人の犯罪報道問題が取り上げられていた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

東京都内でマスクをして手袋をした7～8人の集団が、手分けをしてアンネの日記引き裂き事件。ビデオに映っていた姿は、集団で指紋も付かないようにマスクをして、女も2人いる集団だった。そのなかで、単独で破っていた仲間がビデオから判明して逮捕された。そして、実名報道されていない。そして配っていたビラがコレ（写真あり）だった。在日が2chでネトウヨ連呼しながらコピペ連投している。そのものだった。犯人のビラはマスコミ、朝日、毎日、東京新聞、テレ朝、フジ、TBS、TV各局に持ち込まれた。しかし、マスコミは見た瞬間に一斉に報道規制する始末！そりあああそうだろ！お前ら在日の仕業だものなあwwwマスコミ連中はアンネの日記引き裂き事件の報道規制、そして事件そのものを変なもみ消しまで始めた。

マンセー名無しさん：2015/11/03(火) 01:52 ID:py8\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、2014年3月に起きた「アンネの日記」事件の犯罪者は在日朝鮮人であり、朝日・毎日・東京新聞・テレ朝・フジ・TBSなどのメディアでは、この事件の報道そのものを控えたという内容であった。これと関連し、ネットユーザーの間に不信感が募っていったことが分かった。その他、犯罪報道をする際、犯罪者への社会的制裁と市民への注意・警戒を喚起するレベルで犯罪者の名前がマスメディアで公表されているが、在日韓国人が犯罪を起こした場合は通名で報道されていることについて、不満を抱いているネットユーザーも多数が占めていた。

### 4.3.2 政治日刊ベスト板においてヘイトスピーチの対象

リサーチ・クエスチョン2から得られた知見の中で「政治日刊ベスト板」での特徴的な点は、大きく以下の3点にまとめることができる。第一に、地域物語を絶えず吐き出しているということから、特定地域(全羅道地域)に対して強い嫌悪感を表していた。第二に、左派・民主党叩きへの風潮が読み取れた。当板では「李明博・朴正熙元大統領」と「金大中・盧武鉉元大統領」という二項を対置させることで、更に左派・民主党勢力の矛盾点を浮き彫りにしていた。そしてこの掲示板では、2ちゃんねるの「ハングル板」とは異なり、一国の指導者若しくは強いリーダーに対するユーザーの期待が高いのが特徴であると言えよう。上位10位内の抽出語で示されたように、韓国の大統領を努めた人物の名前が40%を占めていた。それゆえ、左派・民主党叩きの定番物語として「金大中・盧武鉉元大統領」への物語がよく取り上げられていたのである。第三に、北朝鮮寄りのスタンスを憎悪する保守的な北朝鮮観が「政治日刊ベスト板」で広範に形成されてきていた。そこで、本論文では「全羅道地域」「金大中・盧武鉉大統領」「北朝鮮」という物語が「政治日刊ベスト板」でどのような形で構成されているかをより明確に把握するため、KH Coder の「関連語検索」機能を用いて分析を行った。

#### 4.3.2.1 全羅道地域

「全羅道」地域と関連語との共起ネットワークは、図 12<sup>76</sup>のような結果となっており、語句と語句を結ぶ線が多すぎると解釈しづらいため、ここでは最小スパニング・ツリーの描画と比較しながら、分析をしていく。図 13 は、最小スパニング・ツリーを利用し、「全羅道」に対する共起ネットワークを示したものである。

<sup>76</sup> Jaccard 係数 0.1 以上のリンクを共起関係として分析を行った。

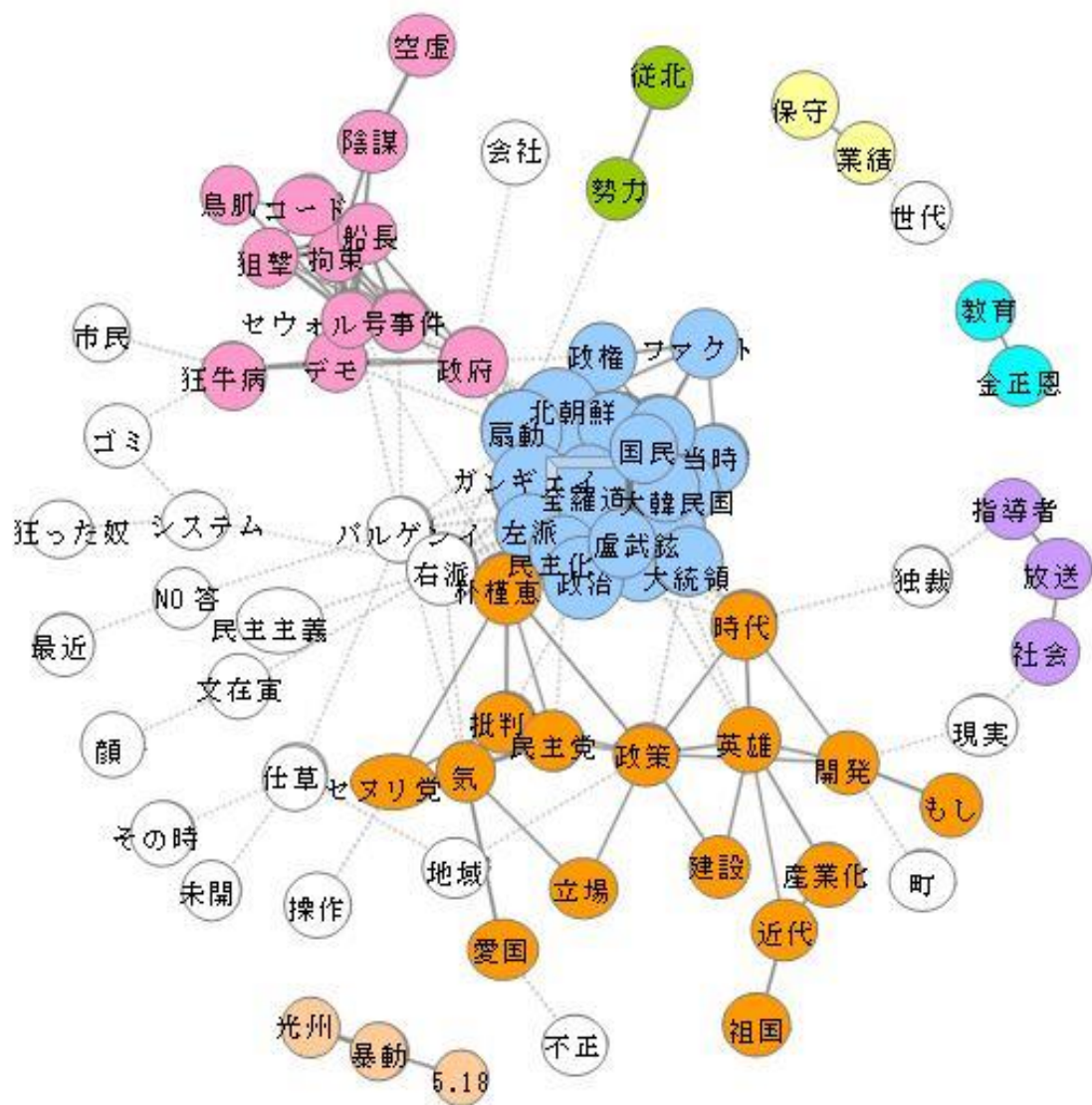


図 12 全羅道地域に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク

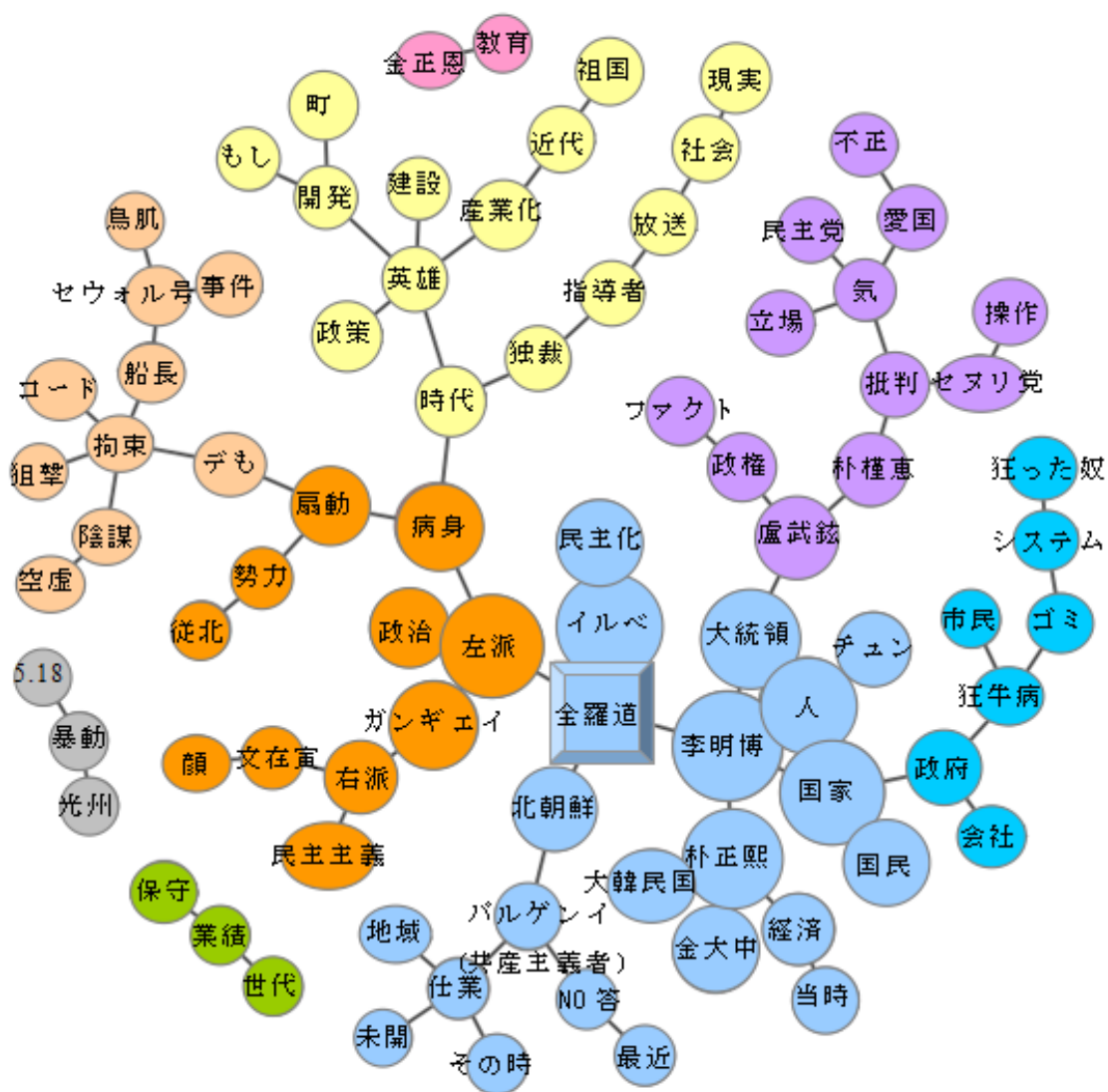


図13 最小スパニング・ツリーによる共起ネットワーク(全羅道地域)

まず、「政府-セウォル号-狂牛病-デモ-船長-拘束-陰謀-コード」の間に共起関係が見られた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

何か？船長がカボチヨン？

巨人ヒェリ : 2014. 04. 20 14:48:24



## 狂牛病シーズン2

グワンオヘンニムイダ : 2014. 04. 20 15:01:15

パルゲンイ (= 共産主義者) たちは斧で頭を叩き割られる。今後第2の蠟燭暴動を起こすための布石

肯定的なマインドで : 2014. 04. 20 13:39

反政府デモを行う人間たちを今回はこのまま放っておいてはダメですよ。国家と  
いうものが何かとはっきり認識させる必要がある。

シルバーナイト : 2014. 04. 20 13:41

セウォル号沈没事件は誰かが国民の恨みを引き受けなきゃならないことなんだ。さ  
て、正常な人間ならば、船長を恨んで仕事を処理した公務員たちのせいにするのが常  
識。だが、左翼ゾンビたちは批判の矛先を国家に転じている。

これがリアル : 2014. 04. 20 23:48

元々チャパル<sup>7</sup>のコードが反国家である。

基本に充実 : 2014. 04. 21 06:06

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、旅客船「セウォル号」沈没事故と関連し、セウォル号の船長が全羅道出身ではないという書き込みが寄せられていたことが分かった。一番目の書き込みに登場する「カボチョン」という言葉は、「イルベ」掲示板のみでみられる用語である。「カボチョン」は、「逐一探ってみたら全羅道<sup>チョルラド</sup>」という言葉の略語であり、この語句には地域感情を助長する意味が盛り込まれている。たとえ軽微な事故であっても、

---

<sup>7</sup> 「チャパル」とは、左翼とパルゲンイ (= 共産主義者) の合わせた略語である。

問題の根源を全<sup>チョル ラド</sup>羅道地域や全<sup>チョル ラド</sup>羅道の人々へと駆り立てる態度が反映されているのである。

そして二番目の書き込みでは、「狂牛病シーズン 2」という言葉が登場しており、三番目の書き込みでは、「第 2 の蠟燭暴動」という表現が目立っていた。セウォル号事故に関して、韓国国内では政府に真相究明と責任を要求する大規模な集会が行われるなど、政府への批判的な世論が高まっていた。「イルベ」掲示板のユーザーは、2008 年韓国社会を揺るがした狂牛病蠟燭集会のように、セウォル号集会も反政府勢力がセウォル号沈没事故を利用して市民を扇動していると批判していた。

また彼らは、セウォル号の犠牲者を追悼しつつも、死亡者の遺族への侮辱的な発言も目立っていた。特にこのような動きは、インターネット上の活動にとどまらず、オフラインへと移動して波及した。2014 年 9 月、セウォル号事故の遺族たちは、セウォル号事故真相究明のための特別法の制定を促す断食闘争を繰り広げるなど、政府への怒りを募らせていた。これに憤慨した「イルベ」掲示板のユーザーは「遺族たちの前でチキンを食べたら面白い」といった意見交換を行うようになり、それに影響を受けた一部のユーザーは、具体的な実行計画案を掲示板に投稿した<sup>78</sup>。実際に 2014 年 9 月 6 日、「イルベ」掲示板のユーザーは、光<sup>クワンファモン</sup>化門広場の断食闘争をしているセウォル号遺族たちの前に座ってチキンやピザを食べる、いわゆる「光<sup>クワンファモン</sup>化門暴食闘争」を行った。彼らの目には、セウォル号事故遺族たちは「巨額の賠償金の取得を狙う俗物ないしは反政府デモを行う人々」として映っていたからである。

次に、5・18 光<sup>オ イルバルクワンジュ</sup>州民主化運動を貶める「5・18 光<sup>オ イルバルクワンジュ</sup>州民主化運動- 光<sup>クワンジュ</sup>州- 暴動」や全<sup>チョル ラド</sup>羅道の人々の差別用語を連想させる「全<sup>チョル ラド</sup>羅道- ガンギエイ」はそれぞれ共起関係を形成していた。「5・18 光<sup>オ イルバルクワンジュ</sup>州民主化運動」や「ガンギエイ」に関する物語は、前述した金<sup>キム</sup>大中・盧<sup>ノム ヒョン</sup>武鉉元大統領の関連語検索においても取り上げられていたものである。関連語検索の手法を用いると、データの中に同時に出現する語句や複合語の関係から言葉の関連性を自動的に抽出することができる。本論文では、「全<sup>チョル ラド</sup>羅道」「金<sup>キム</sup>大中」「盧<sup>ノム ヒョン</sup>武鉉」という語句がデータの中に同時に出現し、相互関係を示していた。言い換えれば、共起ネ

<sup>78</sup> 「光<sup>クワンファモン</sup>化門広場で大学生ら『暴食闘争』予告である。9 月 6 日我々の力を見せてやろう」という見出しでスレッドが掲示された (<https://www.ilbe.com/4225915217>、最終閲覧日：2016 年 7 月 23 日)。

ットワークでこれらの語句が同時に出現するというのは、これらの語句が何らかの連関を持っている可能性が高いことを意味するのである。

以下では、前節に表れた特徴語も含めて、「<sup>オ</sup>5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動」や「ガンギエイ」に関する物語について述べていく。第一に、「<sup>チョルラド</sup>全羅道-ガンギエイ」の間に共起関係が見られており、共起ネットワークの分析から表れた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

どこに行っても、自分が韓国人だと言わないで！ガンギエイ野郎。君たちは不法外国人と同等だよ。 <sup>チョルラド</sup>全羅道ガンギエイ野郎！韓国人だと言わないで、韓国語も使うな。

ルーザー：2014.02.03 20:47

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、「不法外国人」という言葉が登場していることから、<sup>チョルラド</sup>全羅道の人々を「外国人」と見なしていることをわかった。

イルベユーザーが<sup>チョルラド</sup>全羅道地域を指す呼び名には、多様な名前が登場するが、代表的な呼び名として「ガンギエイ国家」「<sup>チョルラ</sup>全羅国家」「7時国家」が挙げられる。以下に、それぞれの呼び名に込められている意味についてまとめる。一つ目に、ガンギエイが<sup>チョルラド</sup>全羅道地域の特産物という点から、この地域は「ガンギエイ国家」と呼ばれている。二つ目に、韓国の「<sup>ド</sup>道」(province)は日本の都道府県に対応する地方行政単位であり、「イルベ」掲示板では<sup>チョルラド</sup>全羅道の「<sup>ド</sup>道」という正式な名称は使用されず、「<sup>チョルラ</sup>全羅国家」と呼ばれている。三つ目に、<sup>チョルラド</sup>全羅道地域が朝鮮半島の7時方向に位置しているという点から、この地域は「7時国家」と呼ばれている。このような呼び名から分かるのは、この地域を韓国の範疇から除外した「外国」と認識している点である。このような認識は、次の書き込みにおいても端的に表れている。

7時国家では暴徒たちを記念するね。さて、外国大統領がなぜ記念式典に呼ばれるの？

ムトンコノヒョンデゼンリョン：2013.05.09 01:14

全<sup>チョル ラド</sup>羅道に行く。「ネズミ博李<sup>イ ミョンバク</sup>」(意訳：李明 博大統領)アウト!」と駆けつけてくる  
ガンギエイたちが怖くて、行きたくても行けないって慎重に推測するんだ。最初から  
7時を外国って思ってるから行かなかったって。

ハンムンスクにイルギョクヒトンチム：2013. 05. 08 20:24

扇動されて暴動を起こしたやつらの遺族たちは過程より結果である「犠牲」だけに  
ピントを合わせるんだ。その暴徒たちにより死んだ戒厳軍<sup>80</sup>を考えれば、(人間が)し  
てはいけない仕業だが、(誰が)そんな判断を下すのだろうか？閣下<sup>81</sup>がああ席を欠席  
したことについて正しい選択だと私は思うんだ。

指摘王：2013. 05. 08 20:28

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

一番目の書き込みを見ると、5・18 光州民主化運動の犠牲者を明らかに「暴徒たち」  
と表現しており、「7 時国家」(意訳：全羅道地域)は5・18 光州民主化運動の犠牲者  
を追悼する記念式を開催していると記している。ところで、この書き込みが投稿された当  
時、マネー・トゥデイ新聞では「李明 博大統領、5・18 光州民主化運動の記念式に 4  
年連続不参加…世論『沸騰』」という見出しの記事<sup>82</sup>を載せていた。「イルベ」掲示板には、  
この記事の見出しや写真をコピーアンドペーストしたスレッドが立てられていた。つまり、  
イルベユーザーは、李元大統領が5・18 光州民主化運動の記念式典に欠席したことを  
批判材料として取り扱うマスメディアとは対照的な反応を見せていたのである。

上述した書き込みには、5・18 光州民主化運動の犠牲者のための記念式は(全羅道

---

<sup>79</sup> 北朝鮮では李明 博元大統領の顔がネズミに似ているとし、李元大統領を「ネズミ博李(=귀박이)」と呼んでいる。「ネズミ博李」は李元大統領の蔑称であり、「イルベ」掲示板でも使われていた。

<sup>80</sup> 戒厳軍は、民主化を要求する学生や市民を鎮圧するため、政府が投入した軍隊を指す。

<sup>81</sup> 「イルベ」掲示板で「閣下」は李明 博元大統領を指す。

<sup>82</sup> <http://www.mt.co.kr/view/mtview.php?type=1&no=2012051714568222787&outlink=1>(最終閲覧日：2016年7月25日)

地域を除いた) わが国とはあまり関係のない行事であるにもかかわらず、なぜ外国大統領(意識：李明博大統領)が呼ばれたのか、その理由が全く分からないというニュアンスが強く盛り込まれていた。二番目の書き込みにおいても、李元大統領が「最初から 7 時(国家)を外国って思っているから」5・18 光州民主化運動の記念式典に欠席したと記していた。次に、三番目の書き込みを見ると、「イルベ」掲示板のユーザーは5・18 光州民主化運動の「犠牲者」よりも、戒厳軍や政府である「加害者の視点」に立って共感を示しているということが読み取れた。

以上の書き込みから分かるのは、光州市<sup>クァンジュ</sup>で起きた5・18 光州民主化運動を「暴動」「我が国とは何の関係もない」と見なしており、全羅道地域や光州市を「外国」や「仮想敵」として扱う傾向が読み取れた。加えて、「イルベ」掲示板において全羅道地域は極度に嫌悪の対象であるということが分かった。そのため、ユーザーの間では自分の出身地を全羅道地域であると明かすのは極めてタブー視されてきている。以下の書き込みでは、このような傾向が明確に示されている。

ゲイ<sup>84</sup>よ。申し訳ないが、7時国家で生まれたことが罪である。

ムトン\_ヒョンデリョン：2013. 05. 09 00:04

7時国家で生まれたわけではなく、父がガンギエイ(意識：全羅道出身)だ。僕は生粋のソウルっ子だが、何日前に父がガンギエイという事実を知ることになった。なぜ僕が、これまでけんかをしたり、親の言うことに食ってかかったりするのような行動をしてしまったかを理解することになった。だから、今はガンギエイその本来の姿を表に出さずに自制している。

花一輪天使：2013. 05. 09 00:07

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

---

<sup>83</sup> ソウル特別市以外に韓国では、人口 100 万人を超える大都市を「広域市」として指定しており、光州広域市は、6 大広域市のうちの 1 つであり、全羅南道に位置している(図 6 を参照のこと)。

<sup>84</sup> 「イルベ」掲示板では掲示板の利用者を「ゲイ」と呼んでいる。

上述した書き込みの内容をみると、<sup>チョル ラ ド</sup>全羅道地域の人々に対する民族差別的な嫌悪の感情が盛り込まれていることが分かった。その他、<sup>チョル ラ ド</sup>全羅道地域に行く際にパスポートやビザを持って訪問したかを問う書き込みも散見されていた。<sup>チョル ラ ド</sup>全羅道地域への訪問は外国への入国と同様であるという意味なのである。以上のことから、<sup>チョル ラ ド</sup>全羅道地域に対する嫌悪感が非常に広範囲にわたることがわかった。

第二に、<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>5・18 光州民主化運動を貶める内容が盛り込まれた「<sup>じゅうほく</sup>従北-武装-反乱-5・18-勢力-民主主義」の間に共起関係が見られた(図14を参照のこと)。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを参照しながら検討してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

<sup>チョル ラ ド</sup>全羅道勢力が様々な分野で自分たちだけの城を築いて反逆行為をしながら、自分たちの立場を高めることができるように作ったのが5・18の武装反乱なのである。<sup>チョル</sup>全羅種族たちを一つに結ぶ紐が5・18の武装反乱だ。5・18武装反乱の失敗は、これら同士の結束力をより強化するきっかけとなった。また、<sup>キム デ ジュン</sup>金大中を中心に団結した勢力が今の<sup>チョル ラ ド</sup>全羅道勢力かつ<sup>じゅうほく</sup>従北勢力だ。(中略) 被害者コスプレで<sup>チョル ラ ド</sup>全羅道に対する反逆行為を正当化しようとするのがまさに彼らである。(中略) 暴動という表現は客観的な事実関係をそのまま記載したものである。暴動は無計画的であり、群衆が乱暴を働く時に使われる表現だ。5・18武装反乱は、<sup>キム デ ジュン</sup>金大中を中心にした韓国の反乱勢力が暴動を起こしたのだ。また、<sup>キム ジョンイル</sup>金正日勢力が韓国に親北朝鮮政権を立てるために、徹底的に準備して起こした軍事反乱だ。自然に発生したわけではない。

全羅道奴刺殺：2013. 05. 08 21:09

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容をみると、<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>5・18 光州民主化運動を「暴動」「武装反乱」と表記しており、書き込みの左下から5・6行目では、<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>5・18 光州民主化運動を「暴動」と呼んでいる理由について明示していた。<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>5・18 光州民主化運動が「群衆蜂起による暴動」のため、<sup>オ イルバルクァンジュ</sup>5・18 光州民主化運動を「暴動」と表現するのは正当なものであるのだ。

また、書き込みの左上から 4・5 行目をみると、<sup>オ</sup> 5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup> 光州民主化運動を支持し、擁護する人々を<sup>キム デ ジュン</sup> 金大中元大統領や<sup>じゅうほく</sup> 従北勢力、すなわち左派リベラル勢力に限定して見ていた。というのも「イルベ」掲示板のユーザーの目には、左派リベラル勢力が<sup>オ</sup> 5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup> 光州民主主義という名を借りて、被害者コスプレを演じつつ、自分たちの政治的利権を確保しようとしているののように映っているからである。ここにおいて、「イルベ」掲示板のユーザーは、左派リベラル勢力が主張する矛盾した言説に違和感や嫌悪感を覚えており、これは、<sup>オ</sup> 5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup> 光州民主化運動を否定する傾向をさらに増幅させたと言えよう。また「イルベ」掲示板において「<sup>クァンジュ</sup> 光州」という地域は、単なる地域的な意味を超え、「民主化運動の聖地」「リベラル勢力」「民主党」という記号によって象徴される左派的な思想や言説のことである。そこで、<sup>オ</sup> 5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup> 光州民主化運動の価値を貶すのは、究極的に「左翼的なもの」への敵意や嫌悪であるという点に注目する必要がある。

第三に、「イルベ」掲示板では<sup>オ</sup> 5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup> 光州民主化運動の犠牲者、すなわち国家功労者への嫌悪ムードが極めて広範にわたっている。以下は、関連書き込みの一部の抜粋したものである。

6.25(=韓国戦争、朝鮮戦争)に参戦した勇士らの恩恵は雀の涙程度なのに<sup>オ</sup> 5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup> 光州暴動に参加した奴らの恩恵はいっぱいある。まったく<sup>ホナン</sup> 湖南出身<sup>85</sup>の奴らは即刻入れ替えるべきだ。

李健熙会長：2014. 03. 07 17:53

公務員試験の少数職列<sup>86</sup>の場合、資格加点の対象者になる国家功労者の子女しか合格できないんだ。加点により合格ラインが102-103点となると、満点獲得者も脱落…だから、<sup>ホナン</sup> 湖南出身の人たちがより多く入るんだ。

パン女精神改造：2014. 03. 07 17:49

---

<sup>85</sup> <sup>チョル ラド</sup> 全羅道地域は<sup>ホナン</sup> 湖南地域とも呼ばれている。

<sup>86</sup> 少数職列公務員とは、司書職・獣医職・畜産職・地籍職(=土地の調査などを従事)など特定職・技能職公務員を言う。一般職公務員に比べて採用数が少ない。

（「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」（下線筆者））

上述した書き込みの内容を見ると、「6.25 戦争（＝韓国戦争、朝鮮戦争）の参戦勇士」と「5・18 光州民主化運動の犠牲者」を対峙する構図が形成されていることが分かった。「6.25 戦争参戦勇士」と「5・18 光州民主化運動の犠牲者」は、いずれも国のために命をかけて戦って負傷あるいは死亡した人々である。しかしながら、上の書き込みから見ると、ユーザーは5・18 光州民主化運動の国家功労者の方が恩恵をより多く享受していることについて、否定的な態度を取っていたことが読み取れた。

二番目の書き込みの内容を見てみよう。5・18 光州民主化運動の国家功労者の子女は、国家公務員採用試験の際に加点などで優遇されるため、合格が容易になるという内容であった。現在韓国では、国家功労者の配偶者および子女は、公務員採用試験において国家功労者の基準に沿って加点の対象となっている。「イルベ」掲示板では、このような書き込みを取り上げることで、青年層に全羅道地域からの被害意識を植え付け、特定の地域への差別をさらに助長していた。これは、日本のネット右翼が、在日韓国人は日本人の就業の機会を奪っているといった被害者意識を絶え間なく主張し続けることとも軌を一にしているのだ。

要するに、「イルベ」掲示板のユーザーは、同じ韓国で起こった一連の出来事でも、「6.25 戦争（＝韓国戦争、朝鮮戦争）」と「5・18 光州民主化運動」の位置づけや評価を明確に区別していた。本論文で得られた結果からみると、「イルベ」掲示板では5・18 光州民主化運動を「群集暴動説」「北朝鮮軍による浸透説」と流布していた。また、5・18 光州民主化運動の犠牲者は指弾の対象となっていた反面、デモ隊を阻止するため一線に投入された空挺部隊や新軍部勢力はユーザーから支持を得ていた。

もうひとつ注目すべきは、5・18 光州民主化運動の犠牲者をめぐるイルベユーザーの視点が、セウォル号事故遺族たちにもそのまま適用されている点である。彼らはセウォル号事故の遺族たちを「巨額の賠償金の取得を狙う俗物」として理解しており、現政権や軍人や潜水夫に共感の声が寄せられていることが本論文の結果から分かった。つまり「イルベ」掲示板のユーザーの視点から「5・18 光州民主化運動」（1980 年）や「セウォル号事故」（2014 年）は、政府に矛先を向けた暴動であるため、5・18 光州民主化運動やセウォル号の遺族はバッシングの対象となっていた解釈できるだろう。



その反面、「6.25 戦争(= 韓国戦争、朝鮮戦争)」(1950 年)、「韓国軍艦の天安号爆沈事件」(2010 年)、「延坪島砲撃事件」(2010 年)は、北朝鮮との戦いで犠牲となった人々、すなわち、北朝鮮政権の侵略に正面から立ち向かって民族的正統性を守った人々であるため、この掲示板で優遇の対象となっていた。つまり、「イルベ」掲示板のユーザーは、政府が 5・18 光州民主化運動やセウォル号事故遺族に支給することは不当かつ過剰であると認識していた反面、6.25 戦争をはじめ天安号爆沈事件や延坪島砲撃事件の遺族に賠償金を支給することは正義の原則に適合していると認識していた。そのため、盧武鉉や金大中元大統領が延坪海戦<sup>87</sup>の追慕式には出席せずに、5・18 光州民主化運動の追慕式に出席した事案について、「イルベ」掲示板では批判の対象として扱っていた<sup>88</sup>のである。

#### 4.3.2.2 金大中大統領

「金大中」元大統領と関連語との共起ネットワークは、図 14<sup>89</sup>のような結果となった。第一に、「金大中-左派-大統領-盧武鉉」の間に共起関係が見られ、「左派大統領」という物語が形成されていた。金大中大統領は、韓国の憲法史上初めて、全羅南道出身の大統領かつ左派・革新政権の大統領である。金大中政権を引き継いだ盧武鉉政権もリベラル的な政権であるため、「左派」といった語句が特徴的な語として位置していたことがわかった。

第二に、金大中元大統領を嘲弄や揶揄する際に使われている「イイダコ-杖-足-自由自在-スイッチ・ヒッター」といった語句が目立っていた。この五つの特徴語は、金大中元大統領が交通事故の後遺症で足が不自由になり、杖で体を支えながら足を引きずって歩く姿を比喻したものである。「イイダコ」という言葉は、4.2.2 節の「政治日刊ベスト板」の共起ネットワークで登場したものであり、ここでは、「イイダコ」という言葉に加えて、「スイッチ・ヒッター」という言葉が登場していた。「スイッチ・ヒッター」とは、元々

<sup>87</sup> 延坪海戦は、2002 年 6 月 29 日に黄海延坪島付近で発生した北朝鮮と韓国の艦艇による銃撃戦のことである。

<sup>88</sup> 「全羅道-光州-暴動-延坪海戦」の間に共起関係が見られた(図 12 を参照のこと)。

<sup>89</sup> 図 14 の Jaccard 係数は 0.1 以上であった。

野球やソフトボール等において、左右両方の打席で打つことのできる選手のことである。

「イルベ」掲示板における「スイッチ・ヒッター」という語句は、杖を左側についたり、右側についたりする<sup>キム デ ジュン</sup>金大 中 元大統領の姿を皮肉る意味として使われていた。また、「スイッチ・ヒッター」という語句は、「銅像-コンベンション・センター-業績」といった語句と共起関係が見られた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。確認の結果、<sup>キム デ ジュン</sup>金大 中 元大統領の業績を称えるために建てられたコンベンション・センターに対して、「スイッチ・ヒッター」といった言葉を使いながら、皮肉交じりの書き込みが多数寄せられていた。

第三に、「経済政策」に関する物語である。「IMF-病身-仕業-<sup>キム ヨンサム</sup>金泳三-経済危機-リーマン・ショック」という語句間に共起関係が見られた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを参照しながら検討してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

<sup>キム ヨンサム</sup>金泳三の時代に IMF が起きて、<sup>キム デ ジュン</sup>金大 中・<sup>ノ ム ヒョン</sup>盧武 鉉 時代には経済成長率底入れ…

アイラン天才：2013. 11. 20 21:49

失われた10年…

ラウルエ：2013. 06. 09 22:20

左翼ゾンビ大統領でなければ、大韓民国は自然に発展していく。

匿名\_5ee243：2014. 06. 10 11:07

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、アジア通貨危機をもたらした既成政治家に対する強い失望を抱いていたことが分かった。また、<sup>キム デ ジュン</sup>金大 中・<sup>ノ ム ヒョン</sup>盧武 鉉 両政権を指して「失われた 10 年」と表現しながら、両政権の失政を辛辣に批判していた。このような書き込みの裏側には「左派政権の 10 年が韓国経済を減ぼした」「左派政権は無責任で無能だ」という

前提が置かれているのである。

第四に、「対北政策」に関する物語である。「北朝鮮-米-税金-核兵器-平和賞-受賞-侮辱」という語句間には強い共起関係が見られた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを参照しながら検討してみた。以下は、関連書き込みの一部の抜粋したものである。

<sup>キムヨンスム</sup>金泳三のせいで国家がめちゃくちゃにされて、IMF に介入される羽目になって、さらに<sup>キムデジュン</sup>金大中が米の支援をした結果、北朝鮮は核を作った。

統計虫：2014. 03. 12 19:10

国民の税金を不法に北朝鮮に供給し、その対価としてノーベル平和賞をもらって、恥ずかしくないのか？対北朝鮮秘密送金で、北朝鮮の作った核兵器が今、北東アジアの平和を脅かしているよ。

イルベー級正会員：2014. 07. 10 17:52

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、過去に<sup>キムデジュン</sup>金大中・<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉 両政権が続けてきた対北朝鮮融和政策に否定的な見解を示していた。二番目の書き込みを見ると、ノーベル平和賞という言葉が登場していた。2000 年 6 月、<sup>キムデジュン</sup>金大中 元大統領が韓国大統領として初めて北朝鮮を訪問し、<sup>キムジョンイル</sup>金正日 国防委員長と初の南北首脳会談を行い、6.15 南北共同宣言を締結した。この功績により、同年<sup>キムデジュン</sup>金大中 元大統領はノーベル平和賞が与えられた。しかし、南北首脳会談直前に現代グループが北朝鮮へ 5 億ドルを違法に送金したという事実が発覚した。このことから、上の書き込みのように、「金で買ったノーベル賞」との批判が出ていたのである。KH Coder では重要な語(ノード)ほど濃いピンク色を帯びるが、ここでは「北朝鮮」という語句が最も濃いピンク色で示されていることから、この語句が特徴語だと言えるだろう。韓国社会の中で保守とリベラルの差異を最もよく表す指標が対北政策観であるが、「イルベ」掲示板においても、このような争点を強調する傾向が読み取れた。

第五に、「<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙 元大統領と <sup>キョンブ</sup>京釜高速道路」に関する物語である。「<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙-<sup>キョンブ</sup>京釜高速道路-<sup>チョルラド</sup>反対-地域感情-<sup>チョルラド</sup>全羅道」の間に共起関係が見られた。関連書き込みを確認した結果、当時の<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙 元大統領が公約として、ソウルと<sup>ブサン</sup>釜山を結ぶ <sup>キョンブ</sup>京釜高速道路の建設を揚



### 4.3.2.3 盧武鉉大統領

「<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉」元大統領と関連語との共起ネットワークは、図 15<sup>90</sup>のような結果となった。第一に、「経済政策」に関する物語である。「経済-不動産-地価-物価-上昇率-公企業負債-弾劾-話」という語句間には強い共起関係が見られた。特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉は新自由主義政策を実施した。代表的な例が医療保険の民営化、水道の民営化、ガスの民営化、鉄道民営化、韓米 FTA、米収入、牛肉の輸入、住宅価格上昇、大学の授業料2倍値上げ、物価の2倍値上げなどだ。退任後には、庶民のコスプレをしたが、任期中には中産階級を庶民にして庶民は貧民にしたのが<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉だ。国をダメにするし、経済破綻するし、政治は混乱し、任期末の支持率は5.7%台まで落ちた。

マーガレット# : 2014.01.07 09:04

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉政権における経済政策の最大の失敗が、新自由主義政策の採用であったという論点が観察された。具体的には、<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉政権の不動産政策は全国の至るところで不動産ブームを起こし、土地や住宅価格を高騰させ、中間層や庶民をさらに苦しめているという内容であった。加えて、<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉政権になってから韓国の経済はますます冷え込んでいき、中流層や庶民の暮らしが一層疲弊したという論点も読み取れた。

---

<sup>90</sup> Jaccard 係数 0.1 以上のリンクを共起関係として分析した。

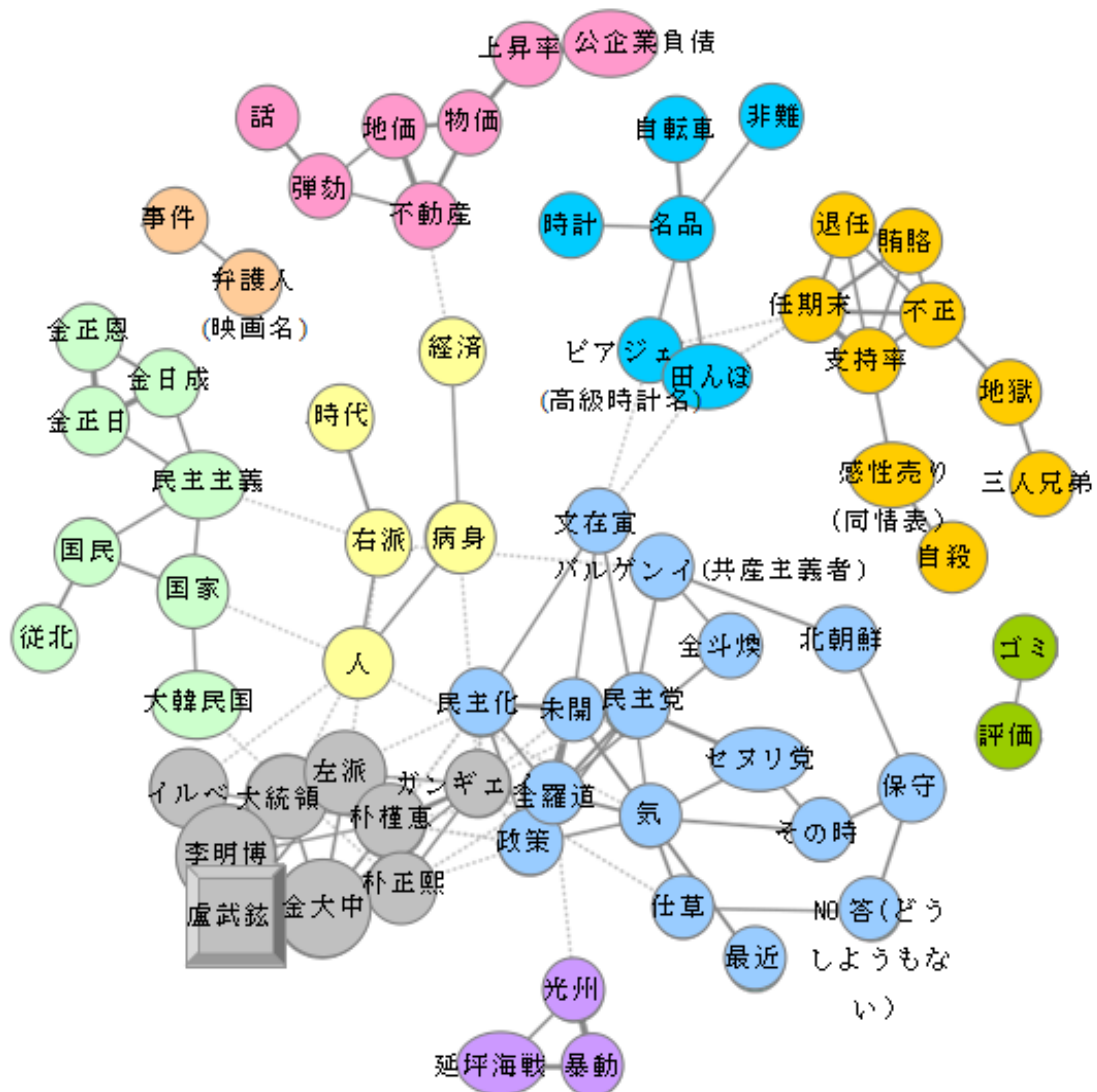


図 15 盧武鉉元大統領に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク

第二に、「不正疑惑事件」と「庶民コスプレ」に関する物語である。まず、「退任後の贈収賄事件」を示唆する「任期末-ピアジェ(= スイスの高級時計)-田んぼ-賄賂-不正-文在寅<sup>ムンジェ</sup>」の語句間に共起ネットワークを見られた。次に「庶民コスプレ」を表す「ピアジェ-田んぼ名品-自転車-市民-非難」の語句間にも共起関係が見られた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを参照しながら検討してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

退任後、賄賂を受け取ったことで、不正疑惑がかかって、貰ったピアジェの時計を田んぼに捨て、ミミズク岩から飛び降りた盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>や盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>の分身<sup>ムンジェイン</sup>の文在寅。

マーガレット# : 2014. 01. 07 09:04

ピアジェ (意訳 : スイスの高級時計) を田んぼの肥料として使う盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>や高級椅子に座ってアイパッドを使う文在寅<sup>ムンジェイン</sup>は確かにお金持ちのはずなのに、なぜ、彼らを庶民感覚をわきまえた政治家と呼んでいるのだろうか？

己口〇レ口 : 2014. 05. 14 23:33

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、退任後の収賄容疑件や庶民派気取りに対し、ユーザーから非難を浴びていることがわかった。

盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup> 元大統領は 2002 年大統領選挙において、庶民政党をアピールして、当時盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup> 旋風を巻き起こしてきた。それゆえ、盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup> 元大統領は「庶民派」「庶民の味方」という修飾語がつけられていたのである。また、退任後にも孫を自転車に乗せ、田舎の村でサイクリングを楽しんでいる姿がメディアを通じてよく映されていた。関連語検索で示された「自転車」という言葉は、盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup> 元大統領の庶民イメージを指す指標的(indexical)記号であると言えるだろう。しかしながら、退任後に泰光<sup>テグアン</sup> 実業の朴淵次<sup>パクヨンチャ</sup> 会長から不正資金を受け取ったことが明らかになり、盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup> 元大統領の政治的資産であった道徳性も崩れ去った。これを受け、盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup> 元大統領を非難する書き込みが相次いでいたのである。

次に、「文在寅<sup>ムンジェイン</sup>」という政治家の名前が登場している。文在寅氏(現、大統領)は、2012 年大統領選挙における民主統合党の大統領候補であり、故・盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup> 元大統領の青瓦台<sup>チョンワデ</sup><sup>91</sup>の民政首席秘書官を歴任した。2012 年大統領選挙の当時、文在寅候補は庶民派といったイメージが強かった。テレビの大統領選挙広告で文在寅候補が腰かけていた椅子が 700 万ウォン以上の「イームズ・ラウンジ・チェア」と呼ばれる高級な椅子であったという意見が「イルベ」掲示板を通じて拡散された。上の書き込みからみると、実際は庶民の生活とは無縁であったにもかかわらず、庶民派を演出する、いわば「偽の庶民コスプレ」をして

<sup>91</sup> 青瓦台<sup>チョンワデ</sup>は、韓国のソウル特別市鍾路区<sup>チョンノグ</sup>の北岳山の麓<sup>ブガク</sup>に所在する大統領官邸である。

いる左派リベラル勢力の矛盾を嘲笑ないし冷笑していることが読み取れた。実際、この事件が当時の文在寅候補<sup>ムンジェイン</sup>のイメージに決定的な打撃を与える一因ともなった。

第三に、盧元大統領が政治家になる前の半生を描いた映画「弁護人」に関する物語や2009年の盧元大統領の死去と関連する物語である。まず、「事件-弁護人」という語句間に共起ネットワークが形成されていた。盧元大統領の弁護士時代をモチーフにした映画「弁護人」は、1981年に実際に起きた冤罪事件の「釜林事件」<sup>フリン</sup>を題材にしたフィクションで、一人の弁護士が、窮地に立たされた釜林事件の被害者を救うために、政府や警察組織の不正に立ち向かうという物語である。映画「弁護人」は韓国国内での観客動員数が1100万人を突破する大ヒットを記録した。これに対し、ユーザーからは盧元大統領を貶めるような書き込みが数多く寄せられた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

映画の弁護人を見てきたが、観客に同情心を起こさせようとするのに何か腹が立ち、気持ちが悪い。

ユンハチャウン：2014. 01. 07 03:06

このようなこと(意識：李明博大統領の成長神話)で映画なんて作んねーよ。バカみたいな盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>なんかをモチーフにして…バカみたいなキムチ映画系に何をさらに願うんだ？毎度北朝鮮スパイや左派ゾンビ映画ばかり作ってるから。

チョルキムジン：2014. 01. 06 14:13

弁護人が予想より観客動員数が多い理由は、今の700万以上の観客たちのうち、同じ映画を何度も繰り返し観た人が多いということ。さらに、ネームバリューのあるスター俳優のソン・ガンホのおかげ、疑問点がある程度解消されてくるんだ。

ヨンソヤ：2014. 01. 06 14:11

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、映画「弁護人」では盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>という人物そのものが美化して描かれたということや、この作品が多く観客から共感を得たということについて、ユーザーは否定的な反応を示していることがわかった。



次に、2009 年に盧武 鉉 元大統領の死去と関連する「自殺-感性売り(意識：同情票)-自殺率」という語句間に共起ネットワークが見られた。2009 年、盧元大統領の死去は、韓国社会に大きな衝撃を与えた。当時盧元大統領の死去について、李明 博政権と検察側の厳しい捜査が死亡原因となったという世論が形成され、李明 博政権を批判する声も広がった。「イルベ」掲示板の関連書き込みを確認してみた結果、ユーザーは盧元大統領の死去を人々に同情や共感を求めようとする一種のパフォーマンスのように捉えていた。

第四に、「左派大統領」「従 北」などの言葉が KH Coder の関連検索語に出現していた。また、「全 羅道-民主化-ガンギエイ-未開-民主党-パルゲンイ(= 共産主義者)」の間に共起関係が見られたということから、特定地域への嫌悪や内部(= 我々)と外部(= 彼ら)を二者に分ける考え方が現れていることがわかった。以上の「左派大統領」「従 北」「全 羅道」に関する物語は、前述した金大 中 元大統領の特徴語と重なる物語であると言えるだろう。

その他に注目すべき点として、「保守」「NO 答」(= どうしようもない)という語句が表れていたことが挙げられる。保守勢力が集うネット掲示板「イルベ」でこのような共起関係が現出したというのは興味深い。語句間の関係をより明確に把握するため、共起の程度が強い語句を線で結んだネットワークを対照してみた。「保守-NO 答-北朝鮮-その時-気-仕業」の間に共起関係が形成されていた。関連特徴語を参照しながら、書き込みを確認してみると、朴 槿 恵 大統領と「朴サモ(= 朴 槿 恵 を愛する人々の会、政治家ファンクラブ)」に対する批判の声が盛り込まれていた。これまで朴 槿 恵 大統領を擁護してきた様相とは対照的であると言える。以下は、関連書き込みの一部の抜粋したものである。

朴 槿 恵 はあまりにもガンギエイたちに振り回されすぎていて、カリスマ性と決断力も足りないんだよな。さらに親中政策もよくなかった。共に民主党の左派奴と同じ親中政策なんて呆れちまうよ。

クォルルクキク：2014. 07. 10 01:47

朴 槿 恵 は単なる操り人形に過ぎない。

ダハムケイルミンアウト：2014. 07. 29 03:21

朴サモ NO 答 (= どうしようもない)。そろそろ盧サモ(= 盧武 鉉<sup>ノム ヒョン</sup>を愛する人々の会、政治家ファンクラブ)化していく。

精液ボクボムオノデラ：2014. 07. 10 09:20

人事の問題で最近はがっかりさせられてばかりだ。

国父朴正熙閣下：2014. 07. 10 00:22

経済民主化や国民幸福というでたらめな公約を掲げていた時から悪口を言いたかったのに、雰囲気<sup>ムンチヤングク</sup>に吞まれてしまった。今回、文昌 克<sup>ムンチャングク</sup>総理の任命権は常識的に考えてありえない、あつてはいけないことのように思う。

zino：2014. 07. 10 11:57

(政府省庁の)女性部の支援、多文化政策、中小企業育成、まずこの三つの政策を叩かなきゃいかんよ。

クトウルル：2014. 07. 10 08:57

イ・ジャスミンみたいなフィリピン比例代表の公認を与えるのは今も納得できないんだ。

クトウルル：2014. 07. 10 09:16

対北朝鮮政策だけ除けば、朴<sup>パク</sup><sup>ク</sup><sup>ネ</sup><sup>ノム ヒョン</sup>恵は盧武 鉉<sup>ノム ヒョン</sup>と同じレベルだ。

スンサン教聖職者：2014. 07. 10 00:11

朴<sup>パク</sup><sup>ク</sup><sup>ネ</sup><sup>ノム ヒョン</sup><sup>ノム ヒョン</sup>恵、本当に盧武 鉉<sup>ノム ヒョン</sup>の再臨である。無能の極致を見せてくれる。何も気に入るものがない。

匿名\_970e7b：2014. 07. 10 00:06

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容をみると、朴大統領が左派の声に振り回されていることや人事の問題でユーザーから袋叩きに遭っていることがわかった。朴大統領が左派の偽りの扇動に屈したとして、「操り人形」にたとえたユーザーの書き込みも目立っていた。

次に、人事の問題としては2014年6月10日、朴大統領が文昌克氏を次期総理に指名したが、過去に日本による植民地支配や南北分断は「神の意思」と発言したことが問題視され、2014年6月24日総理候補を辞退したことが挙げられる。総理候補の文昌克氏が就任を辞退したことについて、「イルベ」掲示板のユーザーが興奮している様子も見て取れた。また、最近展開している政策についても朴大統領を痛烈に批判していることも読み取れた。特に、政府省庁の女性部の支援・多文化政策・中小企業育成の政策については、全く共感できないという意見であった。ユーザーは朴大統領の歩みに大きな失望感と喪失感を抱いており、それと同時に盧武鉉元大統領と同一歩調を取っているのではないかというような意見も多数寄せられていた。

#### 4.3.2.4 北朝鮮

「北朝鮮」と関連語との共起ネットワークは、図16<sup>92</sup>のような結果となっており、語句と語句を結ぶ線が多すぎると解釈しづらいため、ここでは最小スパニング・ツリーの描画と比較しながら、分析をしていく。図17は、最小スパニング・ツリーを利用し「北朝鮮」に対する共起ネットワークを示したものである。以下では、図16と17を参照しながら、「北朝鮮」に対する共起ネットワークの分析を行っていく。

まず、「北朝鮮-大韓民国-国民-左派-新旧大統領の名前」の間に共起関係が見られた。共起ネットワークの関連語結果から得られた特徴語をもとに、関連書き込みを確認してみた。以下の引用は、関連書き込みの一例である。

左翼ゾンビ 10 年間、北朝鮮に援助したその時の気持ちを思い出すと、今でもムカつく。

TR : 2013. 06. 09 22:22

<sup>92</sup> Jaccard 係数 0.1 以上のリンクを共起関係として分析した。

対北外交のせいで、<sup>キム デ ジュン</sup>金大 中、<sup>ノ ム ヒョン</sup>盧武 鉉 大っ嫌い。

ユ・アイン似た形：2014. 01. 06 16:51

北朝鮮を思い切り殴りつけてやれ。10 年の間、ずっと無償で配布してるから我々を  
ガンギエイとなめてるよ。

ホンジスハム：2013. 06. 09 22:03

対北朝鮮政策だけ除ければ、<sup>パク ク ネ</sup>朴 槿 恵は<sup>ノ ム ヒョン</sup>盧武 鉉 と同じレベルだ。

スンサン教聖職者：2014. 07. 10 00:11

(「イルベの政治日刊ベスト板、筆者による日本語訳」(下線筆者))

上述した書き込みの内容を見ると、<sup>キム デ ジュン</sup>金大 中・<sup>ノ ム ヒョン</sup>盧武 鉉 元大統領の対北政策に対し露骨な嫌悪感が表れていた。北朝鮮に関する問題は、対北政策観と関連性を帯びていることを示唆している。

政治学で通説的なイデオロギーや思想間の区分があるように、韓国社会において北朝鮮をどのように見るかという問題は、政権の対北朝鮮政策を評価する観点とも直結する。具体的には、「保守派=反北朝鮮主義」と「リベラル派=親北朝鮮主義」という争点に分けられる。保守政権の対北朝鮮政策観は「イルベ」掲示板のユーザーから大きな共感を得ていた。「北傀<sup>ブクケ</sup>の挑発に最も強硬に立ち向かった大統領」といったスレッドは、<sup>パク チョン ヒ</sup>朴 正 熙元大統領が反共主義を国是の第一としてきたため、北朝鮮に対して強硬な姿勢を取ったという内容であった。このスレッドに対し、2,497 件のお勧めをもらった数と 898 件の書き込みが投稿されるほど、「イルベ」掲示板のユーザーから絶大な支持を得た。

次に、「<sup>じゅうほく</sup>従 北-<sup>キム ジョンイル</sup>金正 日-<sup>キム ジョンウン</sup>金正 恩-<sup>チョル ラ ド</sup>パルゲンイ-全 羅道」の間に共起関係が形成されていた。「イルベ」掲示板で「<sup>じゅうほく</sup>従 北」という概念はよく登場しており、この概念がどのように使われているかを検討する必要がある。

---

<sup>93</sup> 韓国では、北の傀儡政権という蔑称の意味を込めて北朝鮮を「北傀(= 북괴)」と呼んでいる。

<sup>94</sup> <sup>ブクケ</sup>北傀勢力は比喩的に「ゴミ」同然の集団という意味で用いられた。

第一に、図 16 で示されたように、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という語句は「金正日・金正恩・パルゲンイ(= 共産主義者)」といった語句をつないでいることから、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉は北朝鮮や共産イデオロギーと密接な関連を持っていることが分かった。また、前述した例から見ると、全元策<sup>チョンウォンチュク</sup>弁護士が従北<sup>じゅうほく</sup>思想検証法について「金日成や金正日<sup>キムイルソン キムジョンイル</sup>勢力を畜生だ」と言うに従北<sup>じゅうほく</sup>勢力がありません」と発言したことから、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉は北朝鮮の思想や体制を追従することを意味する。

第二に、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉と連関する言葉として「全羅道<sup>チョルラド</sup>」が登場している。「イルベ」掲示板ではリベラルを象徴する全羅道<sup>チョルラド</sup>地域を目の敵にしていたため、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉の中には韓国内に存在する「内部の敵」も含めていることが分かった。4.3.2.1 節での書き込みでは、「金大中<sup>キムデジュン</sup>を中心に団結した勢力が今の全羅<sup>チョルラ</sup>勢力かつ従北<sup>じゅうほく</sup>勢力」であることにより5・18光州民主化運動が起こったと述べられていた。ここでの従北<sup>じゅうほく</sup>勢力は、「金大中<sup>キムデジュン</sup>元大統領」と「5・18光州民主化運動の犠牲者<sup>イルバルクアンジュ</sup>」を指していることから、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉の中には、左派リベラル陣営を卑下する意味が盛り込まれていることがわかった。

第三に、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉は、セウォル号事故の真相究明を要求する支持団体や遺族をはじめ、芸能人の金濟東氏とナンシー・ラング氏に到るまでより広範に使用されていた。彼らは、政府や国家への異議を提起し、是正を促してきたため、ユーザーは「従北<sup>じゅうほく</sup>左派」「従北<sup>じゅうほく</sup>チョワパル<sup>95</sup>」「従北<sup>じゅうほく</sup>パルゲンイ」などとレッテルを貼っていた。その他、マイノリティを擁護するのは国家アイデンティティを脅かすという理由で、性的少数者と外国人労働者などのマイノリティに対しても、ユーザーは「従北<sup>じゅうほく</sup>」というレッテルが貼られていた。

このような点から見ると、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉はこれまでの従北<sup>じゅうほく</sup>の概念とは異なる意味で用いられていることがわかった。「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉は元々反共主義イデオロギーの原型から形成されたが、最近では既存の反共主義イデオロギーでは説明できない人々、例えば、セウォル遺族や性的少数者、外国人労働者などにも「従北<sup>じゅうほく</sup>」というレッテルが貼られていた。つまり、「イルベ」掲示板のユーザー側から、気に入らない者にはすべて「従北<sup>じゅうほく</sup>」のレッテル貼りがなされるという点で、「従北<sup>じゅうほく</sup>」という言葉は、「イルベ」掲示板上で実体ではなくひっきりなしに飛び交っていた。言い換えれば、「イルベ」掲示板

<sup>95</sup> チョワパル(= 좌파)とは、左翼とパルゲンイ(= 共産主義者)の略語を指す。

における「<sup>じゅうほく</sup>従北」という対象は、明確なものではなく特定されていないということを意味しているのである。この点は、安倍政権に歯向かう者とネット右翼的な言説に異議を唱える者に「在日」あるいは「反日」勢力とレッテルを貼る「2ちゃんねる」掲示板と相似形を成していると言えるだろう。

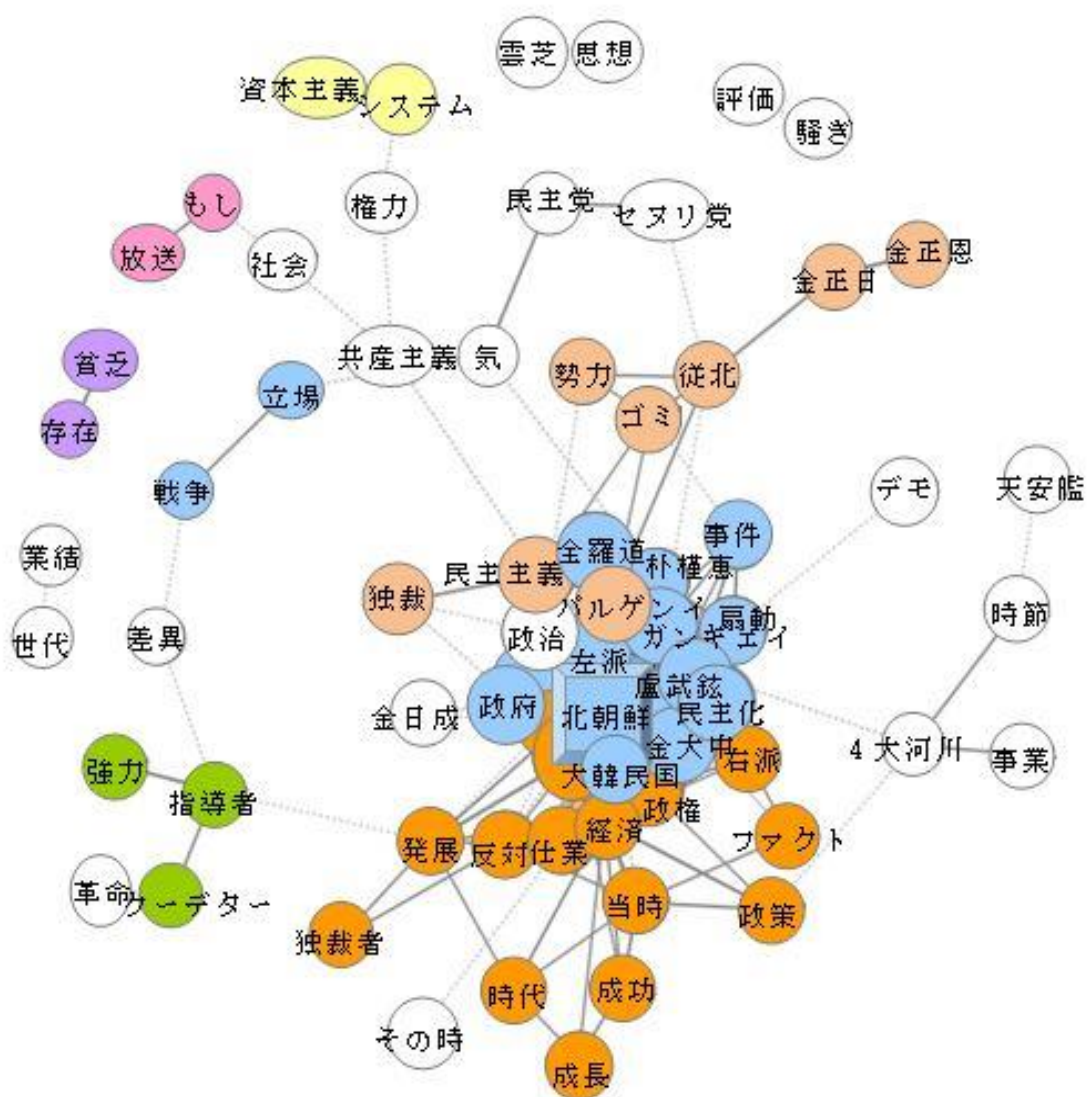


図 16 北朝鮮に対する政治日刊ベスト板の共起ネットワーク

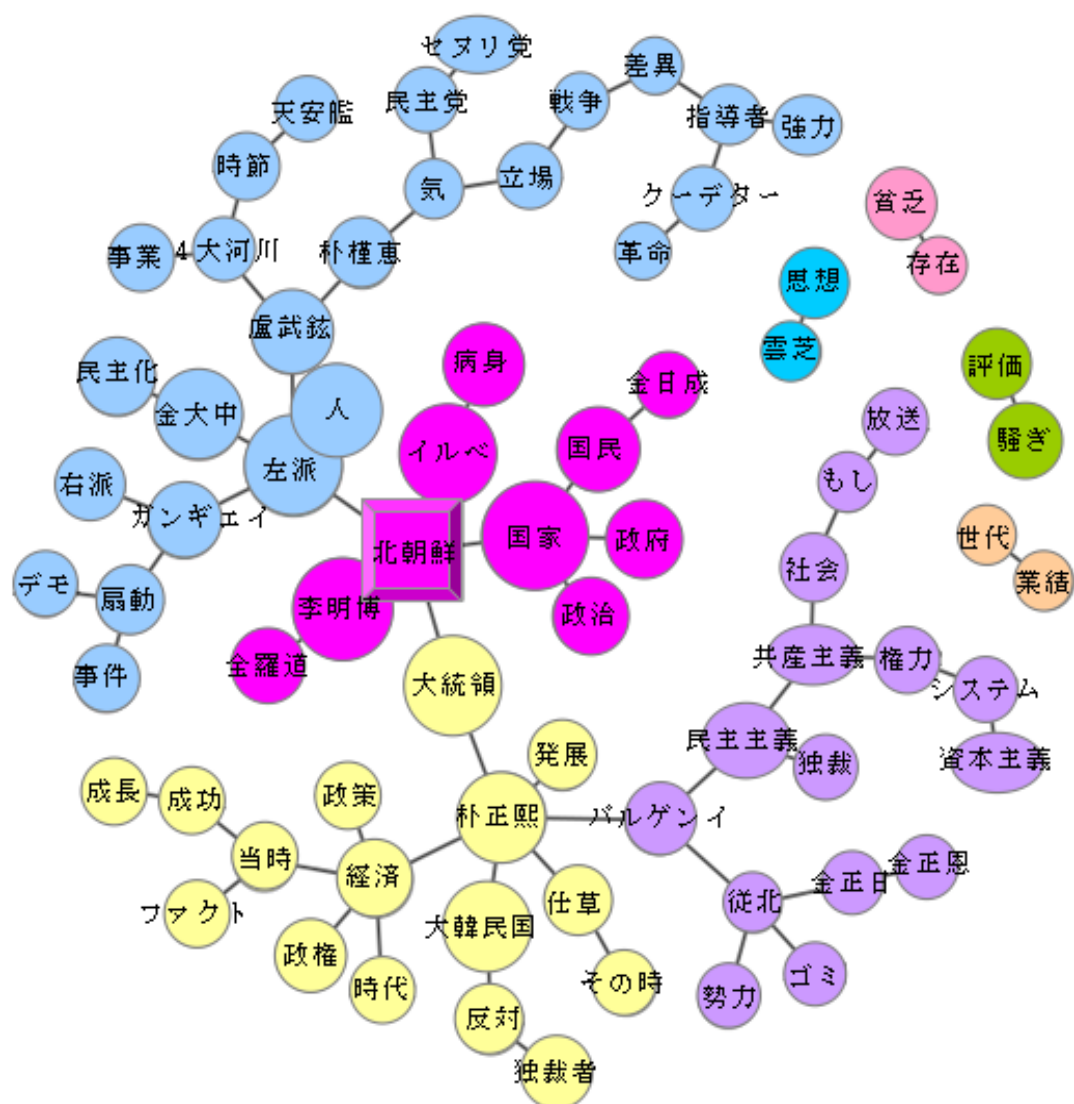


図17 最小スパニング・ツリーによる共起ネットワーク(北朝鮮)

## 第V章 考察

### 5.1 リサーチ・クエスチョン1の考察

リサーチ・クエスチョン1は、各掲示板で取り上げられている物語がアジェンダ設定方式によってどのように変わるかを分析し、これがヘイトスピーチ現象にどのような影響を及ぼすかを検討することである。つまり、各掲示板で取り上げられている物語が、キャップを持つ記者による「トップダウン型」アジェンダ設定とユーザーによる「ボトムアップ型」のアジェンダの設定方式によって、どのような差異があり、これがヘイトスピーチ現象にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることである。

「東アジアnews+板」と「ハングル板」を分けて分析した理由は、2.5.2節で述べたように、以下の3つの問いに答えるためである。第一に、キャップを持つ記者が「2ちゃんねる」掲示板の「東アジアnews+板」でどのような役割をし、彼らが投稿するスレッドはどのような内容を扱っているのか。第二に、キャップを持つ記者が新聞記事をそのままコピーし、スレッド化しているという点で、マスメディアがヘイトスピーチ現象にどのような影響力を及ぼすのか。そして第三に、キャップを持つ記者をマスメディアのアジェンダ設定者と言えることができるか、といったことである。

一方で「ハングル板」は、話題設定者は存在せず、前スレッドのやりとりを継続的にユーザー同士が共有するシステムである。そのような設定の違いから、以下の2つの問いが生まれる。第一に、ユーザーが立てられるスレッドはキャップを持つ記者のものとどのように異なるのか。第二に、憎悪に基づく偏見や差別的な書き込みは、どのようなメカニズムの働きで行われているのか。

このような問いを解明しながら、本論文で得られた知見をまとめよう。第一に、程度の差はあるものの、両掲示板とも当時最も重要な社会的アジェンダの一つであった首脳会談に関する物語が大きな比重を占めていた。出現頻度が高かった上位100語と共起ネットワーク図からみると、首脳会談の懸案の中で慰安婦問題が最も重要な懸案であると認識する



傾向は「東アジアnews+板」と「ハングル板」で共通して見られた。このことから、現在のヘイトスピーチ現象は単純に社会の中で自然に発生してきたのではなく、近隣諸国との歴史認識をめぐる問題、例えば、慰安婦問題をはじめとする戦後補償問題、竹島(韓国名：独島)や尖閣諸島(中国名：釣魚島)などの領有権問題に端を発した物語がヘイトスピーチ言説の温床となっていることが示唆される。

第二に、「東アジアnews+板」との相違点として「ハングル板」では「在日朝鮮人=特別永住者」という物語が目立っていたことが挙げられる。在日朝鮮人が特別永住者として在日特権を享受しているといった物語が「ハングル板」のみで表れるのは、アジェンダ設定機能がインターネットのユーザーにあるということを示唆しており、不確かな情報が流通する温床となっているのではないかと問い直してみる必要があると言えるだろう。樋口直人(2014)の研究においても「在日特権」なる言説は、新聞はもちろん右派論壇誌も含めて流通することはなく、インターネット上で作られ流通したものであると報告されている。

以上の結果について総合的に考察してみると、「東アジア news+板」の場合、マスメディアで生産された報道内容が主な物語として消費されており、それがヘイトスピーチ言説を生み出す土台となっている点も注目に値する。この掲示板では、信用できる情報源のキャップを持つ人々が情報をコントロールしているため、社会で話題になっているもの、節度を持って考えられるものを提示していた。ゆえに、この掲示板における物語はマスメディアに近いものと言えよう。

ここで問わなければならない問題は、スレッドの記事に関する出所を見ると、主に右派と言われる産経新聞やレコードチャイナが多数を占めていたため、これらの新聞の論調と類似性が見られたということである。今回の首脳会談と関連し、保守右派系の新聞は日韓の外交上の軋轢と歴史認識をめぐる摩擦を煽るようなセンセーショナルな見出しの記事を多く掲載する傾向が見られた。一例として、レコードチャイナの「韓国メディア、日本のユネスコへの文科相派遣は『慰安婦』の登録阻止が狙い」、「韓国ネット、『日本は世界の歴史も変えるのか』『外交手法としては見事』」(2015年10月31日付)と題する記事が挙げられる。このような記事は、キャップを持つ記者によって2ちゃんねるユーザーに提供され、これに対してユーザーは「反日だ」「けしからん」とすぐ反応した。つまり、韓国のメディアやユーザーが吐き出す日本に対する敵対的な表現に対し、センセーショナルなものとなるように報道し、世論を煽ろうとしたのだ。また、この新聞は、根も葉もないユーザーのコメントを示し、そのような人の意見をまるで韓国民の多数意見であるかのように

報道し、結果的に日韓両国の国民感情の溝を意図的に生み出してきた。

そして、分析結果からもう一つ指摘すべき点は、日本の保守系のメディアだけではなく、韓国の新聞メディアの日本語版も、今の「2ちゃんねる」掲示板におけるヘイトスピーチ現象を煽っているということである。韓国のメディアは首脳会談と関連し、「安倍政権＝極右・右傾化」という対日報道のフレームで安倍首相の歴史認識や右傾化路線に懸念を示していた。一例として、2015年10月27日付の韓国の京郷新聞<sup>キョンヒョン</sup>では、日本の明治産業革命遺産のユネスコ登録に関して、「国際社会に寄与してきたという日本の『本心』～国際舞台の主役になる資格があるのか」といった題の記事を載せていた。問題は、「東アジア news+板」におけるキャップを持つ記者が、韓国マスメディアの日本語版をそのまま引用してスレッド化していたため、2ちゃんねるユーザーに「韓国が日本を敵対している」「韓国は日本を邪魔する存在」ということを確認させていることである。

2000年代に入り、韓国主要紙がインターネットで日本語版を配信し、ポータルサイトで韓国メディアの記事が日本語に翻訳され始め、韓国の情報にリアルタイムに接することができるようになった。しかしその一方で、背景事情が異なる国家に向けて作成された記事は、日本側からみると、嫌韓感情を生み出す話題を提供しているという点で、韓国メディアの日本語版の影響力は両刃の剣でもある。また、キャップを持つ記者は2ちゃんねるユーザーの支配的な意見に迎合したアジェンダを設定していたため、堂々巡りするようにヘイトスピーチ言説が拡大再生産する結果となった。

その一方で、「ハングル板」におけるアジェンダは、伝統的なメディアが果たしていたアジェンダ設定とは異なり、ユーザー同士がアジェンダを出し合い、意見の共有を行っているため、ある意味で「集団的アジェンダ設定」が起こっているという視座が得られるだろう。そしてこの掲示板は、マスメディアとは異なるアジェンダを設定するという側面を持つことから、反マスメディア・フレームが広範に形成されていることを強調しておきたい。というのも、これまで日本の新聞やテレビで在日問題を取り上げるということは、一種のタブー視されてきた争点やアジェンダであった(チョ 2013)からである。そういった視点からみると、「ハングル板」において「在日特権」というアジェンダが頻繁に設定されるのは、既存のマスメディアに対する2ちゃんねるユーザーの拒絶感、対抗意識の現れであると解釈することも可能だろう。

## 5.2 リサーチ・クエスチョン2の考察

リサーチ・クエスチョン2は、「イルベ」掲示板において顕著に現れている物語は何かを検討することである。本論文における一連の考察で得られた知見は、以下のようにまとめることができるだろう。

ミクロな視点から見ると「政治日刊ベスト板」における物語は、「左派・<sup>チョル ラド</sup>全羅道地域・<sup>じゅうほく</sup>北朝鮮と従北思想への嫌悪」や「高度経済成長期の華やかで浮ついていた時代への憧れ」であった。マクロな視点から見ると、<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙・<sup>イミョンバク</sup>李明博の「経済成長の神話フレーム」と<sup>キムデジュン</sup>金大中・<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉の「政治民主化の神話フレーム」との間で克明な対峙を示していた。頻出語10位内には新旧大統領の名前(<sup>イミョンバク</sup>李明博(1位)、<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙(3位)、<sup>キムデジュン</sup>金大中(9位)、<sup>ノムヒョン</sup>盧武鉉(10位))が40%を占めるほど、大統領に関する物語が高い関心を集めていることが分かった。そして、前述した4人の大統領の功績と罪過に対する評価ははっきりと明暗を分けていた。

「イルベ」掲示板において<sup>イミョンバク</sup>李明博大統領は「閣下」、<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙大統領は「元祖閣下」とそれぞれ呼ばれているほど、<sup>イミョンバク</sup>李明博・<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙両大統領の事績について好意的な評価が多く見られた。まず、「政治日刊ベスト板」では<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙軍事独裁政権時代への物語が広範に形成されていることが確認できた。「当時」「時節」「その時」といった過去の時点を表す語句が上位100位内の頻出語で抽出されたことから分かるように、韓国の近代化と経済発展を遂げた<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙大統領の功績とそれに対するユーザーの憧れが読み取れた。これは、古き良き時代のノスタルジアといった感情というよりも、イルベユーザーの視点から見ると、過ぎ去った時代やその頃を風靡した人物に対する尊重の念に近いと考えられる。というのも、イルベユーザーの書き込みを見てみると、<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙大統領に関する物語が書き込まれているが、それは<sup>パク</sup>朴元大統領の当時の業績や人物像に関するものであり、決して1960-1970年の軍事独裁政権の時代やその当時の社会に対するノスタルジアを指すものではないからである。次に、企業経営家出身の<sup>イミョンバク</sup>李明博元大統領は、20代に平社員として現代建設に入社し、40代には会長にまで上り詰めた、いわゆるサラリーマンの成功神話の象徴的人物と呼ばれている。「政治日刊ベスト板」において<sup>イ</sup>李元大統領は、<sup>パクチョンヒ</sup>朴正熙元大統領の経済成長神話に継ぐ大統領として評価されていた。

その一方で、韓国社会において民主化運動の象徴的人物として評価されている<sup>キムデ</sup>金大

中・盧武 鉉 大統領の実績については過小評価したり、貶めたりする傾向が見られた。これは、「経済成長の神話フレーム」と「政治民主化の神話フレーム」という枠組みで説明できる。

「イルベ」掲示板における「経済成長の神話フレーム」は、民主化よりも経済発展を最優先の国家目標とする視座であり、代表的な例としては朴 正 熙政権のもとで開始された国家主導の経済開発政策が挙げられる。朴元大統領は、民主化を弾圧しながら経済成長を推し進めて「漢江の奇跡」と称される高度経済成長の神話を成した。そして「イルベ」掲示板において、李明 博元大統領は朴元大統領と同様に「経済成長の神話フレーム」に分類されていた。

その一方で、「政治民主化の神話フレーム」は民主主義や人権、自由を国家の最優先課題とする視座であり、政治民主化の神話的な人物としては金大 中 大統領が挙げられる。対北融和政策で朝鮮半島の安定と緊張緩和の流れを進め、韓国の民主化に貢献した業績が認められたことで、2000 年にノーベル平和賞を受賞した金元大統領は、韓国社会において政治民主化の神話的人物として評価されている。金大 中 大統領の政策を継承した盧武 鉉 元大統領も、「政治民主化の神話フレーム」に分類されていた。

本論文で得られた結果から、「イルベ」掲示板は「政治民主化の神話フレーム」より「経済成長の神話フレーム」が強く作用していたため、金大 中・盧武 鉉 両大統領を誹謗中傷する内容の書き込みが極めて高い頻度で行われていた。このような対立構造は、「慶 尚道」(= 嶺南)と「全 羅道」(= 湖南)という地域葛藤や、「反共・反北朝鮮の右派」と「従北・親北朝鮮の左派」という左右葛藤といった物語と複雑に絡まり合うということを指摘しておきたい。

まず、民主主義の成長や政治改革を主導してきたリベラル勢力の政治的支持基盤が全 羅道地域のため、「政治日刊ベスト板」では全 羅道地域を嫌悪する物語が多数書き込まれていたことが確認できた。韓国政治と社会における地域主義は長年受け入れられてきた習慣的な手法ではなく、反共主義と反知性主義が結びついて生まれたものである (Park 他 2014)。過去、開発独裁体制がこれを積極的に動員して十分に活用されてきた経緯がある。

次に、革新系の金大 中・盧武 鉉 両大統領が北朝鮮への圧力よりも対話を優先する外交政策を推進したことに対し、「北朝鮮に一方的に与えるばかりで得るものが何もなかった」といった類の書き込みが大量に寄せられていることが確認できた。韓国の理念的思想を語るに当たって、南北分断という特殊な状況や統一問題を視野に入れる必要がある。韓

国の保守主義は、西欧のような啓蒙主義や自由主義を前提としてあらわれるものではなく、植民地期における民主主義や冷戦期の反共主義を強化する手段として登場した(玄 2005 : 126)。その上、韓国社会で最もタブー視されているものが「共産主義」である。そのため、共産主義と少しでも絡めば、公安機関はおろかマスメディア系などから異質な存在として激しい攻撃と弾圧を受けることになり、社会的リスクを負うことになっている。これを受け、「イルベ」掲示板のユーザーは愛国心という免罪符を使って、北朝鮮に対して少しでも融和的なことを言った人々を「従北左派」「パルゲンイ(= 共産主義者)」とレッテルを貼っていることも確認できた。これは、過去軍事独裁政権時代に、統治権力に反対したり、抵抗したりする者を「共産主義者」と見なし、徹底して排除及び抑圧した手法と妙に類似しているとも言えよう。

以上の考察を鑑みれば、「イルベ」掲示板では「経済成長の神話フレーム」「<sup>キョンサン ド</sup>慶尚道地域の覇権フレーム<sup>96</sup>」「反共・反北フレーム」が強く作用しており、この三つのフレームを軸として物語が展開されていた。前述した三つのフレームは、<sup>キョンサン ド</sup>慶尚道地域を地盤とし、経済成長や反共主義を重視する、いわゆる保守右派的な要素を内包しているという点で、「イルベ」掲示板のユーザーは保守右派的なイデオロギーを内面化していることが読み取れた。問題は、「保守」と「リベラル」といった立ち位置や理念の違いを前提とした建設的な議論が行われるのではなく、自分が常に正しいと考えることで集団を美化し、それ以外の集団を排斥しようとする動きが拡散し再生産されるという点であろう。

### 5.3 リサーチ・クエスチョン3の考察

本論文のリサーチ・クエスチョン3は、日韓両掲示板において不満のはけ口は誰に向かっているのかを明らかにすることである。日韓両国のヘイトスピーチの対象を比較すると、類似点もあるが相違点もあることが確認できた。

第IV章の分析結果をもとに、日韓の両掲示板におけるヘイトスピーチの対象を整理した

---

<sup>96</sup> <sup>キョンサン ド</sup>慶尚道(= <sup>ヨンナム</sup>嶺南)地域の覇権フレームとは、韓国を支配する勢力が <sup>キョンサン ド</sup>慶尚道(= <sup>ヨンナム</sup>嶺南)地域にならなければならないとする思考を指す。

のが表9と10<sup>97</sup>である。以下では、表9と10で示した内容に基づいて、日韓両掲示板のヘイトスピーチの対象を比較しながら、共通点や相違点を具体的に明らかにする。

**表9 2ちゃんねる掲示板におけるヘイトスピーチの対象**

		国家	
		内部	外部
民族	内部	民主党、マスコミ	
	外部	在日朝鮮人	韓国

**表10 イルベ掲示板におけるヘイトスピーチの対象**

		国家	
		内部	外部
民族	内部	金大中・盧武鉉元大統領、民主党全羅道地域、5・18光州民主化運動386世代、セウォル号の遺族、従北勢力	北朝鮮
	外部		

### 5.3.1 在日朝鮮人と全羅道の人々

第一に、在日朝鮮人と全<sup>チョルラド</sup>羅道の人々に対して憎悪を煽る対立構図は相似形を成していた。表9と10に示されたように、「イルベ」掲示板は「2ちゃんねる」掲示板に比べ、国内在住の外国人への嫌悪感がそれほど顕著に表れないという特徴がある。言い換えれば、「イルベ」掲示板で敵としている対象は外国籍住民というよりも、韓国的文脈から生じた内部の他者という点で、「2ちゃんねる」掲示板と単純に比較することはできない。しかしながら、「イルベ」掲示板で全<sup>チョルラド</sup>羅道地域を「7時国」「ガンギエイ国家」「全<sup>チョルラド</sup>羅道国家」と表現していることから分かるように、全<sup>チョルラド</sup>羅道地域がこの掲示板上で「外国」として扱われている点で、「2ちゃんねる」掲示板と一見似つかないように見えるが、実は互

<sup>97</sup> 表9と10は樋口直人(2014)をもとに筆者が作成し、バッシングが顕著に表れている対象には太字や網掛けにし表示されるように作成した。

いに類似していることが読み取れた。つまり、「イルベ」掲示板が「全羅道チョルラドの人々」を見据える視点は、「2ちゃんねる」掲示板における「在日朝鮮人」への排外主義的な態度と類似していると言えるだろう。

この類似傾向を示す具体的な例として、第一に、両掲示板で「在日朝鮮人」と「全羅道チョルラドの人々」を「不法外国人」「犯罪者」と見なしていることが共通項の一つとして挙げられるだろう。分析対象のスレッドには、犯罪報道において被疑者が在日朝鮮人、全羅道チョルラドの出身者であることが明らかになると、「やはり被疑者は在日朝鮮人、全羅道チョルラドの人々であった」というレッテルが貼られ、嫌韓感情と地域感情を助長する書き込みが極めて高い頻度で行われた。

そして両掲示板では、在日特権オイルパルクァンジュと5・18光州民主化運動の民主功労者と遺族の補償金問題を執拗に提起しつつ、彼らに「弱者を装いながら不当に利益をむさぼる集団」とレッテルを貼る書き込みを繰り返していたのである。このようなレッテル貼りは、「在日朝鮮人」と「全羅道チョルラドの人々」が不当な権利を「特権階層」として享受していることを示唆し、日韓のネット右翼は不当に優遇されている勢力を糾弾しているに過ぎないという論拠へとつながっているのである。つまり、彼らは、社会の安寧と秩序、社会正義を実現するに当たって、社会全体に害をなす存在である「在日朝鮮人」や「全羅道チョルラドの人々」をバッシングしているのであり、倫理的に間違っているのはむしろバッシングされている対象であると言ってはばからない点で、両者は共通した思考様式を有していると言えるだろう。

### 5.3.2 左翼的なもの

第二に、両掲示板いずれも「左翼的なもの」への憎悪と不信が広範に浸透している点が共通項として挙げられる。両者に共通する論調は、「左翼的なもの」は国民を騙し、国を滅ぼそうとしている元凶であるというものである。なぜ、彼らは「左翼的なもの」に敵意を抱くようになったのだろうか。

まず、「2ちゃんねる」掲示板において「左翼的なもの」と呼ばれている対象は、民主党、左翼マスコミ、左翼学者という言葉で象徴されていた。また、「左翼」という言葉は「2ちゃんねる」掲示板で「反日」「在日」「特権」「エリート」という文脈でも用いられ

ていた。

ここで、左翼政党を代表する社民党や共産党ではなく、むしろ中道左派寄りの「民主党政権」を最も敵視していることは注目に値するだろう。「2ちゃんねる」掲示板のネットユーザーが左翼として敵対している対象は厳密には左翼の本来の在り方から乖離しているのだ。これは、百木(2015)が述べた通り、彼らが憎んでいるのはより広範な「リベラル」の思想であり、さらにその憎悪の対象が「戦後民主主義体制」にまで広く適用されていることに起因していると考えられる。つまり、2ちゃんねるユーザーにとって、平和や人権、平等といった戦後民主主義の理念や思想は、もはやきれいごとだけで、さらには自分たちの「終わりなき日常生活」とは全く切り離された別世界の話となっていたのだ。日常的に未来に対する漠然とした不安が延々と続く中で、「戦後民主主義」の意味を問う左翼の思想は時代遅れの陳腐なものとして映ったと言えよう。

小熊・上野(2003)は、「進歩的」な「憲法愛国主義」などにはならず、「保守の言語」に回収されてゆかなければならない理由について、次のように述べている。

なぜ、彼らは「右」よりも「左」を忌み嫌うのか。それは、冷戦後における「左」の失墜だけが原因ではない。おそらく最大の理由は、彼らが漠然と「戦後民主主義」や「リベラル」といった形容で総括する「左」の言語こそが、現在の日本の「体制側」の言葉、もっと俗な表現をすれば「大人のきれいごと」とみなされているからだと思われる。マスメディア上や公式発言のレベルでは「左」の言葉があるていどの勢力を得てはいても、日本社会の実態が「戦後民主主義」の粗相とほど遠いことは誰でも知っている。そのなかで空洞化していかざるをえなかった「左」の言葉は、もはや若年層の大部分にとっては、社会において実感できない言葉、学校や本でのみ教えられる言葉、いいかえれば「教師の建前」としか感じ取れなくなっているのではないか。

(小熊・上野 2003 : 35)

上述した引用文から、保守思想を支持する若年層にとって「戦後民主主義」と代弁される「左」の言葉は、陳腐な思想あるいは現在の日本の「体制側」の言語としてみなされていることが分かる。その「体制側」の言語が、引用文の末尾に示されたように学校や本でのみ教えられる言葉、教師の建前としか感じ取れなくなったのは、竹内(2011)が述べたように、進歩的知識人を中心にした「革新」の思想が、2ちゃんねるユーザーや右翼思想に



走る者にとっても幻想に過ぎなかったからである。これに加え、2ちゃんねるユーザーは、左翼のエリート主義や権威主義に対して強い拒否感を持っていた。

一方、「イルベ」掲示板で「右派政権」は韓国南東部の慶尚道<sup>キョンサン ド</sup>地域に基盤を置く、過去の経済発展を導いた政権を指す。他方で「左派政権」は韓国南西部の全羅道<sup>チョル ラ ド</sup>地域を基盤とする金大中・盧武鉉<sup>キム デ ジュン ノ ム ヒョン</sup><sup>98</sup>政権の10年間の政権を指し、これらの政権は、右派政権とは異なり、韓国経済低迷の元凶だという認識が広がっていた。

「イルベ」掲示板において「左翼的なもの」は、民主党、386世代、全羅道<sup>チョル ラ ド</sup>地域、従北<sup>じゅうほく</sup>勢力などで象徴されるものであり、「左翼的なもの」への蔑視と憎悪の根底には、民主主義そのものに対する失望や不信が存在していた。ここでの民主主義とは、「1987年6月の民主化抗争」以後の民主主義を指している。

1987年6月の民主化抗争は、独裁政権を清算し、大統領直接選挙、言論の自由の保障、金大中<sup>キム デ ジュン</sup>を含む民主化運動関連政治犯の釈放などを骨子としていた。つまり、1987年6月の民主化抗争は、政治的側面から見れば、開発独裁政治体制から民主主義体制へと移行したという点で、韓国社会において大きな分岐点となった。加えて、1987年6月の民主化抗争以降、左派リベラル勢力の立場が急速に拡大し始めたのも顕著な政治潮流の変化の一つとなった。

しかしその一方で、1987年以降の民主化の過程は、政治的自由化の「恩恵」だけではなく、経済的自由化の「災禍」もまた随伴する(チョ 2013)結果になったため、「イルベ」掲示板では民主主義そのものを否定する声が出始めた。見せかけだけの民主主義を叫ぶ左翼への抵抗は、韓国の民主化の象徴である5・18光州民主運動が「北朝鮮軍の特殊部隊が介入して起こした暴動」とされたり、「光州事態<sup>クァンジュ</sup>」と格調の低い呼称で呼ばれたりしている点にも端的に現れていると言えるだろう。韓国の民主化運動を担った「386世代<sup>サムバルユク</sup>」と呼ばれる世代への抵抗も、その延長線上にあると見受けられる。1980年代に学生時代を過ごした「386世代<sup>サムバルユク</sup>」は、韓国の民主化は自分たちで勝ち取ったものだと自負している。しかしながら、時代が大きく変化していく中で、今もなお民主主義自体をまるで万能薬のように捉えている「386世代<sup>サムバルユク</sup>」の言説はイルベユーザーにとって、空疎なきれいごとで過ぎなかったのである。つまり、イルベユーザーの目に映った「386

<sup>98</sup> 「イルベ」掲示板の盧武鉉元大統領への嫌悪の背景には、「386世代<sup>サムバルユク</sup>」と「政治民主化の神話フレーム」に分類されていることが挙げられる。

世代」は、過去の栄光にすがって、世の中の変化が理解できない「時代錯誤な大人たち」なのであった。

その上、韓国の民主化は、民主党や<sup>サムバルユク</sup>386世代、<sup>オ</sup>5・18<sup>イルバルクアンジュ</sup>光州民主化運動により勝ち取られるようになったのではなく、韓国の国民全体の民主化意識の高まりによってなされた成果である。それにもかかわらず、民主党と<sup>サムバルユク</sup>386世代は「自分たちだけが民主化の主演である」という意識が強く、彼らは今もなお「政治民主化」だけが唯一の価値だと主張し、<sup>オ</sup>5・18<sup>イルバルクアンジュ</sup>光州民主化運動を神聖化しようとしている。このような進歩左派の動きの反作用として「イルベ」掲示板で「民主化」という言葉は本来の意味や使い方から離れ、嘲笑の対象としての意味を持つ言葉として使用されるようになったのである。イルベユーザーが「お勧めしない」ボタンの名前を「民主化」と付けたことがその適例であろう。

もうひとつ注目すべきは、イルベユーザーは、左翼勢力を「シプ・ソンビ(= 씩선비)」と呼んでいたことである。ここで言う「ソンビ(= 선비)」とは、学識が優れて行動と礼節を重んじ、義理と原則を守って権力と富裕栄華を食らない高潔な人柄を持った人を指し、それに「シプ(= 씩)」という接頭語が結びついて、「ソンビ(= 선비)」を貶める意味となった。つまり、「シプ・ソンビ(= 씩선비)」という言葉は、相手が笑い話をした時でさえ自分の理性的・道徳的基準を当てはめ、相手にその価値観や物差しをさも正しい考え方のように教説したり指摘したりする人を指す。日本語の「先公」というニュアンスに近いと考えられる。

「シプ・ソンビ(= 씩선비)」と対比される言葉は「病身」や「チュン(= 虫)」であるが、これは4.2節で述べたようにイルベユーザーを称する言葉である。つまり、「イルベ」掲示板で活動をしている限り、彼らは皆「病身」であり「チュン(= 虫)」なのである。この点は極めて注目すべき事実であろう。自ら身体・精神の障害がある人を指す「病身」や人間に害を与える「チュン」であることを認めることから、彼らにもはや倫理・道徳・利他的言動を期待するのは言語道断であると言えよう。しかしながら、「ソンビ(= 선비)」は学識が高く高尚な文人であるという点で「病身」の自分たちと明確に区分される。そして、今の自分たちには何の選択肢も与えられていない現実の中で、人権や平和、自由、民主主義だけを叫ぶ「シプ・ソンビ」(意識：左翼勢力)こそ、そのような自分たちの滑稽さに気付かない「本物の病身」「本物のチュン」なのである。むしろ、自分自身を鏡に投影した姿は「見かけの病身」と「見かけのチュン」なのである。

これまでの議論を踏まえて主な論点を整理すると、ヘイトスピーチ言説の根底には「左

翼的なもの」への憎悪と不信が潜んでいると言えよう。ここで興味深い点は、日韓の両掲示板において左派を攻撃する手法に類似点が多いということである。第一に、両掲示板いずれも、リベラル左派政権は無能であるため、左派政権である民主党を叩き潰し、保守右派が政権を取るべきだという論理を流布している点で共通している。

第二に、両掲示板いずれも、既に確定した歴史的事実について異議を唱える兆しが繰り返されている点が共通している。「2ちゃんねる」掲示板における歴史修正主義には「在日特権」というデマがある。2ちゃんねるユーザーは、この「在日特権」というデマに囚われ、慰安婦の強制連行説は捏造だと批判するなど慰安婦問題についての日韓合意を全面的に否定していた。「イルベ」掲示板では「<sup>オ</sup>5・18<sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動への北朝鮮介入説」がある。「2ちゃんねる」掲示板における「在日特権」というデマと「イルベ」掲示板における「<sup>オ</sup>5・18<sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動をめぐる北朝鮮介入説」は、これらの掲示板上で作られ流布したものである。さらに、これらの言説はマスメディアとは全く異なるアジェンダであるという点においても、類似した傾向を示していた。

このように、ヘイトスピーチの軸に歴史修正主義を設定するというのは、「我々」と「彼ら」を分ける境界線、言い換えれば、「2ちゃんねる」掲示板における「日本人対在日朝鮮人」、「イルベ」掲示板における「<sup>チヨルラド</sup>韓国人対全羅道の人々」という構図をより明確に区分するためである。上述した「2ちゃんねる」ユーザーが主張する「在日特権」とは、実際はその言語自体が実態なきもの(野間 2015)であり、同様に、「イルベ」ユーザーが主張する「<sup>オ</sup>5・18<sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動の北朝鮮軍介入説」も根拠なきデマという点から、日韓の両掲示板における歴史修正主義の勃興も、「日本の戦後民主主義」と「韓国の民主主義」に名を借りた「左翼的なもの」への敵意や憎悪にあるのではないかと考えられる。つまり、「在日特権」や「<sup>オ</sup>5・18<sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動」という虚構構造の中にはヘイトスピーチの本質、すなわち、広範な意味における「左翼的なものへの憎悪」や「形骸化した民主主義への嘲笑」が巧妙に潜んでいると言えよう。逆に言えば、なぜ「左翼的なもの」が日韓のネット右翼層の愛国心を吸収できなくなったのかという問いに明確に答えられない限り、「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板のユーザーは「在日特権」や「<sup>オ</sup>5・18<sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動」といった虚構の物語を絶え間なく拡大再生産し続けていくことになるだろう。

### 5.3.3 反マスメディアの思想と従北思想

第三に、日韓両国の社会が抱えている様々な問題が「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板を通じて表出されているという点が共通していた。その中で、それぞれの掲示板のメカニズムを動かす根源にある諸問題は「反マスメディア思想」と「従北<sup>じゅうほく</sup>思想」であるということが分かった。

まず、2ちゃんねるの「ハングル板」ではマスメディアが「マスゴミ」と呼ばれているほど、マスメディア離れの傾向が顕著に現れていた。その背景には、マスメディアの世論誘導が「2ちゃんねる」ユーザーの感情と完全に相反するものであり、さらにマスメディアがもはや自分たち民衆の意見を代弁できなくなったという不満があった。このことから「ハングル板」では「2ちゃんねる」独自のアジェンダ化が形成されていたのである。

その他、特徴的なものとして、共起ネットワークから示されたように(NHK-左翼-特権)、産経新聞などを除くマスメディアを「左翼」と設定していることや「左翼=特権階級」というレッテルを貼っていることが挙げられる。そして複数の関連書き込みを通じて、マスメディアが在日韓国人を庇護してきたことにより、ヘイトスピーチを増幅させる左翼的なものへの敵意が2ちゃんねるの「ハングル板」を中心に広範にわたっているということが読み取れた。これは日本での戦後民主主義の下でナショナリズムそのものが、悪しきものとしてタブー視されており(半藤・保阪 2014)、さらに「戦後の言論空間は、戦前の格付け構造に敗戦経験と占領政策も加わり、『革新幻想<sup>99</sup>』の強力な磁場によって支配されていた」(井上 2014 : 221)。そのため、韓国や在日問題に対する批判などは一種のタブーとされてきた(チョ 2013 ; 山野 2016)のだ。

これまでの議論からすれば、2ちゃんねるの「ハングル板」において左翼的なものは国益に反することであるため、左寄りの発言を行うマスメディアに対し「在日」「反日」というレッテル貼りをしつつ、ヘイトスピーチが公然と行われていた。

一方、「イルベ」掲示板では「従北<sup>じゅうほく</sup>思想」が顕著に現れていることが分かった。これは、日本の「2ちゃんねる」掲示板のヘイトスピーチ現象と決定的に異なる点であろう。分析結果の中で、特に注目すべき点として、元々北朝鮮への憎悪と敵意を示す「従北<sup>じゅうほく</sup>」

---

<sup>99</sup> 竹内(2011)によると、革新幻想とは、「左翼でなければインテリにあらず」という空気である。

という言葉が、「従北」<sup>じゅうほく</sup> 本来の意味から派生した意味で使われているということが挙げられる。つまり、「イルベ」掲示板では北朝鮮そのものに対する憎悪と敵意よりも、北朝鮮と関連のない韓国内部の敵を示す「従北勢力」<sup>じゅうほく</sup> への嫌悪感が強く現れていた。具体的に見てみると、「イルベ」掲示板では、金大中<sup>キム デ ジュン</sup>・盧武鉉<sup>ノ ム ヒョン</sup> 両政権が続けてきた対北支援政策に対する嫌悪感を露にしながら、保守政権の対北政策観を支持するコメントが多く書き込まれたことが分かった。そして彼らが「従北」<sup>じゅうほく</sup> と呼んでいる対象は、前節で述べた通り、変異性が高く多岐にわたっていることも分かった。「イルベ」掲示板における事例では、北朝鮮を擁護する人々、左派リベラル思想、386世代<sup>サムバルユク</sup>、全羅道地域<sup>チョルラド</sup>のみならず、マスメディア、ツイッター、フェイスブック、インターネット・ポータルサイトであるネイバー(Naver)・ダウム(Daum)・ネイト(NATE)の書き込み、インターネットコミュニティである「今日のユーモア」、外国人労働者、女性、フェミニスト、性的少数者、映画系、法曹界、市民団体など、その対象は多岐にわたり、可変性(= 恣意性)も高いことが示された。

このような従北談論<sup>じゅうほく</sup>の歪んだ構造は、70年間続いてきた南北分断体制という特殊性に由来するものである。反共を国是の第一としてきた政権(朴正熙<sup>パクチョンヒ</sup>~全斗煥<sup>チョンドゥファン</sup>政権時代)下では政権に反対する側を反共主義と批判してきた。つまり、開発独裁政治体制下では、国家の安全を脅かす行為を行う北朝鮮に立ち向かい、国民の生命と安全を守るため、反共イデオロギーを唱えてきたが、実際は政権の賛成派と反対派、愛国者と非愛国者を選り分ける政争の道具として反共イデオロギーが使われてきた経緯がある。このような枠組みの延長線上に生まれたのが、現在の従北談論<sup>じゅうほく</sup>であると見受けられる。愛国保守を自称する「イルベ」掲示板のユーザーは、国家の安全保障を脅かす対象を白日の下に晒すという愛国主義の大義名分の下に、従北<sup>じゅうほく</sup>の枠のレッテルを大々的に貼り、ヘイトスピーチ現象を扇動している。このような現象は、単純に「イルベ」掲示板だけの問題ではなく、今日の韓国社会が抱えている代表的な問題の一つであると言えよう。つまり、「従北勢力」<sup>じゅうほく</sup>に関する規定の曖昧さとこの用語の恣意的な適用により、従北談論<sup>じゅうほく</sup>は既存の反共イデオロギーから変容し、魔女狩り式のレッテル貼りが人々の日常会話や政治論議などで頻繁に交わされているのだ。

## 5.4 リサーチ・クエスチョン4の考察

本論文のリサーチ・クエスチョン4は、「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)は何であるか、また、これを通じて「2ちゃんねる」と「イルベ」の現象をどのように捉え、解明できるのかということである。まず、5.4.1節では、「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)は何かについて考察していく。次に、5.4.2節では、これまでの議論を踏まえて、日韓のネット上でヘイトスピーチ現象とどう向き合い、このような現象をどのように読み解いていくことができるのかについて考察していく。

### 5.4.1 「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)

第2章で述べた通り、この「コード」はユーザーが正しいとする価値体系であるため、ヘイトスピーチ現象の本質を解明する上で有効な手がかりになる。これまでの研究結果を踏まえて、「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」について、以下の節に述べる。

#### 5.4.1.1 タダ乗りへの憎悪と転倒した被害者意識

リサーチ・クエスチョン3の研究結果から、日韓の両掲示板のユーザーとヘイトスピーチの対象との二項対立の間にある境界には「タダ乗り」というコードが潜んでいるということが読み取れた。「2ちゃんねる」掲示板における在日朝鮮人は「特別永住権」と「生活保護制度」を利用し、日本の福祉政策にタダ乗りをしているという認識がユーザーの間に根深く存在していた。「イルベ」掲示板においても、韓国の民主化の象徴である「5・<sup>オ</sup>18光州民主化運動」と「セウォル号事故」の遺族や「北朝鮮」に対して「税金泥棒」という内容が繰り返し投稿されていた。

このような「タダ乗り」というコードの中には、ヘイトスピーチの対象を「特権階級」と設定し、自分たちは「被害者」あるいは「弱者」とであるという区分けの軸が使われている。つまり、これらの掲示板のユーザーは自分自身を強者に対抗する弱者と位置づけつつ、自分たちは差別される側、言わば「ソト」にいる人々に逆差別されているという被害者意識を共有していたのだ。本論文ではこれを「転倒した被害者意識」と名づけた。「転倒した被害者意識」と名づけたのは、これらの掲示板のユーザーは自分たちが社会的弱者ではないにもかかわらず、自分たちを「弱者」、在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々などのヘイトスピーチの対象を「強者」と設定しているからである。このように、日韓の両ユーザーに「転倒した被害者意識」が現れるのは、現実の既得権勢力は自分たちの力では対抗できない集団のため、「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板では在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々などを強者として設定し、その存在を庇護しているとする左派リベラル勢力を攻撃していたのである。また、自分たちが被害者となりヘイトスピーチの対象を加害者として設定することで、自分たちのヘイトスピーチ行為を正当化すると同時に自分たちを相手よりも道徳的に優位に位置づけようという考えも根底にあるのである。

数多くの先行研究をはじめマスメディアにおいては、ネット右翼を社会的な弱者、すなわち、低学歴・低所得・社会的地位における底辺だという見解が示されている。しかしながら、本論文で得られた結果を踏まえて、彼らが本当に社会的弱者なのかと問い直して見る必要がある。

まず、古谷(2013)の研究においては、ネット右翼が在日朝鮮人の生活保護の不正受給問題に殊更敏感なのは、彼らの納税者意識が高い中産階級のためであると報告されている。彼らが納税意識の高い自営業者のため、在日朝鮮人の生活保護の不正受給問題に対して敏感に反応しているという古谷の指摘は一理ある。もし2ちゃんねるユーザーが社会的弱者で、納税の義務を果たさないような人々であったならば、自分たちが納めた税金が日本に何の関わりもない外国人を養うために使われていることについて、あまり関心を持っていないという逆の仮定が成立するからである。

次に、樋口直人(2014)をはじめとす香山(2015)、小熊・上野(2003)の研究においても、排外主義運動やヘイトスピーチを行っている人々は社会的底辺層ではないと報告されている。第一に、樋口直人(2014)は「調査対象者の34名のうち高校卒7名、専門学校3名、大学卒24名であり(中退、在学を含む)、全体として学歴は低くない。職業をみても、大学在学中2名、ホワイトカラー23名、ブルーカラー6名、自営4名であった(退職者は定

年前の職)。非正規雇用も 2 名いたのみである」(樋口直人 2014 : 54)と報告している。第二に、香山(2015)はインターネット上でヘイトスピーチを行っている構成員の中に、外資系企業のマネージャー、会社経営者、大学教員、医師、弁護士など、社会的地位においてエリートであったり、リッチな生活を送っているような人々が少なくないと指摘している。第三に、小熊・上野(2003)は「新しい歴史教科書をつくる会」の神奈川県支部「史の会」の参与観察をし、「その構成員は会社員・専業主婦・学生などが大部分を占めており、明らかに都中産層の運動である」(小熊・上野 2003 : 190)と報告している。以上のことから、ヘイトスピーチを行っている主体は、社会的弱者であるとは言い難いだろう。

「イルベ」掲示板においてもこのような状況は大きく異ならない。本論文で得た結果をもとに検討してみよう。第一に、自分たちが納めた税金が自分たちの暮らしに還元されず、<sup>オ</sup>5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動とセウォル号の遺族たちの補償金に使われていることについて憤慨している傾向が読み取れた。

第二に、2012 年 10 月「イルベ」掲示板で起きた「学力認証大乱」はイルベユーザーにとって自分たちが社会的ルーザーではないことを裏付けてくれる事件でもあった。「イルベ」掲示板が 2012 年から社会問題として浮上し始め、イルベユーザーとは一体何者であるかについて世間の関心が集まった。主流メディアをはじめ多数の専門家は、「イルベユーザー」=「負け犬」「白雉」「怪物」とレッテルを貼っていた。これにより、数百人のユーザーが、自分の学歴や職業を証明する各種の書類や写真などを掲示板に投稿する、いわゆる「学力認証大乱」を引き起こした。「学力認証大乱」が当時一気に世間の注目を集めるようになった背景には、イルベユーザーの中に韓国ソウルに所在する三大名門大学(ソウル国立大学、<sup>コリョ</sup>高麗大学、<sup>ヨンセ</sup>延世大学)の出身者をはじめ、医師、判事、弁理士など専門業種に従事する人々が大勢含まれていたからである。

第三に、<sup>オ</sup>「5・18 <sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動」(1980 年)や「狂牛病蠟燭集会」(2008 年)、「セウォル号の沈没事故」(2014 年)の際、街頭に出た市民の行動を「イルベ」掲示板のユーザーは左派の扇動によるものとして規定していた。このような思考は、Kim(2014)が指摘したように、大衆が政治的・社会的に重要な事案や争点に関して理性的な判断を下す能力がないことを前提としている。そして、上記の列举した事件に対してユーザーの共感対象は「市民」ではなく、<sup>ヨナナム</sup>嶺南地域(= <sup>ブサン</sup>釜山・<sup>テグ</sup>大邱を中心とする <sup>キョンサンド</sup>慶尚道地域)に基盤を置いた「保守政権」であったという点は注目に値する。つまり、彼らは民主化運動や集会に参加した人々を見下しており、韓国を支配する勢力が <sup>キョンサンド</sup>慶尚道でなければならない思考、



いわば「慶尚道<sup>キョンサンド</sup>覇権主義」(＝嶺南<sup>ヨンナム</sup>覇権主義)を内面化していた。これまで韓国社会を支配してきた勢力が保守政党であったという点で、イルベユーザーの位置づけは社会勢力に対抗するエリートというよりも、自分たちの既得権益の喪失を懸念し、現状維持を守ろうとする集団に近いと見受けられる。というのも「イルベ」掲示板で顕著に現れている物語の大半が、既存の保守政権の政策を踏襲していたからである。

以上のことから、日韓両掲示板ユーザーは、マスメディアや経済不安要因説でいう「負け犬」「社会的弱者」ではないことが読み取れた。これと結び付けて考えるべきは、「知識人自身がしばしば最悪の反知性主義者としてふるまう」と述べたホーフスタッター(2003)の議論である。ホーフスタッターの『アメリカの反知性主義』には、反知性主義について以下のように述べている。

反知性主義は、思想に対して無条件の敵意をいだく人びとによって創作されたものではない。まったく逆である。教育ある者にとって、もっとも有効な敵は中途半端な教育を受けた者であるのと同様に、指折りの反知性主義者は通常、思想に深くかかわっている人びとであり、それもしばしば、陳腐な思想や認知されない思想にとり憑かれている。反知性主義に陥る危険のない知識人はほとんどない。一方、ひたむきな知的情熱に欠ける反知識人もほとんどいない。反知性主義は、歴史的に跡づけられるほどの明確な思想となっていたり、時代の論争の的になるほど、十分に浸透しているかぎり、ある程度の力をもつスポークスマンがいるはずである。

(Hofstadter 2003 : 19)

まず、反知性主義(anti-intellectualism)の定義から見てみよう。ホーフスタッターは反知性主義について「知的な生き方およびそれを代表するとされる人びとにたいする憤りと疑惑」であり、「そのような生き方の価値をつねに極小化しようとする傾向」(Hofstadter 2003 : 6)と定義している。次に森本(2015)によると、反知性主義とは知性の有無や知性そのものに対する反感や蔑視というより、「知性と権力の固定的な結びつきに対する反感」であり、「知的な特権階級が存在することに対する反感」(森本 2015 : 262)であると定義している。森本(2015)は、反知性主義についてハーバードやイエール、プリンストンのような特定大学そのものへの反感ではなく、ハーバード主義やイエール主義、プリンストン主義への反感であり、またその出身者が固定的に国家などの権力構造を左右する

立場にあり続けることに対する反感であると指摘している。

これらの定義からみると反知性主義は、「私は有識者を嫌う」という単純な感情ではなく、自己省察が欠如した知性への幻滅や知性を不適切に使っている特権階級への反感であると言えよう。日韓の両掲示板においても、リベラル知識人や政治家などを標的にした誹謗中傷の書き込みが大量に載せられたことから、反知性主義が噴出されていたと考えられる。

次に、内田(2015)は反知性主義者について、以下のように書いている。

反知性主義たちはしばしば恐ろしいほど物知りである。一つのトピックについて、手持ち合切袋から、自説を基礎づけるデータやエビデンスや統計数値をいくらかでも取り出すことができる。けれども、それをいくら聴かされても、私たちの気持ちはあまり晴れることがないし、解放感を覚えることもない。というのも、この人はあらゆることについて正解をすでに知っているからである。正解をすでに知っている以上、彼らはことの是非を私に委ねる気がない。「あなたが同意しようとしまいと、私の語ることの真理性はいささかも揺るがない」というのが反知性主義の基本的なマナーである。

(内田 2015 : 21)

上述した内容から、反知性主義の態度を取る人々は学歴とは無関係であるということがわかる。それにもかかわらず、反知性主義者やネット右翼は、知的な事柄に対して侮辱的で攻撃的な態度を取っているため、一般的に彼らに対しては社会に不満を持つ底辺層や知的水準が極めて低い人々という負のイメージが広まってきた。しかしながら、本論文の分析結果やホーフスタッター、内田(2015)の知見から分かるように、ネット右翼とされる人々の社会的位置づけを単純に「社会的底辺層=弱者説」で断定し得ないのが本論文の暫定的な結論である。このような結論を導いたのは、「ネット上での『普段とは異なった自分』は、対面状況では見られない『残酷な自分』ともなりうる」(岡本 2016 : 246)という論拠によるものである。これは、高学歴で社会的地位がある人の中にも、ネット上で他人に向けて誹謗中傷を行ったり、ネット右翼となったりする潜在的可能性を示唆するものである。

#### 5.4.1.2 表に現れている敵と裏に潜んでいる敵

研究結果に基づいて、日韓の両掲示板における本当の敵は誰なのかを問い直してみる必要がある。前節で取り上げた「在日特権」という物語は虚構に過ぎないにもかかわらず、「2ちゃんねる」掲示板においてはこの物語を拡大再生産することによって、嫌韓感情をさらに煽る戦略を取っていた。つまり、「2ちゃんねる」掲示板において表に現れている敵は在日朝鮮人であるが、実際には在日朝鮮人の主張に大幅に肩入れし、歴史問題などで韓国を味方する日本の左翼を標的としていた。

一方「イルベ」掲示板における主要な標的は民主党や全羅道地域、<sup>チョルラド</sup>従北勢力などであるが、その核心にあるのはやはり「左翼的なもの」への敵意と憎悪であることが明らかになった。「イルベ」掲示板のユーザーは左翼の二重性と矛盾を糾弾するために、<sup>チョルラド</sup>全羅道地域、<sup>じゅうほく</sup>従北勢力への非難を執拗に繰り返しているものであり、類似する現象である「<sup>オ</sup>イルバルクァンジュ<sup>オ</sup>5・18光州民主化運動の北朝鮮軍介入説」もまた、民主党が「<sup>オ</sup>イルバルクァンジュ<sup>オ</sup>5・18光州民主化運動」を過度に神格化したことを容認しないという意識が背景にあるのである。このような観点から見ると、「在日特権」や「<sup>オ</sup>イルバルクァンジュ<sup>オ</sup>5・18光州民主化運動の北朝鮮介入説」といった虚構構造の中には「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板のユーザーの「憤激」が潜んでいると言える。

以上のことから、日韓両国の掲示板における保守志向のナショナリズムやヘイトスピーチ現象の根底には、民主主義そのものに対する根深い不信感があることが示唆された。それでは、日韓両国の掲示板において民主主義が時代遅れの陳腐なものとして捉えられている背景には何があるのだろうか。

まず、「2ちゃんねる」掲示板から見てみよう。一つ目に、戦後の日本人を駆り立ててきた高度経済成長の終焉と新自由主義への転換が挙げられるだろう。戦後民主主義体制の根幹は、社会的弱者とマイノリティといった人々を幅広く包摂することである。そのため、社会的弱者とマイノリティに向けた様々な法制度を含む社会の諸制度の整備が進められてきている。しかしながら、新自由主義的グローバル化という潮流は、戦後福祉国家体制を大きく揺るがし始めた。この過程で、これまで弱者とマイノリティに与えられた恩恵を「逆差別だ」「優遇されている」と批判する声が高まっているのだ。ネット右翼層は独力で小資本を形成してきた大都市部の自営業者数の比率が高く(古谷 2015)、税金に関して

極めて敏感に反応する階層であると言えよう。そして、高度経済成長終焉後の新自由主義体制への移行は景気に敏感な自営業者を含む多くの中産階級に大きな打撃を与えた。それゆえ、自分たちが一生懸命働き、納めた税金が在日韓国人などに強奪されていると認識するユーザーが顕著に現れるようになったのだ。そして彼らの怒りは、戦後民主主義体制そのものへと向けられることになり、その結果、戦後民主主義思想を自賛・擁護する左派に非難が集中する構図となったのである。このことから、「2ちゃんねる」掲示板に現れている在日韓国人に対する差別的な言説は、ある意味で戦後的価値観が虚妄であることを告発しているのだとも解釈できるだろう。

二つ目に、2000年代以降、右派論壇全体の言説が変化したと密接な関連があることが挙げられる。樋口直人(2014)によると、韓国・中国・北朝鮮の三ヶ国との歴史問題を扱う記事が格段に増えると同時に、これらの国々が最大の敵手となったという。この時期に「新しい歴史教科書をつくる会」をはじめ「在特会」「2ちゃんねる」掲示板などでも、このような流れに便乗して「近隣諸国に対する敵意」「歴史修正主義」を提唱するなど、排外主義的ナショナリズムが台頭し始めた。これに加え、毎年8月になると過去の植民地支配と戦争に関する責任や日本の帝国主義だけが非難されることに疑問を抱き、憲法9条の非戦平和主義を根幹とする戦後民主主義それ自体に対する懐疑や不信が広がったのである。

次に「イルベ」掲示板を見てみよう。「イルベ」掲示板の思考体系を動かす二つの軸は「政治民主化」や「経済民主化<sup>100</sup>」である。1987年6月抗争で市民は「独裁打倒」「自由と人権」「民主主義」などと書かれた横断幕を手に持ち、街頭デモを行った。民主化を熱望する市民の要求により大統領直選制実現を主とした制度的な民主化はなされたが、彼らが切願した「真の民主化」は「虚妄」であった。「政治民主化」は制限された形式的民主主義とはいえある程度実現したが、「経済民主化」は民主化移行期に起こったグローバリゼーションと1997年のアジア経済危機により失敗した。つまり、国民が血と汗を流してようやく民主主義を成し遂げたが、国民の暮らし向きはあまり改善されていなかったのだ。

「政治民主化」と「経済民主化」が両立しなかったことに対する「怒り」は民主主義と政治改革の象徴である金大中<sup>キムデジュン</sup>・盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>大統領をはじめ、民主化運動で中心的な役割を

<sup>100</sup>「経済民主化」とは、憲法119条2項に登場する概念で、①社会の格差を縮小する、②公正に競争できる環境を作る、③財初・大企業から自営業者までさまざまな企業が提供できる環境を目指す、というものである。

果たした<sup>サムバブルユク</sup>386世代に向けられた。その一方で、「イルベ」掲示板で「民主主義がご飯を食べさせてくれるのか」という不満混じりの声が漏れ、「民主主義とは何であり、はたして民主主義は我々に何をもたらしてくれるのであろうか」ということに対する問いが提起され始めた。その反動として、「イルベ」掲示板における「民主化」という言葉は「お勧めしない」という否定的な意味で使われていたのである。

以上のことから、「イルベ」掲示板における負の感情は、民主化運動の産物として1987年に制定された新たな憲法体制である「87年体制」と、1997年のアジア通貨危機を契機に政治主導型経済体制から市場中心型経済体制へと転換した「97年体制」をめぐって、様々な不満が交錯した結果生まれたものと考えられる。

#### 5.4.1.3 権威主義 対 反権威主義

日韓のヘイトスピーチ現象を議論していく上で、「権威をめぐる側面」へのアプローチも欠かせないものであろう。これは、ヘイトスピーチ現象の本質を理解して解明する上においても重要な鍵となる。なぜなら、エリート主義と権威主義に対し、ユーザーがどのような側面に焦点を当てるかによって、両掲示板を動かすコードと思想は大きく異なるからである。

まず、「2ちゃんねる」掲示板の場合、「反権威主義」的な要素が根深く作用していた。この掲示板における権威主義の対象はリベラルである。リサーチ・クエスチョン1の結果を見ると、「2ちゃんねる」ユーザーはマスメディアとは異なるアジェンダを設定していることから、この掲示板では反マスメディアの思想が根底に流れていることが分かった。反マスメディアの思想の根底には、マスメディアがもはや自分たちの本音を代弁できないとする側面もあるが、リサーチ・クエスチョン3の結果を見ると、ユーザーがマスメディアを左派かつ特権階層だと認識しているという点により注目する必要がある。データ分析から導いた知見と照らし合わせてみると、ユーザーの目にマスメディアが特権階層やリベラルなエリート知識人のように映ったのは、学歴主義と戦後民主主義の価値観の間には何らかの関係があることを意味する。以下の書き込みの内容を見てみよう。

更にマジレスよりもマスゴミの偉い方々は学歴が高いようですので余計、僻むので

しょうねw そして野党の方々、岡田、前原、鳩山、フクシマ、ツジモト、志位を初めとして皆さん東大卒または京大卒ですから成蹊大学卒のマジレスに対しては心穏かではられないでしょうw

マンセー名無しさん : 2015/11/14(土) 22:11:27.65 ID:EI\*\*\*\*\*

まあ、そこは皮肉なことにテロリストの末端とそう変わってないんですよ (苦笑)  
刷り込みによる思想洗脳、相手を攻撃するために多少の嘘や誇張は許される。なによりも敵対するのは悪だから何をやっても問題ない。

ふははは高砂@妹認定◆2WZ7JfzfY : 2015/11/14(土) 22:16:43.55 ID:dw0\*\*\*\*\*

どうもあの方々の言動みてると、自分たちのお手盛りで築いた理屈に対する信仰が凄いのよね。そしてそれに従わないのは相手が阿呆だから低学歴だからということになる。安保法制の時に盛んに使ってた「反知性主義」なる批判の文句なんか典型ですな。

マンセー名無しさん : 2015/11/14(土) 22:51:25.77 ID:msd\*\*\*\*\*

俺より偉いのが気に食わない。

マンセー名無しさん : 2015/11/14(土) 22:51:56.35 ID:V6p\*\*\*\*\*

でも政治家にも官僚もなりたくないw

マンセー名無しさん : 2015/11/14(土) 22:53:16.31 ID:Gqw\*\*\*\*\*

んで、それを逆手にとられて (もちろん相手はとったつもりなんか無い) 自分の無知をさらけ出されたから、あんなに安倍ちゃんを恨んでるんだな。

スマホ神主 : 2015/11/14(土) 22:53:50.94 ID:aBi\*\*\*\*\*

(「2ちゃんねるのハングル板」(下線筆者))

安倍首相への批判の声がマスメディアやリベラル政権から噴出されたことに対し、「2ちゃんねる」掲示板のユーザーは、高学歴の知識層であるマスメディア、リベラル政治家、官僚を皮肉る書き込みを載せていた。

まず、一番目のユーザーは、東京大学や京都大学といういわゆる一流大学を卒業した野党の政治家が、成蹊大学を卒業した安倍首相の意見などに耳を傾けるのかと高学歴の知識層へ嘲弄まじりの非難をしていた。そして、二番目と三番目のユーザーも、高学歴の知識層と呼ばれているマスメディア、リベラル政治家、官僚人などは自らと異なる意見に耳を傾けないどころか、自分の頭で考えた意見をただ押し通すだけであると書いていた。

次に、四番目から六番目のユーザーは、高学歴の知識層と呼ばれている人々が、安倍首相を非難する本当の理由には「安倍首相が自分たちより優れていることを認めたくない」という本音が潜んでいるからであると述べていた。つまり、現実にある差異をあらかじめ否定することによって、安倍首相を敵として仕立て上げるのだ。このような思考は、人々が自分の信念やこれまでの思考内容(= 認知)と矛盾する出来事(= 不協和)に直面した時に、どちらか一方を否定して矛盾を解消しようとすることに由来する。もし、自分が持っている信念を変えることが困難な場合、人々は新しい事実の方を否定し、都合のよい事実だけに目を向けるようになる。これまでの説明は「認知的不協和= 認識の不一致、cognitive dissonance」に関する内容である。この理論を本論文で適用してみると、高学歴の知識層と呼ばれている人々が持っていた信念や価値が安倍首相と異なることで、彼らに「認知的不協和」をもたらし、結果として、安倍首相への非難につながったのだ。自分の中で矛盾する新しい事実を受け入れられないのは、それによって究極的には自分たちの無知を認めざるを得ないからである。

以上のことから、「2ちゃんねる」掲示板のユーザーはリベラルな知識層の偽善的態度への反感を露にしていることが分かった。これはある意味、既存の権威そのものに対する幻滅であり、その権威は戦後民主主義をもたらしたリベラルなものであると言えるだろう。

その一方で「イルベ」掲示板では、「権威主義」的な要素が根深く作用していた。「イルベ」掲示板の思想は慶<sup>キョンサンド</sup>尚道霸権主義(= 嶺南<sup>ヨンナム</sup>霸権主義)から出発していることから、本論文ではこれを「慶<sup>キョンサンド</sup>尚道霸権(= 嶺南<sup>ヨンナム</sup>霸権)エリートによる権威主義」と名づけた。玄(2005)が指摘したように、韓国の保守主義は西欧と異なり、執権勢力、既得権勢力、保守的中間層を結集させるイデオロギーとして発展してきた。その中で成長したブルジョア勢力は、権威主義的な国家と対立関係にあるよりも、むしろ同盟関係にあるのである。そのため、韓国社会では「慶<sup>キョンサンド</sup>尚道霸権(= 嶺南<sup>ヨンナム</sup>霸権)エリートによる権威主義」の土台が形成されたのである。「イルベ」掲示板においてもそのような特質を踏襲していることが確認できた。

まず、政治的なものは権威主義的な傾向が強く、権威に対して異議申し立てを行うことを「敵」と見なしていた。より正確に言えば、<sup>キョンサン・ド</sup>慶尚道地域に基盤を置いた「保守政権」に歯向かう行動は「暴動」、そのような人々は「敵」として見なされていた。つまり、「<sup>キョンサン・ド</sup>慶尚道=味方」「<sup>チョルラド</sup>全羅道=敵」という構図、いわゆる二項対立的な問題設定でヘイトスピーチが行われていた。

ここで、もう一つ注目すべき重要な点として、<sup>キョンサン・ド</sup>慶尚道と<sup>チョルラド</sup>全羅道の間の対立構図は、単純な対立の構図を超え、韓国社会でのみ通用することができる特殊性が反映されているということが挙げられる。つまり、<sup>キョンサン・ド</sup>慶尚道=保守、<sup>チョルラド</sup>全羅道=リベラルという極めて明確な「地域政党構造」、対北強硬=保守、親北=リベラルという「対北政策観」、自由・成長優先 = 保守、分配・福祉優先=リベラルという「経済政策観」、産業化勢力=保守、<sup>サムパル</sup>386勢力=リベラルという「世代論」がある。マスメディアでは長年「地域政党構造」「対北政策観」「経済政策観」「世代論」の立場に立って、保守派とリベラル派に分かれており、現在でもそうした状況が続いている。「イルベ」掲示板においてもこのような枠組みを用いてヘイトスピーチが展開されていた。

イルベの思考体系を貫通している二番目のコードには、市場原理を過度に信奉する新自由主義的イデオロギーが根底にある。新自由主義という流れが「イルベ」掲示板に及ぼした影響は、以下の2点にまとめることができる。

まず、「イルベ」掲示板では市場の無限競争原理を内面化していたため、競争で脱落して不平不満を言うのは甘えているなどという自己責任論が明確に掲示されていた。かつ、国家はそのような者までに手を差し伸べる必要がないと主張していた。反面、競争に勝った人々は能力に応じて待遇されるべきであるという能力主義を完全に内面化していた。表10にカテゴライズされた対象がバッシングされているのも、彼らが能力よりも高い特権的な待遇を求めたり、過度の要求をしたりしていることが理由である。

次に、「イルベ」掲示板のユーザーは、社会的権利と義務を市場における等価交換の消費行為のように捉えていた。例えば、韓国国民の四大義務の一つである国防の義務<sup>101</sup>も国家防衛あるいは安全保障のための概念として把握するより、国防の義務を果たすからこそ、それに準ずる権利が約束される、いわゆる「等価交換(= 等しい価値での交換)」の対象の

<sup>101</sup> すべての韓国の成人男性に、一定期間軍隊に所属し国防の義務を遂行する「兵役」義務を課す「国防の義務」がある。



ように見なしていた。本論文の結果から見ると「イルベ」掲示板では<sup>オ</sup>5・18<sup>イルバルクァンジュ</sup>光州民主化運動やセウォル号の遺族たちを、憲法が国民に保障する権利に加えて、さらに自分たちだけに特別な恩恵や補償を要求する特権層として認識していた。これは、義務を遂行すればそれに準ずる権利が生じるという等価交換の市場原理に反するため、彼らが特権層と呼ばれていたのだ。反面、<sup>キョンサン</sup>慶尚道地域に基盤を置いた「保守政権」と「産業化勢力」は世界に例を見ない速度で近代化を成し遂げたため、これまで韓国社会の中核を担ってきた。すなわち、彼らは韓国の経済発展に寄与するところが大きいため、恩恵を享受するのは当然であるという論理が「イルベ」掲示板で成立することになったのだ。つまり、新自由主義という側面と権威をめぐる側面がお互いに結びついてイルベの思考体系が構築されているため、本論文では、これを「新自由主義エリートによる権威主義」と名付けた。

#### 5.4.1.4 ソース第一主義とファクト主義

「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板を動かすもう一つのコードは「ソース第一主義」と「ファクト主義」である。「2ちゃんねる」掲示板における「ソース第一主義」は3.1節で述べたように、信頼できると思われる情報ソースから入手した情報やデータが最も正しいとする主義を指す。同様に「イルベ」掲示板における「ファクト主義」は、文字通りファクトと呼ばれる客観的なデータが最も正しいとする主義を指す。両掲示板の運営原理である「ソース第一主義」と「ファクト主義」が強調されるべき理由には、確認された事実に基づいて理性的かつ合理的な批判をするという趣旨が込められている。つまり、客観的な証拠を提示することで、自分の主張や言説が流言蜚語や虚言ではないことを証明することが、両掲示板のモットーとなっている。

しかしながら、リサーチ・クエスチョン1、2の分析結果から示唆された通り、両掲示板における「ソース第一主義」と「ファクト主義」は本来の趣旨から離れていく傾向が見られた。まず、「2ちゃんねる」掲示板における「ソース第一主義」は信用できる情報源のキャップを持つ記者が自分に都合がよい記事だけを取捨選択し、スレッドを設定していた。また、2ちゃんねるユーザーは、マスメディア業界は在日韓国人に掌握され、真実を隠蔽していると信じ込んでいるため、「2ちゃんねる」掲示板の情報こそ真実だと思い込んでいた。これはある意味、2ちゃんねるユーザーも、過去左翼系である自分たちこそエリート

だと信じこんでおり、自分たちに立ち向かう者は排斥してきた(近藤他 2007)方式を、そのまま踏襲しているものだとも言えるだろう。

次に、「イルベ」掲示板における「ファクト主義」も、慶<sup>キョンサン</sup>尚道と関連した事案に対しては偏った狭い物差しを使う、いわゆる「半分のファクト主義」の傾向が読み取れた。このような傾向は、リベラル談論をそのまま踏襲している(Han 2013)のである。リベラル勢力が「過去民主化運動家に在らずんば民主化はなかなか実現できず」と見なしてきたならば、反対にイルベユーザーは全<sup>チョルラド</sup>羅道の人々と民主化勢力が学界やマスメディア業界を掌握している世相の中で、自分たちこそが外界のものを正しく認識しているのである。つまり、自分たちが作り出した特定のソースの情報をユーザー同士で共有し、それが真実だと信じているという点で、「イルベ」掲示板はエリート主義を再生産している(Han 2013)のである。

要するに、両掲示板のユーザーが「ソース第一主義」と「ファクト主義」を設定するのは、「在日朝鮮人」と全<sup>チョルラド</sup>羅道の人々がメディア業界を掌握しているため、不都合な真実は都合よく隠蔽されていると信じているからである。その反動として、両掲示板は自分たちが作り出した「ソース第一主義」と「ファクト主義」をユーザー同士で共有しているのだ。その一方で、両ユーザーがこのような仕組みを設定するのは、ある意味では、自家撞着あるいは自己矛盾に陥っていると思われるかもしれないが、左翼の方式で左翼を攻撃しているとも言えるだろう。

#### 5.4.2 ヘイトスピーチ現象とどう向き合うのか

これまで本論文では、日韓両掲示板において顕著に現れている物語は何であるか、その中で不満の矛先は誰に向かっているのかを検討した。そして、それを通じてなぜ日韓の両ユーザーがヘイトスピーチに走っているのか、その心理的なメカニズムを解明した。このような4つのリサーチ・クエスチョンから導き出された考察から、日韓のネット上でヘイトスピーチ現象とどう向き合い、このような現象をどのように読み解いていくことができるのかについて考えたい。

今節では、過去のヘイトスピーチの出来事から、昨今のヘイトスピーチ言説の位置づけ

を検討していく。ヘイトスピーチの現象は時空を超えて繰り返し生じるため、過去の歴史的出来事を俯瞰することは、従来のヘイトスピーチ現象との共通点と相違点を明らかにすることができるなど、昨今のヘイトスピーチ現象を理解し、解明するに当たり、重要な手がかりになると考えられる。

具体的に 5.4.2.1 節では、過去の欧米各地でのユダヤ人排斥運動と日韓のヘイトスピーチ言説と比較し解説していく。19-20 世紀の西欧社会に広がった反ユダヤ主義やユダヤ謀略史観は、西欧社会の文化的寛容によって起こり、そのような西欧流の反ユダヤ主義の兆しを示唆する動きが 21 世紀に入り日韓両国のネット掲示板においても起こっているため、ここでは両者を比較していきたい。

次に 5.4.2.2 節では、本論文で重要なテーゼとなる「ヘイトスピーチを行う主体」について、アドルノの「権威主義的パーソナリティ」に基づいて考察していく。アドルノが言うヘイトスピーチに走る人々のパーソナリティは別に存在するのか、それともその他の要因により規定されるのか。両掲示板で示された言説と照らし合わせながら、このような問いへの答えを導く。

5.4.2.3 節では、本論文で最も重要なテーゼである「ヘイトスピーチを生み出すメカニズム」について考察していく。ここでは、フロムの考える「自由から逃走」という概念が、日韓の両掲示板でそのまま適用できるかどうかについて検討していく。

5.4.2.4 節では、前節に示した内容をもとに、日韓の両掲示板のユーザーの位置づけを明らかにするとともに、ヘイトスピーチ現象のメカニズムについても解明する。最後に、昨今のヘイトスピーチ言説の位置づけをまとめていく。

#### 5.4.2.1 ヘイトスピーチは繰り返し起こっているか：西欧流の反ユダヤ主義との比較

欧米と日韓はやや異なる歴史と社会的脈絡を辿ってきたが、在日韓国人や<sup>チョルラド</sup>全羅道の人々へのヘイトスピーチ言説は、過去欧米諸国においてユダヤ人を誹謗中傷し、迫害してきたヘイトスピーチ史とほぼ類似した現象であることが分かる。

第一に、ユダヤ人や在日韓国人、<sup>チョルラド</sup>全羅道の人々は特権を享受しているというデマである。反ユダヤ主義は、裏経済はユダヤ人が牛耳っている(小林・駒井 2013)ことを理由

に挙げ、彼らに対する差別を正当化していた。それゆえ、反ユダヤ主義は自分たちの正当な分け前を「踏み倒された大衆」の怒りの表現となる(井上 2010)と主張している。しかしながら、ナチス当時、ユダヤ人は経済活動から排除されたり、全財産は没収されたりした。それにもかかわらず、ユダヤ人は特権を持ち、さらに恩恵を受けているというデマが流布されてきた。

このような現象は日韓の両掲示板においても再現されている。日韓の両ユーザーは、在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々が受けている特権や恩恵に対する経緯や背景は念頭に置かず、表に現れるものを直観的に捉え、それに基づいて全てを判断しようとする傾向が見られた。また、日韓の両ユーザーは当然もらわなければならない分け前を在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々に奪われたという剥奪感、いわゆる、「想像された搾取」(Park, Kwon-Il 2013)や「転倒した被害者意識」が働いていたため、自分より「資格」と「能力」がないのに分け前をさらに受けとっている対象である在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々を執拗に攻撃していたのである。このような心理的メカニズムも前述した反ユダヤ主義と極めて類似していると言えるだろう。

第二に、反ユダヤ主義者やネット空間が生み出した特権というデマに伴うあぶり出しである。1950年代の米国において共産主義者にはユダヤ人が多いという言説は、反ユダヤ主義者にとって有効な目安となった(Bettelheim & Janowitz 1986: 9)。同様に、5.3.2節においても述べたように、両掲示板のユーザーは、在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々に関する偏見やデマに囚われて、既に確定した歴史的事実について異議を唱える、いわゆる歴史修正主義的な書き込み(慰安婦強制連行の捏造説や5・18光州民主化運動への北朝鮮介入説)を載せていた。

以上のことから、ユダヤ人に対するヘイトスピーチ言説と日韓のネット上で現れている在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々に対するヘイトスピーチ言説は、極めて類似する仕組みを持っていることが分かる。

#### 5.4.2.2 ヘイトスピーチを行う人々：権威主義的パーソナリティという観点から

今節では、アドルノの「権威主義的パーソナリティ」に基づいてヘイトスピーチ言説を

行っている主体について検討していく。当時台頭していたファシズムに注目し、それに走る人々を精神分析的立場から分析したフロムとアドルノの研究においては、「権威主義的パーソナリティ」を持っている人々が、ナチスのホロコーストに便乗し、反ユダヤ主義の思想を鵜呑みにしたと述べられている。アドルノ(1980)は、ユダヤ人を蔑視・差別をして社会的に排除した人々のパーソナリティについて、因襲主義、権威主義的服従、権威主義的攻撃、反内省性、迷信とステレオタイプ、権力と剛直、研究生とシニシズム、投射性、性(Adorno et al., 1980 : 95-97)などの権威主義を構成する 9 つの心理的要因に基づいて、調査分析を行った。そこに共通するパーソナリティを明らかにし、これを「権威主義的パーソナリティ」と名付けた。

権威主義的パーソナリティとは「反民主主義的な宣伝にとくに動かされやすい精神構造」(Adorno et al., 1980 : 10)を持っているパーソナリティ類型を言う。権威主義的パーソナリティには幾つの特徴があり、自らの自我の内面的焦点を欠如する結果として、つねに何らかの外的基準とりわけ権力者への従属的かつ無批判的な受け入れ、また自己を権力者(と目される人々)の側と同一視する傾向があった(Adorno et al., 1980 : 511)。「イルベ」掲示板のユーザーも 5.4.1.3 節で述べたように、韓国の近代化と経済発展を遂げた朴正熙元大統領の成功神話を内面化し、既得権層を羨望しており、またその権威に挑戦する者は排斥すべき対象として見なされていたという点で、ドイツで起こったヘイトスピーチ史と極めて類似した側面が見えてくる。

しかしながら、アドルノの権威主義的パーソナリティは幾つの点においては再考すべき問題がある。一つ目に指摘すべきは、アドルノ(1980)が当時ナチスに加担していたものにはファシズムの思想を受け入れやすいパーソナリティ類型(= 権威主義的パーソナリティ)が存在しており、さらに彼らを特別な類型の人間集団として結論づけた点については再考の余地がある。つまり、アドルノの言う「潜在的にファシスト的な個人」(Adorno et al., 1980 : 10) が別にいるのかということについて疑問を呈したい。本論文の結果から示されたように、イルベユーザーは、大多数の平凡な人々であるという点で、ヘイトスピーチのような誹謗中傷を行う主体は、特定の類型の人々のみではないと言えるだろう。アドルノ(1980)の主張に基づくならば、「2ちゃんねる」掲示板のユーザーは権威主義的パーソナリティを持っているのが妥当であるが、本論文の結果からみると、彼らは反権威主義的傾向を帯びていたという点で、アドルノの研究結果と著しく対照をなしている。また、2000年代から、欧州で起こっているヘイトスピーチとポピュリズムは、反エリート主義が根幹

となっている(Ford & Goodwin 2014)。前述した「2ちゃんねる」掲示板と2000年代の欧州の事例から、社会に抵抗し、既存の秩序や権威に対して反感を内面化した人間の類型も、ヘイトスピーチ言説を収斂していることが分かる。

二つ目に指摘すべきは、「権威主義的パーソナリティ」について、パーソナリティ変数によって、ファシズムの思想といった政治的イデオロギーに関連づけようとする理論を再考する必要がある。バウマン(1989)によると、残酷さ(cruelty)は残酷行為を行った人間の個人的特性よりも、社会的インタラクション(social interaction)のパターンとより密接に関係する(Bauman 1989 : 166)という。

ここで、フロム(1961)の研究を見てみよう。当時ヒトラーのファシズムを支持した層は、下層中産階級(小さな商店主、職人、ホワイトカラー労働者)であり、フロムは「ナチのイデオロギーがなぜそんなに下層中産階級に共感をよびおこしたかという問題の答えは、下層中産階級の社会的性格<sup>102</sup>のうちに求められなければならない」(Fromm 1961 : 234)と述べている。1923年のインフレーションや1929年の米国の恐慌などで個人の生活は困窮し、さらに労働組合の地位向上によって下層中産階級の経済的地位と社会的威信などはより悪化することになり、彼らは「強者への愛、弱者に対する嫌悪、小心、敵意、金についても感情についてもけち臭いこと、そして本質的には禁欲主義」(Fromm 1961 : 234)のような社会的パーソナリティ<sup>103</sup>が形成されたと述べられている。

これまでの主な議論を整理すると、以下の通りである。バウマンとフロムの指摘の通り、日韓の両掲示板は2000年代という時代の流れとそれぞれの国が持っている固有の特性が政治的や社会的脈絡と結びつき、このような諸要因が、両ユーザーのヘイトスピーチ言説と共鳴していたため、今の「2ちゃんねる」や「イルベ」現象という社会現象とネット右翼という集団を作り出したものではないかと考えられる。そして、本論文の結果から示唆されたように、日韓の両ユーザーのパーソナリティが対照的な傾向を示したのも、該当国が持っている社会的・政治的な諸要素が異なることに起因するのである。このような観点

---

<sup>102</sup> 「ドイツやその他ヨーロッパ諸国の、下層中産階級の大部分には、サド・マゾヒズム的性格が典型的に見られる」(Fromm 1961 : 182)。フロムは、サド・マゾヒズム的性格という言葉を使う代わりに「権威主義的性格」と呼んでいる。

<sup>103</sup> フロムは「下層中産階級の社会的性格は1914年の戦争前から常に同一であったことは確かであるが、戦争後の諸事件によって、(中略)服従の追求と権力の渴望ということが強化」(Fromm 1961 : 235)されたと述べている。

から見れば、19-20 世紀の西欧社会に広がった反ユダヤ主義や現代の全世界を徘徊しているヘイトスピーチ現象を、特殊な集団が引き起こした特殊な現象として還元するより、その集団が直面している構造に対する理解が前提とされるべきであろう。

#### 5.4.2.3 ヘイトスピーチを生み出すメカニズム：「資本主義がもたらした自由からの逃走」対「グローバル化がもたらした経済的自由からの逃走」

今節では、ヘイトスピーチを生み出すメカニズムを検討していく。フロムは当時の反ユダヤ主義の発生メカニズムを「自由からの逃走」という観点に基づいて説明しているが、このような知見が現代のヘイトスピーチ現象においてもそのまま当てはまるかどうかは検討する必要があるだろう。

フロムの「自由からの逃走」で言う「自由」は、21 世紀にもそのまま当てはまるのだろうか。フロムは、資本主義の台頭により、「第一次的な絆<sup>104</sup>」は崩壊し、人々は孤独と不安な無力感の中へと追いやられたと述べている。フロムによると、自由からの逃避の最初のメカニズムは、「失われた絆の変わりに、新しい『第二次的』な絆を求めることであり、このメカニズムは、服従と支配への努力という形」(Fromm 1961 : 160) であるという。ここでフロムが言う自由は、深層的かつ根源的な意味での自由を意味している。

しかしながら、2000 年代に入りフロムが言う「自由」とは異なる意味での「自由」からの開放が求められている。2000 年代を節目として生じた経済的「自由」とグローバル化という潮流は、欧米の移民・難民への憎悪や日韓両国のネット上でのヘイトスピーチ現象を生み出した。「グローバル化と新自由主義の進展は、国民国家の自明性を掘り出している」(山崎 2015 : 2)。国民国家<sup>105</sup>において、国民は「包摂的(inclusive)」であるのに対

---

<sup>104</sup> 「個性化の過程によって、個人が完全に解放される以前に存在するこれらの絆を、『第一次的絆』と呼ぼうと思う。それは人間の正常な発達の一部であるという意味で有機的である。そこには個性はかけているが、安定感と方向づけとがあたえられている。子どもを母親に結びつけている絆、未開社会の成員をその氏族や自然に結びつけている絆、あるいは中世の人間を教会やその社会的階級に結びつけている絆は、この第一次的絆にほかならない」(Fromm 1961 : 35)。

<sup>105</sup> 国民国家とは定義上、その構成メンバーである国民のためにある国家のことである。また、

し、外国人に対しては「排除的(exclusive)」であったが、2000年代以降、欧米先進諸国を中心に、自国の国民のみに認められた権利の一部を、外国人や移民、難民という国民非ざる者たちにまで大幅に与えるようになり、その権利を一定程度保障するようになった。これにより、スイスやスウェーデン、イギリスのように社会保障制度が比較的安定した国においても自分たちの高い社会保障、生活水準を移民に盗まれているという不満が生まれ始めた(羽場 2016)。

日韓両国においても、在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々に対する嫌悪的感情は以前から存在してきたが、2000年代以降の経済自由化とそれに伴う社会的不安定の中でその怒りがさらに増幅されたと言えるだろう。その上、2000年代のコンテキスト(メディア環境、コミュニケーション文化の変容)が複雑に絡み合い、ヘイトスピーチ現象はさらに加速化されてきた。まず、政治や経済分野において、日本の小泉内閣(2001-2006年)が掲げた「聖域なき構造改革」と金大中<sup>キムデジュン</sup>と盧武鉉<sup>ノムヒョン</sup>両政権(1998-2009年)が掲げた新自由主義的な構造改革政策が挙げられる。次に、メディアの環境変化を見てみよう。ネットの双方向性ととも、2000年代に入って、韓国主要新聞がインターネット上で日本語版を配信し、ポータルサイトで韓国メディアの記事が日本語に翻訳され始め、韓国の情報にリアルタイムで接することができるようになった。しかしながら、このサービス機能が、本論文の結果から示唆されたように、嫌韓現象をさらに増幅させたことが示唆された。

#### 5.4.2.4 まとめ：2000年代のヘイトスピーチ言説の位置づけ

これまでの内容をまとめると、ヘイトスピーチの出来事は時空を超え、繰り返し起こっているものの、その主体や発生メカニズムは従来の理論では説明できない新しい現象を示していた。それは、2000年代という時代の流れの中での立ち位置から説明できるだろう。今節では、このような特徴をまとめながら、日韓の両掲示板のユーザーの位置づけとヘイトスピーチ現象のメカニズムについて明らかにする。最後に、日韓のヘイトスピーチ現象をどのように読み解いていくことができるのかについて検討していく。

第一に、2000年代に入りグローバル化が急速に進む中、グローバル経済あるいは自由

---

国民国家は、法的な秩序の維持を担う法治国家、民主的な政治を実現する民主国家、国民の福祉を保証する福祉国家のことである(佐藤 2017: 59-60)。



経済がもたらした負の側面は、5.4.1.1 節で述べた「タダ乗りへの憎悪」と「転倒した被害者意識」を生み出しており、それは欧米諸国と日韓両国においても共通して見られた。つまり 20 世紀が、資本主義がもたらした「自由」から逃走し、反ユダヤ主義に傾倒していた時代であるとするならば、21 世紀はグローバル化がもたらした経済的「自由」から逃走し、ヘイトスピーチ言説に傾倒している時代であると言えるだろう。

ここで指摘すべきは、ヘイトスピーチを行う主体に関することである。つまり、「生活保護問題やマイノリティへの福祉拡大に対して批判的な人々＝下層民」であるとみなすことができるかという問題である。最近の研究結果で示されたように、ヘイトスピーチを行う人々は新中間層に属し、学歴および社会的地位も概して高いことが明らかになった(古谷 2013 ; 金 2014 ; 樋口直人 2014 ; 香山 2015)。両掲示板の言説に照らし合わせてみても、彼らは社会的底辺層ではないが、グローバル化の経済に影響を受けやすく、景気の動向に敏感な層であるため、マイノリティの福祉政策に対して批判的な意見を大量に載せていた。このような点から、筆者は「2ちゃんねる」と「イルベ」ユーザーを古谷(2015)の知見に基づいて「なまじの中産階級」あるいは「中途半端の中産階級」であると暫定的に結論を出した。

ヘイトスピーチを行う主体という問題について、若干の私見を述べると、彼らは知的能力は揃っているが、誰かの悲しみを自分の悲しみとして捉えたり、誰かの喜びを自分の喜びとして捉えたりする、いわゆる「共感能力(empathy)」が低い方だと考えられる。本論文の言説で示された代表的な事例を挙げよう。イルベユーザーがセウォル号事故遺族たちの前でピザやチキンなどを食べながら「暴食闘争」を行った事件や2ちゃんねるユーザーが慰安婦問題を語るに当たって「慰安婦は単なる職業的売春婦」と主張する一連の事件が、これを裏づけていると考えられる。なお、2004 年 4 月のイラク日本人質事件の際、「2ちゃんねる」掲示板では「自作自演説」や「自己責任論」というデマ情報が流布した事件もこれに当てはまると言えよう。

第二に、グローバル化の負の側面が政治に反映されたため、序論で述べた英国の欧州連合離脱や米国のトランプ現象が生まれており、このような一連の現象はヘイトスピーチ言説を強く助長・扇動していた。これは、日韓のインターネット掲示板の言説の事例においても共通して見られた。ただし、政治的諸要因は、日韓両国が持っている固有性の中に位置づけられていた。つまり、日本の場合、韓国との植民地時代の歴史が、韓国の場合、分断歴史とともに反共イデオロギーや地域感情という特殊な脈絡がそれぞれに結びついてお

り、これは（このような思想に親和的な考えを持つ人々と見られる）日韓のユーザーと一  
気に共鳴した形で現れていた。そのため、日韓のヘイトスピーチの標的は、西欧で敵意と  
なっている移民や難民ではなく、在日韓国人や全羅道チョルラドの人々であるのだ。

第三に、グローバル化は新しい社会的負の問題を顕著化させることになり、各国は社会  
福祉をはじめ生活保障システムが機能不全に陥りつつある。そのため、日韓両ユーザーの  
ヘイトスピーチの対象は、表面的に現れた対象（「移民」「難民」「過激な反イスラム主義」  
「在日韓国人」「全羅道チョルラドの人々」）への憎悪や敵意よりも、国内の諸問題への憤怒に近い  
と見受けられ、これは 2000 年代以降のヘイトスピーチの現象の新しい特徴となってきた  
いる。

しかし、ここで注目すべきは、欧米では 2001 年の 9.11 事件以降、国民国家への回帰が  
唱えられており、日韓の両掲示板においても戦後や 87 年以降の民主主義を否定するよう  
な言説が載せられていたという点である。そうであるならば、排外主義やヘイトスピーチ  
を行う人々が究極的に目指すものは、各種社会福祉や生活保障システムを改善した新しい  
意味での「自由」なのか、それとも国家主義への回帰、それを通じた安定を希求する「権  
威」なのかについては、今後見届ける必要があるだろう。

## 第VI章 結論

### 6.1 結果のまとめ

本論文では、日韓両国の社会問題の一つと言われるようになった、いわゆる「ヘイトスピーチ」言説を「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板を研究対象として検討を行った。そこから、次のような結果及び含意が導き出された。

本論文のリサーチ・クエスチョン1は、キャップを持つ記者のみがスレッドを立てられる「東アジア news+板」と誰でもスレッドを立てられる「ハングル板」の間での「物語」(= コミュニケーションの素材)にはどのような相違があるかを明らかにすることである。分析の結果、両掲示板とも日韓中首脳会談に関する議論が重要なアジェンダとなっていることが分かった。しかしながら両掲示板のその他のアジェンダにおいては、それぞれの掲示板に特徴的な傾向があることが示された。

具体的には、「東アジア news+板」では産経新聞等の保守系の記事の本文をそのままコピーして貼り付けることが多いという点で、保守右派系の新聞が設定するアジェンダと類似すると見受けられた。今回、日韓中首脳会談に関する報道において日韓両国の保守右派系の新聞は、相手国との葛藤構図を扇動し、刺激する傾向が見られた。このような視点からみると、スレッドを立てる権限を持つキャップを持った記者は2ちゃんねるユーザーの支配的な意見との合致を狙ったアジェンダを設定し、ヘイトスピーチ言説を拡大再生産させたと言えるだろう。

次に、「ハングル板」においてはネット独自のアジェンダ化が顕著に現れていた。「2ちゃんねる」掲示板では、反マスメディアという思想的な風潮が根強く浸透してきたため、マスメディアによって設定された「主流アジェンダ」とは異なるアジェンダを設定していた。このような視点からみると、「2ちゃんねる」掲示板におけるヘイトスピーチ言説の根幹は、産経新聞など一部の保守系のメディアを除き、既存のメディアへの不信感にあるとも解釈できるだろう。

本論文のリサーチ・クエスチョン 2 は、「イルベ」掲示板において顕著に現れている「物語」は何かを明らかにすることである。分析の結果、「イルベ」掲示板では、「成長主義」や「慶尚道(= 嶺南)覇権主義」、<sup>キョンサン ド</sup>「反共・反北主義」を内面化していた。第 4、5 章で議論されたように、韓国における保守政党体制はこの三つの特徴と密接不可分の関係にある。リベラルと保守の分類方法は時代の流れと歴史の特殊性に従って可変的であるが、西欧の場合、経済成長と富の再分配に対するスタンスが両者を分ける大きな軸になってきた。韓国の場合、経済政策における成長主義と分配主義、外交政策及び安全保障政策における新北政策と反北政策が一つの軸になってきた。その上、地域対立による政治構造、すなわち、<sup>キョンサン ド</sup>慶尚道地域を強固な支持基盤とする保守政党や<sup>チョルラ ド</sup>全羅道地域を強固な支持基盤とするリベラル政党が、保守とリベラルを区分するもう一つの軸となっていた。「イルベ」掲示板における物語は保守政策の特質をそのまま踏襲しており、前述した三つのフレーム(成長政策・反北朝鮮・<sup>キョンサン ド</sup>慶尚道地域)によって形成されていた。それゆえ、その反対側の立場(分配や福祉政策・新北朝鮮・<sup>チョルラ ド</sup>全羅道地域)を代弁している人々に対し、誹謗中傷の書き込みが行われていたのだ。

リサーチ・クエスチョン 1、2 で得られた知見を踏まえて、両掲示板の物語の特徴は、以下の 2 点に要約することができる。第一に、日韓両掲示板のユーザーの関心は主に庶民の生活感覚に密着した物語とは遠く、国家や理念といった問題に対して関心を示していることが分かった。「2ちゃんねる」掲示板における物語は、「首脳会談問題」「韓国の歴史教科書問題」「明治日本の産業革命遺産のユネスコ登録問題」「日韓間の通貨スワップ問題」「在日韓国人の特別永住権問題」などに多岐にわたるが、これは古谷(2015)が指摘したように、「生活や社会的なものとは遠く、国家的、あるいは多国家間を相手にしたマクロ的な問題」(古谷 2015)に属する物語だと言えるだろう。「イルベ」掲示板における物語も「各大統領の事跡、功罪問題」「地域問題」「北朝鮮や従北問題」などに多岐にわたるが、これは「2ちゃんねる」掲示板と同様の国家的問題に焦点を当てたものであると言えるだろう。

第二に、日韓両掲示板のユーザーは、貧困や失業などの問題を自己責任や自助努力などの個人の問題に帰結していた。それゆえ、庶民生活の実情を顧みる政策や福祉政策に対して否定的な立場を示していたのだ。これは、ある意味で言えば、日韓の両掲示板のユーザーがグローバル化と新自由主義という今の時代的な文脈を内面化したとも解釈できるだろう。

本論文のリサーチ・クエスチョン3は、日韓両掲示板において不満のはけ口が誰に向かっているのかを明らかにすることである。「2ちゃんねる」掲示板上での在日韓国人への差別的な言説の裏には、「左翼的なもの」への憎悪が見え隠れすることが分かった。同様に、「イルベ」掲示板上での民主党や全羅道地域、従北勢力への差別的な言説の端々には、「左翼的なもの」に対する批判が見え隠れしていたことが分かった。ここで「左翼的なもの」というのは、保守や右翼と対照的な意味での政治思想ではなく、マスメディアや学界を含む広義な「左翼的なもの」である。それと共に「左翼的なもの」は、竹内(2011)がいう「左翼にあらざるばインテリにあらざる」(竹内 2011)という空気に対する違和感であった。「イルベ」掲示板においても「左翼にあらざるば87年体制といった民主主義的な体制移行が実現せず」という空気が、「左翼的なもの」への違和感として現れていた。その「左翼的なもの」への憎悪の背景には、リベラリズムが牽引してきた「戦後民主主義」や1987年6月民主抗争の産物として誕生した「87年体制」に対する憤怒があった。

まず、日本の場合、戦後体制としての民主主義の正しさや普遍性を説いてきた「左」の思想が、高度経済成長の終焉と新自由主義への転換期を迎え、時代遅れの陳腐なものとして認識されていた。そういった観点からみると、2ちゃんねるユーザーが絶えず異議を唱えている在日韓国人は、特権を享受しているという流言や従軍慰安婦の強制連行が虚偽だという流言は、戦後体制の根幹を成すとも言える「自虐史観」への反動から始まったものと言えるだろう。

次に、韓国の場合を見てみよう。30年前、「民主化されれば暮らし向きが良くなる」と見なされた「87年体制」は、1997年アジア通貨危機を契機にした新自由主義思想に包摂され、その一方で国家保安法に押されるなど、その限界を如実に示した。そのため、イルベユーザーは5・18光州民主化運動の精神を貶める書き込みを繰り返すことで、民主化を求める勢力に対して強い反感を示していたのだ。

リサーチ・クエスチョン3をまとめると、日韓両掲示板におけるヘイトスピーチの対象は一見すると互換性がないように見える。しかしながら、「在日韓国人」と「全羅道の人々」に対する憎悪の言説の裏側には、彼らの本当のヘイトスピーチの対象が隠されていた。小熊・上野(2003)が在日韓国人に対するヘイトスピーチ現象は「在日コリアンへの露骨な差別というよりは、その存在と境遇に対する拍子抜けするほどの無知である。『差別する』という以前に、そもそも存在そのものが『眼中に入っていない』のだ」(小熊・上野 2003: 195)と述べたように、日韓の両ユーザーにとって「在日韓国人」と「全羅道の

人々」は自分たちの本来の標的ではなかったのである。つまり、ヘイトスピーチ言説の本音は「左翼的なもの」の方にあり、「在日韓国人」と「<sup>チョルラド</sup>全羅道の人々」は、「左翼的なもの」に対する理不尽や不条理を解く一つのカギとして用いられたものではないかと考えられる。樋口直人(2014)も「排外主義運動が在日コリアンに対して見ているのは、その中身の姿ではなく『本国』の幻影である」(樋口直人 2014: 27)と指摘したように、日本にしる韓国にしる、ヘイトスピーチと呼ばれる差別的な言動の真の問題は国内にあるのである。また、両掲示板いずれも、高度成長と民主主義の間の必然的な矛盾の中で、今のヘイトスピーチ現象が生まれたという点で、日韓両国のヘイトスピーチ現象の本質もほぼ同じであると言えよう。

しかしながら、「権威をめぐる側面」に関しては相反する様相を示していた。「2ちゃんねる」掲示板の場合、リベラルは「インテリのエリート層」というイメージが植え付けられたため、エリート主義と知的権威に対しては総じて懐疑的な立場を取っていた。一方で「イルベ」掲示板の場合、韓国を支配する勢力が<sup>キョンサンド</sup>慶尚道でなければならない思考、いわゆる<sup>キョンサンド</sup>慶尚道覇権主義から生まれたため、概ね権威的な側面が根深く埋め込まれており、また権威に真っ向から挑戦する者は敵と見なされていた。そのため、本論文ではこれを「<sup>キョンサンド</sup>慶尚道覇権エリートによる権威主義」と名づけたのだ。「イルベ」掲示板におけるリベラルは、「<sup>チョルラド</sup>全羅道地域=<sup>じゅうほく</sup>従北勢力=民主化勢力=学生活動=労働者」というイメージが植え付けられていた。そういった観点からみると、「<sup>キョンサンド</sup>慶尚道地域=権力志向」、「<sup>チョルラド</sup>全羅道地域=反骨精神」が基軸にあるとも見受けられる。

本論文のリサーチ・クエスチョン4は、「2ちゃんねる」と「イルベ」の思考体系を動かす「コード」(code)を通じて、日韓両国のヘイトスピーチ現象を解明することである。すなわち、リサーチ・クエスチョン4は、リサーチ・クエスチョン1、2、3で得られた結果を踏まえて、これらの掲示板の思考体系の背景にはどのようなメカニズムが働いているのかを解き明かし、これを通じて日韓両国のヘイトスピーチ現象をどのような文脈から読み取れるかを検討することである。

本論文から得られた結果を踏まえて、日韓の両掲示板を読み解くキーワードは様々なものがあるが、ここでは2000年代という時代の流れに注目したい。日本の排外主義運動の台頭について、永吉(2017)は2000年代半ば以降、樋口直人(2014)は2000年代後半からそれぞれ述べている。「2ちゃんねる」や「イルベ」掲示板のようなウェブサイトの言説も、2000年代という時代の流れに影響を受けつつも、既存の保守系メディアとは異なる独自

のサブカルチャーを形成しつつある。このような観点からみると、2000 年代という時代の脈絡は、ヘイトスピーチ現象を解明する上で、極めて重要な意味を持つと言えるだろう。

2000 年代の時代の潮流は、以下のように大きく二つに分けられる。一つの潮流として、グローバル経済あるいは自由経済がもたらした負の側面からヘイトスピーチ現象を俯瞰する必要がある。2000 年代のグローバル資本主義により、福祉国家は行き詰まりを迎え、このような状況の中で、日韓の両ユーザーは人権や寛容といった民主主義の普遍的理念や価値観を否定する形でヘイトスピーチを噴出していた。本論文の結果から示唆されたように、「在日韓国人」や「<sup>チョルラド</sup>全羅道の人々」のように表面的に現れた対象に対する排除には、民主主義の在り方を改めて問い直す問題とともに、日韓それぞれの社会に横たわる社会課題がその本質にある。

まず、韓国の状況を見てみよう。1987 年の民主化運動と大統領直接選挙制実現を目指した憲法改正の結果誕生した「87 年体制」と、1997 年のアジア通貨危機を契機に政治主導型経済体制から市場中心型経済体制へと転換した「97 年体制」を重ねて見る言説が「イルベ」掲示板に現れていた。韓国社会は、1997 年の「アジア金融危機」や 2000 年末の「米国発のグローバル金融危機」により、社会的不安と経済的不安が深刻な社会問題として取り上げられており、ユーザーはその根源を「87 年体制」に求めている。真の民主主義を希求してやまなかった 1987 年の民主主義体制の悲願は未完に終わり、それに対する反省が、「左翼的なもの」「民主主義」への懐疑につながっていると考えられる。加えて、反共主義イデオロギーから決して自由になれなかったエリートたち(=ブルジョア勢力)間の協約により成立した「87 年体制」は、ある意味では「保守的な民主化」という性格を持っている。このような「87 年体制」が持っている本質的な矛盾が、「イルベ」掲示板で改めて浮き彫りになっていたのである。

次に、日本の状況を見てみよう。分析結果から、2 ちゃんねるユーザーは社会保障や福祉を優先する民主党の経済政策を激しく批判していることが分かった。2007 年から米国と欧州において次々と発生したグローバル化金融危機により、社会保障改革や税制などの問題について「2 ちゃんねる」掲示板で論争となっており、その傾向がますます顕著になった。確かに、2000 年代の世界経済の余波が 2 ちゃんねるユーザーの言説に影響を及ぼしているのは間違いない事実であるが、より根源的な問題は北田(2005)が指摘したように、「80 年代的なもの」あるいは「バブル的なもの」への反省から始まったと見受けられる。というのも、今日の格差社会や日本の経済問題が抱える様々な矛盾は、過去バブル期でも

たらされた諸問題から離れざるを得ないからである。これと共に、「戦後民主主義」「左翼」への懷疑と日韓両国の間に残っている植民地支配責任の清算問題は、2ちゃんねるユーザーの思考と共鳴していたため、彼らは歴史修正主義や在日韩国人を攻撃する形でヘイトスピーチ言説を噴出していた。

もう一つの潮流として、2008年の世界的な金融危機のリーマン・ショックが挙げられる。世界では、リーマン・ショックを境に新自由主義型グローバリゼーションに対する懷疑論が広がりつつある。新自由主義型グローバリゼーションからナショナリズムへ転換する兆しが現れた例が、2016年に起きた「英国の欧州連合離脱」と「米国のトランプ現象」である。

これらを踏まえると、リーマン・ショック後のヘイトスピーチ現象はどのように読み解くことができるだろうか。本論文の分析結果からみると、グローバル経済がもたらした負の側面が一掃されたというよりも、一見相反するように見えるグローバル化とナショナリズムの負の側面が混在して現れていた。グローバル資本主義により、民主主義が持っている普遍的な価値理念が揺らぐことにより、日韓の両掲示板においては民主主義の在り方を改めて問い直す声が高まり、それはヘイトスピーチの形で噴出されていた。加えて、反グローバリズムとナショナリズムの潮流は、「在日韩国人」や「全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々」に対する排他的な感情とともにネット右翼現象を生み出した。つまり、グローバル化とナショナリズムを隔てる境界は逆説的に曖昧になり、これはある意味、2000年以降のヘイトスピーチ現象が従来とは異なり、より複雑な様相を呈するようになってきているとも解釈できるだろう。

本論文の結果から示された「転倒した被害者意識」や「ヘイトスピーチ対象の曖昧さ」もこのような時代の流れの中に置かれていた。「ヘイトスピーチ対象の曖昧さ」とは、ヘイトスピーチの対象が固定的なものではなく可変的であることである。最近、安倍首相や朴槿恵<sup>パク・クネ</sup>元大統領を擁護し続けてきた「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板では、安倍首相や朴<sup>パク</sup>大統領を非難する書き込みが目立ってきたのがその例である。安倍首相が慰安婦問題に対して「意外に」融和的な姿勢を見せていたため、ネット上の保守層からは「裏切られた」という反応が見られた。同様に、多文化政策などを標榜した朴大統領が徐々にリベラル的な政策にスタンスを変えたため、イルベユーザーは朴槿恵<sup>パク・クネ</sup>離れを起こしていた。従来のヘイトスピーチの対象が固定的であることを考慮すると、新自由主義の流れは、ヘイトスピーチ現象の複雑さやナショナリズムの意味を変容させたとも見受けられる。



以上のことを鑑みれば、ヘイトスピーチ現象は 2000 年代という時代の流れの中に位置づけられており、その性格は従来のヘイトスピーチの枠組みでは説明できない複雑さで、かつ方向性も定まらないものであると言えるだろう。これは、2000 年代でのヘイトスピーチ現象やネット右翼の位置付けを説明する上で、一つの説や理論だけでは説明できない限界があることを含意している。そのため、ヘイトスピーチ現象を解明する上で、「経済不安要因説」と「日韓両国の社会が持つ個別的要因」の両者を融合させた形の「混合型ヘイトスピーチ説」が求められるのである。

## 6.2 研究結果の位置づけ

今節では、本論文の研究結果に基づいて「これらのインターネット掲示板の思想と行動をどのような文脈で理解すべきか」という問いについて検討していく。これまでの議論の流れをまとめると、日韓両掲示板におけるヘイトスピーチ現象は、「左」の思想が自分たちの不満を代弁してくれていないという怒りではあるが、それを直接的に言及するのははばかれるという状況の中で、その不満を在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々へ噴出させていたと言えるだろう。また怒りの矛先の二重性も、ネット右翼の成り立ちも、ヘイトスピーチ現象の複雑さやナショナリズムの意味の変容の中にあり、統一性や整合性を求めて在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々を強者、すなわち自分たちの権利を奪っている対象に設定することで、リベラル的なものに対抗しようとしていたのである。このような思考は、日本の戦後民主主義や韓国の 87 年体制以降の民主主義への反動から生まれたという点で、「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板における研究はヘイトスピーチを煽る差別的発言に関する研究というよりも、ある意味では「民主主義の覚醒」を促す研究だと言えよう。そのため、ヘイトスピーチを煽る差別的発言への過度な批判よりも、民主主義の意味を改めて問い直す「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板のユーザーの声に対して謙虚に耳を傾けるべきなのではないのだろうか。

宮家(2016)は、2016 年に起きた「英国の欧州連合離脱」や「トランプの現象」などを「ダークサイドの覚醒」という言葉を使い、昨今の世界情勢を読み解いている。本論文では、「民主主義の覚醒」という観点から日韓両掲示板におけるヘイトスピーチ現象を読み

解きたい。なぜなら、戦後民主主義と 87 年体制以降の民主主義の価値がもはや自分たちの世直し気分を回収出来なくなったゆえに、今の「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板が生まれたからである。仮に、戦後民主主義や 87 年体制以降の民主主義の価値が自分たちの世直し気分を回収していたならば、彼らの考えは不毛な叫びにすぎなかったかもしれない。しかしながら、今私たちは、民主主義の新たな覚醒の渦中にあり、彼らの存在や言説を深刻な社会的現象として取り扱う時期に来ているのだ。

このような観点から見ると、日韓両掲示板におけるヘイトスピーチ現象は、日韓両国の政治社会的な文脈やその中で蓄積されてきたものに対する反動として生まれたものであり、同時に、日本の戦後民主主義や韓国の 87 年体制の落とし子でもある。そのため、本論文で扱ったヘイトスピーチ現象を再帰的(reflexive)な視座から考察する必要がある。また、2000 年代のグローバル化と新自由主義の流れによって作られた現在の社会に不安を抱くものは、ネット右翼の論理に飲み込まれ、ネット右翼へと変貌する可能性を持つものたちであると言えるだろう。それにもかかわらず、これらの掲示板のユーザーを民主主義社会の鬼子と断じ、否定的な視点のみでその在り方を語ることは、ヘイトスピーチ現象の本質的矛盾を覆い隠す色眼鏡となってしまう可能性がある。

これまで両掲示板は、私たちが正しいと信じてきた民主主義（民主主義=正義、善）の理念と価値を否定し、日韓両国社会に潜む「闇」を赤裸々に露呈したという点で、世間から「問題のある」サイトとして議論されてきた。しかし、ヘイトスピーチを行う主体が日韓両国の社会が「正しい」と信じている信念と価値に逆行しているとして、これらの掲示板を「問題あるサイト」として帰結させるのは、ヘイトスピーチ問題の図式をきわめて単純化してしまう懸念がある。言い換えれば、日韓両国社会が「正しい」と信じている価値観や尺度といった既成観念や固定観念により、昨今起きているヘイトスピーチ現象を単純化し予断しうるのである。このような観念により、物事や現象を単純化すればするほど、逆にこの現象の背景にある本質は見えにくくなってきていると言えるだろう。

もしかすると「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板が我が社会に投げかける本質的な問いは、単純にヘイトスピーチ言説だけではないのかもしれない。本論文で得られた結果から、その問いを考えてみると、第一に、我々は在日韓国人や全羅道<sup>チョルラド</sup>の人々に対する偏見や差別意識から完全に自由になれるのか、第二に、日韓両国の間に横たわる植民地時代の過去史や歴史認識問題などにどう向き合うのか、第三に、戦後 70 年と民主化 30 年を経た現在の視点から、「戦後」と「87 年体制」の意味をどう捉えるか、といったことではない

だろうか。そういった問いは、「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板のユーザーだけに限ったものではなく、今日を生きるすべての人々に関わってくるものであろう。

### 6.3 先行研究を踏まえた新しい発見

2000年代を基点として日韓のネット上でヘイトスピーチ現象が台頭してきた。本論文は、このような動きの中でも代表的な掲示板の一つである「2ちゃんねる」と「イルベ」を対象に、両掲示板において取り上げられている物語や標的となっている対象を明らかにし、それを踏まえて日韓両国のヘイトスピーチや保守志向のナショナリズムが発生するメカニズムを解明した論文である。

本論文の研究結果を先行研究の結果と比較しながら、その相違点と本論文独自の新しい発見について述べていく。第一に、日韓のデータを計量分析的に扱うという試みが、これまでほとんどなされてこなかった点を考慮すると本論文は特筆に値する。本論文は、既存理論の限界を乗り越え、「経済不安要因説」や「日韓両国の社会が持つ個別的要因」の両者を融合させた形の「混合型ヘイトスピーチ説」といった新しい理論的枠組みを設定している点、この理論的枠組みおよび結果の妥当性について多面的に考察し、その有効性を実証的に検証している点にオリジナリティがあると考えられる。

第二に、従来の研究においてはヘイトスピーチの背景に、長期不況による経済的不安や近隣諸国との歴史的関係が大きな要因として横たわっていると報告されている。加えて、従来の研究では、ネット右翼は民主主義の理念と相反しているという理由だけで、通常の民主主義の外部にある「例外的で特殊な存在」として扱われてきた。本論文は、既存の研究に独自の知見を加え、「民主主義の覚醒」という新しい学術的視点から、ヘイトスピーチ現象への解釈を試みたという点は特筆すべきであろう。

第三に、表9と10から示されたように、国家外部の対象に対する憎悪表現や差別言動がそれほど顕著に現れていない点は、従来の研究やマスメディアの一般的知見とは異なる発見であると言えよう。日韓両国において標的となっている対象は、国家内部の対象に向けられていた。標的となっている対象が国家内部の対象という点は、結局、ヘイトスピーチ問題の本質は国内の諸問題が根幹となっているとも言えるだろう。

第四に、本論文は「イルベ」掲示板の「全羅道の人々」を見据える視点が「2ちゃんねる」掲示板における「在日韓国人」への排外主義的な態度と類似するという独自の視点で書かれている。このような問題設定は、従来の枠に捕らわれないものであると言えるだろう。また、一見すると互換性がないように見える両者が、実はお互いに類似した構造を持っていることを実証的に明らかになった。

第五に、本論文は両ユーザーが批判を向ける矛先は二重構造を帯びていることを実証的に明らかにした研究である。つまり、「在日韓国人」と「全羅道の人々」に対する憎悪の言説の裏側には日韓の両ユーザーが主張したい本来の意味が隠されているとする独自の論点を打ち出したという点で、今後、当該分野における研究の発展に大きく寄与するものであると考えられる。

第六に、本論文は「権威をめぐる側面」において、日韓両掲示板の間に差異があることを明らかにしたとともに、両者間において差異が発生するメカニズムも解明した点は特筆すべきであろう。また、これに関して、若干の解説を加えると、「2ちゃんねる」掲示板では、左翼を「エリート」「体制」として設定し、竹内(2011)がいう「左翼にあらずんばインテリやエリート、知識人にあらず」という風潮に対する反感があったため、反権威主義的な側面が現れていた。その一方で、「イルベ」掲示板の場合、「慶尚道覇権主義」という枠組みから生まれたため、筆者はこのような思考のあり方を「慶尚道覇権エリートによる権威主義」と名づけたのだ。

第七に、本論文は、経済不安要因説の最大の弱点の「ネット右翼=社会的弱者」ではないことを明らかにした。なお、本論文では、掲示板の言説分析の手法を採用し、これを解明したという点で特徴的である。樋口直人(2014)は、排外主義の運動家とのインタビュー調査を行い、古谷(2013)は、ツイッターアカウントのフォロワーとフェイスブック上の友人を対象とした。「2ちゃんねる」掲示板を対象とした先行研究はあるが、これらの研究は概して経済不安要因説の域を出ないものであった。

第八に、本論文は「2ちゃんねる」掲示板で取り上げられている物語がアジェンダ設定方式によってどのように変わったかを分析し、これがヘイトスピーチ現象にどのような影響を及ぼすかを明らかにした研究である。筆者は、メディアによるアジェンダ設定とネットによるアジェンダ設定が異なるように、「2ちゃんねる」掲示板の中でもキャップを持つ記者によるアジェンダ設定とユーザーによるアジェンダ設定も異なっているだろうと想定した。分析の結果、キャップを持つ記者によるアジェンダは、相対的に保守系の新聞

の論調と類似しているが、完全に同型というわけではいとは見受けられる。その一方で、ユーザーによるアジェンダは全体的にキャップを持つ記者によるアジェンダと類似した側面も見られたが、「在日特権」といった物語が取り上げられている点では、マスメディアとは異なるアジェンダを設定していることが確認できた。このような結果から、本論文は、「2ちゃんねる」掲示板においてキャップを持つ記者がどのような役割を果たしており、彼らが投稿するスレッドはどのような内容なのかを丁寧かつ精緻な検証手法を用いて fgr という点でオリジナリティが認められる。また、これまでアジェンダ設定方式によってこれらの両掲示板の物語の相違を解明した研究は管見の限りではまだ見当たらない。加えて、「2ちゃんねる」掲示板に関して多くの研究がなされてきたが、「2ちゃんねる」掲示板のスレッドを一つのメディア・コンテンツとして捉え、その内容や効果をマスコミュニケーション理論に基づいてアプローチしようという試みも、これまで行われてこなかった。

## 6.4 論文の示唆点と今後の課題

ヘイトスピーチ問題は、どの国にも議論の対象となるほど、今日の時代的・社会的要請に応える重要な課題となっているものの、ヘイトスピーチが発生するメカニズムはいまだ十分解明されていない。本論文はヘイトスピーチの解消が喫緊の課題であるため、ヘイトスピーチが発生するメカニズムを考察した。

特筆すべき学術的・社会的な貢献は、以下の通りである。本論文は日韓両国におけるヘイトスピーチの解消に向けたあり方を検討するするうえで、重要な示唆を与えるものと考ええる。日韓両国におけるヘイトスピーチ問題は日韓両国の社会が本質的に有する諸問題が作用しているという点で、再帰的(reflexive)という特性を持っている。それゆえ、民主主義の覚醒という視点に立って、ヘイトスピーチの解消に向けたあり方を大きく捉え直す必要があるのだ。

それと共に、メディアが社会的に果たすべき役割が、今のこの時期に最も求められるべきであると考えられる。今回首脳会談と関連し、日韓両国の保守系のメディアは鮮明でセンセーショナルな表現を好んで多用するなど、自国のナショナリズムを加熱させる片棒を担いでいた。そのようなメディア報道はインターネットを通じて流通し、結果的にヘイト

スピーチ現象につながっているのである。

もう一つ指摘すべきは、これまでメディアやリベラルは、ヘイトスピーチや過激な差別発言でこれらのインターネット掲示板が世間から批判の俎上に載せられるたびに、これらを社会の枠に収まらない「特殊な」「逸脱した」他者として位置付けてきたことである。

「2ちゃんねる」と「イルベ」掲示板では、自分たちに批判的な主流メディアに対抗したなら、メディアでタブー視されてきた物語（在日特権、<sup>オ</sup>5・18光州民主運動への北朝鮮軍介入説）を提起し、主流メディアに戦いを挑んでいた。主流メディアの基盤とみられるリベラル思想への対抗は、「ネット世論対メディア」という対立構図を生み出し、ひいては今のヘイトスピーチ現象が生まれる土壌となったと見受けられる。これはある意味で言えば、メディアにもその根本的責任の一端があることを示唆するものである。

そこで、ヘイトスピーチの解消と日韓両国の関係改善のための最初の課題は、両国民の感情を刺激するような報道や出過ぎた推測による文章などは控えることだろう。二つ目の課題は、「群盲象を評す」という状況から「ネット右翼層=社会的弱者=格差社会の負け犬=社会の問題児」とレッテルを一方的に貼ることを慎むことだろう。今後、本論文で得られた新たな視点が契機となり、ヘイトスピーチの解消のために役立てられることを期待している。

今後の課題は以下の通りである。「イルベ」掲示板を分析した先行研究などでは女性も常に叩き物語りとされているが、本論文では、限られたデータの中から分析を行ったため、分析結果にも限界があると考えられ、本論文で得られた結論はあくまでも暫定的なものとすべきである。また、本論文では日韓の両ユーザーの位置づけを「中途半端の中産階級」と暫定的に結論を出したが、これに関連し、今後追加的なインタビュー調査などを通じて明らかにすることが必要である。

## 参考文献

### 【邦文著書・研究論文】

- 井沢泰樹(2014)「ヘイトスピーチと若者の意識——大都市圏の大学生の調査から」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』16号 87-109
- 井関正久(2002)「極右問題をめぐる社会学的論考——統一ドイツを事例に」『ヨーロッパ研究(European Studies)』2号 30-47
- 井上純一(2010)「Adorno/Horkheimer の反ユダヤ主義研究——『反ユダヤ主義のエレメント』の論理」『立命館国際研究』22 巻 3 号 261-279
- 井上義和(2014)「第 6 章:『諸君!』革新幻想への解毒剤」、竹内洋・佐藤卓己・稲垣恭子(編)『日本の論壇雑誌——教養メディアの盛衰』創元社 217-243
- 今西一(2000)「都市『下層社会』と部落問題についての成果と課題」『部落解放研究(部落解放・人権研究所紀要)』135 号 2-14
- 禹哲熏<sup>ウ ソックン</sup>・朴権一<sup>パククォニル</sup>(2009)『韓国ワーキングプア——88 万ウォン世代』明石書店
- 内田樹(編)(2015)『日本の反知性主義』晶文社
- 大西裕(2008)「第 8 章: 弱い資本家による強い資本主義——韓国を事例に」、竹中千春・高橋伸夫・山本信人(編)『市民社会』慶應義塾大学出版会 179-202
- 岡本真一郎(2013)『言語の社会心理学——伝えたいことは伝わるのか』中央公論新社
- 岡本真一郎(2016)『悪意の心理学——悪口、嘘、ヘイト・スピーチ』中公新書
- 荻上チキ(2011)『検証——東日本大震災の流言・デマ』光文社新書
- 小熊英二・上野陽子(2003)『「癒し」のナショナリズム——草の根保守運動の実証研究』慶應義塾大学出版会
- 小倉紀蔵・大西裕・樋口直人(2016)『嫌韓問題の解き方——ステレオタイプを排して韓国を考える』朝日新聞出版
- 加藤直樹(2014)『九月、東京の路上で——1923 年関東大震災ジェノサイドの残響』ころか

ら

香山リカ(2015)「拝金と愛国——結託する富裕層エリウヨという新階層」『AERA』8/10号  
32-33

カンドクサン  
姜徳相(2003)『関東大震災・虐殺の記憶』青丘文化社

北田暁大(2005)『嗤う日本の「ナショナリズム」』NHKブックス

木戸裕(2006)「ドイツの外国人問題——教育の視点から」『レファレンス』56巻11号  
59-83

キム・ソンハン(2012)「政党支持における中央と地方の関係——韓国の地方選挙における  
政党推薦制を中心に」『広島法学』36巻2号 75-105

キム ヒョンス  
金 亨 洙(2010)「歴史的視座から見る『在日』の呼称問題」『国際文化研究』16号 57-70

キム ミョンス  
金 明 秀(2011)「インターネット利用史にみられる 2 つの『グreshamの法則』——ハ  
ン・ワールドの体験を中心として」『日本學』第33輯 169-197

木村幹(2007)『韓国におけるイデオロギーと日韓関係——韓国における「民主化」の意味  
を巡る葛藤』ミネルヴァ書房

ク ユジン  
具裕珍(2009)「『新しい歴史教科書をつくる会』の Exit、Voice、Loyalty——東アジア国  
際関係への含意を中心に」『相関社会科学』19号 18-38

クム ビョンドン  
琴 秉 洞(編・解説)(1991)『朝鮮人虐殺関連官庁史料』緑蔭書房

黒田禎一郎(2015)「流動するヨーロッパはどこへ向かうか——先鋭化する亡命申請者」  
『LCJE』187号 1-8

小林直樹(2003)「Skokie 村事件(3)」『独協法学』60号 71-118

小林真生・駒井洋(2013)『レイシズムと外国人嫌悪(移民・ディアスポラ研究 3)』明  
石書店

近藤瑠漫・谷崎晃・桜井春彦(2007)『ネット右翼とサブカル民主主義』三一書房

佐藤成基(2017)「国民国家と外国人の権利——戦後ドイツの外国人政策から」『社会志林』  
63巻4号 59-97

ジョン ミ エ  
鄭 美愛(2003)「韓国の金大中政権における新自由主義的経済改革と『生産的福祉』の意  
味」『Asian Economic Review』62巻2号 331-350

シンクァンヨン  
申 光 榮(2009)「韓国におけるグローバリゼーションと社会的不平等」『立命館大学人文科  
学研究所紀要』92巻 93-118

鈴木淳史(2003)『美しい日本の掲示板』洋泉社



- 鈴木謙介(2002)『暴走するインターネット——ネット社会に何が起きているか』イーストプレス
- 高原基彰(2006)『不安型ナショナリズムの時代——日韓中のネット世代が憎みあう本当の理由』洋泉社
- 高文明(2015)『レイシズムを解剖する——在日コリアンへの偏見とインターネット』勁草書房
- 竹内洋(2011)『革新幻想の戦後史』中央公論新社
- 田中友義(2016)「欧州の反グローバリズム台頭の背景——経済格差、難民危機、エリート・大衆、ポピュリズムという要因」『国際貿易と投資』28巻2号 16-33
- チョ・ヒヨン(2013)「韓国の国家——市民社会の変化と社会運動の挑戦」『年報公共政策学』7号 105-129
- 辻大介(2008)「インターネットにおける『右傾化』現状に関する実証研究——調査結果概要報告書」日本証券奨学財団研究調査助成金報告書
- 富岡次郎(1998)『現代イギリスの移民労働者——イギリス資本主義と人種差別』明石書店
- 永吉希久子(2017)「日本の排外意識に関する研究動向と今後の展開可能性」『東北大学文学研究科研究年報』66巻 143-164
- 新嶋良恵(2015)「ヘイトスピーチ報道に関する考察」『2015年度春季研究発表会予稿集』日本マス・コミュニケーション学会 1-6
- 荷宮和子(2005)「ネットの持つ力の限界」『大航海』56号 184-195
- 野間易通(2015)『「在日特権」の虚構——ネット空間が生み出したヘイト・スピーチ』河出書房新社
- パクチュンウク  
朴賛郁(2006)「第5章：韓国市民の投票行動分析——第16代(2002年)大統領選挙における社会亀裂と有権者の候補者選択」、小林良彰・任赫伯(編)『市民社会における政治過程の日韓比較』慶應義塾大学出版会 139-179
- パクチュンヒ  
朴貞熹(2011)「韓国における北朝鮮政策をめぐる市民団体間の対立構造——『天安艦沈没事件』を事例として」『立命館国際研究』24巻1号 219-243
- 羽場久美子(2016)「欧州の移民・難民とテロ問題——いま世界が真剣に向き合うとき(移民・難民・テロにどう向き合うか)」『世界平和研究』42巻4号 2-13
- 半藤一利・保阪正康(2014)「日中韓を振り回すナショナリズムの正体」『東洋経済新報社』
- 樋口耕一(2014)『社会調査のための計量テキスト分析』ナカニシヤ出版

- 樋口直人(2014)『日本型排外主義——在特会・外国人参政権・東アジア地政学』名古屋大学出版会
- 樋口直人(2015)「日本型排外主義——在特会・外国人参政権・東アジア地政学」『大原社会問題研究所雑誌』675号 86-90
- <sup>ヒョンムアン</sup> 玄 武岩(2005)『韓国のデジタル デモクラシー』集英社新書
- 平井智尚(2007)「2ちゃんねるのコミュニケーションに関する考察——インターネットと世論形成に関する議論への批判」『慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要』57号 163-174
- 古谷経衡(2013)『ネット右翼の逆襲——「嫌韓」思想と新保守論』総和社
- 星野智(1998)『現代ドイツ政治の焦点』中央大学現代政治学双書
- 星野智(2016)「西欧諸国の極右ポピュリズム政党の台頭とその背景」『中央大学社会科学研究所年報』21号 3-20
- 堀田義太郎(2014)「ヘイトスピーチ・差別・マイノリティ」『女性・戦争・人権学会 報告資料(報告ドラフトに加筆修正した原稿)』女性・戦争・人権学会 1-5
- 松村真宏・三浦麻子・柴内康文・大沢幸生・石塚満(2004)「2ちゃんねるが盛り上がるダイナミズム」『情報処理学会論文誌』45巻3号 1053-1061
- 宮城佑輔(2016)「日本における排外主義運動とその中国・韓国・北朝鮮観——新旧保守メディアの比較から」『アジア研究』62巻2号 18-36
- 村上裕一(2014)『ネトウヨ化する日本 暴走する共感とネット時代の「新中間大衆」』KADOKAWA
- 森本あんり(2015)『反知性主義——アメリカが生んだ「熱病」の正体』新潮社
- 師岡康子(2013)『ヘイト・スピーチとは何か』岩波新書
- 安田浩一(2012)『ネットと愛国——在特会の「闇」を追いかけて』講談社
- 安田浩一(2013)「ヘイトスピーチの『在特会』を解剖する——全国に1万3千人、ネット右翼の中心自らを被害者視、憎悪むき出し」『メディア展望』624号 22-26
- 山崎望(編)(2015)『奇妙なナショナリズムの時代——排外主義に抗して』岩波書店
- 山野車輪(2016)『革命の地図——戦後左翼事件史』Kindle版
- <sup>ユンコンチャ</sup> 尹健次(2000)『現代韓国の思想——一九八〇—一九九〇年代』岩波書店
- 吉村昭(2004)『関東大震災』文藝春秋

【韓国語文著書・研究論文 (가나다) 順】

- 강정석 (2013) 「일간베스트저장소, 일베의 부상」 『문화현실분석』 75 호 273-302  
[Kang, Jung-Suk (2013) 「日刊ベスト貯蔵所、イルベの浮上」 『文化現実分析』 75 号 273-302]
- 김만흠 (2009) 「민주화 20 년의 한국정치——지체된 개혁과 전환기의 혼돈」 『의정연구』 28 호 131-159  
[Kim, Man-Heum 「民主化 20 年の韓国政治——遲滞した改革と轉換期の混沌」 『議政研究』 28 号 131-159]
- 김선영 (2005) 『신문의 보도성향에 따른 17 대 총선보도 사진의 비언어적 표현비교』 경북 대학교 석사학위 논문  
[Kim, Sun-Young (2005) 『新聞の報道傾向による第 17 代総選挙報道写真の非言語 敵表現比較』 慶北大学校修士論文]
- 김학준 (2013) 「차가운 열광——일베의 감정동학」 인제학원 1-14 (2013 년도 인제 청년상 수상논문)  
[Kim, Hak-June (2013) 「冷たい熱狂——イルベの感情ダイナミックス」 仁濟学院 1-14 (2013 年度仁濟青年賞受賞論文)]
- 김학준 (2014) 『인터넷 커뮤니티 「일베저장소」 에서 나타나는 혐오와 열광의 감정동학』 서울대학교 석사논문  
[Kim, Hak-June (2014) 『インターネット・コミュニティ「イルベ貯蔵所」で現れる 嫌悪と熱狂の感情動学』 ソウル大学校修士論文]
- 김효진 (2011) 「기호로서의 혐한과 혐중——일본 네티우익과 내셔널리즘」 『일본학연구』 33호 31-56  
[Kim, Hyo-Jin (2011) 「嗜好としても嫌韓と嫌中——日本のネット右翼とナショナリズム」 『日本学研究』 33号 31-56]
- 나영 (2016) 「한국사회 혐오표현의 배경과 양상——2000 년대 이후를 중심으로」 서울대학교 인권센터주최 『혐오표현의 실태와 대책에 관한 토론회 프로시딩』 (2016 년 1 월 28 일) 13-28  
[Na, Young (2016) 「韓国社会における嫌悪表現の背景と様相——2000 年代以降を中心に」 ソウル大学校人権センター主催『嫌悪表現の実態と対策に関する討論会プ

- ロシーディング(2016年1月28日) 13-28]
- 박가분(2013) 『일베의 사상』 오월의 봄  
[Park, Ga-Bun(2013) 『イルベの思想』 五月の春]
- 박권일 · 김민하 · 김진호 · 남상욱 · 문수표 · 이택광(2014) 『지금, 여기의 극우주의』 자음과 모음  
[Park, Kweon-Il · Kim, Min-Ha · Kim, Jin-Ho · Mun, Su-Pyo · Lee, Taek-Gwang(2014) 『今、この極右主義』 子音と母音]
- 박상필(2008) 『NGO 와 정부 그리고 정책』 (개정판) 한울아카데미  
[Park, Sang-Pil(2008) 『NGO と政府、そして政策』 (改正版) ハヌルアカデミー]
- 박수옥(2009) 「일본의 혐한류와 미디어 내셔널리즘——2ch 와 일본 4 대 일간지를 중심으로」 『한국언론정보학보』 47 호 120-147  
[Park, Su-Ok(2009) 「日本における嫌韓流とメディア・ナショナリズム——2ch と日本4大日刊紙を中心に」 『韓国言論情報学報』 47号 120-147]
- 박영균(2013) 「반지성주의와 파쇼적인 것들의 정치를 넘어선 진보의 정치로」 『진보평론』 57 호 57-92  
[Park, Young-Kyun(2013) 「反知性主義とファシヨ的なものの政治的(限界)を超えた進歩の政治へ」 『進歩評論』 57号 57-92]
- 박정순(2009) 『대중매체의 기호학』 커뮤니케이션 북스  
[Park, Jung-Sun(2009) 『大衆媒体の記号学』 コミュニケーション・ブックス]
- 조용신(2014) 『예외상태와 파시즘의 한국사회——일간베스트저장소(일베) 분석을 중심으로』 경희대학교 석사논문  
[Cho, Yong-Shin(2014) 『例外状態とファシズムの韓国社会——日刊ベスト貯蔵所(イルベ)分析を中心に』 慶熙大学校修士論文]
- 최태섭(2012) 『전자정의(電子正義)의 탄생』 황해문화  
[Choi, Tae-Seop(2012) 『電子正義の誕生』 黄海文化]
- 한윤형(2013) 「한국 좌우파 투쟁의 흐름 속에서 『일베』 를 바라보다——「일베」는 기존의 좌우파와 어떻게 닮았고, 또 다른가」 『진보평론』 57 호 14-32  
[Han, Yun-Hyung(2013) 「韓国左右派闘争の流れの中で『イルベ』を眺める——「イルベ」は既存の左右派とどのように似ており、また違っているか」 『進歩評論』 57号 14-32]

【英文著書・研究論文】

- Adorno, T. W., Frenkel-Brunswick, E., Levinson, D. J. & Sanford, R. N. (1950) *The Authoritarian Personality*, New York: Harper & Brothers  
[田中義久・矢沢修次郎・小林修一(訳)(1980)『権威主義的パーソナリティ』東京: 青木書店]
- Bauman, Zygmunt (1989) *Modernity and the Holocaust*, Cambridge: Polity Press, 166-168
- Bettelheim, Bruno and Morris Janowitz (1964) *Social change and prejudice, including Dynamics of Prejudice*, New York: Free Press of Glencoe  
[高坂健次(訳)(1986)『社会変動と偏見』東京: 新曜社]
- Eco, Umberto (1976) *A Theory of Semiotics*, Bloomington: Indiana University Press  
[池上嘉彦(訳)(1996)『記号論 I』東京: 岩波書店]
- Ferree, Myra Marx (2003) “Resonance and Radicalism: Feminist Framing in the Abortion Debates of the United States and Germany,” *American Journal of Sociology*, 109, 304-344
- Ford, Robert and Matthew J. Goodwin (2014) *Revolt on the Right: Explaining Support for the Radical Right in Britain*, Abingdon: Routledge
- Fromm, Erich (1941) *Escape from Freedom*, New York: Holt, Rinehart and Winston  
[日高六郎(訳)(1965)『自由からの逃走』東京: 創元社]
- Hofstadter, Richard (1963) *Anti-Intellectualism in American Life*, New York: Alfred A. Knopf  
[田村哲夫(訳)(2003)『アメリカの反知性主義』東京: みすず書房]
- Rydgren, Jens (2004) “Explaining the Emergence of Radical Right-Wing Populist Parties: The Case of Denmark,” *West European Politics*, 27(3), 474-502
- Rydgren, Jens (2007) “The Sociology of the Radical Right,” *Annual Review of Sociology*, 33, 241-262
- Usherwood, Simon (2016) “The UK Independence Party: The Dimensions of Mainstreaming,” in Akkerman, T., de Lange, S. L. & Rooduijn, M. (eds.) *Radical Right-Wing Populist Parties in Western Europe: Into the Mainstream?*, Abingdon: Routledge, 247-267

## 【参照したインターネット・サイト及び新聞記事】

朝日新聞「萎縮の構図：炎上」2006年5月5日

(<http://sky.ap.teacup.com/deep/img/1146812647.jpg>, 2015年10月8日閲覧)

朝日新聞「ピーク過ぎたネット右翼」2006年5月19日

(<http://livedoor.blogimg.jp/mumur/ings/8/1/819f20c2.jpg>, 2015年10月8日閲覧)

朝日新聞「東日本大震災：震災後のデマ『信じた』8割超す——東北学院大、仙台市民調査」2017年3月13日

(<https://mainichi.jp/articles/20170313/ddm/004/040/009000c>, 2018年1月13日閲覧)

書き込み数ランキング・インターネット・ホームページ「書き込み数ランキング」

(<http://merge.geo.jp/history/count7r/?date=2015-11-01&mode=r>, 2016年1月10日閲覧)

キョンヒョン チンジュンゴン 京郷新聞「陳重權『イルベ、無政府主義的遊び、極右攻撃性に変質』」2014年9月23日

([http://www.labor.net.jp/worldnews/korea/knews/00\\_2013/1371515658169Staff](http://www.labor.net.jp/worldnews/korea/knews/00_2013/1371515658169Staff), 2016年5月8日)

KH Coder(テキスト型データを統計的に分析するためのフリーソフトウェア)

(<http://khc.sourceforge.net>, 2016-2017年閲覧)

産経新聞「『移民政策はとらない』安倍首相、衆院本会議で明言」2014年10月1日

(<http://www.sankei.com/politics/news/141001/pl1410010030-n1.html>, 2016年3月31日閲覧)

産経新聞「『ネット右翼』は新保守世論」2015年5月8日

(<http://image.blog.livedoor.jp/mumur/ings/b/a/baa9f02c.jpg>, 2015年10月8日閲覧)

産経新聞「相次ぎ訪韓した安倍首相と鳩山元首相——将来に禍根残すのはどちらだ？」

2015年11月19日

(<http://www.sankei.com/world/news/151116/wor1511160021-n2.html>, 2016年1月10日閲覧)

産経新聞「自民党内で外国人労働者受け入れ議論開始、移民懸念し紆余曲折も」2016年3

月15日

(<http://www.sankei.com/politics/news/160315/plt1603150057-n1.html>, 2016 年 3 月 31 日閲覧)

産経新聞「英 EU 離脱は『ダークサイドの覚醒』となる日本は勃興する勢力に備えよ」  
2016年6月27日

(<http://www.sankei.com/premium/news/160627/prml1606270009-n1.html>, 2016年1月6日 閲覧)

『週刊京郷』「日本のネット右翼を見れば韓国のイルベの未来が見えてくる」1060号 2014 年1月21日

ソ・チャンホ「誰が、なぜ、イルベに接続するのか?」チャム・セサン新聞 2013年6月17 日

([http://www.labor.net.jp.org/worldnews/korea/knews/00\\_2013/1371515658169Staff](http://www.labor.net.jp.org/worldnews/korea/knews/00_2013/1371515658169Staff), 2016年5月8日閲覧)

朝鮮日報「北朝鮮、『ネズミ博李うちころそ』などとパスターまで製作」2012年4月26日  
([http://news.chosun.com/site/data/html\\_dir/2012/04/26/2012042603046.html?Dep0=twitter&d=2012042603046](http://news.chosun.com/site/data/html_dir/2012/04/26/2012042603046.html?Dep0=twitter&d=2012042603046), 2016年3月31日閲覧)

東亜日報「どうして国家情報院は今日のユーモアサイトにスレッドを立てるのだろうか」  
2013年5月10日  
(<http://news.donga.com/InfoGraphics/View/3/all/20130509/55044420/9>, 2016年1月10 日閲覧)

東洋経済『「特別永住制度」は見直しすべき時期に来ている。法改正による『新たな付与は 必要なのか』2016 年 11 月 28 日  
(<http://toyokeizai.net/articles/-/147033>, 2016 年 12 月 1 日閲覧)

ハンギョレ新聞「極右サイト『イルベ』を運営する謎の企業」2015 年 5 月 18 日  
(<http://japan.hani.co.kr/arti/politics/20698.html>, 2016 年 9 月 5 日閲覧)

Park, Kwon-Il 「韓・日の『新右翼』」ハンギョレ新聞 2013 年 5 月 20 日  
(<http://www.hani.co.kr/arti/opinion/column/588204.html>, 2015 年 1 月 10 日閲覧)

古谷経衡『「ネトウヨ」は社会的弱者ではない。だからこそ、根が深い』ヤフー・ニュー ス 2015 年 8 月 7 日  
(<https://news.yahoo.co.jp/byline/furuyatsunehira/20150807-00048268>, 2016 年 3 月

31 日閲覧)

マネー・トゥデイ新聞「李明博大統領 5.18 光州民主化運動の記念式に 4 年連続不参…世論『沸騰』」2012 年 5 月 17 日

(<http://www.mt.co.kr/view/mtview.php?type=1&no=2012051714568222787&outlink=1,2>  
016 年 3 月 31 日閲覧)

宮家邦彦「英・米の『ダークサイドの覚醒』」ジャパン・インデプス 2016 年 6 月 28 日

(<http://japan-indepth.jp/?p=28725>, 2016 年 12 月 28 日閲覧)

百木漠「ヘイトスピーチを増幅させるもの——『左翼的なもの』への憎悪について」図書新聞 3224号 2015年9月26日

([http://www.toshoshimbun.com/books\\_newspaper/week\\_description.php?shinbunno=3224&syosekino=8694](http://www.toshoshimbun.com/books_newspaper/week_description.php?shinbunno=3224&syosekino=8694), 2016 年 3 月 31 日閲覧)